

IBM TotalStorage
SAN ボリューム・コントローラー



コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド

バージョン 2.1.0

IBM TotalStorage
SAN ボリューム・コントローラー



コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド

バージョン 2.1.0

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、『特記事項』に記載されている情報をお読みください。
本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。
<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは
<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SC26-7544-04
IBM TotalStorage SAN Volume Controller
Command-Line Interface User's Guide
Version 2.1.0

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2005.2

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W7、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2003, 2005. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2005

目次

表	xxv
本書について	xxvii
本書の対象読者	xxvii
変更の要約	xxvii
SD88-6303-04「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザズ・ガイド」の変更の要約	xxvii
SD88-6303-03「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザズ・ガイド」の変更の要約	xxviii
強調	xxviii
SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料	xxix
関連 Web サイト	xxx
IBM 資料のご注文方法	xxx
構文図	xxx
用語	xxxiii
CLI 特殊文字	xxxiv
SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用	xxxiv
データ・タイプと値の範囲	xxxv
CLI パラメーター	xli
CLI フラグ	xlii
第 1 章 セキュア・シェル・クライアント・システムの準備の概要	1
コマンド行インターフェース・コマンドを実行するためのセキュア・シェル・クライアント・システムの準備	2
第 2 章 セキュア・シェル	3
セキュア・シェル・クライアント・システムの構成	5
PuTTY と呼ばれるセキュア・シェル・クライアントを使用したセキュア・シェル鍵ペアの生成	6
コマンド行インターフェース用の PuTTY セッションの構成	7
SAN ボリューム・コントローラーへの後続のセキュア・シェル公開鍵の追加	8
マスター・コンソール以外のホストにおけるセキュア・シェル鍵の追加	9
第 3 章 PuTTY scp	11
第 4 章 クラスタ・コマンド	13
addnode	13
chcluster	15
chiogr	18
chnode	19
cleardumps	19
cpdumps	21
detectmdisk	22
dumpconfig	23
rmnode	24
setclustertime	30
setpwdreset	31
settimezone	32
startstats	33

stopcluster	34
stopstats	37
第 5 章 バックアップおよび復元コマンド	39
backup	39
clear	40
help	41
restore	42
第 6 章 クラスタ診断および保守援助機能コマンド	45
addnode	45
applysoftware	48
cherrstate	49
clearerrlog	50
dumperrlog	51
finderr	52
rmnode	52
setevent	54
setlocale	55
writesernum	56
第 7 章 ホスト・コマンド	59
addhostport	59
chhost	60
mkhost	61
rmhost	63
rmhostport	64
第 8 章 仮想ディスク・コマンド	67
chvdisk	67
expandvdisksize	70
mkvdisk	71
mkvdiskhostmap	76
rmvdisk	79
rmvdiskhostmap	81
shrinkvdisksize	82
第 9 章 管理対象ディスク・グループ・コマンド	85
addmdisk	85
chmdiskgrp	86
mkmdiskgrp	87
rmmdisk	88
rmmdiskgrp	90
第 10 章 管理対象ディスク・コマンド	93
chmdisk	93
includemdisk	94
setquorum	94
第 11 章 FlashCopy コマンド	97
chfceconsistgrp	97
chfcmap	97
mkfceconsistgrp	99

mkfcmap	100
prestartfcconsistgrp.	102
prestartfcmap.	103
rmfcconsistgrp	104
rmfcmap	105
startfcconsistgrp.	107
startfcmap.	108
stopfcconsistgrp.	110
stopfcmap.	111
第 12 章 メトロ・ミラー・コマンド	113
chpartnership.	113
chrconsistgrp	114
chrrelationship	114
mkpartnership	116
mkreconsistgrp	117
mkrelationship	118
rmpartnership	121
rmrconsistgrp	121
rmrrelationship.	122
startreconsistgrp.	123
startrelationship	125
stopreconsistgrp.	128
stoprelationship	129
switchrconsistgrp	131
switchrelationship	132
第 13 章 マイグレーション・コマンド	133
migrateexts	133
migratetoimage	135
migratevdisk	136
第 14 章 トレース・コマンド	139
setdisktrace	139
settrace.	140
starttrace	142
stoptrace	143
第 15 章 -filtervalue 引数の属性	145
第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要	151
第 17 章 情報コマンド	153
caterrlog	153
caterrlogbyseqnum	155
ls2145dumps	156
lscluster	157
lsclustercandidate	160
lsconfigdumps	161
lscontroller	162
lserrlogbyfcconsistgrp.	165
lserrlogbyfcmap.	166
lserrlogbyhost	168

lserrlogbyiogrp	169
lserrlogbymdisk	171
lserrlogbymdiskgroup	172
lserrlogbynode	174
lserrlogbyrconsistgrp	176
lserrlogbyrrelationship	177
lserrlogbyvdisk	179
lserrlogdumps	181
lsfcconsistgrp	182
lsfemap	184
lsfemapcandidate	186
lsfemapprogress	187
lsfeaturedumps	188
lsfreeextents	189
lshbaportcandidate	190
lshost	191
lshostvdiskmap	193
lsiogrp	195
lsiogrpcandidate	197
lsiostatsdumps	198
lsiotracedumps	199
lslicense	200
lsmdisk	201
lsmdiskcandidate	205
lsmdiskextent	207
lsmdiskgrp	209
lsmdiskmember	211
lsmigrate	213
lsnode	214
lsnodecandidate	217
lsnodevpd	218
lsrconsistgrp	221
lsrrelationship	224
lsrrelationshipcandidate	226
lsrrelationshipprogress	228
lssoftwaredumps	229
lsshkeys	230
lstimezones	231
lsvdisk	232
lsvdiskextent	235
lsvdiskhostmap	237
lsvdiskmember	238
lsvdiskprogress	240
showtimezone	241
第 18 章 エラー・ログ・コマンド	243
finderr	243
dumperrlog	243
clearerrlog	244
cherrstate	245
setevent	246

第 19 章 フィーチャー設定コマンド	249
chlicense	249
dumpinternallog	250
第 20 章 セキュア・シェル鍵コマンド	253
addsshkey	253
rmallsshkeys	254
rmsshkey	255
第 21 章 保守モード・コマンド	257
applysoftware	257
cleardumps	258
dumperrlog	259
exit	260
第 22 章 保守モード情報コマンド	261
ls2145dumps	261
lsclustervpd	262
lsconfigdumps	263
lserrlogdumps	264
lsfeaturedumps	265
lsiostatsdumps	266
lsiotracedumps	267
lsnodes	268
lsnodevpd	269
lssoftwaredumps	272
第 23 章 コントローラー・コマンド	273
chcontroller	273
第 24 章 CLI メッセージ	275
CMMVC5700E パラメーター・リストが無効です。	275
CMMVC5701E オブジェクト ID が指定されていません。	275
CMMVC5702E [%1] が最小レベルに達していません。	275
CMMVC5703E [%1] が最大レベルを超えています。	275
CMMVC5704E [%1] は、許可されたステップ・レベルで割り切れません。	276
CMMVC5705E 必要パラメーターが欠落しています。	276
CMMVC5706E [%1] パラメーターに無効な引数が入力されました。	276
CMMVC5707E 必要パラメーターが欠落しています。	276
CMMVC5708E %1 パラメーターに関連する引数が欠落しています。	276
CMMVC5709E [%1] はサポートされたパラメーターではありません。	277
CMMVC5710E ID パラメーター [%1] に対する自己記述型構造ではありません。	277
CMMVC5711E [%1] は無効なデータです。	277
CMMVC5712E 必要なデータが欠落しています。	277
CMMVC5713E 一部のパラメーターが相互に排他的です。	277
CMMVC5714E パラメーター・リストに項目がありません。	278
CMMVC5715E パラメーター・リストが存在しません。	278
CMMVC5716E 数値フィールド ([%1]) に非数値のデータが入力されました。 数値を入力してください。	278
CMMVC5717E 指定された単位に対する一致が見つかりません。	278
CMMVC5718E 予期しない戻りコードを受け取りました。	278
CMMVC5719E %2 の値には、パラメーター %1 を指定する必要があります。	279

CMMVC5720E [%1] は、-o パラメーターに有効な引数ではありません。	279
CMMVC5721E [%1] は有効なタイム・スタンプ・フォーマットではありません。有効なフォーマットは、MMDDHHmmYY です。	279
CMMVC5722E [%1] は有効な「月」ではありません。	279
CMMVC5723E [%1] は有効な「日」ではありません。	279
CMMVC5724E [%1] は有効な「時」ではありません。	280
CMMVC5725E [%1] は有効な「分」ではありません。	280
CMMVC5726E [%1] は有効な「秒」ではありません。	280
CMMVC5727E [%1] は有効なフィルターではありません。	280
CMMVC5728E [%1] のフォーマットは、「分:時:日:月:曜日」でなければなりません。	280
CMMVC5729E リストにある 1 つ以上のコンポーネントが無効です。	281
CMMVC5730E %1 は、%2 が %3 の値を持っている場合にのみ有効です。	281
CMMVC5731E %1 は、%2 が入力されている場合にのみ入力することができます。	281
CMMVC5732E 共用メモリー・インターフェースを使用できません。	281
CMMVC5733E 少なくともパラメーターを 1 つ入力してください。	281
CMMVC5734E 無効な値の組み合わせが入力されました。	282
CMMVC5735E 入力された名前は無効です。先頭が数字でない、英数字ストリングを入力してください。	282
CMMVC5736E -c は有効な単位ではありません。	282
CMMVC5737E パラメーター %1 が複数回入力されました。このパラメーターは 1 度だけ入力してください。	282
CMMVC5738E 名前に含まれている文字数が多過ぎます。A - Z、a - z、0 - 9、-、または _ のいずれかの文字で構成される、1 - 15 文字の英数字ストリングを入力してください。先頭の文字を数字にすることはできません。	283
CMMVC5739E 引数 %1 に含まれている文字数が十分ではありません。	283
CMMVC5740E フィルター・フラグ %1 は無効です。	283
CMMVC5741E フィルター値 %1 は無効です。	283
CMMVC5742E 指定されたパラメーターが有効範囲外です。	283
CMMVC5743E 指定されたパラメーターがステップの値に準拠していません。	284
CMMVC5744E コマンドに指定されたオブジェクトの数が多過ぎます。	284
CMMVC5745E コマンドに指定されたオブジェクトの数が不足しています。	284
CMMVC5746E 要求された操作は、このオブジェクトに対しては無効です。	284
CMMVC5747E 要求された操作は無効です。	284
CMMVC5748E 要求された操作は無効です。	285
CMMVC5749E ダンプ・ファイル名はすでに存在します。	285
CMMVC5750E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。	285
CMMVC5751E ダンプ・ファイルをディスクに書き込むことができませんでした。	285
CMMVC5752E オブジェクトに子オブジェクトが含まれていたため、操作は失敗しました。子オブジェクトを削除して、要求を再実行依頼してください。	285
CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。	286
CMMVC5754E 指定されたオブジェクトは存在しないか、名前が命名規則に違反しています。	286
CMMVC5755E 指定されたオブジェクトのサイズが一致しません。	286
CMMVC5756E オブジェクトはすでにマップされているため、操作は失敗しました。	286
CMMVC5757E 自己記述型構造のデフォルトが見付かりませんでした。	286
CMMVC5758E オブジェクト・ファイル名はすでに存在します。	287
CMMVC5759E メモリーを割り振れませんでした。	287

CMMVC5760E	クラスタにノードを追加できませんでした。	287
CMMVC5761E	クラスタからノードを削除できませんでした。	287
CMMVC5762E	タイムアウト期間が満了したため、操作は失敗しました。	287
CMMVC5763E	ノードをオンラインにできませんでした。	288
CMMVC5764E	指定されたモード変更は無効です。	288
CMMVC5765E	選択されたオブジェクトは最早候補オブジェクトではありません。要求中に変更が発生しました。	288
CMMVC5767E	指定された 1 つ以上のパラメーターが無効です。	288
CMMVC5769E	この操作では、すべてのノードがオンライン状態であることが必要です。1 つ以上のノードがオンライン状態になっていません。	288
CMMVC5770E	SSH 鍵のファイルが無効です。	289
CMMVC5771E	操作は失敗しました。おそらく、オブジェクトに子オブジェクトが含まれていることが原因です。操作を完了するには、force フラグを指定してください。	289
CMMVC5772E	ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、操作は失敗しました。	289
CMMVC5773E	選択されたオブジェクトは誤ったモードにあるため、操作は失敗しました。	289
CMMVC5774E	ユーザー ID は無効です。	290
CMMVC5775E	ディレクトリー属性は無効です。	290
CMMVC5776E	ディレクトリー・リストを検索できませんでした。	290
CMMVC5777E	ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。	290
CMMVC5778E	クラスタがすでに存在するため、作成できませんでした。	290
CMMVC5780E	このアクションは、リモート・クラスタ名を使用して完了できませんでした。代わりに、リモート・クラスタ固有 ID を使用してください。	291
CMMVC5781E	指定されたクラスタ ID は無効です。	291
CMMVC5782E	オブジェクトがオフラインです。	291
CMMVC5784E	クラスタ名が固有ではありません。クラスタ ID を使用してクラスタを指定してください。	291
CMMVC5785E	ファイル名に正しくない文字が含まれています。	291
CMMVC5786E	クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。	292
CMMVC5787E	クラスタがすでに存在するため、クラスタを作成できませんでした。	292
CMMVC5788E	サービス IP アドレスが無効です。	292
CMMVC5789E	IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスタを変更できませんでした。	292
CMMVC5790E	ノードの最大数に達したため、クラスタにノードを追加できませんでした。	293
CMMVC5791E	コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	293
CMMVC5792E	I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。	293
CMMVC5793E	I/O グループにはすでに一对のノードが含まれているため、ノードをクラスタに追加できませんでした。	293
CMMVC5794E	ノードがクラスタのメンバーでないため、アクションは失敗しました。	294
CMMVC5795E	ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除できませんでした。	294

CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。	294
CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できませんでした。	294
CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。	295
CMMVC5799E I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャットダウンは失敗しました。	295
CMMVC5800E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	295
CMMVC5801E クラスタ内のすべてのノードがオンライン状態でなければならないため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再実行依頼してください。	295
CMMVC5802E クラスタ内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを進めることができませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスタをアップグレードするには、force オプションが必要です。	296
CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。	296
CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	296
CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。	297
CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	297
CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。	297
CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。	297
CMMVC5809E I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでした。	298
CMMVC5810E MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。	298
CMMVC5811E クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。	298
CMMVC5812E MDisk が誤ったモードであるため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。管理対象のモードを持つ MDisk を選択してください。	298
CMMVC5813E MDisk のセクター・サイズが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。	299
CMMVC5814E 固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。	299
CMMVC5815E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでした。	299
CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	299
CMMVC5817E 名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名前変更されませんでした。	300

CMMVC5818E グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されませんでした。	300
CMMVC5819E この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追加されませんでした。	300
CMMVC5820E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。	300
CMMVC5821E リストに十分な MDisks が含まれていないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。	301
CMMVC5822E リストに含まれている MDisks の数が多過ぎるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。	301
CMMVC5823E この MDisk は別の MDisk グループの一部であるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。	301
CMMVC5824E この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、その MDisk グループから削除されませんでした。	301
CMMVC5825E 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。強制削除が必要です。	302
CMMVC5826E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。	302
CMMVC5827E 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。	302
CMMVC5828E I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。	302
CMMVC5829E 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。	303
CMMVC5830E コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。	303
CMMVC5831E 入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。	303
CMMVC5832E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。	303
CMMVC5833E I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティーは変更されませんでした。	304
CMMVC5834E このグループはリカバリー I/O グループのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。 I/O グループを変更するには、force オプションを使用してください。	304
CMMVC5835E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでした。	304
CMMVC5836E 仮想ディスク (VDisk) はロックされているため、縮小されませんでした。	304
CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。	305
CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。	305
CMMVC5839E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでした。	305
CMMVC5840E 仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされているか、または FlashCopy かメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、削除されませんでした。	305
CMMVC5841E 仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除されませんでした。	306

CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	306
CMMVC5843E VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持っていないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	306
CMMVC5844E SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	306
CMMVC5845E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、エクステントはマイグレーションされませんでした。	307
CMMVC5846E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。	307
CMMVC5847E この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。	307
CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。	307
CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。	308
CMMVC5850E ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。	308
CMMVC5851E ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。	308
CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。	308
CMMVC5853E 削除対象の仮想ディスクからホストへのマッピングを選択します。	309
CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクステント情報は戻されませんでした。	309
CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。	309
CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グループに属していないため、アクションは失敗しました。	309
CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。	310
CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。	310
CMMVC5859E イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステントをマイグレーション中にエラーが発生したため、マイグレーションは完了しませんでした。	310
CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。	310
CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。	311
CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。	311
CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステントがないため、マイグレーションは失敗しました。	311
CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。	311
CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。	312

CMMVC5866E エクステンントに内部データが含まれているため、エクステンントはマイグレーションされませんでした。	312
CMMVC5867E このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効なため、アクションは失敗しました。	312
CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	312
CMMVC5869E ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・オブジェクトは名前変更されませんでした。	313
CMMVC5870E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ホスト・オブジェクトは削除されませんでした。	313
CMMVC5871E 1 つ以上の構成済みワールド・ワイド・ポート名がマッピングにあるため、アクションは失敗しました。	313
CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。	313
CMMVC5873E 一致するワールド・ワイド・ポート名がないため、アクションは失敗しました。	314
CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。	314
CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。	314
CMMVC5876E マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	314
CMMVC5877E SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	315
CMMVC5878E この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	315
CMMVC5879E この SCSI LUN はすでに別のマッピングに割り当てられているため、仮想ディスクからホストへのマッピングは作成されませんでした。	315
CMMVC5880E VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。	315
CMMVC5881E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	316
CMMVC5882E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	316
CMMVC5883E リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	316
CMMVC5884E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はメトロ・ミラー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	316
CMMVC5885E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	317
CMMVC5886E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	317
CMMVC5887E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	317
CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。	318
CMMVC5889E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。	318

CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。	318
CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されませんでした。	318
CMMVC5892E FlashCopy 整合性グループはすでに存在するため、作成されませんでした。	319
CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。	319
CMMVC5894E 整合性グループ 0 または無効な整合性グループの名前を削除しようとしているため、FlashCopy 整合性グループは削除されませんでした。	319
CMMVC5895E FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含まれているため、削除されませんでした。この整合性グループを削除するには、強制削除が必要です。	319
CMMVC5896E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。	320
CMMVC5897E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。	320
CMMVC5898E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。	320
CMMVC5899E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。マッピングを削除するには、強制削除が必要です。	321
CMMVC5900E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。	321
CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。	321
CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。	321
CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。	322
CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。	322
CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。	322
CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。	322
CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。	323
CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。	323
CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。	323
CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。	323
CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。	324

CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。	324
CMMVC5913E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。	324
CMMVC5914E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。	324
CMMVC5915E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。	325
CMMVC5916E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。	325
CMMVC5917E ビットマップを作成するメモリーがないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	325
CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。	325
CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。	326
CMMVC5920E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	326
CMMVC5921E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。	326
CMMVC5922E 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さ過ぎるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	326
CMMVC5923E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	327
CMMVC5924E ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。	327
CMMVC5925E リモート・クラスター協力関係はすでに存在するため、作成されませんでした。	327
CMMVC5926E リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数が多過ぎるため、作成されませんでした。	327
CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。	328
CMMVC5928E クラスター名は別のクラスターと重複しているため、アクションは失敗しました。	328
CMMVC5929E メトロ・ミラー協力関係はすでに削除されているため、削除されませんでした。	328
CMMVC5930E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	328
CMMVC5931E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	328
CMMVC5932E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	329
CMMVC5933E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グループに入っているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	329
CMMVC5934E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がルーター・モードにあるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	329
CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。	329
CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。	330
CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。	330

CMMVC5938E 整合性グループに関係が含まれているため、メトロ・ミラー整合性グループは削除されませんでした。整合性グループを削除するには、force オプションが必要です。	330
CMMVC5939E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。	330
CMMVC5940E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスタが不明です。	331
CMMVC5941E マスター仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスタにある整合性グループの数が多過ぎます。	331
CMMVC5942E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスタにある整合性グループの数が多過ぎます。	331
CMMVC5943E 指定された関係は無効です。	331
CMMVC5944E 指定された整合性グループは無効です。	331
CMMVC5945E 指定されたマスター・クラスタは無効です。	332
CMMVC5946E 指定された補助クラスタは無効です。	332
CMMVC5947E 指定されたマスター仮想ディスク (VDisk) は無効です。	332
CMMVC5948E 指定された補助仮想ディスク (VDisk) は無効です。	332
CMMVC5949E 指定された関係は不明です。	332
CMMVC5950E 指定された整合性グループは不明です。	333
CMMVC5951E 関係が独立型でないため、この操作は実行できません。	333
CMMVC5952E この関係と整合性グループは、異なるマスター・クラスタを持っています。	333
CMMVC5953E この関係とグループは、異なる補助クラスタを持っています。	333
CMMVC5954E マスターと補助仮想ディスク (VDisk) は、異なるサイズを持っています。	333
CMMVC5955E 最大関係数に到達しました。	334
CMMVC5956E 最大整合性グループ数に到達しました。	334
CMMVC5957E マスター仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。	334
CMMVC5958E 補助仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。	334
CMMVC5959E マスター・クラスタにこの名前を持つ関係がすでに存在します。	334
CMMVC5960E 補助クラスタにこの名前を持つ関係がすでに存在します。	335
CMMVC5961E マスター・クラスタにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。	335
CMMVC5962E 補助クラスタにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。	335
CMMVC5963E 方向が定義されていません。	335
CMMVC5964E コピーの優先順位が無効です。	335
CMMVC5965E 仮想ディスク (VDisk) は、ローカル・クラスタ上の異なる I/O グループにあります。	336
CMMVC5966E マスター仮想ディスク (VDisk) が不明です。	336
CMMVC5967E 補助仮想ディスク (VDisk) が不明です。	336
CMMVC5968E 関係の状態と整合性グループの状態が一致しないため、関係を追加できません。	336
CMMVC5969E I/O グループがオフラインのため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	336
CMMVC5970E メモリー不足のため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	337
CMMVC5971E 整合性グループに関係が含まれていないため、操作は実行されませんでした。	337

CMMVC5972E 整合性グループに関係が含まれているため、操作は実行されませんでした。	337
CMMVC5973E 整合性グループが同期化されていないため、操作は実行されませんでした。	337
CMMVC5974E 整合性グループがオフラインのため、操作は実行されませんでした。	338
CMMVC5975E クラスタ協力関係が接続されていないため、操作は実行されませんでした。	338
CMMVC5976E 整合性グループが凍結状態のため、操作は実行されませんでした。	338
CMMVC5977E 整合性グループの状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。	338
CMMVC5978E 関係が同期化されていないため、操作は実行されませんでした。	338
CMMVC5980E マスター・クラスタと補助クラスタが接続されていないため、操作は実行されませんでした。	339
CMMVC5981E 関係が凍結状態のため、操作は実行されませんでした。	339
CMMVC5982E 現行関係の状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。	339
CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。	339
CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。	340
CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: /dumps、/dumps/iostats、/dumps/iotrace、/dumps/feature、/dumps/configs、/dumps/elogs、または /home/admin/upgrade	340
CMMVC5986E 仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を戻さなかったため、入出力操作のトレースは開始されませんでした。	340
CMMVC5987E アドレスが無効です。	341
CMMVC5988E root ユーザー ID でログインしている場合は、このコマンドを発行してはいけません。admin ユーザー ID を使用してください。	341
CMMVC5989E 関係がオフラインのため、操作は実行されませんでした。	341
CMMVC5990E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。	341
CMMVC5991E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。	341
CMMVC5992E グループ内にメトロ・ミラー関係がないため、メトロ・ミラー整合性グループは停止されませんでした。	342
CMMVC5993E 特定のアップグレード・パッケージが存在しません。	342
CMMVC5994E アップグレード・パッケージのシグニチャーの検査でエラーがありました。	342
CMMVC5995E アップグレード・パッケージのアンパックでエラーがありました。	342
CMMVC5996E 現行バージョンの上に特定のアップグレード・パッケージをインストールできません。	343
CMMVC5997E MDisk の容量が MDisk グループのエクステント・サイズよりも小さいため、アクションが失敗しました。	343
CMMVC5998E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。	343
CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えています。ただし、要求されたアクションは完了しました。	344
CMMVC5999W この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。	344

CMMVC5999E 未定義エラー・メッセージ。	344
CMMVC6000W この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。	344
CMMVC6001E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは開始されませんでした。	345
CMMVC6002E このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。	345
CMMVC6003E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。	345
CMMVC6004E 区切り値 %1 は無効です。	345
CMMVC6005E 指定されたオブジェクトが該当するグループのメンバーでないため、表示要求は失敗しました。	345
CMMVC6006E リソースが使用中だったため、管理対象ディスク (MDisk) は削除されませんでした。	346
CMMVC6007E 入力された 2 つのパスワードが一致しません。	346
CMMVC6008E この鍵はすでに存在します。	346
CMMVC6009E 戻されたデータのコピー先であるメモリーのブロックを malloc できませんでした。	346
CMMVC6010E フリー・エクステン트가不十分なため、コマンドを完了できませんでした。	347
CMMVC6011E 少なくとも 1 つのリモート・クラスター協力関係が検出されました。このアップグレード・パッケージは、すべてのリモート・クラスター協力関係が削除されるまで、現行コード・レベルには適用できません。	347
CMMVC6012W 仮想化された記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量に達しています。	347
CMMVC6013E 補助クラスター上で整合性グループのミスマッチがあるため、コマンドは失敗しました。	347
CMMVC6014E 要求されたオブジェクトは使用不可か存在しないため、コマンドは失敗しました。	348
CMMVC6015E このオブジェクトの削除要求はすでに進行中です。	348
CMMVC6016E MDisk グループにディスクがなくなる (またはすでにない) ため、アクションは失敗しました。	348
CMMVC6017E %1 に無効文字が含まれています。すべての文字が ASCII であることを確認してください。	348
CMMVC6018E ソフトウェア・アップグレードのプリインストール処理に失敗しました。	349
CMMVC6019E アップグレードの進行中にノードが保留されたため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。	349
CMMVC6020E システムがソフトウェア・パッケージをすべてのノードに配布できなかったため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。	349
CMMVC6021E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。	349
CMMVC6022E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。	350
CMMVC6023E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。	350
CMMVC6024E 入力した補助 VDisk は無効です。	350
CMMVC6025E RC 整合性グループのマスター・クラスターがローカル・クラスターではありません。	350
CMMVC6026E RC 整合性グループが停止状態ではありません。	351
CMMVC6027E RC 整合性グループが 1 次マスターではありません。	351
CMMVC6028E このアップグレード・パッケージにはクラスターの状態の変更が含まれており、リモート・クラスター協力関係が定義されているため、アップグレード・パッケージを現行ソフトウェア・レベルに適用できません。	351

CMMVC6029E 並行コード・アップグレードを実行するには、すべてのノードのコード・レベルが同一でなければなりません。	351
CMMVC6030E FlashCopy マッピングが整合性グループのパーツであるために、操作は実行されませんでした。整合性グループ・レベルでアクションを実行してください。	352
CMMVC6031E FlashCopy 整合性グループが空なので、操作は実行されませんでした。	352
CMMVC6032E 入力したパラメーターのうち 1 つ以上がこの操作には無効なので、操作は実行されませんでした。	352
CMMVC6033E このアクションは、内部エラーのため失敗しました。	352
CMMVC6034E アクションは、オブジェクトの最大数に到達したため失敗しました。	353
CMMVC6035E アクションはオブジェクトが既に存在しているために失敗しました。	353
CMMVC6036E 無効なアクションが要求されました。	353
CMMVC6037E オブジェクトが空でないため、このアクションは失敗しました。	353
CMMVC6038E オブジェクトが空であるため、このアクションは失敗しました。	353
CMMVC6039E オブジェクトがグループのメンバーでないため、このアクションは失敗しました。	354
CMMVC6040E オブジェクトが親でないため、このアクションは失敗しました。	354
CMMVC6041E クラスターがフルであるため、このアクションは失敗しました。	354
CMMVC6042E オブジェクトがクラスター・メンバーでないため、このアクションは失敗しました。	354
CMMVC6043E オブジェクトがグループのメンバーであるため、このアクションは失敗しました。	355
CMMVC6044E オブジェクトが親であるため、このアクションは失敗しました。	355
CMMVC6045E force フラグが入力されなかったため、このアクションは失敗しました。	355
CMMVC6046E アクションは候補の選択が多過ぎるために失敗しました。	355
CMMVC6047E アクションは候補の選択が少な過ぎるために失敗しました。	355
CMMVC6048E アクションはオブジェクトが使用中のために失敗しました。	356
CMMVC6049E アクションはオブジェクトの準備ができていないために失敗しました。	356
CMMVC6050E アクションはコマンドがビジーのために失敗しました。	356
CMMVC6051E サポートされないアクションが選択されました。	356
CMMVC6052E アクションはオブジェクトが Flash copy マッピングのメンバーのために失敗しました。	356
CMMVC6053E 無効な WPN が入力されました。	357
CMMVC6054E オンラインでないノードがあるため、このアクションは失敗しました。	357
CMMVC6055E アクションはアップグレードが進行中のために失敗しました。	357
CMMVC6056E アクションはオブジェクトが小さ過ぎるために失敗しました。	357
CMMVC6057E アクションはオブジェクトが FlashCopy マッピングのターゲットであるために失敗しました。	358
CMMVC6058E アクションはオブジェクトがリカバリー HWS 内にあるために失敗しました。	358

CMMVC6059E アクションはオブジェクトが無効なモードになっているために失敗しました。	358
CMMVC6060E アクションはオブジェクトが削除処理中であるために失敗しました。	358
CMMVC6061E アクションはオブジェクトがサイズ変更中のために失敗しました。	359
CMMVC6062E アクションはオブジェクトが HWS 間を移動中であるために失敗しました。	359
CMMVC6063E アクションはグループにこれ以上ディスクがないために失敗しました。	359
CMMVC6064E アクションはオブジェクトの名前が無効であるために失敗しました。	359
CMMVC6065E アクションはオブジェクトがグループにないために失敗しました。	360
CMMVC6066E アクションはシステムがメモリーの低アドレスで実行しているために失敗しました。	360
CMMVC6067E アクションは SSH 鍵が見つからなかったために失敗しました。	360
CMMVC6068E アクションは、フリー SSH 鍵がないために失敗しました。	360
CMMVC6069E アクションは SSH 鍵が既に登録されているために失敗しました。	360
CMMVC6070E 無効または重複するパラメーター、対象のない引数、または引数の順序の誤りが検出されました。入力がヘルプのとおりであることを確認してください。	361
CMMVC6071E 仮想ディスクは、すでにホストにマップされています。追加の仮想ディスクとホストとのマッピングを作成するには、コマンド行インターフェースを使用する必要があります。	361
CMMVC6072E 非互換ソフトウェア。	361
CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。	361
CMMVC6074E コマンドは、このエクステントが既に割り当てられていたために失敗しました。	362
CMMVC6075E 拡張は、最後のエクステントが完全なエクステントではないために失敗しました。	362
CMMVC6076E コマンドは、Vdisk をフラッシュしている際のエラーのために失敗しました。	362
CMMVC6077E 警告 - 未修正エラーはソフトウェアをアップグレードする前に修正してください。エラーの種類によっては、このアップグレード処理が失敗することもあります。先に進む前にこれらのエラーの修正を強くお勧めします。特定のエラーを修正できない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。	362
CMMVC6078E アクションはオブジェクトが無効なモードになっているために失敗しました。	363
CMMVC6098E 指定されたノードが構成ノードであるため、コピーは失敗しました。	363
CMMVC6100E -option がアクションと整合しません。	363
CMMVC6101E -option と -option が整合しません。	363
CMMVC6102E -option と -option は代替オプションです。	363
CMMVC6103E file-name: details で問題が発生しました。	364
CMMVC6104E アクション名が実行されませんでした。	364
CMMVC6105E ソース・クラスター (name) とターゲット・クラスター (name) の名前が異なります。	364
CMMVC6106W ターゲット・クラスターはデフォルト以外の id_alias alias を持っています。	364

CMMVC6107E	ターゲット・クラスター内の io_grp オブジェクトは x 個で す。y 個必要です。	365
CMMVC6108I	wwnn の WWNN を持つディスク・コントローラー・システムが検 出されました。	365
CMMVC6109E	wwnn の WWNN を持つディスク・コントローラー・システムは使 用不可です。	365
CMMVC6110E	コード・レベルが不良です。	365
CMMVC6111E	クラスターの code_level を level から判別できません。	366
CMMVC6112W	object-type object-name はデフォルト名を持っています。	366
CMMVC6113E	コマンドが失敗し、details という戻りコードが戻されまし た。	366
CMMVC6114E	アクション action のヘルプはありません。	366
CMMVC6115W	フィーチャー property の不一致。value1 が予期されました が、value2 が検出されました。	367
CMMVC6116I	フィーチャーは property と一致しています。	367
CMMVC6117E	fix-or-feature は使用不可です。	367
CMMVC6118I	property value [および property value] の type が検出され ました。	367
CMMVC6119E	property value [および property value] の type が検出され ませんでした。	367
CMMVC6120E	ターゲットは、構成ノードではありません。	368
CMMVC6121E	バックアップ構成にクラスター ID または id_alias がありま せん。	368
CMMVC6122E	property 値を持つ type がテーブル内に存在しません。	368
CMMVC6123E	type name の property はありません。	368
CMMVC6124E	property 値の type はありません。	369
CMMVC6125E	type name の unique ID はありません。	369
CMMVC6126E	unique ID 値の type はありません。	369
CMMVC6127I	user の SSH 鍵 identifier は既に定義されています。復元され ません。	369
CMMVC6128W	details	369
CMMVC6129E	VDisk からホストへのマップ・オブジェクトに、整合しない vdisk_UID 値があります。	370
CMMVC6130W	クラスター間 property は復元されません。	370
CMMVC6131E	location クラスター情報がありません。	370
CMMVC6132E	特定のタイプのオブジェクトに無効な値を持つプロパティーが あります。プロパティーが正しい値になるまで、操作を進めることができ ません。管理者が値を変更するアクションを取り、再試行してください。	370
CMMVC6133E	必要な type のプロパティー property が検出されません。	371
CMMVC6134E	-option に引数がありません。	371
CMMVC6135E	-option の引数の value が無効です。	371
CMMVC6136W	SSH 鍵ファイル file-name がありません。	371
CMMVC6137W	SSH 鍵ファイル file-name がありません。鍵は復元されませ ん。	371
CMMVC6138E	-option が必要です。	372
CMMVC6139E	filename 内の XML タグのネスティングに誤りがあります。	372
CMMVC6140E	タイプ type にデフォルト名がありません。	372
CMMVC6141E	-option は引数を含みません。	372
CMMVC6142E	既存の object-type object-name にデフォルトでない名前があ ります。	373
CMMVC6143E	必要な構成ファイル file-name が存在しません。	373

CMMVC6144W デフォルト名 name のオブジェクトが substitute-name として復元されました。	373
CMMVC6145I 最初に restore -prepare コマンドを使用してください。	373
CMMVC6146E object-type データ: line の構文解析で問題が検出されました。	374
CMMVC6147E type name の名前が prefix で始まっています。	374
CMMVC6148E ターゲット・クラスターにあるタイプ type のオブジェクトの数が、n-required でなく n-actual です。	374
CMMVC6149E アクションが必要です。	374
CMMVC6150E action アクションは無効です。	374
CMMVC6151E -option オプションは無効です。	375
CMMVC6152E VDisk の name インスタンス番号のインスタンスが無効です。	375
CMMVC6153E object が action と整合しません。	375
CMMVC6154E 必要な object-type のプロパティ property-name の値がヌルです。	375
CMMVC6155I SVCCONFIG 処理が正常に完了しました。	375
CMMVC6156W SVCCONFIG 処理がエラーで完了しました。	376
CMMVC6164E 毎日夜間に実行される SVCCONFIG CRON ジョブが失敗しました。	376
CMMVC6165E ターゲットは value の WWNN を持つ元の構成ノードではありません。	376
CMMVC6166E svcconfig restore -execute の実行中に、オブジェクトのプロパティが変更されました。	376
CMMVC6181E ターゲット・クラスターは、復元する構成にカウンターパートを持つオブジェクトを含み、正しい ID を持っています。	377
CMMVC6182E 構成のファブリックに寄与しないオブジェクトは復元できません。それは、この構成でそのオブジェクトを作成することができないからです。	377
CMMVC6186E IO グループが別の ID 値で復元されました。	377
CMMVC6202E IP アドレスが無効なため、クラスターを変更できませんでした。	377
CMMVC6203E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: /dumps、/dumps/iostats、/dumps/iotrace、/dumps/feature、/dumps/config、/dumps/elogs、/dumps/ec または /dumps/pl	378
CMMVC6204E 結果のディスク・サイズはゼロ以下になるため、アクションは失敗しました。	378
CMMVC6206E ソフトウェア・アップグレードは、指定された MCP バージョンのソフトウェアを含むファイルが見つからなかったため、失敗しました。	378
CMMVC6207E 仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。	379
CMMVC6208E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。	379
CMMVC6211E イメージへのマイグレーションが進行中であったため、コマンドは失敗しました。	379
CMMVC6215E 整合性グループには既に最大マッピング数が含まれているので、FlashCopy マッピングは作成または変更されませんでした。	379
CMMVC6216E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。	380
アクセシビリティ	381

特記事項	383
商標	384
用語集	385
索引	395

一 表

1.	構文図の説明	xxxii
2.	省略形のオブジェクト・タイプ	xxxiii
3.	データ・タイプと値	xxxvi
4.	有効なフィルター属性	145

本書について

本書では、IBM[®] TotalStorage[®] SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) について説明します。

本書の対象読者

本書は、システム管理者、またはそれ以外の、SAN ボリューム・コントローラーをインストールして使用するユーザーを対象としています。

変更の要約

本書には、用語、細かな修正、および編集上の変更が含まれています。

本文または図表に対して技術的な変更または追加が行われている場合には、その個所の左側に縦線を引いて示してあります。この変更の要約では、このリリースに追加された新機能について説明します。

SD88-6303-04 「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザズ・ガイド」の変更の要約

この『変更の要約』には、本ガイドの前回のバージョン以降の新しい情報と、修正および変更された情報のリストが記載されています。

新しい情報

このトピックでは、前の版の SD88-6303-03 「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザズ・ガイド」以降にこのガイドに加えられた変更について説明します。以下のセクションでは、前バージョン以降に実施された変更を要約します。

- `migratetoimage` コマンドが追加されました。`migratetoimage` を使用してイメージ・モード `vdisk` を同じ `mdisk` グループ内のターゲット `mdisk` にマイグレーションすることができます。
- 以下のメッセージは、このリリースで新たに取り入れられたものです。
 - CMMVC3438E
 - CMMVC3439E
 - CMMVC5432E
 - CMMVC6166E
 - CMMVC6181E
 - CMMVC6182E
 - CMMVC6183E
 - CMMVC6186E

変更された情報

- ファイル名の最大長が 169 文字で定義されるようになりました。
- ファイル名フィルターの最大長が 128 文字を使用できるように変更されました。

- ファイル名接頭部の最大長が 128 文字を使用できるように変更されました。
- `-type` パラメーターが `chhost` および `mkhost` コマンドに追加されました。
- `mdisk` パラメーターが `mkvdisk` コマンドに追加されました。

SD88-6303-03 「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド」の変更の要約

この『変更の要約』には、本ガイドの前のバージョン以降の新しい情報と、修正および変更された情報のリストが記載されています。

新しい情報

このトピックでは、前の版の SD88-6303-02 「SAN ボリューム・コントローラーコマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド」以降にこのガイドに加えられた変更について説明します。以下のセクションでは、前バージョン以降に実施された変更を要約します。

このセクションでは、本書に追加された新しい情報をリストします。

- 新しいトピックとして、PuTTY `scp` が本書に追加されました。

変更された情報

このセクションでは、本書に加えられた更新情報をリストします。

- **rmvdisk** の説明が変更されました。**rmvdisk** は、『仮想ディスク・コマンド』の項に記載されています。
- **lsvdiskextent** および **lsmdiskextent** の説明が変更されました。どちらのコマンドも、『情報コマンド』の項に記載されています。
- **-ignore** フラグの説明が、『サービス・モード情報コマンド』の **applysoftware** コマンドのセクションに追加されました。
- 前バージョンで除去された Windows NT のトピックが復元されました。

強調

本書では、さまざまな書体を使用して強調を示しています。

以下の書体で強調を表しています。

太文字	太文字のテキストは、メニュー項目およびコマンド名を表します。
イタリック	イタリック は、ワードを強調する場合に使用されます。コマンド構文で、デフォルトのディレクトリーやクラスター名など、実際の値を指定する変数を表します。
モノスペース	モノスペースのテキストは、ユーザーが入力するデータまたはコマンド、コマンド出力のサンプル、プログラム・コードまたはシステムからのメッセージの例、もしくは、コマンド・フラグ、パラメーター、引数、および名前と値の対の名前を表します。

SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料

参考として、本製品に関連するその他の資料のリストが示されています。

このセクションでは、以下の資料を一覧表にして、それらの内容を説明しています。

- IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーを構成している資料
- SAN ボリューム・コントローラーに関連するその他の IBM 資料

SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリー

次の表では、SAN ボリューム・コントローラー・ライブラリーを構成する資料をリストし、説明しています。特に断りのない限り、これらの資料は SAN ボリューム・コントローラーに同梱されているコンパクト・ディスク (CD) 上に Adobe PDF 形式で用意されています。この CD の追加コピーをお求めの場合、オーダー番号は SK2T-8811 です。これらの資料は、下記の Web サイトから PDF ファイルとして使用することもできます。

<http://www-1.ibm.com/servers/storage/support/virtual/2145.html>

表題	説明	資料番号
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: CIM エージェント開発者のリファレンス	この資料は、Common Information Model (CIM) 環境におけるオブジェクトとクラスを説明しています。	SD88-6304
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: コマンド行インターフェース・ユーザーズ・ガイド	この資料では SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) から使用できるコマンドについて解説します。	SD88-6303
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: 構成ガイド	この資料では、SAN ボリューム・コントローラーを構成するためのガイドラインが記載されています。	SD88-6302
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: ホスト・アタッチメント・ユーザーズ・ガイド	この資料には、ホスト・システムへの SAN ボリューム・コントローラーの接続について、ガイドラインが記載されています。	SD88-6314
IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: インストール・ガイド	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーをインストールするためのサービス技術員向けの指示が記載されています。	SD88-6300

表題	説明	資料番号
<i>IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: 計画ガイド</i>	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーの概要、およびオーダー可能な機能が記載されています。また、SAN ボリューム・コントローラーのインストールおよび構成に関する計画のガイドラインも示されています。	GA88-8768
<i>IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: サービス・ガイド</i>	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーを保守するためのサービス技術員向けの指示が記載されています。	SD88-6301
<i>IBM TotalStorage SAN Volume Controller: Translated Safety Notices</i>	この資料には、SAN ボリューム・コントローラーに関する危険と注意が記載してあります。これらは、英語および多数の言語で示されます。	SC26-7577
<i>IBM TotalStorage Master Console Installation and User's Guide</i>	この資料では、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールのインストールおよび使用方法について説明します。	

その他の IBM 資料

次の表は、SAN ボリューム・コントローラーに関連する追加情報が入っているその他の IBM 資料のリストとその説明です。

表題	説明	資料番号
<i>IBM TotalStorage Enterprise Storage Server, IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー、IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー for Cisco MDS 9000 サブシステム・デバイス・ドライバーユーザーズ・ガイド</i>	このガイドは、IBM TotalStorage Multipath Subsystem Device Driver Version 1.5 for TotalStorage Products と、SAN ボリューム・コントローラーでのその使用方法について説明します。この資料は、「 <i>IBM TotalStorage</i> サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド」という名称で呼びます。	SC88-9901

関連資料

xxxix ページの『IBM 資料のご注文方法』

資料センターは、IBM 製品資料とマーケティング資料を貯蔵している世界規模の中央リポジトリです。

関連 Web サイト

以下の Web サイトは、SAN ポリリューム・コントローラーまたは関連製品/テクノロジーに関する情報を提供します。

情報のタイプ	Web サイト
SAN ポリリューム・コントローラーのサポート	http://www-1.ibm.com/servers/storage/support/virtual/2145.html
IBM ストレージ製品のテクニカル・サポート	http://www.ibm.com/storage/support/

IBM 資料のご注文方法

資料センターは、IBM 製品資料とマーケティング資料を貯蔵している世界規模の中央リポジトリです。

IBM 資料センター

IBM 資料センターは、お客様が必要とする資料を見つけやすくするためにカスタマイズされた検索機能を備えています。一部の資料は、無料で表示したりダウンロードしたりできます。また、資料を注文することもできます。資料センターは、価格をお客様の通貨で表示します。IBM 資料センターにアクセスするには、次の Web サイトを使用してください。

www.ibm.com/shop/publications/order/

資料通知システム

IBM 資料センター Web サイトは、IBM 資料の通知システムを提供します。登録すると、ユーザーは、興味のある資料について独自のプロフィールを作成することができます。資料通知システムは、そのプロフィールに基づく新規または改訂資料に関する情報が入った日次電子メールをお客様に送信します。

予約購読したい場合は、次の Web サイトの IBM 資料センターから資料通知システムにアクセスできます。

www.ibm.com/shop/publications/order/

関連資料

xxix ページの『SAN ポリリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料』

参考として、本製品に関連するその他の資料のリストが示されています。

構文図

構文図では、コマンドの要素を表す記号、およびこれらの要素を使用する場合の規則を指定する記号が使用されます。

ここでは、コマンド行インターフェース (CLI) コマンドを表す構文図の読み方を説明します。説明の中で、CLI コマンド要素を表す記号が定義されています。

表 1. 構文図の説明

要素	構文	説明
メインパス・ライン	>>><>() () ()	左側から二重矢印 (>>)で始まり、右側の互いに向かい合った 2 つの矢印 (<>) で終わります。構文図が 1 行で終わらない場合は、行の終わりに単一矢印 (>) が付き、次の行が単一矢印で開始されます。構文図は左から右、上から下へ、メインパス・ラインを読んでください。
キーワード	▶▶—esscli—▶▶	コマンド、フラグ、パラメーター、または引数の名前を表します。キーワードはイタリック体ではありません。キーワードは、構文図に示されているとおりに入力してください。
必須キーワード	▶▶ ┌—a—AccessFile—┐ ├—u—Userid—┤ └—p—Password—┘▶▶	そのコマンドで指定しなければならないパラメーターまたは引数を示しています。必須キーワードは、メインパス・ライン上に示されます。相互に排他的な必須キーワードは、縦に積み重ねて示されます。
オプション・キーワード	▶▶ ┌—h—┐ ├—help—┤ └—?—┘▶▶	そのコマンドで指定するか、しないかをユーザーが選択できるパラメーターまたは引数を示しています。オプション・キーワードは、メインパス・ラインの下に示されます。相互に排他的なオプション・キーワードは、縦に積み重ねて示されます。
デフォルト値	▶▶—protocol—==┌—FCP—┐ └—FICON—┘▶▶	メインパス・ラインの上に示されます。
反復可能キーワードまたは値	▶▶—newports—▶▶ ▶▶==┌—ALL—┐ └—PortId1,PortId2,...┘▶▶	2 回以上指定できるパラメーターまたは引数を表します。反復可能なキーワードまたは値は、キーワードまたは値の上を右から左へ戻る矢印で示しています。
変数	▶▶—AccessFile—▶▶	パラメーターまたは引数に指定する必要がある値 (ファイル名、ユーザー名、パスワードなど) を表しています。変数はイタリック体です。

表 1. 構文図の説明 (続き)

要素	構文	説明
スペース分離文字	▶—u— —Userid— —p— —Password—▶	前後のキーワード、パラメーター、引数、または変数を区切るために、メインパス・ラインにブランク・スペースを追加します。
引用符区切り文字	▶—d— —" —ess— —EssId—▶ ▶—host— —'Host Name' —▶ ▶—profile— —ProfileName—"▶	複数の値が含まれるパラメーターまたは引数の始まりと終わりを示します。特定のパラメーターまたは引数の、1 つ以上の名前値の対を二重引用符で囲みます。パラメーター、または名前と値の対の値にブランクまたはスペースが含まれる場合は、値全体を1 単一引用符で囲みます。
等号オペレーター	▶—" —ess— —EssId— —▶ ▶—profile— —ProfileName—"▶	名前と値の対の中で、名前とその値を区切ります。
構文フラグメント	▶—Fragment Name—▶ フラグメント名: —(—fragment details—)—	非常に長い構文図、複雑な構文図、もしくは繰り返しの多い構文図を分割します。フラグメント名はメインの構文図の中に示されます。実際のフラグメントは、メインの構文図の下に示されます。

用語

コマンド行インターフェースの操作で最も頻繁に使用される省略語は、次のとおりです。

表 2 は、コマンド行インターフェースの操作で最も頻繁に使用される省略語を示しています。

表 2. 省略形のオブジェクト・タイプ

名前	オブジェクト・タイプ
ホスト	host
仮想ディスク	vdisk
管理対象ディスク	mdisk
管理対象ディスク・グループ	mdiskgrp
I/O グループ	iogrp
ノード	node
クラスター	cluster
コントローラー	controller
FlashCopy マッピング	fcmap

表 2. 省略形のオブジェクト・タイプ (続き)

名前	オブジェクト・タイプ
FlashCopy 整合性グループ	fcconsistgrp
IBM TotalStorage メトロ・ミラー (従来のリ モート・コピー) 関係	rcrelationship
IBM TotalStorage メトロ・ミラー整合性グル ープ	rcconsistgrp
未サポート/未知のオブジェクト	unknown

CLI 特殊文字

コマンド行インターフェース (CLI) のコマンド例では、以下の特殊文字が使用されています。

- - (マイナス) 記号。フラグの前には - (マイナス) 記号が付きます。フラグはコマンドの動作を定義したり、コマンドの操作を変更します。コマンドを発行する際、複数のフラグにパラメーターを付けて使用できます。この - (マイナス) 記号は、オブジェクト名の先頭文字としては使用できません。
- | 縦バー。縦バーは、1 つの値のみを選択できることを示しています。たとえば、[a | b] は、a か b を指定する、もしくはどちらも指定しないことを選択できます。同様に、{ a | b } は、a または b のどちらかを選択しなければならないことを意味します。

SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) で のワイルドカードの使用

SAN ボリューム・コントローラー コマンド行インターフェースでワイルドカードを使用できます。

SAN ボリューム・コントローラーにより、特定のパラメーターの引数の中で、ワイルドカードとして「*」が使用できるようになります。ワイルドカードを使用する際の予期しない結果を防止するには、考慮しておく必要のある行動上の問題がいくつかあります。これらの行動上の問題、およびそれらの問題を回避する方法は、以下のとおりです。

1. ノードにログオンされている間にコマンドを実行する。

特殊文字がエスケープされていない場合、シェルはそれらの特殊文字のすべてを解釈しようとします。ワイルドカードと一致するファイルが存在する場合、ワイルドカードはファイルのリストに展開されます。一致するファイルが存在しない場合、ワイルドカードはそのまま SAN ボリューム・コントローラーのコマンドにパスされます。

ワイルドカードが展開されないようにするには、以下のコマンドをいずれかのフォーマットで発行します。

```
svctask clear.dumps -prefix '/dumps/*.*txt' (単一引用符で囲む) または
```

```
svctask clear.dumps -prefix '/dumps/*.*txt' (バックスラッシュを使用する) または
```

```
svctask cleardumps -prefix "/dumps/*.txt" (二重引用符で囲む)
```

2. SSH を介して (たとえば、ホストから) コマンドを実行する。

この方法は、やや複雑です。その理由は、コマンド行が SSH を介してクラスター上のシェルにパスされる前に、ホスト・シェルがコマンド行を処理するためです。これは、次のことを意味します。つまり、ホスト・シェルが保護引用符をすべて取り除くため、ワイルドカードの前後に余分の保護層が必要であり、ワイルドカードがクラスター・シェルから見える場合、そのワイルドカードがクラスター・シェルで展開されることとなります。

ワイルドカードが展開されないようにするには、以下のコマンドをいずれかのフォーマットで発行します。

```
svctask cleardumps "'/dumps/*.txt'" (二重引用符の内部で単一引用符を使用して囲む)
```

または

```
svctask cleardumps '/dumps/*.txt' (単一引用符の内部でバックスラッシュを使用する)
```

または

```
svctask cleardumps `"/dumps/*.txt"`
```

(単一引用符の内部で二重引用符を使用して囲む)

データ・タイプと値の範囲

それぞれのデータ・タイプには、値の範囲が指定されています。

xxxvi ページの表 3 は、各データ・タイプと値範囲を定義したものです。

注: 新規オブジェクトを作成する際に名前を指定しないと、クラスターはデフォルト名を割り当てます。この名前は、オブジェクト・タイプから接頭部が、オブジェクト ID から接尾部が生成されます。たとえば、新規仮想ディスク (VDisk) を、ID 5 で作成する場合、このオブジェクトのデフォルト名は `vdisk5` となります。システムがこれらの名前を割り当てるので、ユーザーがオブジェクトを作成して、そのオブジェクトを `vdiskx` (x は整数) と呼ぶことはできません。これは、クラスターがデフォルトとしてこれらの名前 (例: `object_type_prefix integer`) を予約しているためです。

表 3. データ・タイプと値

データ・タイプ	値の範囲
<p>filename_arg</p>	<p>これはファイル名です (完全修飾名を使用することもできます)。最大長は 169 文字です。有効な文字は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • . • / • - • _ • a - z • A - Z • 0 - 9 <p>フィールドでは、「.」を 2 つ連続したり、「.」で開始したり、「.」で終了することはできません。</p>
<p>directory_or_file_filter</p>	<p>ディレクトリー、および/または、そのディレクトリー内のファイル名フィルターを指定します。有効なディレクトリー値は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /dumps • /dumps/configs • /dumps/elogs • /dumps/feature • /dumps/iostats • /dumps/iotrace • /dumps/software <p>ファイル名フィルターには、有効なファイル名であればどれも指定できます。この場合、ワイルドカード (*) の有無は問いません。ファイル名フィルターを、上記のいずれかのディレクトリーの最後に付加することができます。最大長は 128 文字です。有効な文字は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • * • . • / • - • _ • a - z • A - Z • 0 - 9 <p>フィールドでは、「.」を 2 つ連続したり、「.」で開始したり、「.」で終了することはできません。</p>

表 3. データ・タイプと値 (続き)

データ・タイプ	値の範囲
filename_prefix	<p>ファイルを命名するときに使用する接頭部です。最大長は 128 文字です。有効な文字は、次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • a - z • A - Z • 0 - 9 • - • _
name_arg	<p>名前は、作成または変更機能で指定または変更できます。ビュー・コマンドを使用すると、オブジェクトの名前と ID の両方が表示されます。</p> <p>A - Z、a - z、0 - 9、- および _ から構成される、1 - 15 文字のSTRINGを指定できます。</p> <p>name_arg の先頭文字は数字にすることはできません。CLI は、「-」を次のパラメーターと解釈するので、オブジェクト名の先頭文字にはこの文字は使用できません。</p> <p>オブジェクトに対して名前を作成する場合、この名前はオブジェクト・タイプに続けて整数のみを使用することはできません。ただし、メトロ・ミラー関係の名前は例外で、2 つのクラスターにとって固有の名前であれば、どんな名前でもかまいません。この命名規則は、システムがデフォルト名を生成するときに使用します。次の予約語のいずれかと、それに続けて整数を使用することはできません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • cluster • controller • fcstgrp • fcmmap • host • io_grp • mdisk • mdiskgrp • node • rccstgrp • rcmmap <p>クラスターの作成時にクラスター名が設定されます。</p>

表 3. データ・タイプと値 (続き)

データ・タイプ	値の範囲
password	<p>これは、ユーザーが定義したパスワードです。パスワードは、以下の要件を満たす必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • a - z、A - Z、0 - 9 を任意の順序で使用できる • - (ダッシュ) は先頭文字以外で使用できる • _ (アンダースコア) を使用できる • 最大 15 文字を含むことができる
serial_number	<p>この番号の形式は、IBM 製品のシリアル番号付けに使用されている IBM 規格の C-S 1-1121-018 1999-06 に準拠しています。シリアル番号は 7 桁です。最初の 2 桁は製造地域、残りの 5 桁は製品を示します。この規格は、5 桁のフィールドに番号の代わりに文字を入力することでシリアル番号を拡張できます。</p>
ip_address_arg	<p>小数点付き 10 進クワッド表記 (標準規則) で表します。</p>
dns_name	<p>クラスターが含まれるサブネットの、小数点付きドメイン・ネーム。例: ibm.com</p>
hostname	<p>クラスターに割り当てられたホスト名。これはクラスター名とは異なります。ホスト名はいつでも変更できます。</p> <p>たとえば、クラスターへのアクセスに使用する hostname と the dns_name の組み合わせは、次のように指定します。</p> <p>https://hostname.ibm.com/</p>
capacity_value	<p>512 バイトから 2 PetaBytes までを範囲とする値。この値は、1 MB の倍数で表現でき、範囲は、16 MB から 2 PetaBytes (PB) までです。</p> <p>注: 容量は、MB、KB、GB、または PB で指定できます。MB を使用する場合は、値を 512 バイトの倍数で指定します。容量 0 は、ストライプ/順次 VDisk に有効です。サポートされる最小バイト数は、512 です。</p>
delay_arg	<p>1 - 65535 の範囲の未割り当ての整数 (バッテリー・テストの時間 (分))。</p>

表 3. データ・タイプと値 (続き)

データ・タイプ	値の範囲
<p>node_id</p>	<p>ノード ID は、ノードの初期化時に割り当てられる固有の ID なので、他の ID とは異なります。ノード ID は、64 ビットの16 進数で表します。次に例を示します。</p> <p>1A2B30C67AFFE47B</p> <p>ノード ID は、他の ID と同様にユーザー・コマンドでは変更できません。</p>
<p>xxx_id</p>	<p>すべてのオブジェクトは、オブジェクトの作成時にシステムによって割り当てられる固有の整数 ID によって参照されます。すべての ID は、内部では 32 ビットの整数で表現されます。ノード ID は例外です。</p> <p>オブジェクトのさまざまなタイプの識別には、以下の範囲の ID が使用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • node_id: 1 - 32 • mdisk_grp_id: 0 - 127 • io_grp_id: 0 - 3 (「注」を参照) • mdisk_id: 0 - 4095 • vdisk_id: 0 - 8191 • host_id: 0 - 127 • flash_const_grp_id: 0 - 255 • remote_const_grp_id: 0 - 255 • fcmid_id: 0 - 4095 • rcrel_id: 0 - 8191 • controller_id: 0-63 <p>注: io_group 4 は存在しますが、ある特定のエラー・リカバリー手順でのみ使用されません。</p> <p>これらの ID は、ノード ID と同様にユーザー・コマンドでは変更できません。</p> <p>注: ID は実行時にシステムによって割り当てられますが、その後、たとえば構成回復後に、そのまま同じ ID が維持されるとは限りません。したがって、オブジェクトに関する作業をするときは、ID より優先してオブジェクト名を使用してください。</p>
<p>xxx_list</p>	<p>コロンで区切られて列挙された、タイプ xxx の値。</p>

表 3. データ・タイプと値 (続き)

データ・タイプ	値の範囲
wwpn_arg	Fibre Channel World Wide Port Name (WWPN)。これは、64 ビットの 16 進数で表されます。例: 1A2B30C67AFFE47B この数は、0 - 9、a - f、および A - F の文字で構成しなくてはなりません。コマンド・ストリングに WWPN 0 を入力すると、コマンドは失敗します。
panel_name	クラスター内のノードのフロント・パネルの APA ディスプレイの下に貼ってある印刷されたラベルの数字に対応する、最大 6 文字のストリング。
sequence_number	10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。
csi_num_arg	10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。
percentage_arg	10 進数 0 - 100 で表記された、8 ビットの符号なし整数。
extent_arg	10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。
num_extents_arg	10 進数で表記された、32 ビットの符号なし整数。
threads_arg	10 進数で表記された、8 ビットの符号なし整数。有効値は、1、2、3、または 4 です。
velocity_arg	ファブリックの速度 (ギガビット/秒)。有効値は、1 または 2 です。
timezone_arg	svcinfo lstimezones コマンドの出力で詳述されている ID。
timeout_arg	コマンドのタイムアウト期間。0 - 600 (秒) の整数です。
stats_time_arg	統計が収集される頻度。15 から最大 60 (分) までで、増分の単位は 1 分です。

表 3. データ・タイプと値 (続き)

データ・タイプ	値の範囲
directory_arg	<p>ディレクトリー、および/または、そのディレクトリー内のファイル名フィルターを指定します。有効なディレクトリー値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • /dumps • /dumps/configs • /dumps/elogs • /dumps/feature • /dumps/iostats • /dumps/iotrace • /home/admin/upgrade <p>ファイル名フィルターには、有効なファイル名であればどれでも指定できます。この場合、ワイルドカード (*) の有無は問いません。</p> <p>ファイル名フィルターを、上記のいずれかのディレクトリーの最後に付加することができます。</p>
locale_arg	<p>クラスターのロケール設定。有効値は、0 - 9 です。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 0 米国英語 (デフォルト) • 1 中国語 (簡体字) • 2 中国語 (繁体字) • 3 日本語 • 4 韓国語 • 5 フランス語 • 6 ドイツ語 • 7 イタリア語 • 8 スペイン語 • 9 ポルトガル語 (ブラジル)
key_arg	<p>ユーザーが定義できる、SSH 鍵の ID。最大 30 文字のストリングで指定します。</p>
user_arg	<p>ユーザーを、admin または service のいずれかに指定します。</p>
copy_rate	<p>0 - 100 の数値。</p>

CLI パラメーター

CLI パラメーターは、構文図の中にあります。

CLI パラメーターは、次の場合を除いて任意の順序で入力できます。

1. コマンド名の後に続く最初の引数は、実行されるべきアクションでなくてはなりません。
2. 特定のオブジェクトに対してアクションを実行する場合、オブジェクト ID またはオブジェクト名は、行の最後の引数として指定する必要があります。

CLI フラグ

以下のリストにあるフラグは、すべての CLI コマンドで共通のものです。

- **-?** または **-h**。ヘルプ・テキストを出力します。たとえば、**svcinfolcluster -h** を発行すると、**svcinfolcluster** コマンドで指定できるアクションのリストが表示されます。
- **-nomsg**。このフラグを使用すると、**successfully created** の出力が表示されません。たとえば、以下のコマンドを実行した場合、

```
svctask mkmdiskgrp -ext 16
```

次のように表示されます。

```
MDisk Group, id [6], successfully created
```

次のように **-nomsg** パラメーターを追加して、コマンドを実行します。

```
svctask mkmdiskgrp -ext 16 -nomsg
```

次のように表示されます。

6

このパラメーターはどのコマンドにも使用できますが、効果があるのは、**successfully created** という出力が行われるコマンドだけです。他のコマンドでは、このパラメーターは無視されます。

第 1 章 セキュア・シェル・クライアント・システムの準備の概要

セキュア・シェル (SSH) クライアント・システムを前もって準備しておかないと、CLI コマンドをホストからクラスターに発行することはできません。

Windows オペレーティング・システム

マスター・コンソールのハードウェアとソフトウェアを IBM から購入した場合は、Windows オペレーティング・システム用の PuTTY がすでにインストールされています。

Windows オペレーティング・システムを搭載したお客様のハードウェアにマスター・コンソールをインストールする場合は、SAN ボリューム・コントローラー・コンソール CD-ROM から PuTTY をインストールすることができます。

あるいは、次の Web サイトから PuTTY をダウンロードできます。

<http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/>

次の Web サイトに、Windows 用の代替 SSH クライアントがあります。

<http://www.openssh.com/windows.html>

Cygwin ソフトウェアには、OpenSSH クライアントをインストールするオプションが含まれています。次の Web サイトから cygwin をダウンロードできます。

<http://www.cygwin.com/>

AIX オペレーティング・システム

AIX[®] 5L Power 5.1 および 5.2 の場合、Bonus Packs から OpenSSH を入手できます。その前提条件である OpenSSL を、Power Systems の Linux アプリケーション用の AIX ツールボックスから取得する必要もあります。AIX 4.3.3 の場合、Linux アプリケーション用の AIX ツールボックスからソフトウェアを入手できます。

また、次の Web サイトの IBM DeveloperWorks から AIX インストール・イメージを入手できます。<http://oss.software.ibm.com/developerworks/projects/openssh>

Linux オペレーティング・システム

OpenSSH はデフォルトでほとんどの Linux 配布版にインストールされます。ご使用のシステムに OpenSSH がインストールされていない場合は、インストール・メディアを確認するか、次の Web サイトにアクセスしてください。

<http://www.openssh.org/portable.html>

OpenSSH は、上記のオペレーティング・システム以外にも、さまざまなオペレーティング・システムで稼働させることができます。詳しくは、次の Web サイトをご覧ください。<http://www.openssh.org/portable.html>

コマンド行インターフェース・コマンドを実行するためのセキュア・シェル・クライアント・システムの準備

ホストからクラスターに対してコマンド行インターフェース (CLI) コマンドを発行するためには、ホストがクラスター上のセキュア・シェル (SSH) サーバーに受け入れられ、接続が許可されるように、ホスト上の SSH クライアントを準備する必要があります。

異なるタイプの SSH クライアントを必要とするホストを使用する場合 (たとえば、OpenSSH など) は、そのソフトウェアに関する指示に従ってください。

ホストから CLI コマンドを発行するには、以下のステップを実行してください。

1. マスター・コンソールと Windows ホストを使用する場合:
 - a. PuTTY 鍵生成プログラムを使用して、SSH 鍵ペアを生成します。
 - b. SSH クライアントの公開鍵を、(SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを位置指定しているブラウザを使用して) クラスターに保管します。
 - c. PuTTY セッションを、コマンド行インターフェース用に構成します。
2. その他のタイプのホストを使用する場合:
 - a. SSH 鍵ペアを生成するには、その SSH クライアントに関する特定の指示に従ってください。
 - b. SSH クライアントの公開鍵を、(SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを位置指定しているブラウザ、もしくはすでに作成したホストからコマンド行インターフェースを利用して) クラスターに保管します。
 - c. SAN ボリューム・コントローラー・クラスターへの SSH 接続を確立するには、その SSH クライアントに関する指示に従ってください。
3. 他のタイプのホストについては、SSH クライアント固有の指示に従ってください。

関連タスク

7 ページの『コマンド行インターフェース用の PuTTY セッションの構成』
マスター・コンソールから CLI を実行することを準備している場合は、SSH クライアント・システム上に PuTTY セッションを構成する必要があります。

9 ページの『マスター・コンソール以外のホストにおけるセキュア・シェル鍵の追加』

以下のステップバイステップ手順を使用して、マスター・コンソール以外のホスト上でセキュア・シェル (SSH) 鍵を追加します。

関連資料

5 ページの『セキュア・シェル・クライアント・システムの構成』
環境をセットアップするには、必ずセキュア・シェル (SSH) クライアント・システムを構成してください。

第 2 章 セキュア・シェル

セキュア・シェル (SSH) は、クライアント/サーバー・ネットワークのアプリケーションです。

概要

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターは、この関係の中で SSH サーバーとして機能します。SSH クライアントは、リモート・マシンに接続するための機密保護機能のある環境を提供します。このクライアントは、認証に公開鍵と秘密鍵の原理を利用します。

SSH 鍵は SSH ソフトウェアによって生成されます。この鍵には、クラスターによってアップロードされ保守される公開鍵と、SSH クライアントを実行しているホスト専用の秘密鍵があります。これらの鍵は、特定のユーザーに、クラスターの管理機能およびサービス機能へのアクセスを許可します。それぞれの鍵は、ユーザー定義の ID スtringと関連付けられており、この Stringには最大 40 文字までを使用できます。クラスターには最大 100 個の鍵を保管できます。新規の ID と鍵を追加したり、不要な ID と鍵を削除したりすることもできます。

注意:

SAN ボリューム・コントローラーでは、単一クラスターに対して複数の SSH セッションを並行して実行することはできません。それらのスクリプトを実行すると、システムはデータにアクセスできなくなり、データが失われます。単一のクラスターに対して複数の SSH セッションを並行して実行しないようにするために、バックグラウンドで稼働し、SAN ボリューム・コントローラーのコマンドを呼び出す子プロセスを作成するようなスクリプトを実行しないでください。

セキュア・シェル (SSH) は、ホスト・システムと以下のいずれかとの間の通信手段です。

- SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI)
- SAN ボリューム・コントローラー・コンソールがインストールされているシステム

SSH ログインの認証

AIX ホストを使用している場合、SSH ログインは、AIX で使用可能な OpenSSH クライアントでサポートされる RSA ベース認証を使用して、クラスター上で認証されます。この方式は、RSA として一般に知られている方式を使用する、公開鍵暗号方式を基にしたものです。

注: 非 AIX ホスト・システムの認証処理も同様です。

この方式によって (他のホスト・タイプ上の類似の OpenSSH システムの場合のように)、暗号化および復号化は別個の鍵を使用して行われます。これは、暗号鍵から復号鍵を得ることはできないことを意味します。

秘密鍵を物理的に所有すると、クラスターにアクセスできるようになるので、秘密鍵は AIX ホスト上の .ssh ディレクトリーなどの保護された場所に、アクセス許可制限付きで保持しておく必要があります。

SSH クライアント (A) が SSH サーバー (B) への接続を試みる際、接続の認証に鍵ペアが必要です。鍵は、公開鍵と秘密鍵という 2 つの部分で構成されます。SSH クライアントの公開鍵は、SSH セッションの外部の手段を使用して SSH サーバー (B) に書き込まれます。SSH クライアント (A) が接続しようとする際に、SSH クライアント (A) 上の秘密鍵は、SSH サーバー (B) 上に存在する公開鍵の部分を利用して認証を行うことができます。

コマンド行インターフェース (CLI) の実行

コマンド行インターフェース (CLI) または SAN ボリューム・コントローラー・コンソール・システムを使用するためには、そのシステムに SSH クライアントをインストールして、以下の作業を実行する必要があります。

- クライアント・システムで SSH 鍵ペアを生成します。
- この鍵ペアから秘密鍵をクライアント・システム上に保管します。
- クライアント用の SSH 公開鍵を SAN ボリューム・コントローラー・クラスター上に保管します。

マスター・コンソールには、PuTTY という SSH クライアント・ソフトウェアがプリインストールされています。このソフトウェアは、SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェース (CLI) を起動しようとマスター・コンソールにログインしたユーザーに、セキュア・シェル (SSH) クライアント機能を提供します。

マスター・コンソール以外のシステムから SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェース (CLI) を実行したい場合は、SSH クライアントをインストールする必要があります。便宜のために、PuTTY ソフトウェアを Windows にインストールするためのインストール・プログラムは、SAN ボリューム・コントローラー・コンソール CD-ROM の SSH クライアント・ディレクトリーに入っています。PuTTY ソフトウェアを使用して、SSH 公開鍵と秘密鍵を生成できます。SSH クライアントの公開鍵は、すべての SAN ボリューム・コントローラー・クラスターに保管する必要があります。

SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの追加クラスターへの接続

マスター・コンソールには、SAN ボリューム・コントローラー・コンソール Web サーバーおよび Common Information Model (CIM) Object Manager ソフトウェアも事前インストールされています。このソフトウェアが、SAN ボリューム・コントローラー・クラスターにプログラマチックにアクセスするには、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの PuTTY セキュア・シェル (SSH) クライアント機能が必要です。マスター・コンソールには、PuTTY SSH 鍵が事前インストールされています。お客様のマスター・コンソールに固有の新規 PuTTY SSH 鍵を生成し、専用 SSH 鍵を SAN ボリューム・コントローラー・コンソール・ディレクトリーにコピーし、共通 SSH 鍵を、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールが接続するすべてのクラスターに保管することができます。

また、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを、お客様が提供した Windows 2000 サーバー・システムにインストールすることもできます。お客様が提供したホストに SAN ボリューム・コントローラー・コンソールをインストールしたい場合は、最初に PuTTY をインストールしてください。これが、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの前提条件です。

セキュア・シェル・クライアント・システムの構成

環境をセットアップするには、必ずセキュア・シェル (SSH) クライアント・システムを構成してください。

関連トピックで、PuTTY SSH クライアント・システムを構成するための手順を詳しく説明します。IBM では、PuTTY SSH クライアント・ソフトウェアをマスター・コンソールに事前インストールしています。コマンド行インターフェース (CLI) を実行するか、または SAN ボリューム・コントローラー・コンソールをインストールする任意の Windows 2003 サーバー (マスター・コンソール・バージョン 1.4 以降) にも Putty をインストールできます。別のホストを実行するための、他の SSH クライアント・ソフトウェアを備えている場合は、そのソフトウェアの資料に従って、以下の手順と同じ作業を実行してください。

1. マスター・コンソールをホストするコンピューターに SSH クライアント・ソフトウェアをインストールします。このステップは、PuTTY が事前インストールされたマスター・コンソールでは不要です。
2. SSH クライアント・システムで SSH 鍵を生成します。
3. 必要であれば、SSH クライアント・システムでセッションを構成します。
4. クライアント・システムがマスター・コンソールの場合、秘密鍵を SAN ボリューム・コントローラー・コンソールのインストール・ディレクトリーにコピーします。クライアント・システムがマスター・コンソールでない場合は、秘密鍵を SSH クライアント・システム上に保管します。

注意:

バックグラウンドで稼働し、SAN ボリューム・コントローラーのコマンドを呼び出す子プロセスを作成するようなスクリプトを実行しないでください。それらのスクリプトを実行すると、システムはデータにアクセスできなくなり、データが失われます。

5. SSH 公開鍵をマスター・コンソールにコピーします。
6. SSH クライアントの公開鍵を SAN ボリューム・コントローラー・クラスターに保管します。

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターを作成を完了したら、ステップ 6 を実行して、SSH クライアント公開鍵を SAN ボリューム・コントローラーに保管します。クラスターを SAN ボリューム・コントローラー・コンソールに対して定義して、クラスターへの SSH 通信が使用可能になったら、追加の SSH クライアント公開鍵をクラスターに保管できます。SAN ボリューム・コントローラー・コンソール、またはコマンド行インターフェースから追加の鍵を保管できます。

関連タスク

7 ページの『コマンド行インターフェース用の PuTTY セッションの構成』マスター・コンソールから CLI を実行することを準備している場合は、SSH クライアント・システム上に PuTTY セッションを構成する必要があります。

9 ページの『マスター・コンソール以外のホストにおけるセキュア・シェル鍵の追加』

以下のステップバイステップ手順を使用して、マスター・コンソール以外のホスト上でセキュア・シェル (SSH) 鍵を追加します。

PuTTY と呼ばれるセキュア・シェル・クライアントを使用したセキュア・シェル鍵ペアの生成

以下の手順は、セキュア・シェル (SSH) 鍵を PuTTY SSH クライアント・システム上に生成するためのステップバイステップ手順です。

1. SAN ボリューム・コントローラー・クラスター上の SSH サーバーに SSH クライアント接続に対する公開鍵と秘密鍵を生成するために、PuTTY 鍵生成プログラムを開始させます。「**スタート ▶ プログラム ▶ PuTTY ▶-> PuTTYgen**」を選択して、「PuTTY 鍵生成プログラム GUI (PuTTY Key Generator Graphical User Interface)」ウィンドウを開きます。
2. 次の順序で「PuTTY 鍵生成プログラム GUI (PuTTY Key Generator GUI)」ウィンドウを利用して、鍵を生成します。
 - a. 「**SSH2 RSA**」ラジオ・ボタンを選択します。
 - b. 生成される鍵の値のビット数は、1024 のままにしておきます。
 - c. 「**生成 (Generate)**」をクリックします。

以下のようなメッセージが表示されます。

Please generate some randomness by moving the mouse over the blank area.

メッセージの中の *blank area* とは、「鍵 (Key)」のラベルが付いている GUI のセクション内の大きいブランクの長方形部分です。進行状況表示バーが最右端に達するまで、ブランク領域内でカーソルの移動を続けます。これにより、固有の鍵を作成するためのランダム文字が生成されます。

重要: 「**鍵パスフレーズ (Key Passphrase)**」または「**パスフレーズの確認 (Confirm passphrase)**」フィールドには、何も入力しないでください。

3. 後で使用できるように、生成された SSH 鍵をシステム・ディスクに保管します。2 つのファイルが生成されます。
 - a. 「**公開鍵の保管 (Save public key)**」をクリックします。鍵の名前と場所を入力するようにプロンプトが出されます。保管した SSH 公開鍵の名前と場所を覚えておいてください。

注:

- 1) AIX の場合は、鍵を \$HOME/.ssh ディレクトリーに保管します。
- 2) 公開鍵の命名では、SSH 公開鍵と SSH 秘密鍵を容易に区別できるように、`pub` という用語を使用することをお勧めします (例: `pubkey`)。後のステップで、SAN ボリューム・コントローラー・クラスターへの SSH 公開鍵の名前と場所を示します。
- b. 「**秘密鍵の保管 (Save Private key)**」をクリックします。次のようなメッセージでプロンプトが出されます。

Are you sure you want to save this key
without a passphrase to protect it?
Yes/No

注: AIX の場合は、鍵を \$HOME.ssh/identity ファイルの \$HOME/.ssh ディレクトリーに保管します。最も単純な場合は、ID ファイルの内容を鍵ファイルの内容で置き換えます。ただし、複数の鍵を使用する際は、これらの鍵がすべて ID ファイルになければなりません。

4. PuTTY 鍵生成プログラムを閉じます。

コマンド行インターフェース用の PuTTY セッションの構成

マスター・コンソールから CLI を実行することを準備している場合は、SSH クライアント・システム上に PuTTY セッションを構成する必要があります。

注意:

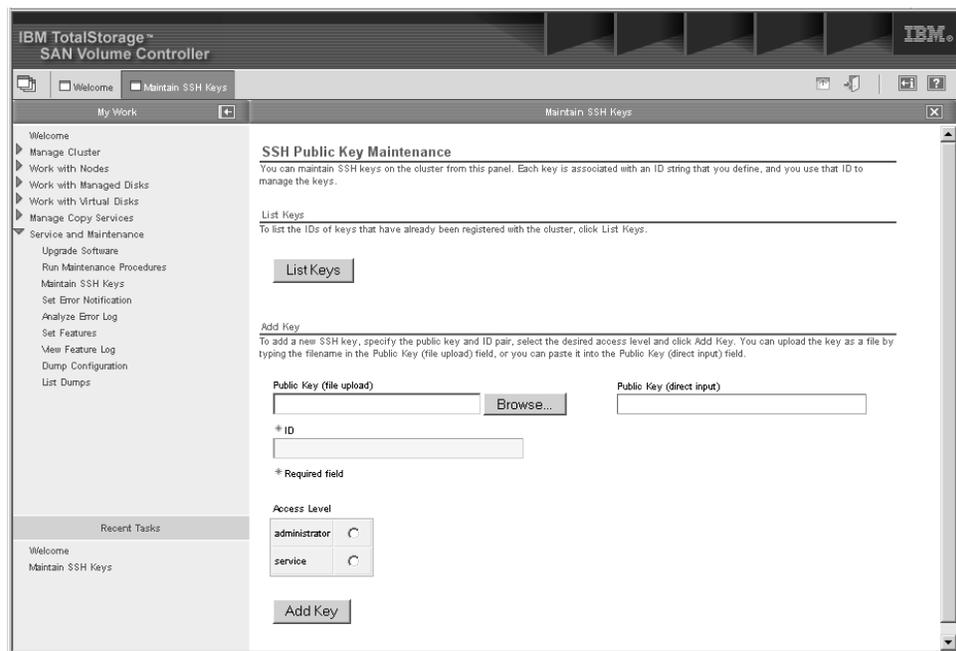
バックグラウンドで稼働し、SAN ボリューム・コントローラーコマンドを起動する子プロセスを作成するスクリプトを実行しないでください。それらのスクリプトを実行すると、システムはデータにアクセスできなくなり、データが失われます。

1. 「スタート」▶「プログラム」▶「PuTTY」▶「PuTTY」をクリックして「PuTTY 構成インターフェース (PuTTY Configuration interface)」ウィンドウを開きます。画面左側の「カテゴリー」ペインで項目を選択すると、画面右側の内容が影響を受けます。
2. 「カテゴリー (Category)」ペインで、「セッション (Session)」をクリックします。
3. 「SSH」をクリックします。
4. 「接続 (Connection)」ツリーで、「接続 (Connection) ▶ SSH」をクリックします。この操作により、右側のペインに新しいビューが表示されます。
5. 「2」のラベルが付いたボタンが選択されていることを確認します。
6. 「SSH」ツリーで、「Auth」をクリックします。右側のペインに新しいビューが表示されます。
7. 「認証パラメーター (Authentication Parameters)」セクションの「認証用の秘密鍵ファイル (Private key file for authentication)」フィールドに、PuTTY 鍵生成プログラムを使用したときに指定した SSH クライアント秘密鍵ファイルの名前を入力します。このフィールドは、右側ペインの 2 番目のセクションです。「ブラウズ (Browse)」をクリックして、システム・ディレクトリーからファイル名を選択するか、もしくは (代替方法として) 完全修飾ファイル名 (例: C:\¥Support Utils¥PuTTY¥priv.ppk) を入力できます。
8. 「カテゴリー (Category)」ペインで、「セッション (Session)」をクリックします。
9. 右側ペインの「保管セッションのロード、保管、または削除 (Load, save or delete a stored session)」セクションにある「保管セッションの保管または削除 (save or delete a stored session)」フィールドで、「デフォルト設定 (Default Settings)」▶「保管 (Save)」をクリックします。

SAN ボリューム・コントローラーへの後続のセキュア・シェル公開鍵の追加

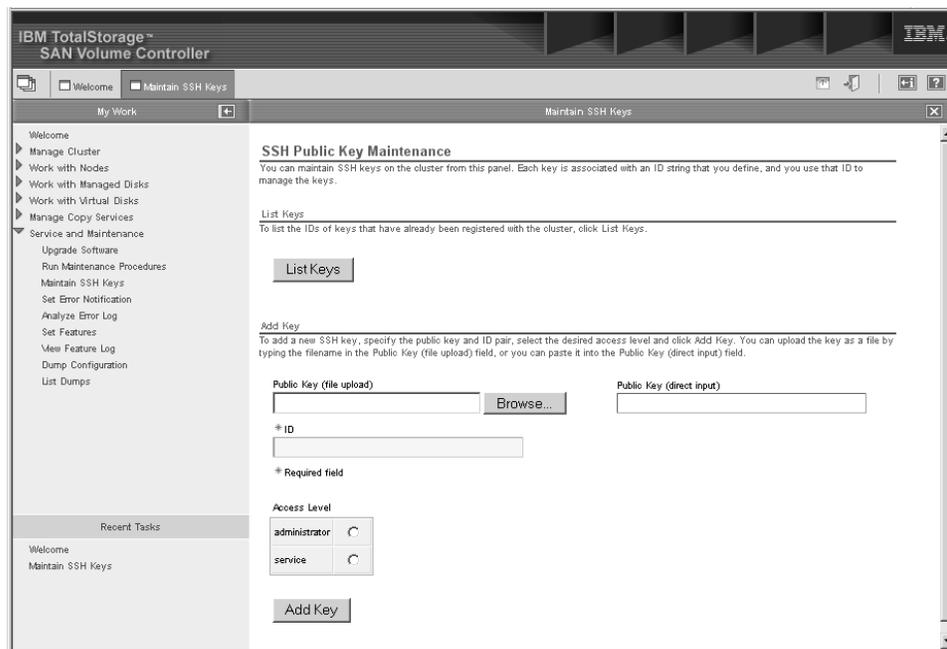
クラスター作成ウィザード中に、クラスターにセキュア・シェル (SSH) 公開鍵を追加します。この鍵により、(SAN ボリューム・コントローラーが実行している) マスター・コンソールは、クラスターにアクセスできます。さらに SSH 鍵を追加する場合、他のサーバーへの SSH アクセスを認可したい場合は、次の手順に従ってください。

1. 「ポートフォリオ (Portfolio)」内の「**クラスター (Clusters)**」をクリックします。
2. 保守したい SSH 鍵のクラスターをクリックします。
3. ドロップダウン・リストの「**SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)**」を選択し、「**進む**」をクリックします。「SSH 鍵の保守 (SSH Key Maintenance)」パネルが表示されます。



4. 「**SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)**」オプションをクリックします。ウィンドウが表示され、そこから、クラスターに保管されるクライアント SSH 公開鍵情報を入力できます。SSH 鍵の保守 (SSH Key Maintenance) ウィンドウで、次のステップを実行してください。
 - a. マスター・コンソール用に SSH クライアント鍵を追加する場合は、「**ブラウズ (Browse)**」をクリックして、先に生成した公開鍵を位置指定します。別のシステム用に SSH クライアント鍵を追加する場合は、「**ブラウズ (Browse)**」をクリックして、公開鍵を位置指定するか、もしくは公開鍵を切り取って直接入力フィールドに貼り付けます。
 - b. 「**管理者 (Administrator)**」をクリックします。
 - c. 「**ID**」フィールドで、クラスターへの鍵を一意的に示す任意の名前を入力します。

- d. 「鍵の追加 (Add Key)」をクリックします。
- e. 「SSH 鍵の保守 (Maintain SSH Keys)」をクリックします。



- f. 「ID の表示 (Show ID)」ボタンをクリックして、SAN ボリューム・コントローラーにロードされているすべての鍵 ID を表示させます。

SAN ボリューム・コントローラーを利用してクラスターの初期構成を行い、少なくとも 1 つの SSH クライアント鍵を追加した後、構成の残りの作業は、SAN ボリューム・コントローラーまたはコマンド行インターフェース (CLI) を使用して行っても構いません。

関連情報

3 ページの『第 2 章 セキュア・シェル』
 セキュア・シェル (SSH) は、クライアント/サーバー・ネットワークのアプリケーションです。

マスター・コンソール以外のホストにおけるセキュア・シェル鍵の追加

以下のステップバイステップ手順を使用して、マスター・コンソール以外のホスト上でセキュア・シェル (SSH) 鍵を追加します。

1. SAN ボリューム・コントローラー・コマンド行インターフェースにアクセスできるようにしたい各ホストで、公開鍵と秘密鍵のペアを生成します。SSH クライアントに付属してきた鍵生成プログラムの詳しい使用方法については、SSH クライアントとともに添付の資料を参照してください。
2. それぞれのホストからマスター・コンソールへ、公開鍵をコピーします。
3. それらの公開鍵を、マスター・コンソールからクラスターへセキュア・コピーします。

ステップ 2 (9 ページ) のマスター・コンソールにコピーされる各公開鍵について
これを繰り返す。

第 3 章 PuTTY scp

PuTTY scp は、SAN ボリューム・コントローラー構成ノード上の 2 つのディレクトリー間、または構成ノードと別のホストとの間でファイルをコピーするためのファイル転送メカニズムをセキュア・シェル (SSH) に提供します。

概要

pscp を使用できるようにするには、それぞれのホスト上のソース・ディレクトリーと宛先ディレクトリー上に適切な許可を得ていなくてはなりません。ホスト・システムに SSH クライアントをインストールすると、PuTTY scp を使用できます。

pscp アプリケーションには、コマンド行を通じてアクセスできます。

pscp を開始するには、それが PATH 上にあるか現行ディレクトリーに入っていることを確認してください。pscp が入っているディレクトリーを PATH 環境変数に追加するには、次のコマンドを発行します。

```
set PATH=C:¥path¥to¥putty¥directory;%PATH%
```

コンソール・ウィンドウを開き、コマンド: pscp を発行します。これにより、使用に関するメッセージが表示されます。このメッセージは、使用している pscp のバージョンを提供し、pscp の使用方法に関する簡単な要約を表示します。

pscp を使用する場合は、次の手順を実行します。

1. SAN ボリューム・コントローラー・コンソールのクラスターにアクセスするために、PuTTY セッションを開始します。
2. 構成を保管します。たとえば、保管したセッションに SVCPUTTY という名前を付けたものとします。
3. 「コマンドプロンプト」ウィンドウから以下のコマンドを発行して、パスをセットアップします。

```
set PATH=C:¥path¥to¥putty¥directory;%PATH%
```

```
set PATH=C:¥Program Files¥Putty;%PATH%
```

4. マスター・コンソールから、CLI が実行されているノードにパッケージをコピーします。現在のソフトウェア・ディレクトリーが C:¥SVC_Software_Directory というディレクトリーであることを確認してください。

```
pscp -load SVCPUTTY svc_code_name admin@  
<cluster_ip_address>:/home/admin/upgrade
```

ここで、<cluster_ip_address> は、クラスター IP アドレスです。コピーの失敗は、CLI および SAN ボリューム・コントローラー・コンソールからのエラー・メッセージによって通知されます。クラスターにソフトウェア・アップグレード・パッケージを格納する十分なスペースがない場合、コピー操作は失敗します。その場合には、**svctask clear.dumps** コマンドを発行してアップグレード・パッケージ用のスペースを作成し、コピー操作を繰り返します。

| 別の方法として、pscp を使用してマスター・コンソールにエラー・ログを転送
| することもできます。エラー・ログをクラスターからマスター・コンソールに
| scp するには、次のコマンドを発行します。

```
| pscp -unsafe -load SVCPUTTY admin@<cluster_ip_address>:  
| /dumps/elogs/* c:/svc_directory
```

| ここで、<cluster_ip_address> は、クラスター IP アドレスです。

第 4 章 クラスター・コマンド

クラスター・コマンドは、クラスターをモニターし、変更するために使用します。

さまざまな作業に使用する多数のクラスター・コマンドがあります。クラスターとは、単一の構成およびサービス・インターフェースを提供する 1 対のノードのことです。

コマンドが正常に完了すると、通常は、テキスト出力が表示されます。しかし、中には出力を戻さないコマンドもあります。「No feedback」フレーズは、そのコマンドに出力がないことを示しています。コマンドが正常に完了しないと、エラーが戻されます。たとえば、クラスターの不安定な状態が原因でコマンドが失敗した場合は、次の出力が表示されます。

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

addnode

addnode コマンドを使用して、新規 (候補) ノードを既存のクラスターに追加できます。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
svctask -- addnode -- [-panelname panel_name] [-wwnodename wwnn_arg] [-name new_name_arg] [-iogrp iogroup_name | iogroup_id]
```

パラメーター

-panelname *panel_name*

表示パネルに表示される名前で、追加するノードを示します。この引数は、**-wwnodename** と相互に排他的です。ノードを一意的に識別するには、1 つのみを指定してください。

-wwnodename *wwnn_arg*

クラスターに追加するノードを、ノードの worldwide node name (WWNN) で指定します。この引数は、**-panelname** と相互に排他的です。ノードを一意的に識別するには、1 つのみを指定してください。

-name *new_name_arg*

このノードの名前を指定します (オプション)。

-iogrp *iogroup_name* | *iogroup_id*

このノードを追加する I/O グループを指定します。

説明

このコマンドは、新規ノードをクラスターに追加します。 `svcinfolsnodecandidate` を入力すると、候補ノード (まだクラスターに割り当てられていないノード) のリストが表示されます。

ノードの追加は、非同期的に完了します。これは、ノードが追加中の状態である場合、その WWPN は既知ではなく、ゼロと表示されることを意味します。

互換性チェックがエラーになると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC6201E 非互換ソフトウェアのため、ノードを追加できませんでした: 状況コード [%1]。

前提条件: クラスタにノードを追加する前に、次のことを確認してください。

- クラスタに複数の I/O グループがある。
- クラスタに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これまでクラスタ内のノードとして使用されていた。
- クラスタに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これまで他のクラスタ内のノードとして使用されており、どちらのクラスタも同じホストの可視性を持つ。

重要: 上記の条件があてはまる場合で、ここに記載の手順がエラーとなる場合は、クラスタが管理するデータのすべてが破壊されている可能性があります。

ノードの追加: クラスタにはじめてノードを追加する場合は、ノードのシリアル番号 WWNN、すべての WWPN、および追加先の I/O グループを記録する必要があります。この操作により、クラスタからノードを削除したり、再び追加したときに、データが破壊されるのを防止できます。

svctask addnode コマンドまたは SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを使用してクラスタにノードを追加する場合に、そのノードがこれまでクラスタのメンバーだったことを確認してください。メンバーだった場合は、次の 2 つの手順のいずれかを実行します。

- これまでと同じ I/O グループにノードを戻してください。クラスタ内のノードの WWNN は、**svcinfo lsnode** コマンドで判別できます。または
- この情報がない場合、データを破壊せずにノードをクラスタに追加するには、IBM の保守担当者に依頼してください。

オプションで、新規ノードに名前を割り当てることができます。以降で使用するノードのコマンドで、ノード ID の代わりにこの名前を使用することができます。ラベルを割り当てると、以降、このラベルがノード名として表示されます。ラベルを割り当てない場合のデフォルト・ラベルは nodeX です (X はノード ID)。

ホスト・システム上のアプリケーションは、オペレーティング・システムが vpath にマップしたファイル・システムまたは論理ボリュームに入出力操作を指示します。これは、SDD ドライバーがサポートする疑似ディスク・オブジェクトです。詳しくは、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバ ユーザーズ・ガイド」を参照して下さい。

SDD ドライバーは、vpath と SAN ボリューム・コントローラー VDisk の関連付けを維持します。この関連付けには、VDisk に固有の ID (UID) が使用され、これは再使用はされません。これにより、SDD ドライバーは、vpath と VDisk を明確に関連付けることができます。

SDD デバイス・ドライバーは、プロトコル・スタック内部で作動します。ここにはディスクとファイバー・チャネルのデバイス・ドライバーもあり、ANSI FCS 規格の定義に従って、ファイバー・チャネル上の SCSI プロトコルを使用して SAN ポリウム・コントローラーと通信できるようにします。SCSI とファイバー・チャネルのアドレッシング・スキームは、ファイバー・チャネルのノードとポートについて、SCSI 論理装置番号 (LUN) と World Wide Name を組み合わせて使用します。

エラーが発生した場合は、プロトコル・スタック内のさまざまな層で、エラー・リカバリー手順 (ERP) が実行されます。このような ERP の中には、過去に使用した WWNN および LUN 番号を使用して、I/O を再度実行するものがあります。

SDD デバイス・ドライバーは、実行するすべての入出力操作について、Vdisk と vpath の関連付けをチェックするわけではありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5790E ノードの最大数に達したため、クラスタにノードを追加できませんでした。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5793E I/O グループにはすでに一对のノードが含まれているため、ノードをクラスタに追加できませんでした。
- CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。
- CMMVC6201E 非互換ソフトウェアのため、ノードを追加できませんでした: 状況コード [%1]。

呼び出し例

```
svctask addnode -wwnodename 210000e08b053564 -iogrp io_grp0
```

結果出力

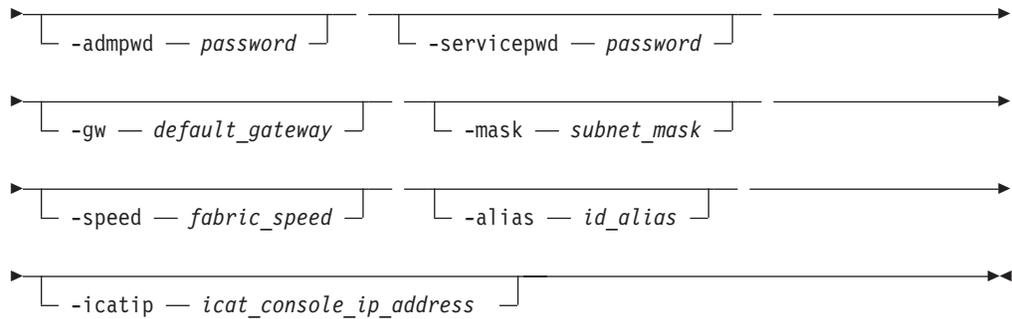
```
Node, id [6], successfully added
```

chcluster

chcluster コマンドは、既存のクラスタの属性を変更するために使用します。このコマンドは、クラスタ作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
►► svctask — chcluster — [ -clusterip — cluster_ip_address ] — [ -serviceip — service_ip_address ] — [ -name — cluster_name ] —
```



パラメーター

-clusterip *cluster_ip_address*

クラスター IP アドレスを変更します。クラスター IP アドレスを変更すると、クラスターへのオープン・シェル接続を失います。新しく指定した IP アドレスに再接続する必要があります。

-serviceip *service_ip_address*

サービス IP アドレスを変更します。このアドレスは、ノードがクラスターから除去された後、ノードを開始する必要がある場合に使用するアドレス。

-name *cluster_name*

クラスターの名前を変更します。

-admpwd *password*

管理者パスワードを変更します。この引数と共にパスワードを指定することもできます (パスワードを指定しなくても構いません)。この引数の後にパスワードを指定しないと、パスワードに対するプロンプトが出されます。プロンプトに対してパスワードを入力しても、パスワードは表示されません。

-servicepwd *password*

サービス・ユーザー・パスワードを変更します。この引数と共にパスワードを指定することもできます (パスワードを指定しなくても構いません)。この引数の後にパスワードを指定しないと、パスワードに対するプロンプトが出されます。プロンプトに対してパスワードを入力しても、パスワードは表示されません。

-gw *default_gateway*

クラスターのデフォルト・ゲートウェイ IP アドレスを変更します。

-mask *subnet_mask*

クラスターのサブネット・マスクを変更します。

-speed *fabric_speed*

このクラスターが接続するファブリックの速度を指定します。有効値は、1 または 2 (GB) です。

重要: 稼働中のクラスターの速度を変更すると、接続ホストに対する I/O サービスが切断されます。ファブリック速度を変更する前に、アクティブ・ホストからの I/O を停止し、ボリュームを取り外すか (UNIX ホスト・タイプの場合)、またはドライブ名を除去して (Windows ホスト・タイプの場合)、強制的にそれらのホストにすべてのキャッシュ・データをフラッシュさせてください。一部のホストをリブートして新規のファブリック速度を検出しなければならない場合があります。

-alias *id_alias*

これは、クラスターの基本 ID を変更しませんが、既存および新規のあらゆる **vdiskhostmap** の VDisk_UID に影響します。このオブジェクトは、別名に一致する ID のクラスターに対して作成されたように表示されます。

-icatip *icat_console_ip_address*

このクラスターによって使用される SAN ボリューム・コントローラー・コンソールの IP アドレスを変更します。この IP アドレスは、ポート付きドット 10 進表記 (たとえば 255.255.255.255:8080) のフォーマットでなければなりません。

説明

このコマンドは、クラスターに割り当てられた IP アドレスもしくは 2 つのユーザー名に割り当てられたパスワードのいずれか、あるいはその両方を変更します。いずれの引数も単独で、もしくは他の引数と組み合わせて使用できます。

クラスター IP アドレスを変更すると、コマンドの処理中、オープン・コマンド行シェルは閉じています。新規の IP アドレスに再接続する必要があります。

ノードがクラスターから除去されるまで、サービス IP アドレスは使用されません。このノードをクラスターに再結合できない場合は、ノードを保守モードで起動できます。このモードでは、ノードには、サービス IP アドレスを使用してスタンダロン・ノードとしてアクセスできます。

バージョン 1.2.0 以降では、クラスター名もこのコマンドを使用して変更できます。

オプションをどれも指定しなかった場合、このコマンドは何もしません。このオプションは相互に排他的ではありません。

このコマンドを使用して、サブネット・マスク、デフォルト・ゲートウェイ、ファブリックの速度、または *id_alias* を変更することもできます。

パスワードの変更: 管理者ユーザー・パスワードを変更するには、**svtask chcluster -admpwd <password>** コマンドを発行します。サービス・ユーザー・パスワードを変更するには、**svtask chcluster -servicepwd <password>** コマンドを発行します。

注: コマンド行に入力するときにパスワードを表示したくない場合は、新しいパスワードを省略します。この場合、コマンド行ツールがパスワードを入力して確認するように求めますが、パスワードは表示されません。

IP アドレスの変更: **svclustinfo lscluster** コマンドを実行して、クラスターの IP アドレスをリストします。**svctask chcluster** コマンドを実行して、IP アドレスを変更します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5789E IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスターを変更できませんでした。

呼び出し例

```
svctask chcluster -clusterip 217.12.3.11
```

結果出力

```
No feedback
```

chiogrp

chiogrp コマンドは、I/O グループに割り当てられた名前を変更するために使用します。

構文

```
svctask -- chiogrp -- -name -- new_name_arg --
└── io_group_id ───┬──┘
    io_group_name ─┘
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

I/O グループに割り当てる名前を指定します。

-io_group_id | **io_group_name**

変更する I/O グループを、I/O グループにすでに割り当てられている I/O グループの ID または名前によって指定します。

このコマンドは、指定された I/O グループの名前を、新たに指定された名前に設定します。

クラスターが作成された時点で、I/O グループはデフォルトですでに存在しますが、ノードは含まれていません。クラスターの最初のノードは、常に I/O グループをゼロに割り当てられます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5800E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chiogrp -name testiogrpone io_grp0
```

結果出力

```
No feedback
```

chnode

chnode コマンドを使用して、ノードに割り当てられた名前またはラベルを変更できます。その後、その名前を後続のコマンド行ツールに使用できます。

構文

```
▶▶— svctask — — chnode — — -name — new_node_name — — ———▶  
└── node_name ───┐  
└── node_id ───┘
```

パラメーター

-name *new_node_name*

ノードに割り当てる名前を指定します。

node_name | node_id

変更するノードを指定します。フラグの後に指定する引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベル。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

このコマンドは、指定されたノードに割り当てられた名前またはラベルを変更します。変更後すぐに、コマンド行ツールで新しい名前を使用できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chnode -name testnodeone nodeone
```

結果出力

```
No feedback
```

cleardumps

cleardumps コマンドは、指定したノード上にあるさまざまなダンプ・ディレクトリーの内容をすべて消去します。

構文

```
▶▶— svctask — cleardumps — — -prefix — directory_or_file_filter — ———▶  
└── node_id ───┐  
└── node_name ─┘
```

パラメーター

-prefix *directory_or_file_filter*

内容をすべて消去するディレクトリーまたはファイル、あるいはその両方を指定します。ファイル・フィルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレ

クトリー内のすべての関連するダンプまたはログ・ファイルが消去されます。ディレクトリー引数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリー内の全ファイルが消去されます)
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- /dumps/feature
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえば、/dumps/elogs/*.txt と指定すると、/dumps/elogs ディレクトリー内の .txt で終わるすべてのファイルが消去されます。

node_id | node_name

消去を行うノードを指定します (オプション)。フラグの後に指定する引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

説明

このコマンドは、指定されたノード上の、directory/file_filter 引数に一致するすべてのファイルを削除します。ノードを指定しないと、構成ノードで消去が行われます。

ディレクトリー引数として /dumps を指定することによって、すべてダンプ・ディレクトリーの内容を消去できます。

ディレクトリー引数のいずれか 1 つを指定することで、単一ディレクトリー内のすべてのファイルを消去できます。

ディレクトリーとファイル名を指定することで、特定のディレクトリー内の特定のファイルを消去できます。ワイルドカードとしてアスタリスク (*) をファイル名の一部として使用することもできます。

svcinfolsxdddumps コマンドを使用して、特定のノード上のこれらのディレクトリーの内容をリストすることができます。

このコマンドを使用して、ディレクトリーまたはファイル名を指定することによって、特定のディレクトリー内の特定のファイルを消去できます。ファイル名の一部として、ワイルドカード * を使用できます。

起こりうる障害

- CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: /dumps、/dumps/iostats、/dumps/iotrace、/dumps/feature、/dumps/configs、/dumps/elogs、または /home/admin/upgrade

呼び出し例

```
svctask cleardumps -prefix /dumps/configs
```

結果出力

No feedback

cpdumps

cpdumps コマンドは、ダンプ・ファイルを非構成ノードから構成ノードにコピーするために使用します。

注: まれに、構成ノードの /dumps ディレクトリーが満杯になると、障害発生のお知らせが表示されずにコピー・アクションは終了します。このため、希望のデータを構成ノードからマイグレーションした後、/dumps ディレクトリーを消去しておくことをお勧めします。

構文

```
▶— svctask — — cpdumps — — -prefix ———— directory —————▶  
                                     └── file_filter ───┘  
  
└── node_name —————▶  
   └── node_id ───┘
```

パラメーター

-prefix *directory* | *file_filter*

検索するディレクトリーまたはファイル、あるいはその両方を指定します。ファイル・フィルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレクトリー内のすべての関連するダンプまたはログ・ファイルが検索されます。ディレクトリー引数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリーのすべてのファイルを検索します。)
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- /dumps/feature
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえば、/dumps/elogs/*.txt と指定すると、/dumps/elogs ディレクトリー内の .txt で終わるすべてのファイルがコピーされます。

node_id | **node_name**

ダンプを検索するノードを指定します。フラグの後に指定する引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

指定されたノードが現行の構成ノードの場合、ファイルはコピーされません。

説明

このコマンドは、指定されたノードから現行の構成ノードに、ディレクトリーまたはファイルの基準に一致するダンプをすべてのコピーします。

前の構成ノードに保管されたダンプを検索できます。前の構成ノードが別のノードにフェイルオーバーした場合、前の構成ノードにあったダンプは自動的にコピーされません。IBM CLI でアクセスできるのは構成ノードだけなので、クラスターからファイルをコピーできるのは、構成ノードからだけです。このコマンドは、ファイルを検索し構成ノード上に配置すると、それらのファイルをクラスターから外部へコピーできます。

ディレクトリーの内容を表示するには、`svcinfol sxxxxdumps` コマンドを使用します。

起こりうる障害

- CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: `/dumps`、`/dumps/iostats`、`/dumps/iotrace`、`/dumps/feature`、`/dumps/configs`、`/dumps/elogs`、または `/home/admin/upgrade`

呼び出し例

```
svctask cpdumps -prefix /dumps/configs nodeone
```

結果出力

```
No feedback
```

detectmdisk

detectmdisk コマンドは、ファイバー・チャンネル・ネットワークを手動で再スキャンし、追加された新しい管理対象ディスクの有無を調べるために使用します。

構文

```
▶▶— svctask — — detectmdisk —————▶▶▶▶
```

説明

このコマンドにより、クラスターはファイバー・チャンネル・ネットワークを再スキャンし、以前にはなかった管理対象ディスクを探します。また、このコマンドにより、コントローラーが機能停止していないかどうかも検出します。

注: **detectmdisk** コマンドが完了したように見えても、それを実行するために多少の追加時間が必要になることがあります。**detectmdisk** は非同期であり、コマンドが引き続きバックグラウンドで実行されているときに、プロンプトを戻します。

通常、クラスターは、ディスクがネットワーク上に出現すると自動的にそれらを検出します。ただし、ファイバー・チャンネル・コントローラーによっては、新規ディスクを自動的に発見するのに必要な SCSI プリミティブを送信しないものもあります。

新規ストレージを接続していて、クラスターがそれを検出しない場合は、クラスターがその新規ディスクを検出する前に、このコマンドを実行する必要がある場合があります。

パラメーターは不要です。

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャンネル SAN に追加して、SAN ポリウム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そのクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコントローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ポリウム・コントローラーに提示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了してからバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ポリウム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、このタスクにより、ファイバー・チャンネル SAN を再度スキャンして非管理 MDisk のリストを更新するよう、SAN ポリウム・コントローラーに要求することができます。

注: SAN ポリウム・コントローラーによって実行される自動ディスカバリーにより、非管理 MDisk に何かが書き込まれることはありません。ストレージが実際に使用されるのは、MDisk を管理対象ディスク・グループに追加するか、または MDisk を使用してイメージ・モード仮想ディスクを作成するよう、ユーザーが SAN ポリウム・コントローラーに指示した場合だけです。

MDisk を発見する: `svctask detectmdisk` コマンドを実行し、ファイバー・チャンネル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるかどうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、**`svcinfo lsmdiskcandidate`** コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk グループに割り当てられていません。代わりに、**`svcinfo lsmdisk`** コマンドを使用すると、すべての MDisk を表示できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask detectmdisk
```

結果出力

```
No feedback
```

dumpconfig

dumpconfig コマンドは、クラスターの構成全体をテキスト・ファイルにダンプします。

構文

```
▶▶ svctask — — dumpconfig — — [ -prefix filename_prefix ] ▶▶
```

パラメーター

-prefix *filename_prefix*

ダンプ・データの送信先ファイル名を指定します (オプション)。 **-prefix** を指定しないと、ダンプは、システム定義の「config」という接頭部が付いたファイルに送られます。システム定義のファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成されます。ファイル名のフォーマットは、次のとおりです。

```
<prefix>_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS
```

NNNNNN はノードのフロント・パネル名です。

説明

ダンプは、ノードの `/dumps/configs` ディレクトリーに書き込まれます。**-prefix** パラメーターを使用しないと、ファイル名の前に接頭部の `config` が付きます。

-prefix パラメーターを入力すると、ファイルを命名するときに、ユーザーが入力した接頭部が使用されます。

最大で 10 個の構成ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされます。

`/dumps/configs` ディレクトリーの内容をリストするには、**svcinfolscconfigdumps** コマンドを使用します。

起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

呼び出し例

```
svctask dumpconfig -prefix mydumpfile
```

結果出力

```
The configuration data has been written to  
/dumps/configs/mydumpfile_lynn02_030601_054911
```

rmnode

rmnode コマンドは、ノードをクラスターから削除します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
▶— svctask — — rmnode — — [ node_name ] —————▶  
                             └ node_id ─┘
```

パラメーター

node_name | **node_id**

削除するノードを指定します。引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

説明

このコマンドは、ノードをクラスターから除去します。これにより、ノードは、このクラスターに追加する、もしくは別のクラスターに追加する際の候補になります。ノードを削除すると、I/O グループ内の他のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、別のノードが I/O グループに追加されるまでライトスルー・モードになります。

前提条件:

rmnode コマンドを実行する前に、次のタスクを実行し、データへのアクセスを失わないように、下記の「重要」注意事項をお読みください。

1. 次のコマンドを実行して、この I/O グループにどの仮想ディスク (VDisk) がまだ割り当てられているかを確認します。このコマンドは、フィルタリングされた VDisk を表示します。フィルター属性は I/O グループです。

```
svcinfo lsvdisk -filtervalue IO_group_name=<name>
```

ここで、<name> は、当該 I/O グループの名前です。

注:

- a. これが I/O グループ内で最後のノードであり、I/O グループにまだ割り当てられている仮想ディスクが存在する場合、クラスターからのノードを削除することはできません。
 - b. このノードが属する I/O グループに割り当てられた VDisk は、I/O グループ内の他のノードに割り当てられます。つまり、優先ノードが変更されます。この設定は、元に戻せません。
2. **svcinfo lsvdiskhostmap** コマンドを実行して、VDisk がマップされているホストを確認します。
 3. この I/O グループに割り当てられている VDisk に、アクセスしたいデータが含まれているかどうかを確認します。
 - これらの VDisk へのアクセスを維持したくない場合は、ステップ 5 (26 ページ) に進みます。
 - これらの VDisk の一部またはすべてに対して、アクセスを維持する場合は、データをバックアップするか、またはデータをほかの (オンライン) I/O グループにマイグレーションします。
 4. ノードの電源を切るべきかどうかを確認します。
 - このノードがクラスター内の最後のノードの場合は、ノードの電源を切る必要はありません。ステップ 5 (26 ページ) に進みます。
 - このノードがクラスター内の最後のノードではない場合は、削除するノードの電源を切ります。このステップは、ノード削除要求を実行する前に手動で取り外したパスをサブシステム・デバイス・ドライバ (SDD) が再発見しないようにします。

クラスターにノードを再び追加する計画がある場合は、下記の『**クラスターにノードを再び追加する:**』を参照してください。

5. 削除対象の VDisk が提示する仮想パスのそれぞれについて、SDD 構成を更新します。SDD 構成を更新すると、VDisk から vpath が削除されます。構成を更新しないと、データが破壊されることがあります。ホストのオペレーティング・システムに関連して、SDD を動的に構成する方法については、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。
6. 削除対象のノードに向けられているすべての入出力操作を静止します。この操作を静止しないと、失敗した入出力操作がホストのオペレーティング・システムに報告されます。

重要: クラスター内の最後のノードを削除すると、クラスターは破壊されます。クラスター内の最後のノードを削除する前に、クラスターを破壊してよいことを確認してください。

重要: 単一のノードを削除するときに、I/O グループ内の他のノードがオンラインになっていると、パートナー・ノード上のキャッシュがライトスルー・モードになるので、パートナー・ノードが障害を起こした場合には、データが Single Point of Failure を受ける可能性があります。

注:

1. 除去するノードが構成ノードの場合は、コマンドの完了までに 1、2 分を要する場合があります。
2. 削除するノードがクラスター内の最後のノードの場合は、クラスターへの最後のアクセス・ポイントを削除することになるので、SAN ボリューム・コントローラー・コンソールが最大で 3 分に渡りハングしたように見えることがあります。

クラスターからノードを削除する:

注:

1. このノードが I/O グループ内の最後のノードの場合、またはクラスター内の最後のノードの場合は、削除を強制するように指示されます。
2. このノードがクラスター内の最後のノードの場合、または構成ノードとして現在割り当てられている場合は、このクラスターへのすべての接続が失われます。クラスター内の最後のノードを削除すると、ユーザー・インターフェースおよびオープンしている CLI セッションが失われます。構成ノードを削除すると、CLI が別のノードにフェイルオーバーされます。ノードが削除される前に完了しないコマンドがあると、タイムアウトになります。

svctask rmnode コマンドを実行して、クラスターからノードを削除します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

クラスターにノードを再び追加する:

削除したノードが今までと同じファブリックやゾーンに接続された状態で、このノードの電源を再び入れると、次のようになります。

1. ノードは、クラスターに再び結合しようとする。

2. ノードを削除するように、クラスターからノードに信号が渡される。
3. ノードは、同じクラスターまたは他のクラスターに追加するための候補となる。

このノードを同じクラスターに戻す場合は、ノードを削除した元の I/O グループに戻してください。このようにしないと、データが破壊される場合があります。

クラスターにノードに戻す前に、次のデータを確認してください。このデータは、クラスターにノードを最初に追加したときに記録したデータです。

- ノードのシリアル番号
- WWNN
- すべての WWPN
- ノードの I/O グループ

この情報にアクセスできない場合、データを破壊せずにノードをクラスターに追加するには、IBM の保守担当者に依頼してください。

障害のあるノードの交換:

障害のあるノードは、「スペア」または交換ノードと交換することができます。SAN ボリューム・コントローラーに障害が発生した場合は、交換する必要があります。SAN ボリューム・コントローラーは、障害のあるノードが修復されるまで、パフォーマンスが低下したままの状態で作動します。可用性を向上させるには、障害のあるノードを「スペア」と交換してから、そのノードをオフラインで修理してください。ただし、障害を起こしたノードを交換する際は、I/O の中断を起こさず、修復されたノードが SAN ファブリックに再接続されたときのデータの保全性に対するリスクを発生させないように、さまざまな手順が実行され、予防措置が取られなければなりません。その手順には、SAN ボリューム・コントローラーの World Wide Node Name (WWNN) の変更が含まれます。この手順は、データ破壊の原因となる無効な WWNN の重複を避けるために、注意深く実行する必要があります。

前提条件:

障害を起こしたノードを交換する前に、次のことを確認しておく必要があります。

- SAN ボリューム・コントローラー・コンソールのクラスターおよびスペア・ノードにインストールされている SAN ボリューム・コントローラー・コンソールソフトウェアのバージョンが 1.1.1 またはそれ以降。
- 障害のあるノードを含むクラスター名。
- 障害を起こしたノードを含む SAN ボリューム・コントローラー・コンソール・クラスターと同じラックに、スペア・ノードがあることを確認する。
- 元の WWNN の最後の 5 文字を記録する。この ID は、任意のクラスターに割り当てられる標準ノードとしてスペア・ノードを指定することを将来決める場合に必要です。WWNN を参照するには、**svcinfolnode** コマンドを使用してください。

追加情報

ノードを交換する際は、次の手順を使用してください。

- ノードのフロント・パネル ID が変わります。これはノードの正面に印刷されている番号で、クラスターに追加されるノードを選択するために使用されます。
- ノード名は変わることがあります。クラスターにノードを追加する際に、SAN ボリューム・コントローラー・アプリケーションがデフォルト名を割り当ててことを許可している場合は、ノードが追加されるたびにアプリケーションが新しい名前を作成します。ユーザー自身の名前を割り当ててことを選択した場合は、使用したいノード名を入力する必要があります。クラスター上で管理タスクを実行するためにスクリプトを使用していて、それらのスクリプトがノード名を使用する場合は、元の名前を交換ノードに割り当てることによって、クラスター上のサービス・アクティビティーの後に続くスクリプトを変更する必要がなくなります。
- ノード ID が変わります。ノードがクラスターに追加されるたびに、新規のノード ID が割り当てられます。クラスター上で管理タスクを実行しているときにノード ID またはノード名を使用できますが、スクリプトを使用してそれらのタスクを実行している場合は、ノード ID よりもノード名を優先して使用することをお勧めします。その理由は、後に続くクラスター上のサービス・アクティビティーでノード名が変更されないままであるためです。
- World Wide Node Name (WWNN) は変わりません。WWNN は、ノードとファイバー・チャネル・ポートを一意的に識別するために使用されます。ノード交換手順では、スペア・ノードの WWNN が障害を起こしたノードのものと一致するように変更します。WWNN の重複を避けるために、ノード交換手順が正確に行われる必要があります。
- 各ファイバー・チャネル・ポートの World Wide Port Name (WWPN) は変わりません。WWPN は、この手順の一部として交換ノードに書き込まれた WWNN から得られます。

ノードを交換するには、以下のステップを実行してください。

1. **svcinfo lsnode** コマンドを使用して、ノード名を表示します。このコマンドが実行されると、クラスター上のすべてのノードについての情報を含む詳細なリスト・レポートが印刷されます。障害を起こしたノードは、オフラインになります。ノード名をメモしておいてください。
2. 再度 **svcinfo lsnode** を使用して、I/O グループ名を表示します。グループの名前をメモしておいてください。
3. **svcinfo lsnodevpd** コマンドを使用して、フロント・パネル ID を表示します。ID 番号をメモしておいてください。
4. 再度 **svcinfo lsnodevpd** コマンドを使用して、UPS シリアル番号を記録します。この番号をメモしておいてください。
5. フロント・パネル ID を使用して、障害を起こしたノードを見つけます。ノードから 4 本のファイバー・チャネル・ケーブルをすべて切断します。

重要: ノードが修復されて、ノード番号がデフォルトのスペア・ノード番号に変更されるまで、ケーブルを再接続しないようにしてください。

6. 電源/シグナル・ケーブルを、スペア・ノードから (ステップ 1 でシリアル番号を確認した) UPS に接続します。シグナル・ケーブルは、UPS 上のシリアル・コネクターの最上行で開いている位置に接続できます。UPS 上に予備の使用可能なシリアル・コネクターがない場合は、障害を起こした SAN ボリューム・コ

ントローラー・コンソールからケーブルを切断してください。スペア・ノードの電源をオンにします。保守パネル上にノード状況が表示されます。

ノードの WWNN を変更して、交換ノードを追加するには、次のステップを実行してください。

1. フロント・パネル上にノード状況を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してください。テキスト『WWNN』がディスプレイの 1 行目に表示されます。ディスプレイの 2 行目には、WWNN の最後の 5 文字が含まれます。
2. 保守パネル上に WWNN を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してください。ディスプレイが編集モードに切り替えられます。
3. 表示された番号を、ステップ 1 で記録した WWNN に一致するように変更します。表示された番号を編集するには、「上へ (Up)」および「下へ (Down)」ボタンを使用して、表示された番号を増減します。フィールド間を移動するには、左ボタンおよび右ボタンを使用します。5 文字がステップ 1 で記録した番号と一致する場合は、選択ボタンを 2 回押して、その番号を受け入れます。
4. 障害を起こしたノードから切断された 4 本のファイバー・チャンネル・ケーブルを、スペア・ノードに接続します。オフラインのノードを削除します。
5. スペア・ノードをクラスターに追加します。『ノードのクラスターへの追加』を参照してください。
6. サブシステム・デバイス・ドライブ (SSD) 管理ツールをホスト・システム上で使用して、すべてのパスが現在オンラインかどうかを検査します。詳細については、「*IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: サービス・ガイド*」のメニュー・オプションを参照してください。

障害を起こしたノードが修復されたときに、ファイバー・チャンネル・ケーブルを接続しないでください。ケーブルを接続すると、データ破壊を引き起こすことがあります。障害を起こしたノードが修復された後で、次のステップを実行してください。

1. 保守パネル上にノード状況が表示されます。
2. フロント・パネル上に状況を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してください。テキスト『WWNN』がディスプレイの 1 行目に表示され、ディスプレイの 2 行目には、WWNN の最後の 5 文字が含まれます。
3. 保守パネル上に WWNN を表示して、「下へ (Down)」ボタンを押したままにし、「選択 (Select)」ボタンを押して放し、「下へ (Down)」ボタンを放してください。ディスプレイが編集モードに切り替えられます。
4. 表示された番号を「00000」に変更します。表示された番号を編集するには、「上へ (Up)」および「下へ (Down)」ボタンを使用して、表示された番号を増減します。フィールド間を移動するには、左ボタンおよび右ボタンを使用します。番号が「00000」に設定されたら、選択ボタンを 2 回押して、その番号を受け入れます。WWNN が「00000」の SAN ボリューム・コントローラー・コンソールは、決してクラスターに接続しないでください。

このエラーは、障害を起こしたノードが修復されてお客様に戻されるまで、エラー・ログ内で「修正済み」とマークされるべきではありません。このことが実行されないと、障害を起こしたノードのフロント・パネル ID をサービス技術者が容易に見つけることができなくなります。

この SAN ボリューム・コントローラー・コンソールがこれからスペア・ノードとして使用されます。この SAN ボリューム・コントローラー・コンソールがもはやスペアとして必要なくなり、クラスターへの通常の接続に使用される場合、WWNN をスペアが作成されたときに保管された番号に変更するには、前述の手順をまず使用する必要があります。上記の『前提条件』を参照してください。他のいずれの番号を使用しても、データ破壊を引き起こすことがあります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5795E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除できませんでした。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できませんでした。

呼び出し例

```
svctask rmnode 1
```

結果出力

```
No feedback
```

setclustertime

setclustertime コマンドを使用して、クラスターに時刻を設定できます。

構文

```
▶▶ svctask — — setclustertime — — -time — time_value —————▶▶
```

パラメーター

-time *time_value*

クラスターを設定する時刻を指定します。次のフォーマットで指定してください。

MMDDHHmmYYYY

説明

このコマンドは、クラスターに時刻を設定します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask setclustertime -time 040509142003
```

結果出力

```
No feedback
```

setpwdreset

setpwdreset コマンドは、表示パネルのパスワード・リセット機能の状況を表示し変更するために使用します。

構文

```
svctask setpwdreset [-disable] [-enable] [-show]
```

パラメーター

-disable

フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワードのリセット機能を使用不可にします。

-enable

フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワードのリセット機能を使用可能にします。

-show

パスワードのリセット機能の状況 (enabled または disabled) を表示します。

説明

フロント・パネル・メニュー・システムは、管理者パスワードをリセットするオプションを提供します。このオプションは、パスワードを、フロント・パネルに表示されるランダム・ストリングにリセットします。この後、このパスワードを使用してシステムにアクセスできます。次のログインの時は、パスワードを変更する必要があります。

表示パネルのパスワード・リセット機能の状況を表示し変更するには、**svctask setpwdreset** コマンドを発行します。パスワードには、A - Z、a - z、0 - 9、および下線を使用できます。管理者パスワードがなくなると、クラスターにアクセスできなくなるので、管理パスワードは注意して記録してください。

管理者パスワードを忘れたときに、このコマンドを利用してアクセスすることができます。この機能を使用可能のままにしておく場合、クラスター・ハードウェアの適切な物理的セキュリティを確保する必要があります。

この機能の状況を確認または変更できます。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svctask setpwdreset -show
```

結果出力

```
Password status: [1]
```

この出力は、フロント・パネル・メニュー・システムから利用できるパスワード、またはリセット機能が使用可能状態であることを意味します。パスワード状況が [0] と表示された場合、この機能は使用不可です。

settimezone

settimezone コマンドは、クラスターの時間帯を設定するために使用します。

構文

```
▶▶ svctask — — settimezone — — -timezone — timezone_arg —————▶▶
```

パラメーター

-timezone *timezone_arg*

クラスターのために設定する時間帯を指定します。

説明

このコマンドは、クラスターの時間帯を設定します。 **-timezone** パラメーターを使用して、設定したい時間帯の数値 ID を指定します。 **svcinfolistimezones** コマンドを発行して、クラスターで使用可能な時間帯をリストする。有効な時間帯の設定値リストが表示されます。

このコマンドが設定する時間帯は、生成されたエラー・ログを次のコマンドでフォーマットする際に使用されます。

```
svctask dumperrlog
```

注: 時間帯を変更した場合は、Web アプリケーションを通じてエラー・ログが表示する前に、エラー・ログ・ダンプ・ディレクトリーの内容を消去する必要があります。

クラスターの現行の時間帯設定を表示するには、**svcinfolistimezones** コマンドを発行します。クラスター ID と割り当てられた時間帯が表示されます。クラスターの時刻を設定するには、**svctask setclustertime** コマンドを発行します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask settimezone -timezone 5
```

結果出力

```
No feedback
```

startstats

startstats コマンドは、VDisk と MDisk の両方について、統計の収集を開始するために使用します。

構文

```
▶▶ svctask — — startstats — — -interval — time_in_minutes —————▶▶
```

パラメーター

-interval *time_in_minutes*

時間を分で指定します。これは、統計を収集する時間間隔です。15 - 60 分の間で増分 1 単位で指定します。

説明

統計は、サンプル抽出期間の最後に収集されます (-interval パラメーターで指定)。統計はファイルに書き込まれます。各サンプル抽出期間の最後に新しいファイルが作成されます。管理対象ディスクと仮想ディスクの統計について、それぞれの個別のファイルが作成されます。

生成されたファイルは、/dumps/iostats ディレクトリーに書き込まれます。

それぞれのディスク・タイプ (たとえば、Nm_stats_<nodeid>_<date>_<time>、m_stats_<nodeid>_<date>_<time> および v_stats_<nodeid>_<date>_<time> ファイル) ごとに、最大で 16 ファイルが同時にディレクトリーに保管されます。(それぞれのタイプごとに) 17 番目のファイルが作成される前に、もっとも古いファイルが削除されます。

これらのファイルは、**svcinfo lsiostatsdumps** コマンドを使用して、リストすることができます。

ファイルの命名規則は、<disk_type>_stats_<frontpanelid>_<date>_<time> です。ここで、<disk_type> は、管理対象ディスクの場合は *m* または *Nm*、仮想ディスクの場合は *v* です。<frontpanelid> は現行の構成ノード ID、<date> は *yymmdd* 形式、<time> は *hhmmss* 形式です。

管理対象ディスクのファイル名の例は、m_stats_lynn02_031123_07246 および Nm_stats_lynn02_031123_07246 です。

仮想ディスクのファイル名の例は、v_stats_lynn02_031123_072426 または です。

各管理対象ディスクおよび各仮想ディスクについて収集された統計は、ファイル名がそれぞれ m_stats_<nodeid>_<date>_<time> および v_stats_<nodeid>_<date> の形式で、以下の統計情報を含みます。

- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号読み取りコマンドの数。

- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号書き込みコマンドの数。
- サンプル抽出期間に読み取られたデータ・ブロックの数。
- サンプル抽出期間に書き込まれたデータ・ブロックの数。

各管理対象ディスクについて収集された統計は、ファイル名が Nm_stats_<nodeid>_<date>_<time> の形式で、以下の統計情報を含みます。

- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号読み取りコマンドの数。
- サンプル抽出期間に処理された SCSI 番号書き込みコマンドの数。
- サンプル抽出期間に読み取られたデータ・ブロックの数。
- サンプル抽出期間に書き込まれたデータ・ブロックの数。
- MDisk 別外部読み取り累積応答時間 (ミリ秒)。
- MDisk 別外部書き込み累積応答時間 (ミリ秒)。
- MDisk 別キュー読み取り累積応答時間。
- MDisk 別キュー書き込み累積応答時間。

注: これらの統計情報は、構成ノードのみについて適切な時点で収集されます。
 v_* および m_* は、構成ノードについて生成されたクラスター統計です。
 Nm_* ファイルは、各ノードについて生成されたノード統計です。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svctask startstats -interval 25
```

結果出力

```
No feedback
```

stopcluster

stopcluster コマンドは、制御された方法で単一ノードまたはクラスター全体をシャットダウンするために使用します。このコマンドが発行されると、コマンドを実行する意図を確認するプロンプトが出されます。

構文

```
▶▶ svctask — — stopcluster — [ -force ] —————▶
▶ [ -node [ node_name | node_id ] ] —————▶▶
```

パラメーター

-node *node_name* | *node_id*

シャットダウンするノードを指定します (オプション)。シャットダウンするノードを指定します。フラグの後に指定する引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

ノードの ID または名前を指定すると、そのノードのみがシャットダウンされます。指定しないと、クラスター全体がシャットダウンされます。

-force

これが、特定の I/O グループの最後のオンライン・ノードの場合は、force フラグが必要です。

説明

引数を 1 つも指定しないで、このコマンドを発行すると、クラスター全体がシャットダウンされます。電源が除去される前に、すべてのデータはディスクにフラッシュされます。

重要: ノードやクラスターをシャットダウンする前に、FlashCopy、メトロ・ミラー、およびデータ・マイグレーションなどのすべての操作を停止したことを確認します。シャットダウンをする前には、非同期削除操作もすべて完了していることを確認してください。

このコマンドを発行するときノード ID もしくはノード名のいずれかの引数を指定すると、そのノードがシャットダウンされます。コマンドが完了すると、I/O グループ内の他方のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、シャットダウンされたノードに電源が入り、そのノードがクラスターに再結合するまでライトスルー・モードになります。

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターの入力電源を数分以上遮断する場合は (たとえば、機械室の電源を保守のために遮断するなど)、電源を遮断する前に必ずクラスターをシャットダウンしてください。その理由は、最初にクラスターと無停電電源装置をシャットダウンせずに無停電電源装置の入力電源を遮断すると、無停電電源装置が作動状態のままになり、無停電電源装置の電力がなくなってしまうからです。

無停電電源装置の電源を復元すると、無停電電源装置の充電が再び始まりますが、予期せぬ停電が発生した場合に、SAN ボリューム・コントローラー・ノード上のすべてのデータを保管するのに十分な電力が無停電電源装置に充電されるまで、SAN ボリューム・コントローラーは、仮想ディスクへの入出力活動を受け付けません。これには 3 - 4 時間を要します。無停電電源装置の入力電源を遮断する前にクラスターをシャットダウンすると、バッテリー電力の低下を防止し、入力電源を復元したときに入出力活動をすぐに再開できます。

重要: ノードやクラスターをシャットダウンする前に、そのノードやクラスターに向けられている入出力操作をすべて静止してください。この操作を実行しないと、失敗した入出力操作がホストのオペレーティング・システムに報告されます。

クラスターへのすべての入出力操作を静止するには、クラスター提供の VDisk が使用されているホスト上で実行中のアプリケーションを停止します。

1. どのホストがクラスター提供の VDisk を使用しているかわからない場合は、呼び出された手順「VDisk のマップ先であるホストの判別」に従ってください。

2. すべての VDisk について、この手順を実行します。

重要: クラスタ全体をシャットダウンすると、そのクラスタが提供するすべての VDisk へのアクセスを失います。

すべての I/O が停止したら、**svctask stopcluster** を発行して、制御された方法で単一のノードまたはクラスタ全体をシャットダウンする。ノード ID またはノード名を指定する場合は、単一ノードをシャットダウンできます。このコマンドを発行するときにノード ID もしくはノード名のいずれかの引数を指定すると、そのノードがシャットダウンされます。コマンドが完了すると、I/O グループ内の他方のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、シャットダウンされたノードに電源が入り、そのノードがクラスタに再結合するまでライトスルー・モードになります。

重要: これが I/O グループ内で最後のノードの場合、その I/O グループの仮想ディスクへのすべてのアクセスを失います。このコマンドを発行する前に、本当にこのような状況になってもよいかを確認してください。 **force** フラグを指定してください。

クラスタと無停電電源装置の両方の電源が切られているときに、クラスタにシャットダウン・コマンドを送ると、入力電源を復元して無停電電源装置を再始動するときに、無停電電源装置のフロント・パネルにある電源ボタンを押す必要があります。

単一のノードのシャットダウン:

重要: 単一のノードをシャットダウンするときに、I/O グループ内の他のノードがオンラインになっている場合は、パートナー・ノード上のキャッシュがライトスルー・モードになり、このノードをシャットダウン中にパートナー・ノードが障害を起こすと、Single Point of Failure になる可能性があることに注意してください。

重要: 単一ノードをシャットダウンするときに、そのノードが I/O グループ内の最後のノードの場合は、その I/O グループが提供する すべての VDisk へのアクセスを失います。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5799E I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャットダウンは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask stopcluster
```

結果出力: 次の警告が表示されます。

```
Are you sure that you want to continue with the shut down?
```

先に進む前に、FlashCopy マッピング、メトロ・ミラー関係、およびデータ・マイグレーションなどのすべての操作を停止し、強制削除を完了します。y を入力すると、コマンドが実行されます。次に、No feedback と表示されます。y または Y 以外の入力をする、コマンドは実行されません。No feedback と表示されます。

stopstats

stopstats コマンドを使用して、VDisk と MDisk の両方の統計収集を停止することができます。

構文

▶— svctask — — stopstats —————▶

説明

このコマンドは、ユーザーが (**svctask startstats** コマンドで) 再開するまで、統計の生成をオフにします。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svctask stopstats
```

結果出力

```
No feedback
```


第 5 章 バックアップおよび復元コマンド

以下のコマンドは、SAN ボリューム・コントローラーで構成情報のバックアップと復元を行うために使用します。

backup

backup コマンドは、構成をバックアップするために使用します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
▶▶ svcconfig -- backup -- [-quiet] [-v on | off]
```

パラメーター

-quiet

コンソールの標準出力 (STDOUT) メッセージを抑止します。

-v on | off

On にすると詳細メッセージが表示されます。Off にすると、通常のメッセージ (デフォルト) が表示されます。

説明

backup コマンドを実行すると、クラスターから構成データを抽出して、/tmp 内の svc.config.backup.xml に保管します。svc.config.backup.sh というファイルが作成されます。このファイルを調べると、情報抽出のために、ほかにどのようなコマンドが使用されたかがわかります。svc.config.backup.log というログも作成されます。このログを調べると、いつ、なにが操作されたかといった詳細がわかります。このログには、そのほかに実行されたコマンドについても情報が記載されています。

事前に存在した svc.config.backup.xml ファイルは、svc.config.backup.bak となってアーカイブされます。(アーカイブは 1 つだけ保持されます。)

.xml ファイルと .key の関連ファイル (下記の制限を参照) は、クラスターから即座に移動してアーカイブを行い、/tmp のファイルは、**clear** コマンドで消去することを推奨します。デフォルト名のオブジェクトは確実に復元できないことがあるので、デフォルト名のオブジェクトは、すべてデフォルト以外の名前に変更するように強く推奨します。

接頭部の_ (下線) は、バックアップと復元のコマンドに使用するためのものなので、オブジェクト名には使用しないでください。

backup コマンドには、次の制限があります。

- .key の SSH 公開鍵値ファイルは、/tmp 内の .xml に従って作成されることはありません。ただし、ユーザーが提供すべきファイルが欠落していると、警告が出ます。これは、テンプレートの svc.config.identifier.user.key に準拠します。ここで、*identifier* と *user* は、**addsshkey** コマンドで指定したとおりです。

addsshkey コマンドでこれらを使用した場合は、そのファイルを支給するように要求されます。これらが無い場合は、将来にクラスターを修復する必要があることを前提とすると、クラスターを修復するときに、新しい鍵のセットをインストールする必要があります。

起こりうる障害

- CMMVC6112W *object-type object-name* はデフォルト名を持っています。
(object-type object-name has a default name)
- CMMVC6136W SSH 鍵ファイル *file-name* がありません。(No SSH key file file-name)
- CMMVC6147E *object-type object-name* の名前が *prefix* で始まっています。
(object-type object-name has a name beginning with prefix)

呼び出し例

```
svconfig backup
```

結果出力

```
No feedback
```

clear

clear コマンドは、前に他の `svconfig` コマンドによって作成された `/tmp` ディレクトリー内のファイルを消去するために使用します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
▶▶ svconfig -- clear -- -all ▶▶
```

パラメーター

-all

消去するファイルに、`.key`、`.bak`、および `.xml` のファイルを含めます。これを指定しないと、`.log` と `.sh` のファイルだけが消去されます。`.key`、`.bak`、および `.xml` の各ファイルには、構成情報が含まれていますが、他のファイルには構成情報は含まれていません。

説明

このコマンドを使用すると、`/tmp` ディレクトリー内に `svconfig` で作成されたファイルの一部またはすべてを消去します。ファイルは、`svc.config.*` テンプレートに準拠します。

起こりうる障害

- CMMVC6103E ファイル *file-name* で問題が発生しました。*details* (Problem file file-name: details)

呼び出し例

```
svconfig clear -all
```

結果出力

No feedback

help

help コマンドは、**svcconfig** の構文に関する要約情報を入手するために使用します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
▶— svcconfig — — -ver —————┬── -? ───────────────────────────────────▶
                                     │ ┌── backup ───┐
                                     │ │ ┌── clear ───┐
                                     │ │ │ ┌── restore ─┐
                                     │ └──┬──┘
                                     └──┬──┘
                                     │ ┌── -h ───┐
                                     └──┬──┘
```

パラメーター

-h | -?

一般的なヘルプを提供します。

(action) -h | -?

コマンド・ヘルプを提供します: (action) に有効な値には、backup、clear、および restore があります。

-ver

svcconfig コマンドのバージョン番号を戻します。

説明

このコマンドは、svcconfig の構文に関するヘルプを提供します。

起こりうる障害

- CMMVC6100E *-option* が *action* と整合しません。 (*-option* not consistent with *action*)
- CMMVC6101E *-option* と *-option* が整合しません。 (*-option* not consistent with *-option*)
- CMMVC6102E *-option* と *-option* は代替オプションです。 (*-option* and *-option* are alternatives)
- CMMVC6114E アクション *action* のヘルプはありません。 (No help for action *action*)
- CMMVC6134E *-option* に引数がありません。 (No argument for *-option*)
- CMMVC6135E *-option* の引数の *value* が無効です。 (*value* for *-option* is not valid)
- CMMVC6138E *-option* が必要です。 (*-option* is required)
- CMMVC6141E *-option* は引数を含みません。 (*-option* does not contain any argument)
- CMMVC6149E An action is required
- CMMVC6150E *action* アクションは無効です。 (The action *action* is not valid)
- CMMVC6151E *-option* オプションは無効です。 (The option *-option* is not valid)

- CMMVC6153E *object* が *action* と整合しません。 (*object not consistent with action*)

呼び出し例

```
svcconfig -ver
svcconfig -?
svcconfig backup -h
```

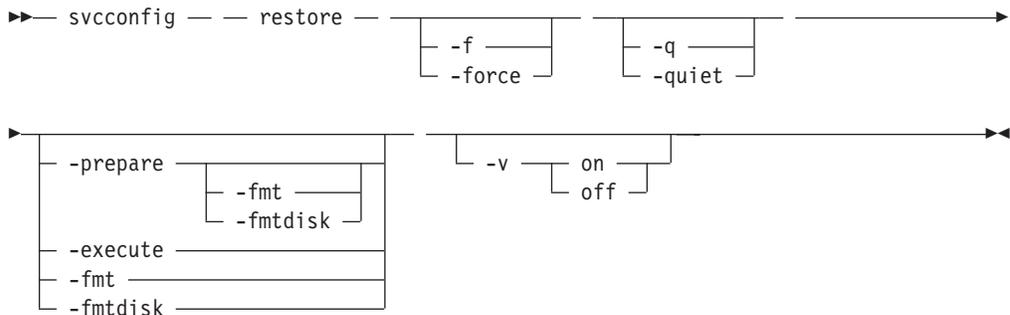
結果出力

Help text.

restore

restore コマンドは、/tmp ディレクトリー内の構成ファイルから情報を取り出し、クラスターをその構成に復元するために使用します。このコマンドを使用できるのは、クラスターを作成した直後に限られます。

構文



パラメーター

-prepare

構成を復元するときに、`svc.config.backup.xml` 内の構成情報と現行構成を比較検査します。`svc.config.restore.sh` で実行するコマンドを準備し、`svc.config.restore.prepare.log` にイベント・ログを作成します。

-fmt | fmtdisk

発行するすべての **mkvdisk** コマンドに、`-fmtdisk` オプションを組み込みます。

-execute

コマンド・スクリプトの `svc.config.restore.sh` を実行します。`svc.config.restore.execute.log` に、ログ・イベントを作成します。

-f | force

実行継続を強制できるところで強制します。

-q | quiet

コンソール出力 (STDOUT) を抑制します。

-v *on* | *off*

詳細出力を作成します (*on*)。デフォルトは通常出力です (*off*)。

説明

このコマンドを使用すると、`svc.config.backup.xml` ファイルを使用して、ターゲットのクラスター構成を復元し、構成ファイル・ディレクトリー内の `.key` ファイル (存在する場合) を関連付けます。 `prepare` と `-execute` のオプションをどちらも指定しないと、単一イベント・ログの `svc.config.restore.log` のみが作成されます。

処理中にノードが追加されると、コマンドにより 5 分間の一時停止がとられます。この場合、実行時にそのことが表示されます。

修復が終了すると、VDisk には、特定の MDisk リストができます。該当の MDisk グループが大きくなりすぎると、その時点またはその後、復元した VDisk は、現在そのリストにない MDisks を利用することができなくなります。

構成ファイルのディレクトリーは `/tmp` です。

起こりうる障害

- CMMVC6105E ソース・クラスター *name* とターゲット・クラスター *name* の名前が異なります。(Different names for source *name* and target *name* clusters)
- CMMVC6106E ターゲット・クラスターはデフォルト以外の *id_alias value* を持っています。(Target cluster has non-default *id_alias value*)
- CMMVC6107E ターゲット・クラスター内の *io_grp* オブジェクトは *x* 個です。*y* 個が必要です。(x *io_grp* objects in target cluster; y are required)
- CMMVC6109E *value* の WWNN を持つディスク・コントローラー・システムは使用不可です。(Disk controller system with WWNN of *value* not available)
- CMMVC6120E ターゲットが構成ノードではありません。(Target is not the configuration node)
- CMMVC6139E *file-name* 内の XML タグのネスティングに誤りがあります。(Incorrect XML tag nesting in *file-name*)
- CMMVC6142E 既存の *object-type object-name* にデフォルトでない名前があります。(Existing *object-type object-name* has a non-default name)
- CMMVC6143E 必要な構成ファイル *file-name* が存在しません。(Required configuration file *file-name* does not exist)
- CMMVC6146E *object-type* データ: *line* の構文解析で問題が検出されました。(Problem parsing *object-type* data: *line*)
- CMMVC6147E *object-type object-name* の名前が *prefix* で始まっています。(object-type *object-name* has a name beginning with *prefix*)
- CMMVC6148E ターゲット・クラスターが持っている、タイプ *object-type* のオブジェクトの数は、*actual* 個ですが、*required* 個が必要です。(Target cluster has *actual* object(s) of type *object-type* instead of *required*)
- CMMVC6152E VDisk *name* のインスタンス番号 *value* が無効です。(CMMVC6152E *vdisk name* instance number *value* is not valid)
- CMMVC6155I SVCCONFIG 処理が正常終了しました。(SVCCONFIG processing completed successfully)
- CMMVC6156W SVCCONFIG 処理がエラーで終了しました。(SVCCONFIG processing completed with errors)

- CMMVC6165E ターゲットが、*value* の WWNN を持つ元の構成ノードではありません。(Target is not the original configuration node with WWNN of *value*)

注: メッセージ 6155 と 6156 は、「-v on」でのみ表示されます。

呼び出し例

```
svcconfig restore -prepare  
svcconfig restore -execute
```

結果出力

```
No feedback
```

第 6 章 クラスタ診断および保守援助機能コマンド

クラスタ診断および保守援助機能コマンドは、クラスタの問題を診断し検出するように設計されています。

コマンドが正常に完了すると、通常は、テキスト出力が表示されます。しかし、中には出力を戻さないコマンドもあります。「No feedback」フレーズは、そのコマンドに出力がないことを示しています。

SAN ボリューム・コントローラーは、制限されたコマンド行ツール・セットによる保守アクティビティーの実行を可能にします。管理者役割でログインした場合、すべてのコマンド行アクティビティーの実行が許可されます。保守役割でログインした場合は、保守に必要なコマンドのみを実行できます。保守役割では、以下のすべてのコマンドを利用できます。保守コマンドを使用して、問題判別を行い、修復アクティビティーを実行することができます。

addnode

addnode コマンドは、新規 (候補) ノードを既存のクラスタに追加するために使用します。このコマンドは、クラスタ作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
►► svcserVICetask — — addnode — — [ -panelname — — panel_name ] — — [ -wwnodename — — wwnn_arg ] — — [ -name — — new_name_arg ] — — [ -iogrp — — [ iogroup_name | iogroup_id ] ] — — ►►
```

パラメーター

-panelname *panel_name*

表示パネルに表示される名前です。追加するノードを示します。この引数は、**-wwnodename** と相互に排他的です。ノードを一意的に識別するには、1 つのみを指定してください。

-wwnodename *wwnn_arg*

クラスタに追加するノードを、ノードの worldwide node name (WWNN) で指定します。この引数は、**-panelname** と相互に排他的です。ノードを一意的に識別するには、1 つのみを指定してください。

-name *new_name_arg*

このノードの名前を指定します (オプション)。

-iogrp *iogroup_name* | *iogroup_id*

このノードを追加する I/O グループを指定します。

説明

このコマンドは、新規ノードをクラスタに追加します。 `svcinfolnodecandidate` を入力すると、候補ノード (まだクラスタに割り当てられていないノード) のリストが表示されます。

互換性チェックがエラーになると、次のメッセージが表示されます。

CMMVC6201E 非互換ソフトウェアのため、ノードを追加できません
でした: 状況コード [%1]。

前提条件: クラスタにノードを追加する前に、次のことを確認してください。

- クラスタに複数の I/O グループがある。
- クラスタに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これまでクラスタ内のノードとして使用されていた。
- クラスタに追加するノードが使用する物理的なノード・ハードウェアは、これまで他のクラスタ内のノードとして使用されており、どちらのクラスタも同じホストの可視性を持つ。

重要: 上記の条件があてはまる場合で、ここに記載の手順がエラーとなる場合は、クラスタが管理するデータのすべてが破壊されている可能性があります。

ノードの追加: クラスタにはじめてノードを追加する場合は、ノードのシリアル番号 WWNN、すべての WWPN、および追加先の I/O グループを記録する必要があります。この操作により、クラスタからノードを削除したり、再び追加したときに、データが破壊されるのを防止できます。

svctask addnode コマンドまたは SAN ボリューム・コントローラー・コンソールを使用してクラスタにノードを追加する場合に、そのノードがこれまでクラスタのメンバーだった場合は、次のいずれかを実行してください。

- これまでと同じ I/O グループにノードを戻してください。クラスタ内のノードの WWNN は、**svcinfnode** コマンドで判別できます。または
- この情報がない場合、データを破壊せずにノードをクラスタに追加するには、IBM の保守担当者に依頼してください。

クラスタにノードを追加する場合、このノードを入れる I/O グループも指定する必要があります。I/O グループは、ノード対 ID です。ノード対は、予備のキャッシュ・データを保持しておくために、特定の仮想ディスク・セットのキャッシュ・データを内部で複製します。仮想ディスクが作成されると、それも I/O グループに割り当てられます。その後、この仮想ディスクに送られるすべてのデータは、I/O グループ内の 2 つのノードでキャッシュに入れられます。

ノードを追加する際、I/O グループ内のノードが異なる無停電電源装置に接続されていることを確認してください。**svcinfnodecandidate** (uninterruptible power supply_unique_ID) の出力から、ノードが接続されている無停電電源装置を判断できます。**svcinfnodes** コマンドは、クラスタ内のすべてのノード (uninterruptible power supply_unique_ID) が接続されている無停電電源装置を表示します。

クラスタにノードを追加しようとする時、同じ無停電電源装置に接続されている 2 つのノードが同じ I/O グループに入れられることになり、**svcservicetask addnode** コマンドは次のエラーを出して失敗します。

CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。
この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。

オプションで、新規ノードに名前を割り当てることができます。以降に使用するコマンドで、WWNN (ノード ID) の代わりにこの名前を使用してノードを指定できます。ラベルを割り当てると、以降、このラベルがノード名として表示されます。ラベルを割り当てない場合のデフォルト・ラベルは `nodeX` です (X はノード ID)。

例: 無停電電源装置が全面的に障害を起こし、4 つのノードのクラスターの 2 つのノードを失った場合は、`svcservicetask addnode` コマンドか SAN ポリリューム・コントローラー・コンソールを使用して、失われた 2 つのノードをクラスターに再び追加する必要があります。

ホスト・システム上のアプリケーションは、オペレーティング・システムが `vpath` にマップしたファイル・システムまたは論理ボリュームに入出力操作を指示します。これは、SDD ドライバーがサポートする疑似ディスク・オブジェクトです。詳しくは、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバ ユーザーズ・ガイド」を参照して下さい。

SDD ドライバーは、`vpath` と SAN ポリリューム・コントローラー `VDisk` の関連付けを維持します。この関連付けには、`VDisk` に固有の ID (UID) が使用され、これは再使用はされません。これにより、SDD ドライバーは、`vpath` と `VDisk` を明確に関連付けることができます。

SDD デバイス・ドライバは、プロトコル・スタック内部で作動します。ここにはディスクとファイバー・チャネルのデバイス・ドライバもあり、ANSI FCS 規格の定義に従って、ファイバー・チャネル上の SCSI プロトコルを使用して SAN ポリリューム・コントローラーと通信できるようにします。SCSI とファイバー・チャネルのアドレッシング・スキームは、ファイバー・チャネルのノードとポートについて、SCSI 論理装置番号 (LUN) と World Wide Name を組み合わせて使用します。

エラーが発生した場合は、プロトコル・スタック内のさまざまな層で、エラー・リカバリー手順 (ERP) が実行されます。このような ERP の中には、過去に使用した WWNN および LUN 番号を使用して、I/O を再度実行するものがあります。

SDD デバイス・ドライバは、実行するすべての入出力操作について、`VDisk` と `vpath` の関連付けをチェックするわけではありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5790E ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できませんでした。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5793E I/O グループにはすでに一对のノードが含まれているため、ノードをクラスターに追加できませんでした。
- CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。
- CMMVC6201E 非互換ソフトウェアのため、ノードを追加できませんでした: 状況コード [%1]。

呼び出し例

```
svcservicetask addnode -wwnodename 210000e08b053564 -iogrp io_grp0
```

結果出力

```
Node, id [6], successfully added
```

applysoftware

applysoftware コマンドは、 クラスタを新しいレベルのソフトウェアにアップグレードします。

構文

```
▶▶ svcservicetask — applysoftware — [ -force ] —————▶▶  
▶ -file — filename_arg —————▶▶
```

パラメーター

-force

force フラグを指定します (オプション)。I/O グループ内のいずれのノードも対応でない場合、-force フラグが必要です。アップグレード・プロセスは、各 I/O グループ内の最初のノードを強制的にシャットダウンしてアップグレードします。そのノードが対応でない場合、そのクラスタは劣化し、データは失われます。

-file filename_arg

新規ソフトウェア・パッケージのファイル名を指定します。

説明

このコマンドは、クラスタの新規ソフトウェア・レベルへのアップグレード処理を開始し、**svcservicetask** および **svcservicemodetask** に適用できます。

applysoftware コマンドは、保守モードと非保守モードの両方でソフトウェアのレベルをノードに適用するために使用できます。保守モードでは、**applysoftware** コマンドは保守モードにある特定のノードに適用されます。非保守モードでは、このコマンドはクラスタ全体に適用されます。このトピックでは、非保守モードでのソフトウェアのノードへの適用について説明します。

ファイル名で指定したソフトウェア・パッケージは、最初に /home/admin/upgrade ディレクトリー内の現行構成ノードにコピーする必要があります。ファイルをコピーするには、PuTTY secure copy (scp) を使用します。この手順の詳細については、『PuTTY scp』を参照してください。

実際のアップグレードは、非同期的に完了します。

/home/admin/upgrade の内容は、**svcinfo lssoftwaredumps** コマンドの使用で表示できます。

内部的には、新規パッケージは /home/admin/upgrade ディレクトリーから移されてチェックサムを受けます。パッケージがチェックサムで不合格となると、そのパッケージは削除され、アップグレードは失敗します。パッケージがチェックサムで合格

すると、そのパッケージがディレクトリーから取り出されて、ソフトウェアのアップグレードが開始されます。

起こりうる障害

- CMMVC5801E クラスタ内のすべてのノードがオンライン状態でなければならぬため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再実行依頼してください。
- CMMVC5802E クラスタ内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスタをアップグレードするには、force オプションが必要です。
- CMMVC6206E ソフトウェア・アップグレードは、指定された MCP バージョンのソフトウェアを含むファイルが見つからなかったため、失敗しました。ソフトウェア・アップグレードを正常に完了するには、2 つのファイルが必要です。1 つは基本オペレーティング・システムを構成するファイルを含むファイルで、もう 1 つは SAN ポリウム・コントローラソフトウェアを含むファイルです。このメッセージは、OS のバージョンが SAN ポリウム・コントローラソフトウェアと互換性がない場合に表示されます。このファイルをアップグレードするには、2 つの互換ファイルをアップロードして、コマンドを再発行してください。

呼び出し例

```
svcservicetask applysoftware -file sanvolumecontroller_update
```

結果出力

```
No feedback
```

cherrstate

cherrstate コマンドは、未修正エラーに修正済みマークを付けます。また、修正済みエラーに未修正のマークを付けることもできます。クラスタ、ファブリック、またはサブシステムに対して行った保守の手動確認として、このコマンドを使用してください。

構文

```
▶▶ svcservicetask — — cherrstate — — -sequencenumber — sequence_number —▶▶  
└─┬──────────┬──────────┘  
  └─┬──────────┘  
    -unfix
```

パラメーター

-sequencenumber *sequence_number*

修正する、エラー・ログのシーケンス番号 (複数も可) を指定します。

-unfix

指定したシーケンス番号 (複数も可) に未修正のマークを付けるように指定します (オプション)。 **-unfix** 引数を使用すると、シーケンス番号には未修正のマークが付きます。これは、間違っただシーケンス番号に修正済みのマークを付けてしまった場合にのみ使用することを意図しています。

説明

このコマンドは、入力したシーケンス番号 (複数も可) に修正済みのマークが付いているエラー・ログ項目にタグを付けます。クラスター、ファブリック、またはサブシステムに対して行った保守の手動確認として、このコマンドを使用してください。

このステップは、指示保守手順 (DMP) の一環として実行してください。

間違っただシーケンス番号に修正済みのマークを付けた場合、オプションで **-unfix** フラグを指定して、項目に未修正のマークを付け直すことができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

呼び出し例

```
svcservicetask cherrstate -sequencenumber 2019
```

結果出力

```
No feedback
```

clearerrlog

clearerrlog コマンドは、状況イベントおよび未修正エラーを含む、エラー・ログのすべての項目を消去します。

構文

```
▶▶ svcservicetask — — clearerrlog — — [ -force ] ▶▶
```

パラメーター

-force

あらゆる確認要求を停止します。 **-force** フラグを指定しないと、ログを消去したいかを確認するプロンプトが出されます。

説明

このコマンドは、エラー・ログのすべての項目を消去します。ログに未修正エラーがあっても、すべての項目が消去されます。また、このコマンドは、ログに記録されているあらゆる状況イベントも消去します。

重要: このコマンドは破壊性があるので、このコマンドは、クラスターを再構築したときか、もしくはエラー・ログ内に手作業では修正したくない多数の項目が存在し、それらの原因である主要な問題を修正したときのみ使用してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcservicetask clearerrlog -force
```

結果出力

```
No feedback
```

dumperrlog

dumperrlog コマンドは、エラー・ログの内容をテキスト・ファイルにダンプします。

構文

```
▶— svcservicetask — — dumperrlog — — [ -prefix — filename_prefix ] ▶▶
```

パラメーター

-prefix filename_prefix

ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成されます。フォーマットは次のとおりです。

```
<prefix>_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS
```

NNNNNN はノードのフロント・パネル名です。

注: **-prefix** パラメーターを指定しないと、ダンプは、システム定義により「errlog」の接頭部が付いたファイルに送られます。

説明

引数を指定しないで実行すると、このコマンドは、クラスターのエラー・ログを、システムから与えられた「errlog」の接頭部が付いた名前（ノード ID とタイム・スタンプが含まれる）のファイルにダンプします。ファイル名の接頭部を指定した場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディレクトリー内の、指定された接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされます。

エラー・ログ・ダンプ・ファイルは、/dumps/elogs に書き込まれます。このディレクトリーの内容は、**svcinfolerrlogdumps** コマンドを使用して表示できます。

ファイルは、**cleardumps** コマンドを発行するまで、他のノードから削除されることはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

呼び出し例

```
svcservicetask dumperrlog -prefix testerrorlog
```

結果出力

```
No feedback
```

finderr

finderr コマンドは、エラー・ログを分析し、重大度が最も高い未修正エラーの有無を調べます。

構文

```
▶— svcservicetask — — finderr —————▶
```

説明

このコマンドはエラー・ログを走査して、未修正エラーが無いか調べます。コードで優先順位が定義されていると、もっとも優先順位の高い未修正エラーが **STDOUT** に戻されます。

ログに記録されたエラーの修正順序を判断するのに、このコマンドを利用できません。

Web ベースの指示保守手順 (DMP) でも、このコマンドを使用します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicetask finderr
```

結果出力

```
Highest priority unfixed error code is [1010]
```

rmnode

rmnode コマンドは、クラスターからノードを削除するために使用します。このコマンドは、クラスター作成後であればいつでも使用できます。

構文

```
▶— svcservicetask — — rmnode — [ node_name ] —————▶  
                                [ node_id ]
```

パラメーター

node_name | node_id

削除するノードを指定します。フラグの後に指定する引数は、次のいずれかです。

- ノード名。つまり、そのノードをクラスターに追加したときに割り当てたラベルです。
- そのノードに割り当てられたノード ID (WWNN ではない)。

説明

このコマンドは、ノードをクラスターから除去します。これにより、ノードは、このクラスターに追加する、もしくは別のクラスターに追加する際の候補になります。ノードを削除すると、I/O グループ内の他のノードはそのキャッシュの内容をデステージし、別のノードが I/O グループに追加されるまでライトスルー・モードになります。

ノードをクラスターに再び追加する予定がある場合は、ノードのシリアル番号、WWNN、すべての WWPN、および現在属している I/O グループを必ず記録しておいてください。この操作により、クラスターからノードを削除したり、再び追加したときに、データが破壊されるのを防止できます。詳細については、「*IBM TotalStorage SAN ポリウム・コントローラー: 構成ガイド*」を参照してください。

これが I/O グループ内で最後のノードであり、I/O グループにまだ割り当てられている仮想ディスクが存在する場合、クラスターからのノードを削除することはできません。

これがクラスター内で最後のノードであり、I/O グループに仮想ディスクが残っていない場合、クラスターは削除され、すべてのパーチャライゼーション情報は失われます。クラスターを破棄する前に、以後も必要になるデータがバックアップ済み、もしくはマイグレーション済みであることを確認してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5795E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除できませんでした。
- CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できませんでした。

呼び出し例 たとえば、次のコマンドを実行すると、

```
svcservicetask rmnode 1
```

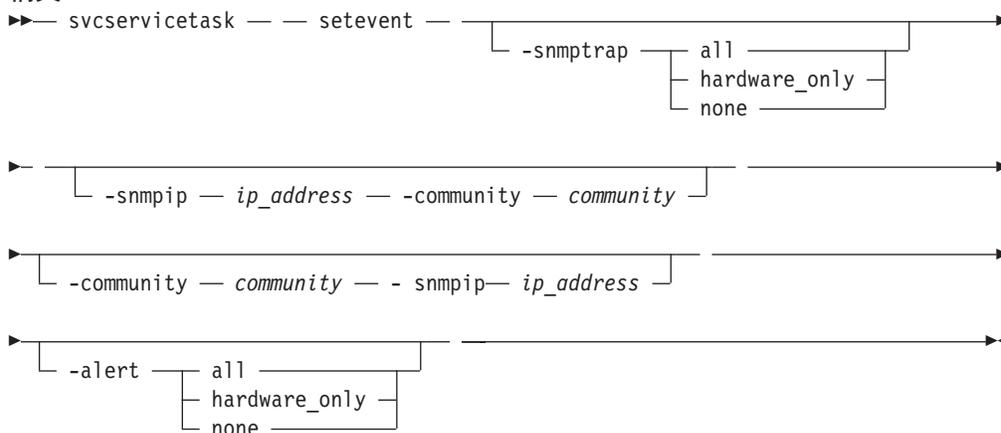
結果出力 次のような出力が表示されます。

No feedback

setevent

setevent コマンドは、エラーまたはイベントがエラー・ログに記録される際の処理を指定するために使用します。これらの設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行うかを定義します。

構文



パラメーター

-snmptrap *all | hardware_only | none*

SNMP トラップ設定、つまり、いつトラップを発信するかを指定します (オプション)。

-snmpip *ip_address*

SNMP マネージャー・ソフトウェアが実行されているホスト・システムの IP アドレスを指定します (オプション)。選択した場合は、コミュニティー・ストリングを指定する必要があります。コミュニティー・ストリングは、リスト当たり最大 6 項目を含む値のリスト (コロンで区切られている) です。

-community *community*

SNMP コミュニティー・ストリングを指定します (オプション)。選択した場合は、SNMP マネージャー・ソフトウェアを実行しているホスト・システムの IP アドレスを指定する必要があります。コミュニティー・ストリングは、リスト当たり最大 6 項目を含む値のリスト (コロンで区切られている) です。

-alert *all | hardware_only | none*

アラート設定を指定します (オプション)。この設定では、どのような場合にアラート通知を発信するかを指定します。

説明

このコマンドは、エラー・ログに適用するさまざまな設定を変更します。これらの設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行うかを定義します。 **svctask setevent** コマンドを使用して、エラーまたはイベントがエラー・ログに記録される際の処理を指定できます。クラスター・エラー・ログ

またはイベント・ログ (あるいはその両方) に追加された項目について、クラスターが SNMP トラップを発信するかどうかを選択できます。通知には 3 つのレベルがあります。

- **None:** エラーや状況の変更内容は送信されません。
- **Hardware_only:** エラーの通知がありますが、状況変更の通知はありません。
- **All:** エラーおよび状況変更がすべて通知されます。

SNMP マネージャーがインストールされている場合、またはエラーおよびイベントについて E メールによる通知を希望する場合は、エラー通知を使用可能にしてください。SNMP アラートの通知レベルは、個別に設定できます。

このコマンドで、SNMP トラップをセットアップできます。SNMP 用に、以下の情報を入力する必要があります。

- どのような場合にトラップを発信するか。
- SNMP マネージャーの IP アドレス
- SNMP コミュニティ

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcservicetask setevent -snmptrap all
```

結果出力

```
No feedback
```

setlocale

setlocale コマンドは、クラスターのロケール設定を変更します。また、このコマンドは、すべてのインターフェース出力を、選択した言語に変更します。

構文

```
▶— svcservicetask — — setlocale — — -locale — locale_id —————▶
```

パラメーター

-locale *locale_id*

ロケール ID を指定します。

説明

このコマンドは、コマンド行インターフェースの出力として表示されるエラー・メッセージの言語を変更します。コマンドを実行すると、コマンド行ツールから出力されるすべてのエラー・メッセージは、選択された言語で生成されます。このコマンドは、言語 (ロケール) を変更する必要がある場合に、通常は Web ページで実行します。クラスターのロケール設定を変更するには、**svcservicetask setlocale** コマンドを発行します。このコマンドは、すべてのインターフェース出力を、選択した言語に変更します。たとえば、デフォルト言語を英語から日本語に変更するには、次のように入力します。

```
svcservicetask setlocale -locale 3
```

ここで、3 は、日本語を示す引数です。次のような引数があります。

- 0 米国英語 (デフォルト)
- 1 中国語 (簡体字)
- 2 中国語 (繁体字)
- 3 日本語
- 4 韓国語
- 5 フランス語
- 6 ドイツ語
- 7 イタリア語
- 8 スペイン語
- 9 ポルトガル語 (ブラジル)

注: このコマンドにより、フロント・パネルのパネル表示設定は変更されません。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicetask setlocale -locale 3
```

結果出力

```
No feedback
```

writesernum

writesernum コマンドは、ノードのシリアル番号をプレーナー NVRAM に書き込むために使用します。

構文

```
▶▶ svcservicetask — — writesernum — — -sernum — serial_number — —▶▶
```

node_id
└───┬───▶▶
node_name

パラメーター

-sernum *serial_number*

システム・プレーナーの不揮発性メモリーに書き込むシリアル番号を指定します。

node_id | node_name

システム・プレーナーが置かれているノードを指定します。シリアル番号は、このシステム・プレーナーに書き込まれます。この名前は WWNN ではありません。

説明

このコマンドは、ノードのシリアル番号をプレーナー NVRAM に書き込みます。シリアル番号は、SAN ボリューム・コントローラーの前面を見ると (ラックから取り外さなくても) 分かります。シリアル番号は、SAN ボリューム・コントローラーをラックに固定している右側のつまみねじの、すぐ左側に表示されています。このシリアル番号は、通常は 7 桁です。

注: いったん書き込んだシリアル番号は、**svcinfolsnodevpd** コマンドで確認できます。シリアル番号は、`system_serial_number` フィールドに格納されています。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5794E ノードがクラスタのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcservicetask writeserenum -sernum 1300027 node1
```

結果出力

```
No feedback
```


第 7 章 ホスト・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでホスト・オプションを操作できます。

addhostport

addhostport コマンドは、WWPN を既存のホスト・オブジェクトに追加します。

構文

```
svctask addhostport [-hbawwpn wwpn_list] [-force]
                    [host_name | host_id]
```

パラメーター

-hbawwpn *wwpn_list*

ホストに追加するポートのリストを指定します。

-force

強制的に追加を行います (オプション)。これを指定すると、すべての WWPN の妥当性検査が行われなくなります。

host_id | host_name

ポートを追加するホスト・オブジェクトを ID または名前で指定します。

説明

このコマンドは、指定されたホスト・オブジェクトに HBA WWPN のリストを追加します。ログイン済みで未構成の WWPN のみを追加できます。候補 WWPN については、リストが『**svcinfo lshbaportcandidate**』コマンドの項にありますので参照してください。

HBA デバイス・ドライバーの中には、ターゲット LUN が判明するまでファブリックにログインしないものもあります。ログインしないと、それらのデバイス・ドライバーの WWPN は候補ポートとして認識されないからです。このコマンドで **force** フラグを指定すれば、WWPN リストの妥当性検査を停止することができます。

このホスト・オブジェクトにマップされたすべての仮想ディスクは、新規ポートに自動的にマップされます。

ホストの HBA を置換する: **svcinfo lshbaportcandidate** コマンドを実行して、HBA ポートの候補をリストします。ホスト・オブジェクトに追加可能な HBA ポートのリストが表示されます。これらの 1 つ以上が新規 HBA に属する 1 つ以上の WWPN に対応します。HBA を置換したホストに対応するホスト・オブジェクトを見つけてください。次のコマンドは、定義済みのすべてのホスト・オブジェクトをリストします。

```
svcinfo lshost
```

現在ホストに割り当てられている WWPN をリストするには、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolshost <hostobjectname>
```

ここで、<hostobjectname> は、ホスト・オブジェクトの名前です。

次のコマンドを実行して、既存のホスト・オブジェクトに新規ポートを追加します。

```
svctask addhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs  
separated by :> <hostobjectname/ID>
```

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> と <hostobjectname/id> は、この前のステップにリストされたものに対応します。

次のコマンドを実行して、ホスト・オブジェクトから古いポートを削除します。

```
svctask rmhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs  
separated by :> <hostobjectname/ID>
```

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> は、この前のステップにリストされ、置換された古い HBA に属する WWPN に対応します。ホスト・オブジェクトと VDisk の間にマッピングがある場合は、新しい WWPN に自動的に適用されます。このため、ホストは、VDisk を前と同じ SCSI LUN として認識します。動的再構成の詳細については、「*IBM TotalStorage サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド*」を参照してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。

呼び出し例

```
svctask addhostport -hbawwpn 210100E08B251DD4 host_one
```

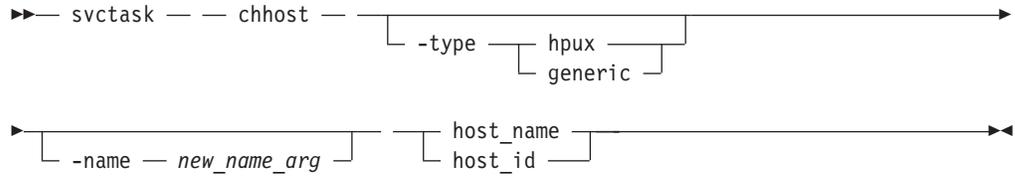
結果出力

```
No feedback
```

chhost

chhost コマンドを使用して、ホスト・オブジェクトに割り当てられた名前を変更できます。これは、現行の仮想ディスクからホストへのマッピングには影響を及ぼしません。

構文



パラメーター

-type *hpux* | *generic*

ホストのタイプを指定するオプション・パラメーター。有効な項目は *hpux* または *generic* です。デフォルトは *generic* です。

-name *new_name_arg*

ホスト・オブジェクトに割り当てる新しい名前を指定します (オプション)。

host_name | **host_id**

変更するホスト・オブジェクトを ID または現行名で指定します。

説明

このコマンドは、指定されたホストの名前を新しい名前に変更することも、ホストのタイプを変更することもできます。このコマンドは、現行の仮想ディスクからホストへのマッピングには一切影響しません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5869E ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・オブジェクトは名前変更されませんでした。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chhost -name host_one hostone
```

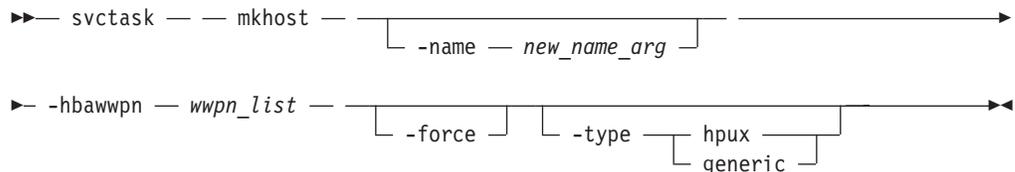
結果出力

```
No feedback
```

mkhost

mkhost コマンドは、論理ホスト・オブジェクトを作成します。

構文



パラメーター

-name *new_name_arg*

新規オブジェクトの名前またはラベルを指定します (オプション)。

-hbawwpn *wwpn_list*

このホスト・オブジェクトに追加するためにホスト・バス・アダプター (HBA) のワールド・ワイド・ポート名 (WWPN) を指定します。

-force

強制的に作成を行います (オプション)。この引数を指定すると、すべての WWPN の妥当性検査を行いません。

-type *hpux* | *generic*

ホストのタイプを指定するオプション・パラメーター。有効な項目は *hpux* または *generic* です。デフォルトは *generic* です。

説明

このコマンドは、1 つ以上の HBA WWPN を論理ホスト・オブジェクトに関連付けます。このコマンドは新規のホストを作成します。コマンドが完了すると、ID が戻されます。後で **mkvdiskhostmap** コマンドを使用して仮想ディスクをホストにマッピングするときに、このオブジェクトを使用できます。

このコマンドは 1 度のみ発行する必要があります。クラスターはホスト・ゾーン内の WWPN のファブリックをスキャンします。どの WWPN がどのホストに存在するかを判別するのに、クラスター自体をフィルターに掛けてホストにマッピングすることはできないので、**svctask mkhost** コマンドを使用して、ホストを特定する必要があります。

ホストを特定した後、ホストと仮想ディスクの間でマッピングが作成されます。これらのマッピングは、仮想ディスクを、それらがマップされるホストに効果的に提示します。ホスト・オブジェクト内のすべての WWPN は、仮想ディスクにマップされます。

HBA デバイス・ドライバーの中には、ターゲット論理装置番号 (LUN) が判明するまでファブリックにログインしないものもあります。ログインしないと、それらのデバイス・ドライバーの WWPN は候補ポートとして認識されないからです。このコマンドで *force* フラグを指定すれば、WWPN リストの妥当性検査を停止することができます。

svctask mkvdiskhostmap コマンドおよび **svcinfo lshbaportcandidate** コマンドの説明も参照してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5729E リストにある 1 つ以上のコンポーネントが無効です。

呼び出し例

```
svctask mkhost -name hostone -hbawwpn 210100E08B251DD4 -force
```

結果出力

```
Host id [1] successfully created.
```

rmhost

rmhost コマンドは、ホスト・オブジェクトを削除します。

構文

```
▶▶— svctask — — rmhost — — [ -force ] [ host_name | host_id ]
```

パラメーター

-force

強制的に削除を行います (オプション)。この引数は、ホスト・オブジェクトを削除します。まだアクティブな WWPN は、他のホストに追加できます。これで、アクティブな WWPN が未構成 WWPN としてリストされます。

host_name | host_id

削除するホスト・オブジェクトを ID または名前で指定します。

説明

このコマンド実行すると、論理ホスト・オブジェクトを削除します。このホスト・オブジェクトに含まれていた WWPN は、(まだ接続しており、ファブリックにログインしている場合) 未構成の状態に戻ります。 **svcinfolshbaportcandidate** コマンドを実行すると、ホスト・オブジェクトがポートのポートとしてリストされません。

このホストと仮想ディスク間にマッピングがまだ存在する場合、force フラグを指定しない限り、このコマンドは失敗します。このフラグを指定すると、このコマンドは、ホスト・オブジェクトを削除する前にマッピングを削除します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5870E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ホスト・オブジェクトは削除されませんでした。
- CMMVC5871E 1 つ以上の構成済みワールド・ワイド・ポート名がマッピングにあるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmhost host_one
```

結果出力

```
No feedback
```

rmhostport

rmhostport コマンドを使用して、WWPN を既存のホスト・オブジェクトから削除できます。

構文

```
▶— svctask — — rmhostport — — -hbawwpn — wwpn_list — — -force — —▶
```

┌─── host_name ───┐
└─── host_id ───┘

パラメーター

-hbawwpn *wwpn_list*

ホストから削除するポートのリストを指定します。

-force

入力したポートを強制的に削除します。この引数は、指定したホスト上のリストで WWPN を削除します。そのポートは、未構成の WWPN になります。

host_name | host_id

ホスト名またはホスト ID を指定します。

説明

このコマンドは、指定されたホスト・オブジェクトから HBA WWPN のリストを削除します。これらのポートがまだファブリックにログインしている場合、これらのポートは構成解除状態となり、候補 WWPN としてリストされます。**svcinfolshbaportcandidate** コマンドの説明も参照してください。

このホスト・オブジェクトにマップされたすべての仮想ディスクが、ポートから自動的にマップ解除されます。

ホストの HBA を置換する: svcinfolshbaportcandidate コマンドを実行して、HBA ポートの候補をリストします。ホスト・オブジェクトに追加可能な HBA ポートのリストが表示されます。これらの 1 つ以上が新規 HBA に属する 1 つ以上の WWPN に対応します。HBA を置換したホストに対応するホスト・オブジェクトを見つけてください。次のコマンドは、定義済みのすべてのホスト・オブジェクトをリストします。

```
svcinfolshost
```

現在ホストに割り当てられている WWPN をリストするには、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolshost <hostobjectname>
```

ここで、<hostobjectname> は、ホスト・オブジェクトの名前です。

次のコマンドを実行して、既存のホスト・オブジェクトに新規ポートを追加します。

```
svctask addhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs  
separated by :> <hostobjectname/ID>
```

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> と <hostobjectname/id> は、この前のステップにリストされたものに対応します。

次のコマンドを実行して、ホスト・オブジェクトから古いポートを削除します。

```
svctask rmhostport -hbawwpn <one or more existing WWPNs  
separated by :> <hostobjectname/ID>
```

ここで、<one or more existing WWPNs separated by :> は、この前のステップにリストされ、置換された古い HBA に属する WWPN に対応します。ホスト・オブジェクトと VDisk の間にマッピングがある場合は、新しい WWPN に自動的に適用されます。このため、ホストは、VDisk を前と同じ SCSI LUN として認識します。動的再構成の詳細については、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバー ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5867E このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5871E 1 つ以上の構成済みワールド・ワイド・ポート名がマッピングにあるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。
- CMMVC5873E 一致するワールド・ワイド・ポート名がないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmhostport -hbawwpn 210100E08B251DD4 host_one
```

結果出力

```
No feedback
```

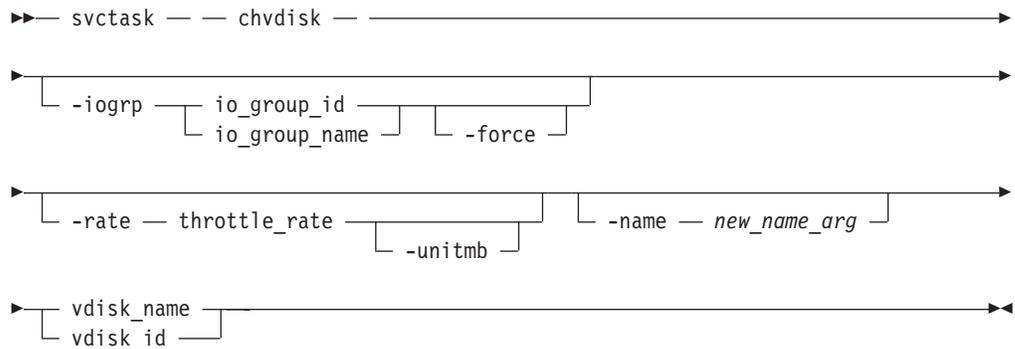

第 8 章 仮想ディスク・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで仮想ディスク・オプションを操作できます。

chvdisk

chvdisk コマンドは、仮想ディスクのいくつかのプロパティ（名前、I/O グループ、I/O 制御率など）を変更するために使用します。

構文



パラメーター

-iogrp *io_group_id* | *io_group_name*

仮想ディスクの移動先の新規 I/O グループを、ID または名前で指定します（オプション）。**-force** フラグは、I/O グループに対して VDisk を強制的に除去させるために、このパラメーターと共に使用することができます。

-rate *throttle_rate* [-unitmb]

仮想ディスクの I/O 制御率を設定します（オプション）。デフォルト装置は I/O ですが、**-unitmb** 引数と併用して MBps で指定することができます。

-name *new_name_arg*

仮想ディスクに割り当てる新しい名前を指定します（オプション）。

-force

I/O グループから強制的に VDisk を除去することを指定します。このパラメーターは、**-iogrp** と一緒にしか使用できません。

注意:

-force フラグは、VDisk の内容を破壊することがあります。**-force** フラグを使用していて、SAN ボリューム・コントローラーがすべての書き込みデータをキャッシュからデステージするのが不可能な場合、その結果として、キャッシュ・データの消失によって VDisk の内容が破壊されます。

vdisk_name | **vdisk_id**

変更する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

注: **-iogrp**、**-rate**、および **-name** パラメーターは、相互に排他的です。このパラメーターは、1 つのコマンド行につき 1 つだけ指定できます。

説明

このコマンドは、仮想ディスクの単一プロパティを変更します。一度に 1 つのプロパティを変更できます。よって、名前と I/O グループを変更したい場合は、コマンドを 2 回発行する必要があります。

新規の名前またはラベルを指定できます。変更後すぐに、その新しい名前を使用して仮想ディスクを参照できます。

この仮想ディスクを関連付ける I/O グループを変更できます。ただし、I/O グループを変更する場合は、最初に現行の I/O グループ内のノードのキャッシュをフラッシュして、すべてのデータをディスクに書き込む必要があります。この操作を行う前に、ホスト・レベルでの I/O 操作は中断してください。

重要: オフラインの I/O グループには VDisk を移動しないでください。データを失わないようにするため、VDisk を移動する前に、I/O グループがオンラインになっていることを確認してください。

この仮想ディスクに関して受け入れる I/O トランザクションの量に限度を設定することができます。この速度は、1 秒当たりの I/O 数、または MBps で設定できます。デフォルトでは、仮想ディスクの作成時に I/O 制御率は設定されません。

最初の作成時、仮想ディスクにスロットルは適用されません。-rate パラメーターを使用すれば、これは変更できます。仮想ディスクを非スロットル状態に戻すには、-rate パラメーターで値 0 (ゼロ) を指定します。

VDisk を新しい I/O グループにマイグレーションすると、クラスター内のノード間で、ワークロードのバランスを手動で取ることができます。1 対のノードのワークロードが過剰になり、他の対が過小になっていることがあります。この手順を実行して、1 つの VDisk を新規 I/O グループにマイグレーションしてください。必要に応じて、他の VDisk についてもこの操作を繰り返します。

重要:

この手順には中断を伴います。手順を実行中に VDisk へのアクセスが失われます。

どのような場合でも、オフラインの I/O グループには VDisk を移動しないでください。データを失わないようにするため、VDisk を移動する前に、I/O グループがオンラインになっていることを確認してください。

VDisk をマイグレーションする前に、移動対象の VDisk が提示するそれぞれの vpath について、SDD 構成を更新して当該 vpath を移動する必要があります。この操作を行わないと、データが破壊されることがあります。特定のホスト・オペレーティング・システムの SDD を動的に構成する方法については、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバ ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

VDisk を新規 I/O グループにマイグレーションする場合は、その VDisk の入出力操作をすべて静止してください。どのホストがこの VDisk を使用しているのかを確認する必要があるかもしれません。この VDisk を使用する FlashCopy マッピングまたはメトロ・ミラー関係を停止または削除する必要があります。VDisk が関係や

マッピングの一部となっているかどうかを確認するには、**svcinfolsvdisk** **<vdiskname/id>** コマンドを実行します。ここで、**<vdiskname/id>** は、VDisk の名前または ID です。

「**FC_id**」フィールドおよび「**RC_id**」フィールドを見つけてください。これらのフィールドがブランクでなければ、VDisk はマッピングか関係の一部です。このマッピングまたは関係を削除、停止する方法については、『管理対象ディスク・コマンド』を参照してください。次のコマンドを実行して、VDisk をマイグレーションします。

```
svctask chvdisk -iogrp <newiogrpname/id> <vdiskname/id>
```

手順に従って、新しい vpath を発見し、各 vpath が正しい番号とパスを提示していることを確認します。ホストのオペレーティング・システムに関連して、SDD を動的に構成する方法については、「*IBM TotalStorage* サブシステム・デバイス・ドライバ ユーザーズ・ガイド」を参照してください。

起こりうる障害

- CMMVC5756E オブジェクトはすでにマップされているため、要求を実行できません。
- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5832E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5833E I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5834E このグループはリカバリー I/O グループのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。I/O グループを変更するには、force オプションを使用してください。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5853E グループに問題があったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グループに属していないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6032E 入力したパラメーターのうち 1 つ以上がこの操作には無効なので、操作は実行されませんでした。

- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5835E コマンドに指定されたオブジェクトが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでした。
- CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) はリモート・コピー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5853E グループに問題があったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グループに属していないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えています。

呼び出し例

```
svctask expandvdisksize -size 2048 -unit b -mdisk
mdisk0:mdisk1 -fmt disk vdisk1
```

結果出力

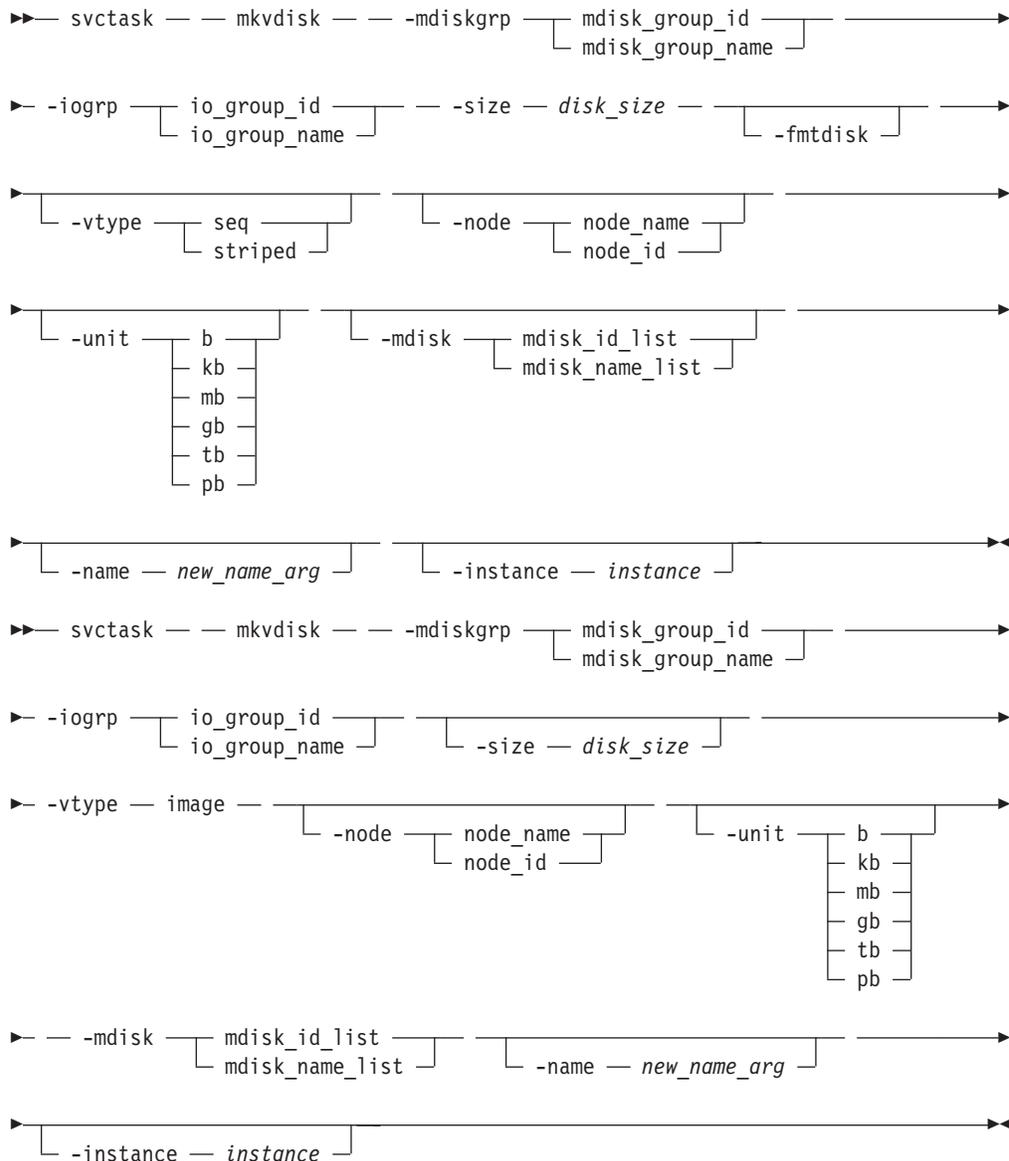
```
No feedback
```

mkvdisk

mkvdisk コマンドは、順次、ストライプ、またはイメージ・モードの仮想ディスク・オブジェクトを作成します。これらのオブジェクトは、いったんホスト・オブジェクトにマップすると、ホストが I/O 操作を行えるディスク・ドライブとして見なされます。

注: 最初の構文図は、順次またはストライプ・モードの仮想ディスクの作成を表現します。2 番目の構文図は、イメージ・モードの仮想ディスクの作成を表現します。

構文



パラメーター

-mdiskgrp *mdisk_group_id* | *mdisk_group_name*

この仮想ディスクを作成する際に使用する管理対象ディスク・グループを指定します。

-iogrp *io_group_id* | *io_group_name*

この仮想ディスクを関連付ける I/O グループ (ノード・ペア) を指定します。

-size *disk_size*

単位値と共に使用する、仮想ディスクの容量を指定します。バイトの最小の細分度は 512 です。すべての容量は、この値に切り上げられます。ただし、一部のみが使用されている場合でもエクステント全体が予約されます。容量として 0 を指定できます。バイトで示すサイズは、論理ブロック・アドレス (LBA) の倍

数でなくてはなりません。イメージ・モード・ディスクの作成時に、このパラメーターが指定されていない場合は、管理対象ディスクの容量全体が使用されません。

-fmtdisk

仮想ディスクは、使用する前にフォーマットしなくてはならないことを指定します (オプション)。-fmtdisk 引数は、この VDiskの作成後に、VDisk を構成しているエクステントをフォーマットします (オール・ゼロに設定します)。このパラメーターが使用されている場合、コマンドは非同期的に完了し、**svcinfo** コマンドで状況を照会できます。このフラグは、イメージ・モード VDisk の作成時には使用できません。

-vtype *seq | striped | image*

バーチャライゼーション・ポリシーを指定します (オプション)。デフォルトのバーチャライゼーション・タイプは、striped (ストライプ) です。詳しくは、下の注を参照してください。

-node *node_id | node_name*

この仮想ディスクに対する I/O 操作用に優先ノード ID またはノード名を指定します (オプション)。-node 引数を使用して、優先アクセス・ノードを指定できます。サブシステム・デバイス・ドライバ (SDD) には、この引数は必須です。この引数を指定しないと、SAN ボリューム・コントローラーはデフォルトを選択します。

-unit *b | kb | mb | gb | tb | pb*

容量 (-size) と共に使用するデータ単位を指定します (オプション)。

-mdisk *mdisk_id_list | mdisk_name_list*

1 つ以上の管理対象ディスクのリストを指定します。この引数は、-vtype と共に使用し、選択したポリシーによって、さまざまな異なる使用方法があります。詳しくは、下の注を参照してください。

-name *new_name_arg*

新規仮想ディスクに割り当てる名前を指定します (オプション)。

-instance *instance*

VDisk インスタンス番号。この値は、自動的に割り当てられる値をオーバーライドし、**vdiskhostmap** の VDisk_UID など、後にアルゴリズムにより割り当てられるその他の数値に影響します。

説明

このコマンドは、新規の仮想ディスク・オブジェクトを作成します。このコマンドを使用して、さまざまなタイプの仮想ディスク・オブジェクトを作成できます。そのため、もっとも複雑なコマンドの 1 つです。

どの管理対象ディスク・グループが VDisk のストレージを提供するかを決定する必要があります。使用可能な管理対象ディスク・グループおよび各グループのフリー・ストレージ量をリストするには、**svcinfo lsmdiskgrp** コマンドを使用します。

VDisk をどの I/O グループに割り当てるかを決定します。この決定により、クラスター内のどの SAN ボリューム・コントローラー・ノードがホスト・システムからの入出力要求を処理するかが決まります。I/O グループが複数ある場合は、すべて

の SAN ボリューム・コントローラー・ノードにとって入出力ワークロードが均等に共用されるように VDisk を I/O グループに分散します。I/O グループの表示、および各 I/O グループに割り当てられている仮想ディスクの数量を表示するには、**svcinfo lsiogrp** コマンドを使用します。

注: 複数の I/O グループがあるクラスターでは、MDisk グループの VDisk が複数の I/O グループに分かれていることはふつうです。FlashCopy を使用すると、ソースと宛先の VDisk が同一の I/O グループに属しているかどうかは無関係に VDisk のコピーを作成できます。ただし、クラスター内メトロ・ミラーを使用する予定の場合は、マスター VDisk と補助 VDisk の両方が同じ I/O グループに属していることを確認してください。

バーチャライゼーション・ポリシーは、作成する仮想ディスクのタイプを制御します。これらのポリシーには、**striped** (ストライプ) と **seq** (順次) と **image** (イメージ) があります。

Striped

これはデフォルト・ポリシーです。**-vtype** を指定しないと、このポリシーがデフォルト書式で使用されます。つまり、管理対象ディスク・グループ内のすべての管理対象ディスクが、仮想ディスクの作成に使用されます。ストライピングは、エクステント・レベルで循環式に行われ、グループ内の各管理対象ディスクの 1 エクステントが使用されます。たとえば、10 管理対象ディスクが存在する管理対象ディスク・グループは、それぞれの管理対象ディスクの 1 つのエクステントを使用し、次に最初の管理対象の 11 番目のエクステントを使用し ... と続きます。

-mdisk 引数も指定すると、ストライプ・セットとして使用する管理対象ディスクのリストを指定できます。指定できるのは、同じ管理対象ディスク・グループに属する 2 つ以上の管理対象ディスクです。ストライプ・セットで、同じ循環アルゴリズムが使用されます。ただし、リストで、単一の管理対象ディスクを複数回指定できます。たとえば、エクステントから **-m 0:1:2:1** と入力した場合、それは次の保守ディスクからとなります：
0、1、2、1、0、1、2、...**-mdisk** 引数で指定されたすべての MDisk は、管理対象モードでなければなりません。

容量が 0 でもかまいません。

Seq (Sequential)

このポリシーは、**-mdisk** フラグと、その引数として単一管理対象ディスクを必要とします。MDisk は、管理対象モードでなければなりません。

このポリシーは、特定の管理対象ディスクのエクステントのみを使用して仮想ディスクを作成します (管理対象ディスクに十分なフリー・エクステントがあることが前提です)。

Image

イメージ・モード仮想ディスクは、管理対象ディスクにすでにデータが存在している場合に、事前に仮想化されたサブシステムから使用できます。イメージ・モード仮想ディスクを作成すると、それは作成元の管理対象ディスク (以前は非管理対象ディスク) に直接対応するので、仮想ディスク論理ブロック・アドレス (LBA) x は、管理対象ディスク LBA x に等しくなります。このコマンドを使用して、仮想化しないディスクをクラスターの制御下に置

いて使用することができます。その後、データを単一管理対象ディスクからマイグレーションできます。この時点で、仮想ディスクはイメージ・モードの仮想ディスクではなくなります。

イメージ・モードの VDisk を、ストライプまたは順次 VDisk などの他のタイプの VDisk がすでにある mdiskgrp に追加してかまいません。

注: イメージ・モードの VDisk は、少なくとも 512 バイトなければならず、容量が 0 ではいけません。つまり、イメージ・モードの VDisk に対して指定できる最小サイズは、追加先の MDisk グループ・エクステンション・サイズと同じであることが必要で、最小値は 16MB です。

非管理のモードを持つ MDisk を指定するには、-mdisk フラグを使用する必要があります。-fmtdisk フラグは、イメージ・モード VDisk の作成時には使用できません。

このコマンドは、新規に作成された VDisk の ID を戻します。

重要: オフラインの I/O グループに VDisk を作成しないでください。データを失わないようにするため、VDisk を作成する前に、I/O グループがオンラインになっていることを確認してください。このことは、特に VDisk を再作成して、同一のオブジェクト ID に割り当てる場合に注意してください。

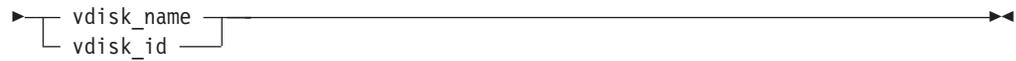
注意:

イメージ・モード・ディスクを作成するためには、クォーラム・ディスクがすでにクラスター内に作成されていなければなりません。それは、イメージ・モード・ディスクを使用してクォーラム・データを保持することができないからです。詳しくは、「*IBM TotalStorage SAN ボリューム・コントローラー: 構成ガイド*」の『クォーラム・ディスクの作成』を参照してください。

起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5826E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5827E 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。
- CMMVC5828E I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。
- CMMVC5829E 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。



パラメーター

-host *host_id* | *host_name*

仮想ディスクをマップするホストを、ID または名前で指定します。

-scsi *scsi_num_arg*

指定したホスト上のこの仮想ディスクに割り当てる SCSI LUN ID を指定します (オプション)。 *scsi_num* 引数には、指定したホスト上の VDisk に割り当てる SCSI LUN ID を指定します。特定の HBA 上の次に使用可能な SCSI LUN ID を割り当てるために、ホスト・システムをチェックする必要があります。これはオプション・フラグであり、これを指定しないと次の使用可能な SCSI LUN ID がホストに与えられます。

-force

強制的に作成を行う *force* フラグを指定します (オプション)。

vdisk_name | **vdisk_id**

マップする仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

説明

このコマンドは、仮想ディスクと指定のホスト間の新規のマッピングを作成します。ホストには、仮想ディスクは、直接ホストに接続しているように見えます。ホストが仮想ディスクに対して I/O トランザクションを実行できるのは、このコマンドが実行された後のみです。

オプションで、SCSI LUN ID をマッピングに割り当てることができます。ホストの HBA が、ホストに接続された装置をスキャンする際、HBA はホストのファイバー・チャンネル・ポートにマップされたすべての仮想ディスクを発見します。装置が見つかり、それぞれの装置に ID (SCSI LUN ID) が割り振られます。たとえば、最初に検出されたディスクには SCSI LUN 1、などが割り振られます。必要に応じて SCSI LUN ID を割り当てることで、HBA が仮想ディスクを発見する順序を制御できます。SCSI LUN ID を指定しなくても、そのホストにすでに存在するマッピングを指定すれば、クラスターは自動的に次の有効な SCSI LUN ID を割り当てます。

HBA デバイス・ドライバーの中には、SCSI LUN ID 内にギャップを検出すると停止するものもあります。次に例を示します。

- 仮想ディスク 1 が、SCSI LUN ID 1 をもつホスト 1 にマップされている。
- 仮想ディスク 2 が、SCSI LUN ID 2 をもつホスト 1 にマップされている。
- 仮想ディスク 3 が、SCSI LUN ID 4 をもつホスト 1 にマップされている。

デバイス・ドライバーが HBA をスキャンする際、仮想ディスク 1 と 2 を発見すると停止しなくてはなりません。これは、ID 3 でマップされた SCSI LUN が存在しないからです。よって、必ず SCSI LUN ID が連続しているようにしてください。

複数の VDisk の割り当てを作成することができます。通常は、複数のホストがディスクにアクセスできる場合は破損が起こりやすいため、複数 VDisk のホストへの割り当ては使用すべきではありません。ただし、IBM の SAN File System (SFS) などの特定の マルチパス環境では、VDisk を複数のホストにマップする**必要があります**。このためには、コマンド行インターフェースを使用して、`-force` フラグを使用する必要があります。次に例を示します。

```
svctask mkvdiskhostmap -host host1 -force 4
```

```
svctask mkvdiskhostmap -host host2 -force 4
```

上記の例では、ホストの VDisk へのマッピングを VDisk 4 について 2 つ作成 (host1 および host2 にマップ) します。`-force` フラグを省略すると、すでに VDisk がホストにマップされている場合は、マッピングが失敗することに注意してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5843E VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持っていないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5844E SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5876E マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5877E SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5878E この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5879E この VDisk はすでにこの SCSI LUN を使用してこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5880E VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。
- CMMVC6071E このアクションの結果、複数マッピングが作成されます。これを確実に行いたい場合は、`-force` フラグを使用してください。

呼び出し例

```
svctask mkvdiskhostmap -host host1 -scsi 1 5
```

結果出力

rmvdisk

rmvdisk コマンドは仮想ディスクを削除します。仮想ディスクとホストの間にマッピングが存在していて、`force` フラグを指定しない場合、コマンドは失敗します。

構文

```
svctask -- rmvdisk [-force] vdisk_id vdisk_name
```

パラメーター

-force

強制的に削除を行います (オプション)。この引数は、ホストと VDisk 間のすべてのマッピングと、この VDisk 用に存在するすべての FlashCopy マッピングを削除します。

vdisk_id | vdisk_name

削除する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

説明

このコマンドは、既存の管理対象モードの仮想ディスク、または既存のイメージ・モードの仮想ディスクを削除します。この仮想ディスクを構成するエクステントは、VDisk が管理対象モードにある場合、管理対象ディスク・グループの使用可能なフリー・エクステントのプールに戻されます。

重要: 仮想ディスク上のすべてのデータは失われます。仮想ディスク (および仮想ディスク上のすべてのデータ) が不要になり、このコマンドを実行する場合は、注意が必要です。

この仮想ディスクとホスト間にマッピングがまだ存在する場合、`force` フラグを指定しない限り、削除は失敗します。`force` フラグを指定すると、残っているすべてのマッピングは削除され、その後仮想ディスクが削除されます。

管理対象モードの仮想ディスクの削除

このコマンドを使用して管理対象モードの仮想ディスクを削除すると、仮想ディスク上のすべてのデータが削除されます。仮想ディスクを構成するエクステントは、管理対象ディスク・グループ内の空きエクステントのプールに戻されます。

仮想ディスクの FlashCopy マッピングまたはホスト・マッピングが存在していると、削除は失敗します。`force` フラグを使用して削除を強制することができます。`force` フラグを使用してマッピングを削除すると、仮想ディスクが削除されます。

仮想ディスクが **svctask migratetoimage** コマンドでイメージ・モード仮想ディスクへのマイグレーション処理中の場合、`force` フラグを使用しない限り削除は失敗します。この場合、マイグレーションは停止し、仮想ディスクが削除されます。仮想ディスク (および仮想ディスク上のすべてのデータ) が不要になり、このコマンドを実行する場合は、注意が必要です。

イメージ・モードの仮想ディスクの削除

このコマンドを使用してイメージ・モード仮想ディスクを削除すると、コントローラ論理装置のデータは、削除される前のイメージ・モード仮想ディスク上にあったデータと整合します。つまり、高速書き込みデータがコントローラ論理装置に移動されます。force フラグを使用すると、データはコントローラ論理装置に移動されません。

仮想ディスク上に仮想メディア・エラーがあると、このコマンドは失敗します。force フラグを使用すれば削除を強制することができますが、このオプションはデータ保全性の問題を引き起こすことがあります。

注: 仮想メディア・エラーは、1 つのディスク (ソース) から別のディスク (ターゲット) にコピーするときに発生します。ソースを読み取る場合は、メディア・エラーがあることを検出する必要があります。その場合、同じ 2 つのデータのコピーを入手して、ターゲット・ディスクでメディア・エラーをシミュレートする必要があります。そのメディア・エラーをターゲット・ディスクでシミュレートするには、ターゲット・ディスク上に仮想メディア・エラーを作成します。

仮想ディスクの FlashCopy マッピングまたはホスト・マッピングが存在していると、削除は失敗します。force フラグを使用して削除を強制することができます。force フラグを使用してマッピングを削除すると、仮想ディスクが削除されます。その仮想ディスクの高速書き込みキャッシュに、デステージされていないデータが存在する場合、仮想ディスクの削除は失敗します。force フラグを指定した場合、高速書き込みキャッシュ内のデステージされていないデータは、削除されます。イメージ・モードの仮想ディスクを削除すると、その仮想ディスクへ関連付けられている管理対象ディスクは、管理対象ディスク・グループから排出されます。その管理対象ディスクのモードは「unmanaged」に戻ります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5840E 仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされているか、または FlashCopy かりモート・コピー・マッピングの一部であるため、削除されませんでした。
- CMMVC5841E 仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除されませんでした。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmvdisk -force vdisk5
```

結果出力

```
No feedback
```

rmvdiskhostmap

rmvdiskhostmap コマンドは、仮想ディスクからホストへの既存のマッピングを削除します。この場合、指定したホストでの I/O トランザクションで、仮想ディスクがアクセス不能になります。

構文

```
▶— svctask — — rmvdiskhostmap — — -host ————┬── host_id ───▶  
└── host_name ─┘  
  
└── vdisk_id ───▶  
└── vdisk_name ─┘
```

パラメーター

-host *host_id* | *host_name*

仮想ディスクとのマップから除去するホストを、ID または名前で指定します。

vdisk_id | **vdisk_name**

マップから除去する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

説明

このコマンドは、指定された仮想ディスクとホスト間の既存のマッピングを削除します。このコマンドにより、仮想ディスクを、特定のホストでの I/O トランザクションでアクセスできないようにすることができます。

このコマンドを実行すると、ホストは、仮想ディスクが削除されたか、もしくはオフラインであると認識するので、このコマンドを実行する場合は注意が必要です。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmvdiskhostmap -host host1 vdisk8
```

結果出力

```
No feedback
```

shrinkvdisksize

shrinkvdisksize コマンドを使用して、VDisk を、指定した容量だけ縮小することができます。

構文

```
svctask - - shrinkvdisksize - - -size - disk_size - - - - - -  
└─ vdisk_name ────────────────────────────────────────────────────┘  
  └─ vdisk_id ────────────────────────────────────────────────────┘
```

パラメーター

-size *disk_size*

このコマンド行は、サイズを、指定された容量分だけ削減します。

vdisk_name | **vdisk_id**

変更する仮想ディスクを、ID または名前で指定します。

説明

このコマンドは、特定の仮想ディスクに割り当てられた容量を、指定された量だけ削減します。デフォルトの容量は、MB で表されます。

VDisk は、必要に応じてサイズを縮小できます。ただし、使用中のデータが VDisk に含まれている場合は、どのような場合でも、データを最初にバックアップせずに **VDisk を縮小することはやめてください**。SAN ボリューム・コントローラーは、VDisk に割り振られている 1 つ以上のエクステントを一部削除して、随意に VDisk の容量を縮小します。除去されるエクステントを制御することはできないため、除去されるスペースが未使用のスペースであるかは推測できません。

重要: この機能は、FlashCopy マッピングまたはメトロ・ミラー関係を作成するとき、ターゲットまたは補助 VDisk をソースまたはマスター VDisk と同じサイズにするためののみ 使用してください。さらに、この操作を実行する前にターゲット VDisk がいずれかのホストにマップされないようにしてください。

重要: その仮想ディスクにデータが含まれる場合、そのディスクは縮小できません。

注: オペレーティング・システムまたはファイル・システムの中には、パフォーマンス上の理由から、それらのシステムがディスクの外部端と見なされる部分を使用するものもあります。このコマンドは、FlashCopy ターゲット仮想ディスクを、ソースと同じ容量にまで縮小することを目的としています。

VDisk がいずれのホスト・オブジェクトにもマップされていないことを確認します。VDisk がマップされていると、データが表示されます。**svctask lsvdisk -bytes <vdiskname>** コマンドを使用すると、ソースまたは マスターの VDisk の容量を正確に確認できます。**svctask shrinkvdisksize -size <capacitytoshrinkby> -unit <unitsforreduction> <vdiskname/ID>** コマンドを実行して、必要な量だけ VDisk を縮小してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5836E 仮想ディスク (VDisk) はロックされているため、縮小されませんでした。
- CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) はリモート・コピー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5839E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでした。
- CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6010E フリー・エクステン트가不十分なため、コマンドを完了できませんでした。

呼び出し例

```
svctask shrinkvdisksize -size 2048 -unit b vdisk1
```

結果出力

```
No feedback
```

第 9 章 管理対象ディスク・グループ・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで管理対象ディスク・グループ・オプションを操作できます。

addmdisk

addmdisk コマンドを使用して、1 つ以上の管理対象ディスクを既存の管理対象ディスク・グループに追加できます。

構文

```
svctask -- addmdisk -- -mdisk [mdisk_id_list | mdisk_name_list]
                                [mdisk_group_id | mdisk_group_name]
```

パラメーター

-mdisk *mdisk_id_list* | *mdisk_name_list*

グループに追加する 1 つ以上の管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

mdisk_group_id | **mdisk_group_name**

ディスクの追加先である管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、ユーザーがグループに指定した管理対象ディスクを追加します。ディスクは、管理対象ディスク ID または管理対象ディスク名で指定できます。

管理対象ディスクは、非管理モードでなくてはなりません。すでにグループに所属するディスクは、現行のグループから削除されるまでは、別のグループに追加することはできません。管理対象ディスクをグループから削除できるのは、次の場合です。

- 管理対象ディスクに、仮想ディスクが使用するエクステントが含まれていない場合
- 最初に、使用中のエクステントを、グループ内の他のフリーなエクステントにマイグレーションできる場合

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5819E この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5820E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5821E リストに十分な MDisks が含まれていないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

- CMMVC5822E リストに含まれている MDisk の数が多過ぎるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask addmdisk -mdisk mdisk13:mdisk14 Group0
```

結果出力

```
No feedback
```

chmdiskgrp

chmdiskgrp コマンドは、管理対象ディスク・グループに割り当てられた名前またはラベルを変更するために使用します。

構文

```
▶▶— svctask — — chmdiskgrp — — -name — new_name_arg — —————▶▶
▶┌ mdisk_group_id —————▶▶
  └─┬─ mdisk_group_name ────┘
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

管理対象ディスク・グループの新しい名前を指定します。

mdisk_group_id | mdisk_group_name

変更する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、特定の管理対象ディスク・グループに割り当てられた名前またはラベルを変更します。変更後すぐに、その新しい名前を使用して管理対象ディスク・グループを参照できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5817E 名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名前変更されませんでした。

呼び出し例

```
svctask chmdiskgrp -name testmdiskgrp Group0
```

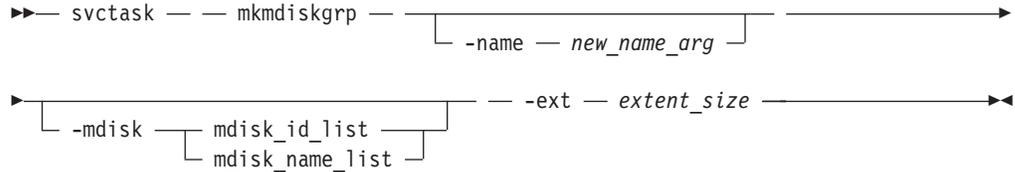
結果出力

```
No feedback
```

mkmdiskgrp

mkmdiskgrp コマンドを使用して、新規の管理対象ディスク・グループを作成できます。管理対象ディスク・グループは、管理対象ディスクの集合です。それぞれのグループは、エクステントと呼ばれるチャンクに分割されます。これらのエクステントは、仮想ディスクの作成に使用されます。

構文



パラメーター

-name *new_name_arg*

新規グループに割り当てる名前を指定します (オプション)。

-mdisk *mdisk_id_list* | *mdisk_name_list*

グループに追加する管理対象ディスクの ID または名前を指定します (オプション)。**-mdisk** フラグを指定しなければ、空の MDisk グループを作成することができます。

-ext *extent_size*

このグループのエクステントのサイズを MB で指定します。**-ext** 引数には、次のいずれかの値を指定できます: 16、32、64、128、256、または 512 (MB)。

説明

このコマンドは、新規グループを作成し、(指定された場合は) 名前を割り当てます。コマンドが正常に実行されると、新規グループの ID が戻されます。

オプションで、このグループに追加する管理対象ディスクのリストを指定することができます。これらの管理対象ディスクは、別のグループに属することはできず、非管理対象モードでなくてはなりません。適切な候補のリストを入手するには、**svcinfolsmdiskcandidate** コマンドを使用します。

このグループのメンバーであるそれぞれの管理対象ディスクは、エクステントに分割されます。これらのディスクで使用可能なストレージは、このグループの有効なエクステントのプールに加えられます。このグループから仮想ディスクを作成する場合は、仮想ディスクの作成時に選択されたポリシーに従って、プール内のフリー・エクステントが使用されます。

後でこのグループに追加されるすべての管理対象ディスクは、グループに割り当てられたサイズと同じサイズのエクステントに分割されます。

エクステント・サイズを選択するとき、このグループ内の仮想化するストレージの量も考慮してください。システムは、仮想ディスクと管理対象ディスクの間のエクステントのマッピングを維持します。SAN ボリューム・コントローラーは、有限数のエクステント (4 194 304) のみを管理できます。1 つのクラスターが仮想化できるエクステント数は、次のとおりです。

- 64 TB - すべての管理対象ディスク・グループのエクステント・サイズが 16 MB の場合。
- 2 PB - すべての管理対象ディスク・グループのエクステント・サイズが 512 MB の場合。

注: イメージ・モードの VDisk を作成する場合、イメージ・モードの VDisk が MDisk 自体より小さい可能性があるため、MDisk グループは、(MDisk の容量ではなく) イメージ・モードの VDisk のサイズ分だけ容量が増加します。エクステントがイメージ・モードの VDisk もしくは MDisk からグループ内の別の場所にマイグレーションされる場合、VDisk はストライプされた VDisk になり (たとえば、もうイメージ・モードではない)、MDisk 上の余分の容量 (たとえば、イメージ・モード VDisk の一部ではなかった容量など) が使用可能になるため、この時点で使用可能な容量が増加する可能性があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5815E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでした。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask mkmdiskgrp -mdisk mdisk13 -ext 512
```

結果出力

```
MDisk Group, id [1], successfully created
```

rmmdisk

rmmdisk コマンドは、管理対象ディスク・グループから管理対象ディスクを削除します。このコマンドには幾つかの制約があります。

構文

```

▶▶▶ svctask — — rmmdisk — — -mdisk —————▶
      |-----|
      | mdisk_id_list |
      | mdisk_name_list |
      |-----|

▶ |-----| |-----| ▶
  |-----| |-----|
  | -force | | mdisk_group_id |
  |-----| | mdisk_group_name |
  |-----| |-----|

```

パラメーター

-mdisk *mdisk_id_list* | *mdisk_name_list*

グループから削除する 1 つ以上の管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

-force

force フラグを指定します (オプション)。-**force** フラグを指定せず、指定された 1 つ以上の管理対象ディスクのエクステントから作成された仮想ディスクが存在する場合、コマンドは失敗します。-**force** フラグを指定し、指定された 1 つ以上の管理対象ディスクのエクステントから作成された仮想ディスクが存在する場合、グループ内に十分なフリー・エクステントがあれば、ディスク上のデータはグループ内の他のディスクにマイグレーションされます。この作業は、長い時間がかかる場合があります。

mdisk_group_id | mdisk_group_name

ディスクを削除する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンド、グループからの管理対象ディスク (複数も可) の除去を試みます。

グループから管理対象ディスクを削除できるのは、管理対象ディスクに仮想ディスクが使用しているエクステントが含まれていない場合のみです。使用中のエクステントがあり、**force** フラグを指定しないと、コマンドは失敗します。

重要: 削除するディスクの電源がすでにオフになっている場合、すでに削除されている場合、または電源異常の問題がある場合は、マイグレーションは、保留状態となり、MDisk がオンラインに戻るまでは完了しません。この場合、グループに含まれている MDisk リストから MDisk が削除されないことも意味します。

ディスクを意図的に削除した場合は、グループ全体を削除することが MDisk を削除する唯一の方法です。

ディスクが属する MDisk グループから削除するまでは、いずれのコントローラー LUN も破棄しないでください。

rmmdisk コマンドは、このコマンドの継続期間中に Mdisk グループ内の他のディスクに十分なフリー・エクステントがないと失敗します。この問題を回避するために、**rmmdisk** が完了するまではエクステントを使用する新規のコマンドを発行しないでください。

force フラグを指定すると、使用中のエクステントをグループ内の他のフリー・エクステントにマイグレーションする試みが行われます。グループ内に十分なフリー・エクステントがない場合、**force** フラグを指定した場合でもコマンドは失敗します。

それでもなお、グループからディスクを削除したい場合は、次のオプションがあります。

1. 管理対象ディスク上の指定されたエクステントを使用している仮想ディスクを削除する。
2. グループに管理対象ディスクを追加し、-**force** フラグを指定してコマンドを再実行する。

データを管理対象ディスクからマイグレーションする場合、コマンドが完了するまでかなりの時間がかかる場合があります。コマンド事態が成功コードと共に戻り、マイグレーションが進行中であることを通知します。マイグレーションが完了する

とイベントがログに記録され、この時点でディスクはグループから削除されます。また、**svcinfolismigrate** コマンドを使用して、アクティブなマイグレーションの進行状況を確認することもできます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5823E この MDisk は別の MDisk グループの一部であるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。
- CMMVC5824E この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、その MDisk グループから削除されませんでした。
- CMMVC5825E 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。強制削除が必要です。
- CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC6006E リソースが使用中だったため、管理対象ディスク (MDisk) は削除されませんでした。
- CMMVC6015E 削除要求はすでに進行中です。

呼び出し例

```
svctask rmmddisk -mdisk mdisk12 -force Group3
```

結果出力

```
No feedback
```

rmmddiskgrp

rmmddiskgrp コマンドは管理対象ディスク・グループを削除します。このコマンドは、実行されると、指定された管理対象ディスク・グループを文字通り破棄するので、使用する場合には注意が必要です。

構文

```
▶▶ svctask -- rmmddiskgrp -- [ -force ] [ mdisk_group_id | mdisk_group_name ] ▶▶
```

パラメーター

-force

強制的に削除を行う **force** フラグを指定します (オプション)。-force フラグが指定されると、すべての仮想ディスクと仮想ディスクからホストへのマッピングが削除されます。グループ内のすべての管理対象ディスクが除去され、そのグループ自体も削除されます。

mdisk_group_id | mdisk_group_name

削除する管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された管理対象ディスク・グループを破棄します。このグループから作成された仮想ディスクがある場合、もしくはグループ内に管理対象ディスクがある場合は、force フラグが必要です。このフラグを指定しないと、コマンドは失敗します。

管理対象ディスク・グループの削除は、本質的にはクラスターまたはクラスターの一部を破棄することと同じです。管理対象ディスク・グループは、バーチャライゼーションを制御する上での中心点です。仮想ディスクは、グループ内の使用可能なエクステントを利用して作成されます。仮想ディスク・エクステントと管理対象ディスク・エクステント間のマッピングは、グループ単位で制御されます。よって、グループを削除すると、このマッピングも削除されます。このマッピングは後で復元することはできません。

重要: このコマンドは、一部が非同期的に完了します。コマンドが戻る前に、すべての仮想ディスク、ホスト・マッピング、およびコピー・サービスが削除されます。その後、管理対象ディスク・グループの削除は非同期的に完了します。

重要: コマンドを発行する前に、本当にすべてのマッピング情報を破棄したいかを確認してください。管理対象ディスク・グループを破棄した後に、仮想ディスクに保管されているデータをリカバリーすることはできません。

force フラグを指定すると、具体的には次のようなアクションが生じます。

1. このグループ内にまだエクステントを使用している仮想ディスクがある場合、そのディスクとあらゆるホスト・オブジェクト間のすべてのマッピングは削除されます。
2. グループ内に管理対象ディスクがある場合、すべてのディスクはグループから削除されます。これらのディスクは、非管理対象状態に戻ります。
3. グループが削除されます。

重要: force フラグを使用して、クラスター内のすべての管理対象ディスク・グループを削除すると、ノードをクラスターに追加した直後の状態に戻ります。仮想ディスク上で保持されたすべてのデータは失われ、リカバリー不能となります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5818E グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されませんでした。

呼び出し例

```
svctask rmmdiskgrp -force Group3
```

結果出力

```
No feedback
```


第 10 章 管理対象ディスク・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで管理対象ディスク・オプションを操作できます。

クラスターが MDisk を検出すると、自動的にその MDisk を既知の MDisk のクラスター・リストに追加します。その後で、この MDisk に対応する RAID を削除すると、次のような場合、クラスターはこの MDisk のみをリストから削除します。

- MDisk が非管理対象モードであり、MDisk グループに属しておらず、
- なおかつ MDisk がオフラインの場合。

chmdisk

chmdisk コマンドは、管理対象ディスクの名前を変更するために使用します。

構文

```
svctask -- chmdisk -- -name -- new_name_arg -- [ mdisk_id | mdisk_name ]
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

管理対象ディスクに適用する新しい名前を指定します。

mdisk_id_list | mdisk_name_list

変更する管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、特定の管理対象ディスクに割り当てられた名前またはラベルを変更します。変更後すぐに、その新しい名前を使用して管理対象ディスクを参照できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chmdisk -name testmdisk mdisk0
```

結果出力

```
No feedback
```

includemdisk

includemdisk コマンドは、クラスターによって除外されていたディスクを含めるために使用します。

構文

```
▶— svctask — — includemdisk — —┬─ mdisk_id ───────────────────────────────────────────────────────────▶  
└─ mdisk_name ───────────────────────────────────────────────────────────┘
```

パラメーター

mdisk_id | **mdisk_name**

クラスターに追加する管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

説明

指定された管理対象ディスクが、クラスターに組み込まれます。

複数の I/O 障害が発生したために、ディスクがクラスターから除外されている場合があります。これらの障害は、ノイズを多発するリンクが原因である可能性があります。ファブリック関連の問題が修正されたら、除外されたディスクをクラスターに再度追加することができます。

除外されていたディスクに対してこのコマンドを発行しても、目に見えて分かる効果はありません。

| **注:** MDisk が除外状態で、かつオフラインになっていて、しかも MDisk グループ
| に属していない場合に、この MDisk に対して include を発行すると、MDisk
| レコードがクラスターから削除されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask includemdisk mdisk5
```

結果出力

```
No feedback
```

setquorum

setquorum コマンドは、指定した管理対象ディスクを、指定したクォーラム索引に設定するために使用します。 現在クォーラム索引番号が割り当てられている管理対象ディスクは、非クォーラム・ディスクに設定されます。

構文

```
svctask -- setquorum -- -quorum { 0 | 1 | 2 } { mdisk_id | mdisk_name }
```

パラメーター

-quorum 0 | 1 | 2

クォーラム索引を指定します。

mdisk_id | mdisk_name

クォーラム・ディスクとして割り当てる管理対象ディスクの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された管理対象ディスクを、指定されたクォーラム索引に設定します。

クラスターが、クラスターを形成するノードの半分を失った場合に、クォーラム・ディスクが使用されます。クォーラム・ディスクの大多数を含むクラスターの半分が I/O トランザクションの処理を継続します。もう半分は、I/O トランザクションの処理を停止します。クォーラム・ディスクを設定することで、クラスターの両半分が作動し続けられないようにすることができます。

現在クォーラム索引番号が割り当てられている管理対象ディスクは、非クォーラム・ディスクに設定されます。

クラスターは自動的にクォーラム索引を割り当てます。クラスターが分割される場合に特定の管理対象ディスクのセットを引き続きアクセス可能にしたい場合は、このコマンドを使用します。

重要: 単一障害が発生したときに、すべてのクォーラム・ディスクを失うのを避けるため、クォーラム・ディスクは複数のコントローラーに設定することを推奨します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5810E MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。
- CMMVC5811E クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。
- CMMVC5812E MDisk が誤ったモードであるため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。
- CMMVC5814E 固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

呼び出し例

```
svctask setquorum -quorum 2 mdisk7
```

結果出力

```
No feedback
```

第 11 章 FlashCopy コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで FlashCopy のメソッドと機能を操作できます。

chfcconsistgrp

chfcconsistgrp コマンドは、既存の整合性グループの名前を変更するために使用します。

構文

```
▶▶ svctask — — chfcconsistgrp — — -name — new_name_arg — —————▶▶
└─┬─ fc_consist_group_id —————▶▶
  └─┬─ fc_consist_group_name —————▶▶
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

整合性グループに割り当てる新規の名前を指定します。

fc_consist_group_id | **fc_consist_group_name**

変更する整合性グループの ID または既存の名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された整合性グループの名前を変更します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは変更されませんでした。
- CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chfcconsistgrp -name testgrp1 fcconsistgrp1
```

結果出力

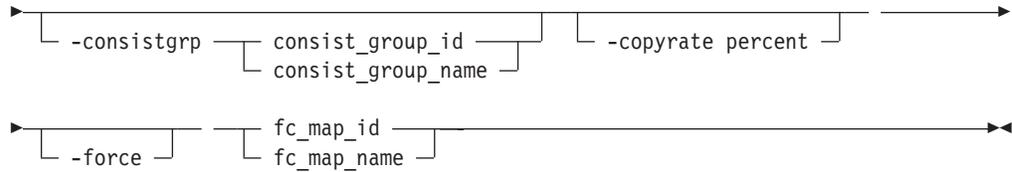
```
No feedback
```

chfcmap

chfcmap コマンドは、既存マッピングの特定の属性を変更するために使用します。

構文

```
▶▶ svctask — — chfcmap — —————▶▶
└─┬─ -name — new_name_arg —————▶▶
```



パラメーター

-name *new_name_arg*

マッピングに割り当てる新規の名前を指定します (オプション)。-name 引数は、他のフラグと相互に排他的です。

-consistgrp *consist_group_id* | *consist_group_name*

マッピングを変更したい整合性グループを指定します (オプション)。

-consistgrp および **-copyrate percent** 引数は相互に排他的ではありません。つまり、1 つのコマンド行呼び出しの中で、この両方の引数を指定することもできます。コピーがアクティブな間もしくはターゲット整合性グループがアクティブな間は、整合性グループを変更することはできません。このパラメーターは、-name と -force のパラメーターに対して相互に排他的です。

-copyrate percent

バックグラウンド・コピー率の優先度を指定します (オプション)。パーセンテージとして表します。デフォルトは 50 です。

-force

整合性グループ ID を指定せずに、オプションの force フラグを使用すると、マッピングは、独立型マッピングに変更されます (整合性グループ ID なしでマッピングを作成するのと同様)。このパラメーターは、他のすべてのパラメーターに対して相互に排他的です。

fc_map_id | **fc_map_name**

変更するマッピングの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、既存マッピングの指定された属性を変更します。マッピング名を変更する場合、同時に他のいずれの属性も変更することはできません。マッピングが非アクティブな場合、そのマッピングが属する整合性グループのみを変更できます。マッピングは、起動されていなくても起動されていても非アクティブ状態ですが、コピーは完了するために実行されます。

同じアプリケーションのデータ・エレメントが含まれている 1 つの VDiskグループについて複数の FlashCopy マッピングを作成した場合は、そのマッピングを 1 つの FlashCopy 整合性グループに割り当てたほうが便利ことがあります。このようにすると、グループ全体に対して 1 つの準備コマンドや起動コマンドを実行するだけで、たとえば、ある特定のデータベースのすべてのファイルを同時にコピーすることができます。

起こりうる障害

- CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。
- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5913E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5914E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5915E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5916E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC5921E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。
- CMMVC6215E 整合性グループには既に最大マッピング数が含まれているので、FlashCopy マッピングは作成または変更されませんでした。

呼び出し例

```
svctask chfcmap -name testmap 1
```

結果出力

```
No feedback
```

mkfconsistentgrp

mkfconsistentgrp コマンドは新規の FlashCopy 整合性グループを作成します。

構文

```
▶▶ svctask — — mkfconsistentgrp — — [ -name — consist_group_name ] ▶▶
```

パラメーター

-name *consist_group_name*

整合性グループの名前を指定します。整合性グループ名を指定しないと、その整合性グループには自動的に名前が割り当てられます。たとえば、次に有効な整合性グループ ID が id=2 の場合、整合性グループ名は fccstgrp2 です。

説明

このコマンドは新規の整合性グループを作成します。新規グループの ID が戻されます。

同じアプリケーションのデータ・エレメントが含まれている 1 つの VDiskグループについて複数の FlashCopy マッピングを作成した場合は、そのマッピングを 1 つの FlashCopy 整合性グループに割り当てたほうが便利ことがあります。このようにすると、グループ全体に対して 1 つの準備コマンドや起動コマンドを実行するだけで、たとえば、ある特定のデータベースのすべてのファイルを同時にコピーすることができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されませんでした。
- CMMVC5892E FlashCopy 整合性グループはすでに存在するため、作成されませんでした。

呼び出し例

```
svctask mkfcconsistgrp
```

結果出力

```
Flash Copy Consistency Group, id [1], successfully created
```

mkfcmap

mkfcmap コマンドは、ソース仮想ディスクをその後のコピー準備ができていないターゲット仮想ディスクにマップする、新規 FlashCopy マッピングを作成します。

構文

```
▶▶ svctask — — mkfcmap — — -source ———— [ src_vdisk_id ———— ] —————▶
                                     [ src_vdisk_name ———— ]
▶ -target ———— [ target_vdisk_id ———— ] —————▶
                 [ target_vdisk_name ———— ] [ -name — new_name_arg ———— ]
▶ [ -consistgrp ———— [ consist_group_id ———— ] —————▶
                               [ consist_group_name ———— ] [ -copyrate percent ———— ]
```

パラメーター

-source *src_vdisk_id* | *src_vdisk_name*

ソース仮想ディスクの ID または名前を指定します。

-target *target_vdisk_id* | *target_vdisk_name*

宛先仮想ディスクの ID または名前を指定します。

-name *new_name_arg*

新規マッピングに割り当てる名前を指定します (オプション)。

-consistgrp *consist_group_id* | *consist_group_name*

新規マッピングを追加する整合性グループを指定します (オプション)。整合性グループを指定しないと、マッピングはデフォルトの Consistency Group 0 に割り当てられます。

-copyrate percent

バックグラウンド **-copyrate** の優先度を指定します (オプション)。パーセンテージとして表します。デフォルトは 50 です。

説明

このコマンドは、新規の FlashCopy マッピング論理オブジェクトを作成します。このマッピングは、削除されるまで持続します。マッピングは、ソース仮想ディスク

と宛先仮想ディスクを指定します。宛先はソースとサイズが同じでなくてはなりません。そうでないと、マッピングは失敗します。同じサイズのターゲット・ディスクを作成するのに必要なソース Vdisk の正確なサイズを確認するには、**svcinfo lsvdisk -bytes** コマンドを発行します。ソースと宛先は、既存のマッピングに存在してはなりません。つまり、仮想ディスクは、**ただ 1 つ**のマッピング内のソース・ディスクまたは宛先ディスクのいずれであっても構いません。マッピングは、コピーが要求された時点でトリガーされます。

マッピングに名前を付けて (オプション)、整合性グループに割り当てることができます。整合性グループは、同時にトリガーできるマッピング・グループです。これにより、複数の仮想ディスクを同時にコピーすることができます。複数の仮想ディスクを同時にコピーすると、複数のディスクの整合したコピーが作成されます。データベースとログ・ファイルは異なるディスクに配置されているデータベース製品の場合は、この機能が必要です。

整合性グループが定義されていないと、マッピングはデフォルト・グループ 0 に割り当てられます。これは、全体を一度に起動できない特殊なグループです。このグループのマッピングは、個別にのみ起動できます。

バックグラウンド・コピー率は、コピーの完了に付けられる優先度を指定します。0 が指定されている場合、コピーはバックグラウンドで行われません。デフォルトは 50 です。

起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5881E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5882E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5883E リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5884E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリモート・コピー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5885E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5886E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5887E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

- CMMVC5922E 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さ過ぎるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5923E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5924E ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5917E ビットマップを作成するメモリがないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC5920E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。
- CMMVC6215E 整合性グループには既に最大マッピング数が含まれているので、FlashCopy マッピングは作成または変更されませんでした。

呼び出し例

```
svctask mkfcmap -source 0 -target 2 -name mapone
```

結果出力

```
FlashCopy mapping, id [1], successfully created
```

prestartfcconsistgrp

prestartfcconsistgrp コマンドは、FlashCopy 整合性グループを開始するための準備に使用します。このコマンドは、ソース仮想ディスク用のすべてのデータのキャッシュをフラッシュし、マッピングの開始までキャッシュを強制的にライトスルー・モードにします。

構文

```
▶▶ svctask — — prestartfcconsistgrp — — [ fc_consist_group_id | fc_consist_group_name ] ▶▶
```

パラメーター

fc_consist_group_id | fc_consist_group_name

準備する整合性グループの名前または ID を指定します。整合性グループ 0 の準備は無効です。マッピングが整合性グループ 0 に属している場合は、map_id | name 引数を指定する必要があります。

説明

このコマンドは、(整合性グループの) マッピングのグループを、その後のトリガーに向けて準備します。準備ステップでは、ソース仮想ディスク用のキャッシュにあるすべてのデータが最初にディスクにフラッシュされるようにします。このステップにより、作成されたコピーは、オペレーティング・システムがディスク上に存在すると認識しているものと整合します。

コピー処理を開始 (トリガー) するには、事前に **svctask prestartfcconsistgrp** コマンドを発行して FlashCopy 整合性グループを準備しておきます。1 つの

FlashCopy 整合性グループに複数のマッピングを割り当てた場合は、グループ全体に対して 1 つの準備コマンドを実行するだけで、すべてのマッピングを準備できます。

グループは準備状態を実行します。準備が完了すると、グループは準備済み状態に変わります。この時点で、グループはトリガー可能状態になります。

準備と、その後のトリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属しているマッピングのみを単独で準備することができます。FlashCopy をトリガー可能にするには、事前に準備する必要があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の準備は有効な操作ではないため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC6031E FlashCopy 整合性グループが空なので、操作は実行されませんでした。

呼び出し例

```
svctask prestartfcconsistgrp 1
```

結果出力

```
No feedback
```

prestartfcmap

prestartfcmap コマンドは、FlashCopy マッピングを開始するための準備に使用します。このコマンドは、ソース仮想ディスク用のすべてのデータのキャッシュをフラッシュし、マッピングの開始までキャッシュを強制的にライトスルー・モードにします。

構文

```
▶▶ svctask — — prestartfcmap — — [ fc_map_id ] —————▶▶  
                                   [ fc_map_name ]
```

パラメーター

fc_map_id | fc_map_name

準備するマッピングの名前または ID を指定します。

説明

このコマンドは、後続のトリガー用に単一マッピングを準備します。準備ステップでは、ソース仮想ディスク用のキャッシュにあるすべてのデータが最初にディスクにフラッシュされるようにします。このステップにより、作成されたコピーは、オペレーティング・システムがディスク上に存在すると認識しているものと整合します。

マッピングは準備状態に入ります。準備が完了すると、マッピングは準備済み状態に変わります。この時点で、マッピングはトリガー状態になります。

準備と、その後のトリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属しているマッピングのみを単独で準備することができます。FlashCopy をトリガー可能にするには、事前に準備する必要があります。

重要: このコマンドの完了には、かなりの時間がかかることがあります。その場合はお待ちください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の準備は有効な操作ではないため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。
- CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

呼び出し例

```
svctask prestartfcmap 1
```

結果出力

```
No feedback
```

rmfconsistgrp

rmfconsistgrp コマンドは FlashCopy 整合性グループを削除します。

構文

```
svctask -- rmfcconsistgrp -- [-force]
fc_consist_group_id | fc_consist_group_name
```

パラメーター

-force

force フラグを指定します (オプション)。グループにまだマッピングが含まれている場合は、すべてのマッピングを整合性グループ 0 に移動させる force フラグを指定する必要があります。

fc_consist_group_id | fc_consist_group_name

削除する整合性グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された FlashCopy 整合性グループを削除します。整合性グループのメンバーであるマッピングがある場合、force フラグを指定しない限り、コマンドは失敗します。force フラグを指定すると、すべてのマッピングは最初にデフォルトの整合性グループ 0 に割り当てられます。

整合性グループ内のすべてのマッピングも同様に削除したい場合、**svctask rmfcmap** コマンドを使用して、マッピングを最初に削除する必要があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5894E 整合性グループ 0 または無効な整合性グループの名前を削除しようとしているため、FlashCopy 整合性グループは削除されませんでした。
- CMMVC5895E FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含まれているため、削除されませんでした。この整合性グループを削除するには、強制削除が必要です。

呼び出し例

```
svctask rmfcconsistgrp fcconsistgrp1
```

結果出力

```
No feedback
```

rmfcmap

rmfcmap コマンドは、既存のマッピングを削除します。

構文

```
svctask -- rmfcmap -- [-force] fc_map_id | fc_map_name
```

パラメーター

-force

force フラグを指定します (オプション)。

fc_map_id | fc_map_name

削除するマッピングの ID または名前を指定します。 force フラグを指定しない限り、マッピングをトリガーする前もしくはマッピングが完了した後にのみ、マッピングを削除できます。

説明

このコマンドは、指定されたマッピングの削除を試みます。マッピングがアクティブの場合、force フラグを指定しない限りコマンドは失敗します。

FlashCopy 状況が Stopped (停止) の場合、-force フラグを使用する必要があります。

マッピングを削除すると、2 つの仮想ディスク間の論理関係のみが削除され、仮想ディスク自体に影響はありません。ただし、削除を強制すると、宛先仮想ディスクのデータは不整合となります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5889E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。
- CMMVC5896E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。
- CMMVC5897E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。
- CMMVC5898E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。
- CMMVC5899E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。マッピングを削除するには、強制削除が必要です。
- CMMVC5900E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

呼び出し例

```
svctask rmfcmap testmap
```

結果出力

```
No feedback
```

startfcconsistgrp

startfcconsistgrp コマンドは、マッピングの FlashCopy グループを始動 (トリガー) するために使用します。このコマンドは、コマンドが実行される瞬間に、ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを作成します。

構文

```
svctask -- startfcconsistgrp -- [-prep]
fc_consist_group_id | fc_consist_group_name
```

パラメーター

-prep

マッピングをトリガーする前に、そのマッピングまたはグループを準備することを指定します (オプション)。

fc_consist_group_id | fc_consist_group_name

トリガーする整合性グループの ID または名前を指定します。整合性グループ 0 のトリガーは無効です。

説明

このコマンドは、マッピングのグループを (整合性グループ・ベースで) トリガーします。トリガーするということは、ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを取することを意味します。

グループは、最初にトリガーに向けて準備する必要があります。トリガーの準備については、**svctask prestartfcconsistgrp** コマンドの説明を参照してください。ただし、グループを準備して、準備が完了次第コピーをトリガーするオプションの **-prep** 引数を使用して、このコマンドを実行することができます。これは、トリガーが行われるときに、このコマンドがシステム制御下にあるということです。つまり、準備ステップが完了し、コピーが作成されるまで、かなり時間がかかります。トリガーを制御したい場合は、最初に **svctask prestartfcconsistgrp** コマンドを使用してください。

整合性グループは、コピー状態に入ります。コピーの実行方法は、マッピングのバックグラウンド・コピー率属性によります。マッピングが 0 に設定されていると、その後にソースで更新されるデータのみが宛先にコピーされます。この操作は、マッピングがコピー状態である間、宛先はバックアップ・コピーとしてのみ使用できることを意味します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。宛先のソースの重複コピーを作成したい場合、0 より大きいバックグラウンド・コピー率を設定する必要があります。これは、システムがすべてのデータ (未変更データも含む) を宛先にコピーし、最終的にはアイドル状態またはコピー済み状態に達するということです。このデータがコピーされた後、宛先でマッピングを削除して、使用可能なソースの時刻指定コピーを使用することができます。

トリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属するマッピングのみを単独でトリガーすることができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

呼び出し例

```
svctask startfcconsistgrp -prep 2
```

結果出力

```
No feedback
```

startfcmap

startfcmap コマンドは、FlashCopy マッピングを始動 (トリガー) するために使用します。このコマンドは、コマンドが実行される瞬間に、ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを作成します。

構文

```
▶▶ svctask — startfcmap — [ -prep ] [ fc_map_id | fc_map_name ] ▶▶
```

パラメーター

-prep

マッピングをトリガーする前に、そのマッピングまたはグループを準備することを指定します (オプション)。

fc_map_id | fc_map_name

トリガーするマッピングの ID または名前を指定します。マッピングのトリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。マッピングが準備されていないと、トリガーの前に準備を行う **-prep** が指定されていない限り、このコ

マンドは失敗します。マッピングが整合性グループ 0 に属している場合は、`map_id | name` を指定する必要があります。

説明

このコマンドは、単一マッピングをトリガーします。トリガーするということは、ソース仮想ディスクの時刻指定コピーを取ることを意味します。

注: `svctask startfcmap` コマンドを処理する場合、少し時間がかかることがあります。

最初に、マッピングをトリガーに向けて準備する必要があります。トリガーの準備については、`svctask prestartfcmap` コマンドの説明を参照してください。ただし、マッピングを準備して、準備が完了次第コピーをトリガーするオプションの `-prep` 引数を使用して、このコマンドを実行することができます。これは、トリガーが行われるときに、このコマンドがシステム制御下にあるということです。つまり、準備ステップが完了し、コピーが作成されるまで、かなり時間がかかります。トリガーを制御したい場合は、最初に `svctask prestartfcmap` コマンドを使用してください。

マッピングはコピー状態に入ります。コピーの実行方法は、マッピングのバックグラウンド・コピー率属性によります。マッピングが 0 に設定されていると、その後ソースで更新されるデータのみが宛先にコピーされます。この操作は、マッピングがコピー状態である間、宛先はバックアップ・コピーとしてのみ使用できることを意味します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。宛先のソースの重複コピーを作成したい場合、0 より大きいバックグラウンド・コピー率を設定する必要があります。これは、システムがすべてのデータ (未変更データも含む) を宛先にコピーし、最終的にはアイドル状態またはコピー済み状態に達するということです。このデータがコピーされた後、宛先でマッピングを削除して、使用可能なソースの時刻指定コピーを使用することができます。

トリガーは、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属するマッピングのみを単独でトリガーすることができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

- CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。
- CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。
- CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

呼び出し例

```
svctask startfcmap -prep 2
```

結果出力

```
No feedback
```

stopfcconsistgrp

stopfcconsistgrp コマンドを使用して、アクティブな FlashCopy 整合性グループを停止することができます。

構文

```
svctask -- stopfcconsistgrp -- fc_consist_group_id | fc_consist_group_name
```

パラメーター

fc_consist_group_id | fc_consist_group_name

停止する整合性グループの名前または ID を指定します。

説明

このコマンドは、(整合性グループ内の) マッピングのグループを停止します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。宛先を使用可能にするには、グループを再度準備してトリガーする必要があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

呼び出し例

```
svctask stopfcconsistgrp testmapone
```

結果出力

No feedback

stopfcmap

stopfcmap コマンドを使用して、アクティブなコピー操作、または中断されているマッピングを停止することができます。

構文

```
▶— svctask — — stopfcmap — — [ fc_map_id — ] —————▶  
                                [ fc_map_name ]
```

パラメーター

fc_map_id | fc_map_name

停止するマッピングの名前または ID を指定します。

説明

このコマンドは、単一マッピングを停止します。コピーが停止すると、宛先は使用不可となります。マッピングまたはグループは、再度準備してトリガーする必要があります。

停止は、通常は整合性グループ・ベースで実行されます。整合性グループ 0 に属するマッピングのみを単独で停止することができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。
- CMMVC6030E FlashCopy マッピングが整合性グループのパーツであるために、操作は実行されませんでした。整合性グループ・レベルでアクションを実行してください。

呼び出し例

```
svctask stopfcmap testmapone
```

結果出力

No feedback

第 12 章 メトロ・ミラー・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで提供されるメトロ・ミラー・サービスを操作できます。

chpartnership

chpartnership コマンドは、メトロ・ミラー用に作成されたクラスター協力関係において、バックグラウンド・コピーに使用できる帯域幅を指定するために使用します。

構文

```
svctask — chpartnership — -bandwidth — bandwidth_in_mbs —
remote_cluster_id
remote_cluster_name
```

パラメーター

-bandwidth *bandwidth_in_mbs*

新規の帯域幅 (MBps) を指定します。この引数は、クラスター内リンクが維持できる帯域幅より大きい値に設定される可能性があります。その場合、実際のコピー速度は、デフォルトでリンク上で有効な速度になります。

remote_cluster_id | **remote_cluster_name**

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。クラスター内帯域幅は変更できないので、ローカル・クラスターの名前または ID を入力すると、エラーが起こります。

説明

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間での協力関係の帯域幅を変更します。これは、メトロ・ミラー関係において、ローカルからリモート・クラスター方向のバックグラウンド・コピーに使用可能な帯域幅に影響します。反対方向 (リモート・クラスター → ローカル・クラスター) のバックグラウンド・コピー帯域幅を変更するには、リモート・クラスターに対して該当の **chpartnership** コマンドを発行する必要があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chpartnership -bandwidth 20 cluster1
```

結果出力

```
No feedback
```

chrconsistgrp

chrconsistgrp コマンドは、既存のメトロ・ミラー整合性グループの名前を変更するために使用します。

構文

```
svctask -- chrconsistgrp -- -name -- new_name_arg --  
└── rc_consist_group_name ───┐  
    └── rc_consist_group_id ─┘
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

整合性グループに割り当てる新規の名前を指定します。

rc_consist_group_name | **rc_consist_group_id**

変更する整合性グループの ID または既存の名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された整合性グループの名前を変更します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

rc_testgrp というメトロ・ミラー整合性グループの名前を rctestone に変更します。

```
svctask chrconsistgrp -name rctestone rc_testgrp
```

結果出力

No feedback

chrrelationship

コマンドを使用して、既存の関係の特定の属性を変更できます。 **chrrelationship** を使用すると、関係の名前を変更するほかに、関係を整合性グループに追加したり、整合性グループから関係を除去することもできます。

構文

```
svctask -- chrrelationship --  
└── -name -- new_name_arg ─┘  
└── -consistgrp ───┐  
    └── consist_group_id ───┐  
        └── consist_group_name ─┘  
    └── -force ─┘  
└── rc_rel_name ───┐  
    └── rc_rel_id ─┘
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

関係に割り当てる新規ラベルを指定します (オプション)。

-consistgrp *consist_group_id* | *consist_group_name*

関係を割り当てる新規の整合性グループを指定します (オプション)。

-force

整合性グループから関係を除去し、その関係を独立型の関係にする、**force** フラグを指定します (オプション)。

rc_rel_name | **rc_rel_id**

関係の ID または名前を指定します。

注: **-name**、**-consistgrp**、および **-force** は、相互に排他的なパラメーターです。つまり、このパラメーターは、1 つのコマンド行につき 1 つだけ指定できます。

説明

このコマンドは、指定された関係の特定の属性を変更できます。1 度に変更できるのは、1 属性だけです。つまり、4 つのすべてのオプション・フラグは、相互に排他的です。整合性グループの名前を変更するほか、このコマンドを次の目的に利用できます。

- **関係をグループに追加する:** **-consistgrp** パラメーターと、整合性グループの名前または ID を指定することで、独立型の関係を整合性グループに追加できます。このコマンドを発行する場合、関係と整合性グループの両方が接続しており、両方が同じ以下のものをもっている必要があります。

- マスター・クラスター
- 補助クラスター
- 状態 (グループが空でない場合)
- 1 次 (グループが空でない場合)

空のグループに最初関係を追加するとき、グループは関係と同じ状態になり、1 次 VDisk (コピー方向) も同じになります。後続の関係をそのグループに追加する場合、それらの関係は、そのグループと同じ状態およびコピー方向をもつ必要があります。1 つの関係は、1 つの整合性グループにのみ属することができます。

- **関係をグループから除去する:** **-force** フラグと、関係の名前または ID を指定すれば、関係を整合性グループから除去できます。整合性グループの名前を指定したり確認する必要はないので、このコマンドを発行する前に、その関係がどのグループに属するのかわ確認しておくことをお勧めします。

この形式の関係変更コマンドは、接続または切断状態で成功します。コマンド発行時にクラスターが切断されている場合、関係は、ローカル・クラスター上の整合性グループからのみ除去されます。クラスターが再接続されると、関係は、もう一方のクラスターの整合性グループから自動的に除去されます。別の方法として、明示的変更 (**chrcrelationship**) コマンドを使用して、まだ切断されているときに他方のクラスター上の整合性グループから関係を除去することも可能です。

- **関係を、1 つのグループから別のグループに移動させる** 2 つの整合性グループ間で関係を移動させるには、関係変更コマンドを 2 回呼び出す必要があります。1

回目に `-force` フラグを使用して現行グループから関係を除去し、それから `-consistgrp` パラメーターと、その関係を追加する新規の整合性グループ名を使用します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

関係 `rccopy1` の名前を `testrel` に変更します。

```
svctask chrcrelationship -name testrel rccopy1
```

関係 `rccopy2` を、グループ `newgroup` に追加します。

```
svctask chrcrelationship -consistgrp newgroup rccopy2
```

`rccopy3` の関係がメンバーとなっている整合性グループから関係からこの関係を削除します。

```
svctask chrcrelationship -force rccopy3
```

結果出力

No feedback

上記のいずれの場合も、フィードバックはありません。

mkpartnership

mkpartnership コマンドを使用して、ローカル・クラスタとリモート・クラスタ間で片方向のメトロ・ミラー協力関係を確立することができます。

構文

完全に機能するメトロ・ミラー協力関係を設定するには、このコマンドを両方のクラスタに発行する必要があります。このステップは、クラスタ上の VDisk 間でメトロ・ミラー関係を作成する場合の前提条件です。

```
▶▶ svctask — mkpartnership — [ -bandwidth — bandwidth_in_mbs ] —▶▶
▶ [ remote_cluster_id —▶▶
  [ remote_cluster_name ] —▶▶
```

パラメーター

-bandwidth *bandwidth_in_mbs*

クラスタ間のバックグラウンド・コピー・プロセスが使用する帯域幅を指定します (オプション)。このパラメーターで、メトロ・ミラーが初期のバックグラウンド・コピー・プロセスに使用する帯域幅を縮小することができます。指定しないと、帯域幅はデフォルトで 50 MBps (メガバイト/秒) に設定されます。帯域幅は、クラスタ間リンクで維持できる帯域幅以下の値に設定する必要があります。

ます。パラメーターを、リンクで維持できる帯域幅より高い値に設定しても、バックグラウンド・コピー・プロセスは実際に利用可能な帯域幅を使用します。

remote_cluster_id | remote_cluster_name

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。 **svcinfo Isclustercandidate** コマンドによって、使用可能なリモート・クラスターのリストを表示できます。複数のリモート・クラスターが同じ名前をもち、その名前がこのコマンドに含まれていると、コマンドは失敗して、名前の代わりにクラスター ID を入力するように要求されます。

説明

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間片方向協力関係を作成します。両方向協力関係を作成するには、同等の **svctask mkpartnership** コマンドを他方のクラスターから発行する必要があります。

| クラスター間メトロ・ミラー関係を、ローカル・クラスターの 1 次 VDisk とリモート・クラスターの補助 VDisk 間で作成できます。クラスター内関係は、ローカル・クラスターに常駐する各 VDisk 間で作成できます。VDisk は、クラスター内の同じ I/O グループに属していなければなりません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5925E リモート・クラスター協力関係はすでに存在するため、作成されませんでした。
- CMMVC5926E リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数が多過ぎるため、作成されませんでした。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5928E 指定されたクラスター名は別のクラスターと重複しているため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask mkpartnership -bandwidth 20 cluster1
```

結果出力

```
No feedback
```

mkrcconsistgrp

mkrcconsistgrp コマンドは、新規の空のメトロ・ミラー整合性グループを作成します。

構文

```
▶▶ svctask — — mkrcconsistgrp — — [ -name — new_name_arg ] — —▶▶  
[ -cluster — cluster_id — cluster_name ]
```

パラメーター

-name *new_name_arg*

新規の整合性グループの名前を指定します (オプション)。

-cluster *cluster_id* | *cluster_name*

クラスタ間整合性グループを作成するには、リモート・クラスタの ID または名前を入力します。 **-cluster** を指定しないと、ローカル・クラスタ上のみクラスタ内整合性グループが作成されます。

説明

このコマンドは新規の整合性グループを作成します。新規グループの ID が戻されます。名前は、この整合性グループが属するクラスタで認識されているすべての整合性グループ間で固有なものでなくてはなりません。整合性グループが 2 つのクラスタに関係する場合、それらのクラスタは、作成処理中、通信可能状態なくてはなりません。

新規の整合性グループには関係が含まれておらず、空の状態です。 **svctask chrelationship** コマンドを使用して、メトロ・ミラー関係をグループに追加できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask mkrcconsistgrp -name rc_testgrp
```

結果出力

```
RC Consistency Group, id [255], successfully created
```

mkrcrelationship

mkrcrelationship コマンドは、同じクラスタ内 (クラスタ内関係) もしくは 2 つの異なるクラスタ内 (クラスタ間関係) の仮想ディスク (VDisk) 間における新しいメトロ・ミラー関係を作成します。

構文

```
svctask -- mkrcrelationship -- -master [master_vdisk_id] [master_vdisk_name]
-- -aux [aux_vdisk_id] [aux_vdisk_name] -- -cluster [cluster_id] [cluster_name]
-- [-name [new_name_id]] [-consistgrp [consist_group_id] [consist_group_name]]
-- [-sync]
```

パラメーター

-master *master_vdisk_id* | *master_vdisk_name*

マスター仮想ディスクの ID または名前を指定します。

-aux *aux_vdisk_id* | *aux_vdisk_name*

補助仮想ディスクの ID または名前を指定します。

-cluster *cluster_id* | *cluster_name*

リモート・クラスターの ID または名前を指定します。

クラスター内関係を作成する場合は、ローカル・クラスターの ID を入力します。関係内の VDisk は、クラスター内の同じ I/O グループに属していなければなりません。

クラスター間関係を作成する場合は、リモート・クラスターの ID を入力します。2 つの異なるクラスター間関係を作成するには、**svctask mkrcrelationship** コマンドを受信する際に、それらのクラスターが接続されていないなければなりません。

-name *new_name_id*

関係に割り当てるラベルを指定します (オプション)。

-consistgrp *consist_group_id* | *consist_group_name*

この関係が結合することになる整合性グループを指定します (オプション)。

-consistgrp 引数を指定しないと、その関係は単独で始動、停止、および切り替えができる独立型関係になります。

-sync

オプションで、同期化していることを指定します。指定しないと、整合性フラグが作成されます。2 次 (補助) 仮想ディスクが 1 次 (マスター) 仮想ディスクとすでに同期化されていることを示すには、この引数を使用します。初期バックグラウンド同期はスキップされます。

説明

このコマンドは、新規のメトロ・ミラー関係を作成します。この関係は、削除されるまで継続します。補助仮想ディスクは、マスター仮想ディスクとサイズが同じでなくてはなりません。そうでないとコマンドは失敗します。両方の VDisk が同じクラスターにある場合、それらは両方とも同じ I/O グループに属している必要があります。マスター仮想ディスクと補助仮想ディスクが、既存の関係をもつことはできません。いずれのディスクも、FlashCopy マッピングのターゲットであることが可能です。このコマンドは、成功すると新規の関係 (*relationship_id*) を戻します。

オプションで関係に名前を付けることができます。名前は、両方のクラスターで固有の関係名でなくてはなりません。

オプションで、関係をメトロ・ミラー整合性グループに割り当てることができます。整合性グループは、多数の関係が管理され、関係が切断された際に、グループ内のすべての関係のデータを整合した状態にするために使用されます。データ・ファイルとログ・ファイルが別の VDisk に保管され、そのため別々の関係によって管理されるデータベース・アプリケーションでは、これは重要です。災害時には、1 次サイトと 2 次サイトが切断された状態になる可能性があります。VDisk に関連付けられた関係が整合性グループに属さず、切断が生じてメトロ・ミラー関係が 1

次サイトから 2 次サイトへのデータのコピーを停止した場合、この 2 つの分離した 2 次 VDisk への更新が整合した方法で停止する保証はありません。

しかし、正常なデータベース運用にとって、ログ・ファイルの更新とデータベース・データの更新が整合性をもち秩序立った方式で行われることが重要です。よって、この場合、2 次サイトのログ・ファイル VDisk とデータ VDisk が整合した状態であることが非常に重要です。これは、これらの VDisk に関連付けられた関係を整合性グループに入れることで実現します。整合性グループに入れると、メトロ・ミラーにより、2 次サイトの両方の VDisk が、1 次サイトで行われた更新と整合性を保つことができます。

整合性グループを指定する場合、グループと関係の両方が同じマスター・クラスターと同じ補助クラスターを使用して作成されていなくてはなりません。関係は、別の整合性グループの一部であってはなりません。

整合性グループが空でない場合、整合性グループと関係は同じ状態です。整合性グループが空の場合、整合性グループは、追加された最初関係の状態と同じ状態になります。状態にコピー方向が割り当てられている場合、整合性グループと関係の方向は、その方向に一致する必要があります。

整合性グループを指定しないと、独立型関係が作成されます。

-sync 引数を指定すると、関係が作成された時点でマスター仮想ディスクと補助仮想ディスクに同一のデータが含まれていることが保証されます。 **svctask mkrcrelationship** コマンドを発行する前に、マスター仮想ディスクに一致する補助仮想ディスクが作成されていること、およびどちらの仮想ディスクへも書き込み操作が行われていないことを必ず確認してください。

起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5930E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5931E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5932E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメンバーであるため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。
- CMMVC5933E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グループに入っているため、リモート・コピー関係は作成されませんでした。

呼び出し例

```
svctask mkrcrelationship -master vdisk1 -aux vdisk2 -name rccopy1  
-cluster 0000020063432AFD
```

結果出力

```
RC Relationship, id [28], successfully created
```

rmpartnership

rmpartnership コマンドは、メトロ・ミラー協力関係を除去します。

構文

協力関係は両方のクラスターに存在するので、このコマンドを両方のクラスターで実行して、協力関係の両サイドを除去する必要があります。コマンドを一方のクラスターでのみ実行すると、メトロ・ミラー協力関係は部分的に構成された状態になり、協力関係が切断されるとメトロ・ミラー・アクティビティは終了します。

```
▶▶ svctask — rmpartnership — [ remote_cluster_id ] [ remote_cluster_name ] ▶▶
```

パラメーター

remote_cluster_id | remote_cluster_name

リモート・クラスターのクラスター ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定されたローカル・クラスターとリモート・クラスターの間での協力関係を削除します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5927E クラスター ID が無効なため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5928E クラスター名は別のクラスターと重複しているため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5929E リモート・コピー協力関係はすでに削除されているため、削除されませんでした。

呼び出し例

```
svctask rmpartnership cluster1
```

結果出力

```
No feedback
```

rmrcconsistgrp

rmrcconsistgrp コマンドは、既存のメトロ・ミラー整合性グループを削除します。

構文

```
▶▶ svctask — rmrcconsistgrp — [ -force ] ▶▶
```

```
▶▶ [ rc_consist_group_id ] [ rc_consist_group_name ] ▶▶
```

パラメーター

-force

グループに関係が含まれている場合に、force フラグを指定しないと、コマンドは失敗します。1 つ以上の関係がグループに属している場合に force フラグを指定しないと、削除は失敗します。force フラグを指定すると、グループに属しているすべての関係は、削除される前にグループから除去されます。関係自体は削除されません。それらは、独立型の関係になります。

rc_consist_group_id | rc_consist_group_name

削除する整合性グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された整合性グループを削除します。既存の整合性グループのいずれについても、このコマンドを発行できます。コマンド発行時に整合性グループが切断されていると、コマンドが実行されるクラスター上でのみ整合性グループは削除されます。クラスターが再接続されると、もう一方のクラスター上で整合性グループが自動的に削除されます。別の手段として、クラスターが切断されており、それでもなお両方のクラスターの整合性グループを除去する場合、両方のクラスターで独立して **svctask rmrconsistgrp** コマンドを発行することができます。

整合性グループが空でない場合は、グループを削除するのに -force パラメーターが必要になります。これで、グループが削除される前に、整合性グループから関係が削除されます。この後、除去された関係は独立型の関係となります。これらの関係の状態は、整合性グループからの除去というアクションによって変更されません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5938E 整合性グループに関係が含まれているため、リモート・コピー整合性グループは削除されませんでした。整合性グループを削除するには、force オプションが必要です。

呼び出し例

```
svctask rmrconsistgrp rctestone
```

結果出力

```
No feedback
```

rmrrelationship

rmrrelationship コマンドは、既存のメトロ・ミラー関係を削除します。

構文

```
▶▶ svctask — — rmrrelationship — — [ rc_rel_id | rc_rel_name ] ▶▶
```

パラメーター

rc_rel_id | rc_rel_name

関係の ID または名前を指定します。関係が整合性グループの一部である場合は、その関係を削除できません。

説明

このコマンドは、指定された関係を削除します。

関係を削除すると、2 つの仮想ディスク間の論理関係のみが削除され、仮想ディスク自体に影響はありません。

コマンド発行時に関係が切断されていると、コマンドが実行されるクラスターでのみ関係は削除されます。クラスターが再接続されると、もう一方のクラスターで関係が自動的に削除されます。別の手段として、クラスターが切断されており、それでもなお両方のクラスター上の関係を除去する場合、それぞれのクラスターで `rmrcrelationship` コマンドを発行することができます。

関係が整合性グループの一部である場合は、その関係を削除できません。 **svctask chrcrelationship -force** コマンドを使用して、整合性グループから最初に関係を除去する必要があります。

不整合な関係を削除すると、まだ不整合であっても 2 次仮想ディスクがアクセス可能になります。メトロ・ミラーが不整合データへのアクセスを妨げないケースは、この 1 つだけです。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmrcrelationship rccopy1
```

結果出力

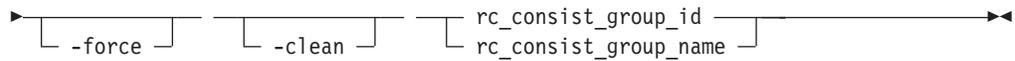
```
No feedback
```

starttrconsistgrp

starttrconsistgrp コマンドを使用して、メトロ・ミラー整合性グループのコピー・プロセスを始動したり、コピー方向を設定 (未定義の場合) したりすることができます。また、オプションとして、整合性グループの 2 次 VDisk にクリーンのマークを付けることもできます。

構文

```
► svctask — starttrconsistgrp — [ -primary ] [ master ] [ aux ]
```



パラメーター

-primary *master | aux*

このパラメーターは、マスターまたは補助のどちらが 1 次 (ソース) になるかを定義することでコピー方向を指定します。1 次が未定義の場合 (たとえば、整合性グループがアイドル状態など)、このパラメーターが必要です。1 次 (方向) 引数は、どちらのディスクが 1 次、つまりソース・ディスクかを指定します。

-force

強制パラメーターを指定します (オプション)。この引数は、同期化が行われている間、一時的に整合性が失われることになっても、コピー操作の再開を許可します。

-clean

クリーン・パラメーターを指定します (オプション)。このフラグは、グループに属する関係ごとに 2 次 VDisk にクリーンのマークを付けます。

rc_consist_group_id | rc_consist_group_name

開始する整合性グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、メトロ・ミラー整合性グループを開始します。

このコマンドは、接続されている整合性グループに対してのみ発行できます。アイドル状態の整合性グループの場合、このコマンドはコピー方向 (1 次および 2 次の役割) を割り当て、コピー指示を割り当てます。それ以外の整合性グループの場合、このコマンドは、停止コマンドもしくは何らかの入出力エラーによって停止した前のコピー・プロセスを再開します。

コピー・プロセスの再開により、関係が整合しない期間が生じるようであれば、関係の再開時に **force** フラグを指定する必要があります。関係が停止していて、関係の元の 1 次ディスクにさらに書き込みが行われた場合に、このような状態が生じます。このコマンドでの **force** フラグの使用は、2 次ディスクのデータが不整合な状態である間は、そのデータは災害時回復の目的に有効ではないことについて注意を促すものです。

アイドル状態の場合、1 次引数を指定する必要があります。その他の接続状態の場合、1 次引数を指定できますが、既存の設定に一致しなくてはなりません。

コピー操作の開始により整合性が失われる場合、**-force** フラグを要求されます。ConsistentStopped またはアイドル状態に入った後に 1 次または 2 次 VDisk への書き込み操作が発生した場合、この整合性の喪失が起こります。このような状況で、**-force** フラグを指定せずにコマンドを発行すると、コマンドは失敗します。一般的に、グループが次のいずれかの状態の場合は、**-force** フラグが必要です。

- Consistent_Stopped 状態、ただし、同期化されていない (sync=out_of_sync)。
- アイドリング状態、ただし同期化されていない。

グループが次のいずれかの状態の場合、-force フラグは不要です。

- Inconsistent_Stopped
- Inconsistent_Copying
- Consistent_Synchronized

しかし、-force フラグを指定する場合、コマンドは失敗しません。

メトロ・ミラー・グループが開始され、このグループの 2 次 VDisk がクリーンであることが前提の場合、クリーン・フラグを使用します。このクリーンの意味は、1 次ディスクと 2 次ディスクが同期化される際に、2 次ディスクで加えられた変更はすべて無視され、1 次ディスクで加えられた変更のみが考慮されるということです。このフラグは、次のシナリオで使用できます。

1. 整合性グループを、同期化フラグを使用して作成します。(たとえ同期化フラグの使用が、1 次と 2 次に同じデータが含まれていることを示唆しても、この時点では、このことは問題ではありません。)
2. stoprconsistgrp コマンドを、-allow アクセス・フラグで発行します。これにより、2 次ディスクへのアクセスが許可されます。変更の記録が、1 次ディスクで開始されます。
3. 1 次ディスクのイメージが取り込まれ、2 次ディスクにロードされます。イメージ・コピー中に、1 次ディスクを更新できるようにすることは許可されています。これは、このイメージは、単に 1 次ディスクのファジー・イメージであることのみを必要とします。
4. primary = master、force フラグ、およびクリーン・フラグを指定した starttrconsistgrp コマンドを発行します。これにより、補助ディスクにはクリーンのマークが付き、整合性グループが停止したために発生したマスター・ディスク上の変更が補助ディスクにコピーされます。
5. バックグラウンド・コピーが完了したら、グループ内の関係は整合し、同期化された状態となります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask starttrconsistgrp rccopy1
```

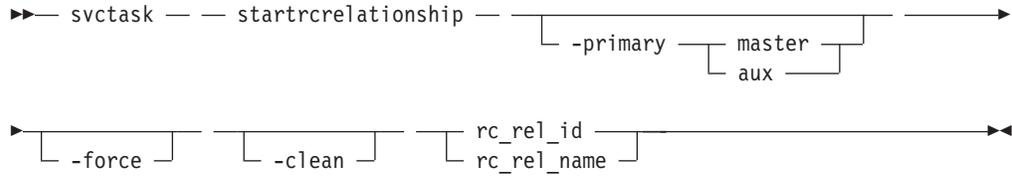
結果出力

```
No feedback
```

startrelationship

startrelationship コマンドを使用すれば、メトロ・ミラー関係のコピー・プロセスを始動したり、コピー方向を設定 (未定義の場合) したりすることができます。また、オプションとして、関係の 2 次 VDisk にクリーンのマークを付けることもできます。

構文



パラメーター

-primary *master* | *aux*

マスターまたは補助のどちらが 1 次 (ソース) になるかを定義することでコピー方向を指定します。1 次が未定義の場合 (たとえば、関係がアイドル状態など)、このパラメーターが必要です。

-force

強制パラメーターを指定します (オプション)。この引数は、整合性が失われることになっても、コピー操作の再開を許可します。

-clean

クリーン・パラメーターを指定します (オプション)。クリーン・フラグは、2 次仮想ディスクにクリーンのマークを付けます。

rc_rel_id | **rc_rel_name**

独立型の関係としてのみ開始する関係の ID または名前を指定します。

説明

独立型関係を開始するには、このコマンドを使用します。このコマンドを使用して整合性グループの一部である関係を開始しようとすると、コマンドは失敗します。

このコマンドは、接続されている関係に対してのみ発行できます。アイドル状態の関係の場合、このコマンドはコピー方向 (1 次および 2 次の役割) を割り当てて、コピー・プロセスを開始します。それ以外の整合性グループの場合、このコマンドは、停止コマンドもしくは何らかの入出力エラーによって停止した前のコピー・プロセスを再開します。

コピー・プロセスの再開により、関係が整合しない期間が生じるようであれば、関係の再開時に `force` フラグを指定する必要があります。関係が停止していて、関係の元の 1 次ディスクにさらに書き込みが行われた場合に、このような状態が生じます。このコマンドでの `force` フラグの使用は、2 次ディスクのデータが不整合な状態である間は、そのデータは災害時回復の目的に有効ではないことについて注意を促すものです。

アイドル状態の場合、1 次引数を指定する必要があります。その他の接続状態の場合、1 次引数を指定できませんが、既存の設定に一致しなくてはなりません。

コピー操作の開始により整合性が失われる場合、`-force` フラグを要求されます。ConsistentStopped またはアイドル状態に入った後に 1 次または 2 次 VDisk への書き込み操作が発生した場合、この整合性の喪失が起こります。このような状況で、`-force` フラグを指定せずにコマンドを発行すると、コマンドは失敗します。一般的に、関係が次のいずれかの状態の場合は、`-force` フラグが必要です。

- ConsistentStopped、ただし、同期化されていない。

- アイドリング状態、ただし同期化されていない。

関係が次のいずれかの状態の場合、-force フラグは不要です。

- InconsistentStopped
- InconsistentCopying
- ConsistentSynchronized

しかし、-force フラグを指定する場合、コマンドは失敗しません。

メトロ・ミラー関係が開始され、この関係の 2 次 VDisk がクリーンであることが前提の場合、クリーン・フラグを使用します。このクリーンの意味は、1 次ディスクと 2 次ディスクが同期化される際に、2 次ディスクで加えられた変更はすべて無視され、1 次ディスクで加えられた変更のみが考慮されるということです。このフラグは、次のシナリオで使用できます。

1. 関係を、同期化フラグを使用して作成します。(たとえ同期化フラグの使用が、1 次と 2 次に同じデータが含まれていることを示唆しても、この時点では、このことは問題ではありません。)
2. stopprrelationship コマンドを、-allow アクセス・フラグを指定して発行します。これにより、2 次ディスクへのアクセスが許可されます。変更の記録が、1 次ディスクで開始されます。
3. 1 次ディスクのイメージが取り込まれ、2 次ディスクにロードされます。イメージ・コピー中に、1 次ディスクを更新できるようにすることは許可されています。これは、このイメージが、単に 1 次ディスクの「ファジーな」イメージであればよいからです。
4. primary = master、force フラグ、およびクリーン・フラグを指定した startprrelationship コマンドを発行します。これにより、補助ディスクにはクリーンのマークが付き、関係が停止した後にマスター・ディスクに加えられた変更が補助ディスクにコピーされます。
5. バックグラウンド・コピーが完了したら、関係は整合した、同期化状態となります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask startprrelationship rccopy1
```

結果出力

```
No feedback
```

stoprconsistgrp

stoprconsistgrp コマンドを使用して、メトロ・ミラー整合性グループ内のコピー・プロセスを停止することができます。また、このコマンドで、グループが整合状態にある場合、グループ内の 2 次 VDisk への書き込みアクセスを可能にすることもできます。

構文

```
svctask -- stoprconsistgrp [-access] rc_consist_group_id rc_consist_group_name
```

パラメーター

-access

ユーザーに、整合した 2 次 VDisk への書き込みアクセスを与えるアクセス・フラグを指定します。このフラグにより、グループが整合状態にある場合、グループ内の 2 次 VDisk への書き込みアクセスを可能にすることができます。

rc_consist_group_id | rc_consist_group_name

停止する整合性グループの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、整合性グループに適用されます。このコマンドで、1 次から 2 次にコピーしている整合性グループを停止することができます。

整合性グループが不整合状態の場合、あらゆるコピー操作は停止し、ユーザーが **svctask starttrconsistgrp** コマンドを発行するまで再開されません。書き込みアクティビティは、グループ内の関係に属している 1 次仮想ディスクから 2 次仮想ディスクへはもうコピーされません。ConsistentSynchronized 状態の整合性グループの場合、このコマンドにより、整合性の凍結が生じます。

整合性グループが整合した状態 (たとえば、ConsistentStopped、ConsistentSynchronized、または ConsistentDisconnected 状態) の場合、-access 引数を指定した stoprconsistgrp コマンドで、そのグループ内の 2 次仮想ディスクへの書き込みアクセスを可能にすることができます。

初期状態	最終状態	注
InconsistentStopped	InconsistentStopped	
InconsistentCopying	InconsistentStopped	
ConsistentStopped	ConsistentStopped	-access が使用可能
ConsistentSynchronized	ConsistentStopped	-access が使用可能
Idling	ConsistentStopped	-access が使用可能
IdlingDisconnected	変更なし	再接続時に、関係が停止状態に移行する可能性がある。

初期状態	最終状態	注
InconsistentDisconnected	InconsistentStopped	svctask stoprconsistgrp コマンドを発行するクラスター上。
InconsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上。
ConsistentDisconnected	ConsistentStopped	svctask stoprconsistgrp コマンドを発行するクラスター上では、-access が使用可能。
ConsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上では、-access が使用可能。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask stoprconsistgrp rccopy1
```

結果出力

```
No feedback
```

stoprrelationship

stoprrelationship コマンドを使用して、メトロ・ミラー関係のコピー・プロセスを停止することができます。また、このコマンドで、整合した 2 次 VDisk への書き込みアクセスを可能にすることもできます。

構文

```
▶▶ svctask — — stoprrelationship — [ -access ] [ rc_rel_id rc_rel_name ] ▶▶
```

パラメーター

-access

ユーザーに、整合した 2 次 VDisk への書き込みアクセスを許可するアクセス許可フラグを指定します。

rc_rel_id | rc_rel_name

停止する関係の ID または名前を指定します。独立型関係の ID または名前のみを指定してください。

説明

このコマンドは、独立型関係に適用されます。整合性グループの一部である関連に、このコマンドがアドレスされるとリジェクトされます。このコマンドで、1 次から 2 次にコピーしている関係を停止することができます。

関係が不整合状態の場合、あらゆるコピー操作は停止し、ユーザーが **svctask startprrelationship** コマンドを発行するまで再開されません。書き込みアクティビティは、1 次仮想ディスクから 2 次仮想ディスクへはもうコピーされません。ConsistentSynchronized 状態での関係の場合、このコマンドにより、整合性の凍結が生じます。

関係が整合した状態 (たとえば、ConsistentStopped、ConsistentSynchronized、または ConsistentDisconnected 状態) の場合、-access 引数で stopprrelationship コマンドを発行して、2 次仮想ディスクへの書き込みアクセスを可能にすることができます。

初期状態	最終状態	注
InconsistentStopped	InconsistentStopped	
InconsistentCopying	InconsistentStopped	
ConsistentStopped	ConsistentStopped	-access が使用可能
ConsistentSynchronized	ConsistentStopped	-access が使用可能
Idling	ConsistentStopped	-access が使用可能
IdlingDisconnected	変更なし	再接続時に、関係が停止状態に移行する可能性がある。
InconsistentDisconnected	InconsistentStopped	svctask stopprrelationship コマンドを発行するクラスター上。
InconsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上。
ConsistentDisconnected	ConsistentStopped	svctask stopprrelationship コマンドを発行するクラスター上では、-access が使用可能。
ConsistentDisconnected	変更なし	切断されたクラスター上では、-access が使用可能。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask stopprrelationship rccopy1
```

結果出力

```
No feedback
```


switchrelationship

switchrelationship コマンドは、メトロ・ミラー関係が整合状態にあるときに、その関係内の 1 次仮想ディスクと 2 次仮想ディスクの役割を逆にするために使用します。

構文

```
svctask -- switchrelationship -- -primary [ master | aux ]
rc_rel_id | rc_rel_name
```

パラメーター

-primary *master | aux*

マスターもしくは補助のどちらを 1 次にするか指定します。

rc_rel_id | rc_rel_name

切り替える関係の ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、独立型関係に適用されます。整合性グループに属する関係を切り替えようとして、このコマンドを発行すると、リジェクトされます。このコマンドは、通常は、安全なフェイルオーバーの一環として関係または整合性グループ内の 1 次および 2 次仮想ディスクの役割を逆転することを目的としています。前の 1 次仮想ディスクへの書き込みアクセスは失われ、新しい 1 次仮想ディスクへの書き込みアクセスが獲得されます。このコマンドが成功するのは、関係が接続された整合状態であり、逆にする際に関係の方向が整合性の喪失につながらない場合 (すなわち、関係が整合した同期化状態の場合) のみです。よって、関係が次のいずれかの状態の場合にのみ、このコマンドは成功します。

- ConsistentSynchronized
- ConsistentStopped および Synchronized
- Idling および Synchronized

このコマンドが正常に終了すると、関係は ConsistentSynchronized 状態になります。**-primary** 引数に現行の 1 次仮想ディスクを指定すると、コマンドは何の影響も及ぼしません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask switchrelationship -primary master rccopy2
```

結果出力

```
No feedback
```

第 13 章 マイグレーション・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでマイグレーション・オプションを操作できます。

migrateexts

migrateexts コマンドを使用して、特定の管理対象ディスクから別の管理対象ディスクに多数のエクステントをマイグレーションすることができます。

構文

```
svctask -- migrateexts -- -source [source_mdisk_id | source_mdisk_name] --
-target [target_mdisk_id | target_mdisk_name] -- -exts number_of_extents --
-vdisk [vdisk_id | vdisk_name] -- -threads number_of_threads --
```

パラメーター

-source *source_mdisk_id* | *source_mdisk_name*

エクステントが現在配置されている MDisk を指定します。

-target *target_mdisk_id* | *target_mdisk_name*

エクステントのマイグレーション先の MDisk を指定します。

-exts *number_of_extents*

マイグレーションするエクステント数を指定します。

-vdisk *vdisk_id* | *vdisk_name*

エクステントが属する VDisk を指定します。

-threads *number_of_threads*

これらのエクステントのマイグレーション時に使用するスレッド数を指定します (オプション)。有効値は、1 - 4 です。

説明

このコマンドは、仮想ディスクおよび仮想ディスクの作成に使用されているエクステントを含む管理対象ディスクとして指定されたソースから、特定のエクステントの数をマイグレーションします。ターゲットは、(同じ管理対象グループ内の) 管理対象ディスクとして指定します。

多数のエクステントをマイグレーションする場合、始動するスレッド数を 1 - 4 の間で指定できます。これらのマイグレーションの進行状況は、**svcinfolsmigrate** コマンドを発行することによって確認できます。

svctask migrateexts コマンドは、ターゲットの管理対象ディスクに十分なフリー・エクステントがない場合には失敗します。この問題を回避するために、エクステントのマイグレーションが完了するまでは新しいコマンドを発行しないでください。

注: 単一の管理対象ディスクでのマイグレーション・アクティビティーは、最大 4 つの並行操作だけに制限されています。この制限には、管理対象ディスクがソースであるか宛先であるかは考慮されません。特定の管理対象ディスクについて、4 件を超えるマイグレーションをスケジュールに入れた場合、超過したマイグレーション操作はキューに入れられて保留状態になり、現在実行中のマイグレーションの 1 つが完了するのを待ちます。1 つのマイグレーション操作が何らかの理由で停止した場合、キューに入れられたマイグレーション・タスクを開始できません。しかし、あるマイグレーションが中断された場合は、その現行マイグレーションが引き続きリソースを使用し、保留中のマイグレーションは開始されません。たとえば、初期構成で次のようなセットアップが可能です。

- MDiskGrp 1 は、その中に VDisk 1 を作成しました。
- MDiskGrp 2 は、その中に VDisk 2 を作成しました。
- MDiskGrp 3 は、唯一の MDisk です。

上記の構成で、以下のマイグレーション操作が開始されました。

- マイグレーション 1 は、VDisk 1 を MDiskGrp 1 から MDiskGrp 3 へマイグレーションし、4 つのスレッドを使用して稼働します。
- マイグレーション 2 は、VDisk 2 を MDiskGrp 2 から MDiskGrp 3 へマイグレーションし、4 つのスレッドを使用して稼働します。

上に述べた制限により、これら 2 つのマイグレーション操作は、必ずしも同じ速度では実行されません。MDiskGrp 3 が持っている MDisk は 1 つだけであり、2 つのマイグレーション操作は合計 8 つのスレッドを持ち、1 つの MDisk へアクセスしようとしています。アクティブになるスレッドは 4 つです。残りのスレッドは待機モードになり、MDisk にアクセスする機会を待ちます。

起こりうる障害

- CMMVC5786 クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5845 コマンドに指定されたオブジェクトが存在しないため、エクステンントはマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステンントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5850E ソース・エクステンントに問題があるため、エクステンントはマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5851E ターゲット・エクステンントに問題があるため、エクステンントはマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5859E イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステンントをマイグレーション中にエラーが発生したため、マイグレーションは完了しませんでした。
- CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステンントがないため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5866E エクステンントに内部データが含まれているため、エクステンントはマイグレーションされませんでした。

呼び出し例

```
svctask migrateexts -vdisk vdisk4 -source mdisk4 -exts  
64 -target mdisk6 -threads 4
```

結果出力

```
No feedback
```

migratetoimage

migratetoimage コマンドを使用してイメージ・モード `vdisk` を同じ MDisk グループ内のターゲット MDisk にマイグレーションすることができます。

構文

```
▶— svctask — — migratetoimage — — -vdisk ————┐ source_vdisk_id ────────────▶  
└──────────┘ source_vdisk_name ───────────┘  
  
▶ ————┐ -threads — number_of_threads ───────────▶  
└──────────┘  
  
▶ -mdisk ————┐ unmanaged_target_mdisk_id ───────────▶  
└──────────┘ unmanaged_target_mdisk_name ───────────┘  
  
▶ -mdiskgroup ————┐ managed_disk_group_id ───────────▶  
└──────────┘ managed_disk_group_name ───────────▶
```

パラメーター

-vdisk *source_vdisk_id* | *name*

マイグレーションするソース VDisk の名前または ID を指定します。

-mdisk *unmanaged_target_mdisk_id* | *name*

データをマイグレーションする先の MDisk の名前を指定します。このディスクは管理対象であってはならず、マイグレーションするディスクのデータを収容できるだけの十分な容量を備えていなければなりません。

-mdiskgroup *managed_disk_group_id* | *name*

マイグレーションが完了した後で MDisk を含める必要のある MDisk グループを指定します。

説明

このコマンドは、ユーザー指定のソース仮想ディスクのデータを、ターゲットとして指定された管理対象ディスクにマイグレーションします。このコマンドが完了すると、仮想ディスクはイメージ・モード・ディスクとして分類されます。

ターゲットとして指定された管理対象ディスクは、このコマンドの実行時に、非管理対象状態になっていなければなりません。このコマンドを実行すると、MDisk がユーザー指定の MDisk グループに組み込まれます。

起こりうる障害

注: このコマンドを実行して、ライセンス仮想化能力を超過している旨を示すエラーが戻されても、コマンドは有効です。しかし、ライセンス違反を示す戻りコードが戻されます。

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

次の例は、ユーザーがデータを vdisk1 から mdisk5 にマイグレーションすることを指定し、MDisk を MDisk グループ mdgrp2 に含める必要があることを示しています。

呼び出し例

```
svctask migratetoimage -vdisk vdisk1 -mdisk mdisk5 -mdiskgrp mdgrp2
```

結果出力

```
No feedback
```

migratevdisk

migratevdisk コマンドを使用して、1 つの管理対象ディスク・グループから別の管理対象ディスク・グループに全体の仮想ディスクをマイグレーションすることができます。

構文

```
svctask -- migratevdisk -- -mdiskgrp [mdisk_group_id | mdisk_group_name]
-- -threads number_of_threads -- -vdisk [vdisk_id | vdisk_name]
```

パラメーター

-mdiskgrp *mdisk_group_id* | *mdisk_group_name*

新規の管理対象ディスク・グループの ID または名前を指定できます。

-threads *number_of_threads*

これらのエクステントのマイグレーション時に使用するスレッド数を指定します (オプション)。1 - 4 スレッドを指定できます。デフォルトのスレッド数は 4 です。

-vdisk *vdisk_id* | *vdisk_name*

新規の管理対象ディスク・グループにマイグレーションする仮想ディスクの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された仮想ディスクを新規管理対象ディスク・グループにマイグレーションします。仮想ディスクを作成するすべてのエクステントが、新規の管理対象ディスク・グループのフリー・エクステントにマイグレーションされます。

このコマンドにより、バックグラウンドで転送が完了する間に成功メッセージが戻されます。完了すると、`in_progress` 戻りコードが戻されます。マイグレーションの進行は、進行中のマイグレーションをリストする **svcinfolismigrate** コマンドを使用して確認できます。

プロセスは、マイグレーション時に使用するスレッド数を指定することで優先順位付けをすることができます。1 スレッドのみの使用を指定した場合、システムへのバックグラウンド・ロードは最少です。

migratevdisk コマンドの実行中に、ターゲットの管理対象ディスクに十分なフリー・エクステントがない場合、このコマンドは失敗します。この問題を回避するために、VDisk のマイグレーションが完了するまでは、エクステントを使用する新しいコマンドを発行しないでください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5846E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5847E この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。
- CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。
- CMMVC5853E MDisk グループに問題があったため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステントがないため、マイグレーションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask migratevdisk -vdisk 4 -mdiskgrp Group0 -threads 2
```

結果出力

```
No feedback
```



```
svctask setdisktrace -type mdisk -objectid
mdisk1:mdisk3:mdisk11:mdisk10:mdisk9:mdisk5 -reset
```

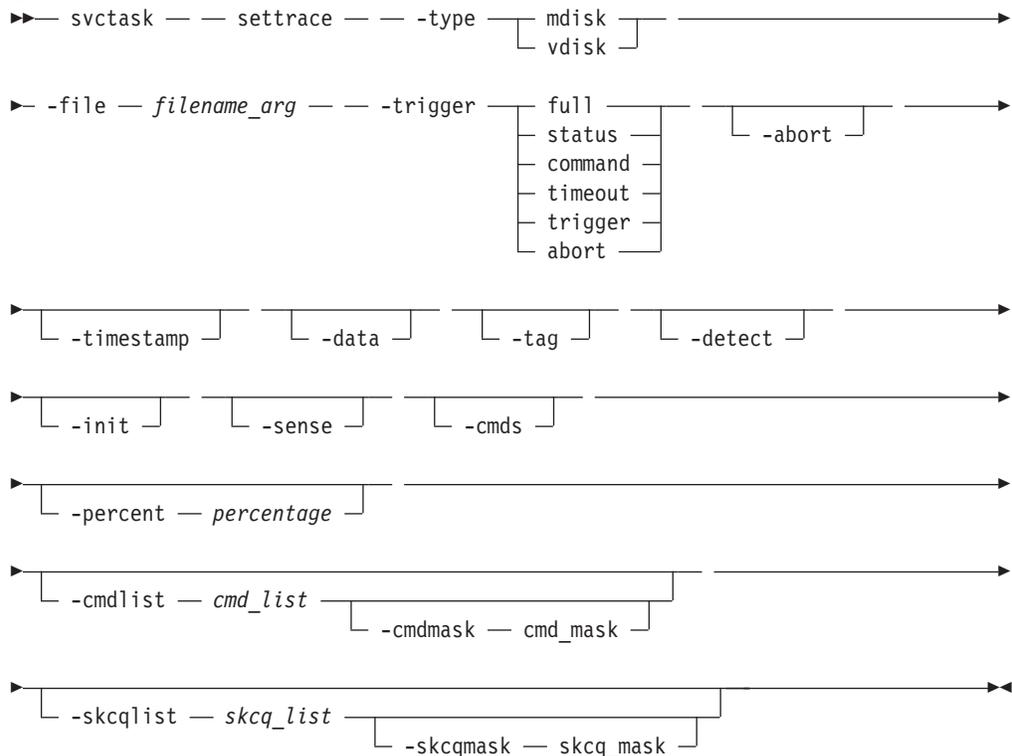
結果出力

No feedback

settrace

settrace コマンドは、システムを通して特定の入出力操作をトレースするオプションを設定するために使用します。

構文



パラメーター

-type *mdisk* | *vdisk*

トレースするオブジェクトのタイプを指定します。

-file *filename_arg*

トレース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。

-trigger *full* | *status* | *command* | *timeout* | *trigger* | *abort*

トリガー・オプション、つまりトレースが開始される (トリガーする) ときに行うことを指定します。

full トレース・バッファがいっぱいになったら、トレースを停止します (MDisk と VDisk の両方で有効)。

status 特定の SCSI 状況 (-skcqlist) がセンス・データで報告されたとき (MDisk と VDisk の両方で有効)。

| **command**

| 特定の SCSI コマンド (-cmdlist) が送信されたとき (MDisk と VDisk
| の両方で有効)。

| **timeout**

| タイムアウトが発生したとき (MDisk でのみ有効)。

| **trigger**

| トリガー・イベント、つまり、折り返しまで実行を継続します (MDisk
| でのみ有効)。

| **abort** 異常終了が発生したとき (VDisk でのみ有効)。

| **-abort**

| トレースに打ち切りの詳細を加える、打ち切り引数を指定します (オプション)。
| この引数は VDisk にのみ有効です。

| **-timestamp**

| タイム・スタンプ・フラグを指定します (オプション)。トレース内の各項目に
| タイム・スタンプを付けます。ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作
| 成されます。ファイル名の形式は、<prefix>_NN_YYMMDD_HHMMSS で、NN
| は現行の構成ノード ID です。ファイルは、/dumps/iotrace ディレクトリーに作
| 成されます。

| **-data**

| I/O データをトレースに追加するデータ・フラグを指定します (オプション)。

| **-tag**

| ccb_tags フラグを指定します (オプション)。トレースに CCB タグを追加しま
| す。この引数は MDisk に有効です。

| **-detect**

| ディスカバリー・フラグを指定します (オプション)。MDisk のディスカバリー
| 詳細を MDisk のトレースに追加します。

| **-init**

| MDisk 初期化の詳細を MDisk のトレースに追加する初期化フラグを指定しま
| す (オプション)。

| **-sense**

| SCSI センス・データをトレースに追加するセンス・フラグを指定します (オプ
| ション)。このフラグは VDisk にのみ有効です。

| **-cmds**

| コマンド・データをトレースに追加するコマンド・フラグを指定します (オプシ
| ョン)。このフラグは VDisk にのみ有効です。

| **-percent**

| トレース・ファイル内のどこに、選択したトリガー・ポイントを置くかを指定し
| ます (オプション)。つまり、このフラグは、トリガー・ポイントの後にどのく
| らいのデータを集めるかを指定します。デフォルトは 50% で、この場合、トリ
| ガー・ポイントはトレース・ファイルの中央に置かれます。

| **-cmdlist cmd_list**

| コマンド・リストを指定します (オプション)。指定されたコマンドのみがトレ
| ース・ファイルに追加されます。

-cmdmask *cmd_mask*

コマンド・マスクを指定します (オプション)。指定されたコマンドのみがトレース・ファイルに追加されます。この引数を入力できるのは、-cmdlist 引数も入力した場合に限られます。

-skcqlist *skcq_list*

SKCQ リストを指定します (オプション)。リストされた SKCQ の詳細のみがトレース・ファイルに追加されます。

-skcqmask *skcq_mask*

SKCQ マスクを指定します (オプション)。指定された SKCQ の詳細のみがトレース・ファイルに追加されます。この引数を入力できるのは、-skcqlist 引数も入力した場合に限られます。

説明

このコマンドは、特定のディスク・タイプ (管理対象ディスクまたは仮想ディスク) についてのさまざまな I/O トレース・オプションを設定します。関連するディスク・タイプのトレースがその後トリガーされると、オプションは、ユーザーがトレース・ファイルに含めるデータを指定します。

ファイル名は、トレース・ファイルのファイル名接頭部を指定します。システムが、ノード・パネル名とタイム・スタンプをファイル名に付加します。ノード ID は、現行の構成ノードです。

最大 10 トレース・ファイルがクラスターで保持されます。11 番目のトレースが作成されると、もっとも古い既存のトレース・ファイルが上書きされます。

ディレクトリーが他のノードから検索されたファイルを保持することもあります。これらのファイルは、カウントされません。SAN ポリューム・コントローラーは、必要であれば最も古いファイルを削除してファイルの最大数を維持します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。

呼び出し例

```
svctask settrace -type vdisk -file tracedump -trigger abort  
-percent 100 -abort -timestamp
```

結果出力

No feedback

starttrace

starttrace コマンドは、特定のオブジェクト・タイプ用に現在設定されているオプションとトレース対象ディスクのリストに基づいて、入出力操作のトレースを開始するために使用します。

構文

```
▶▶— svctask — — starttrace — — -type ————┬── mdisk ───▶  
└── vdisk ───┘
```

パラメーター

-type *mdisk* | *vdisk*

トリガーするオブジェクト・タイプを指定します。

説明

このコマンドは、I/O トレース情報の収集を開始します。トレース・ファイルは、**svctask settrace** コマンドで指定したオプションに従って生成されます。トレースされるディスクは、**svctask setdisktrace** コマンドで設定されたリストに示されているディスクです。

トレースは、`/dumps/iotrace` ディレクトリーに書き込まれます。このディレクトリーの内容は、**svcinfolsiotracedumps** コマンドを使用して表示できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5809E I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでした。
- CMMVC5986E 仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を戻さなかったため、入出力操作のトレースは開始されませんでした。

呼び出し例

```
svctask starttrace -type vdisk
```

結果出力

```
No feedback
```

stoptrace

stoptrace コマンドは、特定のディスク・タイプのトレースを停止するために使用します。

構文

```
▶▶— svctask — — stoptrace — — -type ————┬── mdisk ───▶  
└── vdisk ───┘
```

パラメーター

-type *mdisk* | *vdisk*

トレースを停止するオブジェクト・タイプを指定します。

説明

このコマンドは、特定のオブジェクト・タイプの入出力操作のトレースを停止します。トリガー・オプションが適合していない場合、**svctask stoptrace** コマンドを発行してもトレース・ファイルを得られない可能性があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask stoptrace -type mdisk
```

結果出力

```
No feedback
```

第 15 章 -filtervalue 引数の属性

-filtervalue 引数を使用して、それぞれのオブジェクト・タイプに関連した特定の属性値に基づいてビューをフィルターに掛けます。複数のフィルターを結合して、特定のサーチを作成できます。例: `-filtervalue name=fred:status=online ヘルプ (-filtervalue?)` は、それぞれのオブジェクト・タイプごとに有効な属性を指定します。

-filtervalue 引数を使用する場合、`attrib=value` を入力する必要があります。`-filtervalue?` および `-filtervalue` 引数は、相互に排他的です (同時に使用できません)。

注: `<` と `>` の修飾子は、引用符で囲みます。たとえば、次のとおりです。

```
-filtervalue vdisk_count "<"4 or port_count ">"1
```

引用符で全体を囲む表記方法も有効です。たとえば、次のとおりです。

```
-filtervalue "vdisk_count<4"
```

属性に `-unit` 引数を必要とする場合は、属性の後に指定します。たとえば、次のとおりです。

```
-filtervalue capacity=24 -unit mb
```

`-unit` パラメーターには、次の入力オプションを使用できます。

- b (バイト数)
- mb (メガバイト数)
- gb (ギガバイト数)
- tb (テラバイト数)
- pb (ペタバイト数)

ワイルドカードの「*」文字は、テキスト・ストリングの先頭または末端に使用できますが、先頭と末端の両方には使用できません。

表 4. 有効なフィルター属性

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
cluster	cluster_name または name	=	有効	クラスター名。
	cluster_unique_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	クラスター ID。

表 4. 有効なフィルター属性 (続き)

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
node	node_name または name	=	有効	ノード名。
	id	=, <, <=, >, >=	無効	ノード ID。
	status	=	無効	ノードの状況。 ノード状況に有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • adding • deleting • online • offline • pending
	IO_group_name	=	有効	I/O グループ名。
	IO_group_id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループ ID。
io_grp	HWS_name または name	=	有効	I/O グループ名。
	HWS_unique_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループ ID。
	node_count	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループのノード数。
コントローラー	controller_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	コントローラー ID。
mdisk	name	=	有効	MDisk の名前。
	id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk の ID。
	controller_name	=	有効	MDisk が属しているコントローラーの名前。
	status	=	無効	MDisk の状況。 MDisk 状況に有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • online • degraded • excluded • offline
	モード	=	無効	MDisk のモード。 MDisk モードに有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • unmanaged • managed • image
	mdisk_grp_name	=	有効	MDisk グループ名。
	mdisk_grp_id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	capacity	=, <, <=, >, >=	無効	容量。-unit 引数が必要です。

表 4. 有効なフィルター属性 (続き)

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
mdiskgrp	name	=	有効	MDisk グループ名。
	storage_pool_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	mdisk_count	=, <, <=, >, >=	無効	グループ内の MDisk の数。
	vdisk_count	=, <, <=, >, >=	無効	グループ内の VDisk の数。
	status	=	無効	MDisk グループの状況。有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • online • degraded • offline
	extent_size	=, <, <=, >, >=	無効	エクステント・サイズ (MB)。
vdisk	vdisk_name または name	=	有効	VDisk の名前。
	vdisk_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	VDisk の ID。
	IO_group_name	=	有効	I/O グループの名前。
	IO_group_id	=, <, <=, >, >=	無効	I/O グループの ID。
	status	=	無効	VDisk の状況。 VDisk 状況に有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • online • degraded • offline
	mdisk_grp_name	=	有効	MDisk グループ名。
	mdisk_grp_id	=, <, <=, >, >=	無効	MDisk グループ ID。
	capacity	=, <, <=, >, >=	無効	容量。-unit 引数が必要です。
	type	=	無効	VDisk のタイプ。有効な値オプション: <ul style="list-style-type: none"> • seq • striped • image
	FC_name	=	有効	FlashCopy マッピング名。
	FC_id	=, <, <=, >, >=	無効	FlashCopy マッピング ID。
	RC_name	=	有効	メトロ・ミラー関係の名前。
	RC_id	=, <, <=, >, >=	無効	メトロ・ミラー関係 ID。
	host	host_name または name	=	有効
host_id または id		=, <, <=, >, >=	無効	ホスト ID。
port_count		=, <, <=, >, >=	無効	ポート数。

表 4. 有効なフィルター属性 (続き)

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
fcmap	FC_mapping_name または name	=	有効	FlashCopy マッピング名。
	FC_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	FlashCopy マッピング ID。
	source_vdisk_name	=	有効	ソース VDisk 名。
	source_vdisk_id	=, <, <=, >, >=	無効	ソース VDisk ID。
	target_vdisk_name	=	有効	ターゲット VDisk 名。
	target_vdisk_id	=, <, <=, >, >=	無効	ターゲット VDisk ID。
	group_name	=	有効	整合性グループ名。
	group_id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ ID。
	status	=	無効	マッピング状況。 fcmap 状況に有効な入力オプション: <ul style="list-style-type: none"> • idle_copied • preparing • copying • stopped • suspended
copy_rate	=, <, <=, >, >=	無効	バックグラウンド・コピー率。	
fcconsist-grp	name	=	有効	整合性グループ名。
	FC_group_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ ID。
	status	=	無効	整合性グループ状況。有効な値オプション: <ul style="list-style-type: none"> • idle_or_copied • preparing • prepared • copying • stopped • suspended

表 4. 有効なフィルター属性 (続き)

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
rcrelation-ship	RC_rel_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	メトロ・ミラー関係 ID。
	RC_rel_name または name	=	有効	メトロ・ミラー関係の名前。
	master_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	マスター・クラスター ID。
	master_cluster_name	=	有効	マスター・クラスター名。
	master_vdisk_id	=, <, <=, >, >=	無効	マスター VDisk ID。
	master_vdisk_name	=	有効	マスター VDisk 名。
	aux_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX クラスター ID。
	aux_cluster_name	=	有効	AUX クラスター名。
	aux_vdisk_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX VDisk ID。
	aux_vdisk_name	=	有効	AUX VDisk 名。
	primary	=	無効	関係 1 次。有効な入力値: <ul style="list-style-type: none"> • master • aux
	consistency_group_id	=, <, <=, >, >=	無効	メトロ・ミラー整合性グループ ID。
	consistency_group_name	=	有効	メトロ・ミラー整合性グループ名。
	状態	=	有効	関係の状態。有効な入力値: <ul style="list-style-type: none"> • inconsistent_stopped • inconsistent_copying • consistent_stopped • consistent_synchronized • idling • idling_disconnected • inconsistent_disconnected • consistent_disconnected
progress	=, <, <=, >, >=	無効	その関係に対するイニシャル・バックグラウンド・コピー (同期化) の進行状況。	

表 4. 有効なフィルター属性 (続き)

オブジェクト	属性	有効な修飾子	ワイルドカードが有効か	説明
rconsist-grp	group_id または id	=, <, <=, >, >=	無効	整合性グループ ID。
	name	=	有効	整合性グループ名。
	master_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	マスター・クラスター ID。
	master_cluster_name	=	有効	マスター・クラスター名。
	aux_cluster_id	=, <, <=, >, >=	無効	AUX クラスター ID。
	aux_cluster_name	=	有効	AUX クラスター名。
	primary	=	無効	整合性グループ 1 次。有効な入力値: <ul style="list-style-type: none"> • master • aux
	状態	=	無効	整合性グループの状態。有効な入力値: <ul style="list-style-type: none"> • inconsistent_stopped • inconsistent_copying • consistent_stopped • consistent_synchronized • idling • idling_disconnected • inconsistent_disconnected • consistent_disconnected • empty
relationship_count	=, <, <=, >, >=	無効	関係数。	

関連資料

xxxiv ページの『SAN ボリューム・コントローラーのコマンド行インターフェース (CLI) でのワイルドカードの使用』
SAN ボリューム・コントローラー コマンド行インターフェースでワイルドカードを使用できます。

第 16 章 ダンプ・リスト・コマンドの概要

ダンプ・リスト・コマンドを使用すると、該当のディレクトリーにダンプのリストを戻すことができます。

SAN ボリューム・コントローラーのダンプは、次のディレクトリー構造に入っています。

- /dumps
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- /dumps/feature
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace

ソフトウェア・アップグレード・パッケージは、/home/admin/upgrade ディレクトリーに含まれています。これらのディレクトリーは、クラスター内の各ノードに存在します。

構成ダンプ: /dumps/configs ディレクトリーに入っているのは、クラスター構成データのダンプです。構成ダンプは、**svctask dumpconfig** コマンドによって作成されます。このコマンドは、オブジェクトのすべての詳細情報を含むクラスターの構成を /dumps/configs ディレクトリーにダンプします。ファイル名の接頭部を指定しないと、デフォルトの config_ が使用されます。デフォルトのフル・ファイル名は、config_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS (NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名) です。コマンドを -prefix オプションで使用する際に、-prefix に入力した値は、config の代わりに使用されます。/dumps/configs ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfolconfigdumps** です。

エラーまたはイベント・ログ: /dumps/elogs ディレクトリーには、ダンプが行われた時のエラーおよびイベント・ログの内容のダンプが入っています。エラーまたはイベント・ログ・ダンプは、**svctask dumperrlog** コマンドによって作成されます。このコマンドは、エラーまたはイベント・ログの内容を /dumps/elogs ディレクトリーにダンプします。ファイル名の接頭部を指定しないと、デフォルトの errlog_ が使用されます。デフォルトのフル・ファイル名は、errlog_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS (NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名) です。コマンドを -prefix オプションで使用する際に、errlog ではなく、-prefix で入力した値が使用されます。/dumps/elogs ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfolerrlogdumps** です。

フィーチャー設定ログ・ダンプ: /dumps/feature ディレクトリーに入っているのは、フィーチャー設定ログのダンプです。フィーチャー設定ログ・ダンプは、**svctask dumpinternallog** コマンドによって作成されます。このコマンドは、フィーチャー設定ログの内容を、/dumps/feature ディレクトリー内の feature.txt ファイルにダンプします。このファイルは 1 つしかないので、**svctask dumpinternallog** コマンドを実行するたびに、このファイルが上書きされます。/dumps/feature ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfolfeaturedumps** です。

I/O 統計ダンプ: /dumps/iostats ディレクトリーに入っているのは、クラスター上のディスクの I/O 統計データのダンプです。I/O 統計ダンプは、**svctask startstats** コマンドによって作成されます。このコマンドで、統計データをファイルに書き込む時間間隔を指定できます (デフォルトは 15 分)。この時間間隔で、それまで収集されていた I/O 統計が、/dumps/iostats ディレクトリー内のファイルに書き込まれます。I/O 統計情報ダンプが保管されるファイルの名前は、**m_stats_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS**、**Nm_stats_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS**、または **v_stats_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS** (NNNNNN はノードのフロント・パネル名) です。どちらのファイルが使用されるかは、その統計情報が MDisk のものか、それとも VDisk のものかによります。/dumps/iostats ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfolsiostatsdumps** です。

I/O トレース・ダンプ: /dumps/iotrace ディレクトリーに入っているのは、I/O トレース・データのダンプです。トレースされるデータのタイプは、**svctask settrace** コマンドによって指定されたオプションによります。I/O トレース・データの収集は、**svctask starttrace** コマンドの使用によって開始されます。I/O トレース・データ収集は、**svctask stoptrace** コマンドが使用されるときに停止します。データがファイルに書き込まれるのは、トレースが停止したときです。データが書き込まれるファイルの名前は、**<prefix>_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS** です (NNNNNN はノードのフロント・パネル名で、<prefix> は、**svctask settrace** コマンドでユーザーが **-filename** パラメーターに入力した値) です。/dumps/iotrace ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfolsiotrace dumps** です。

アプリケーション異常終了ダンプ: /dumps ディレクトリーに入っているのは、アプリケーションの異常終了の結果、生成されたダンプです。このようなダンプは、/dumps ディレクトリーに書き込まれます。デフォルトのファイル名は、**dump.NNNNNN.YYMMDD.HHMMSS** (NNNNNN は、ノードのフロント・パネル名) です。ダンプ・ファイルに加えて、幾つかのトレース・ファイルがこのディレクトリーに書き込まれる場合があります。それらのトレース・ファイルには、**NNNNNN.trc** という名前が付きます。

/dumps/ ディレクトリー内のすべてのダンプをリストするコマンドは、**svcinfol s2145dumps** です。

ダンプ・リスト・コマンドの最後のオプションは、**svcinfol ssoftware dumps** コマンドです。このコマンドは、/home/admin/upgrade ディレクトリーの内容をリストします。このディレクトリー内のすべてのファイルは、ソフトウェアをアップグレードするときに、このディレクトリーにコピーされたものです。

ダンプ・リスト・コマンドは、すべてノード ID を入力として受け付けます。この ID が指定されなかった場合、現行の構成ノード上のファイルのリストが表示されます。ノード ID が指定された場合は、そのノード上のファイルのリストが表示されます。

ファイルは (セキュア・コピーを利用して) 現行の構成ノードからのみコピーできるので、**svctask cpdumps** コマンドを発行して、ファイルを非構成ノード・ファイルから現行の構成ノードにコピーできます。

第 17 章 情報コマンド

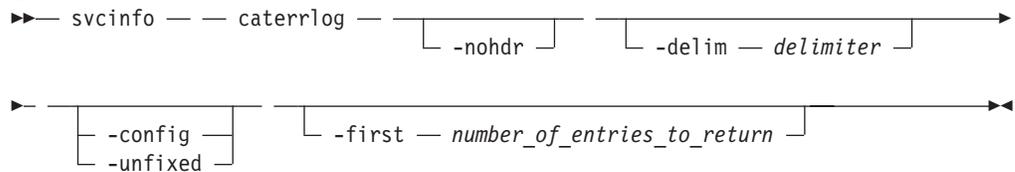
以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーで、特殊なタイプの情報の表示を操作できます。

注: ID は実行時にシステムによって割り当てられますが、その後、構成回復時に、そのまま同じ ID が維持されるとは限りません。したがって、オブジェクトに関する作業をするときは、ID より優先してオブジェクト名を使用してください。

caterrrlog

caterrrlog コマンドは、クラスター・エラーとイベント・ログの内容を表示します。

構文



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しの表示は、データの列ごとの場合 (簡略形式のビューで特定のタイプのオブジェクトについて概略情報を提供) と データの項目ごとの場合があります (詳細形式のビューで特定のタイプのオブジェクトについて詳細情報を提供)。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

-config

構成イベントをリスト表示するように指定します (オプション)。

-unfixed

未修正エラーをリスト表示するように指定します (オプション)。

-first *number_of_entries_to_return*

ログ内に最初の *n* 個の項目を表示するように指定します (オプション)。ここで、*n* は、ユーザーが **-first** フラグに入力する引数の値です。

説明

このコマンドは、指定されたエラー・ログ項目のリストを戻します。フラグを 1 つも渡さないと、すべてのエラー・ログ項目がリストされます。

リストは、**-config** または **-unfixed** 引数を指定することで、構成イベントのみ、もしくは未修正エラーのみを含めるようにフィルターに掛けることができます。

-first パラメーターを使用すると、最初の *x* 個のレコードが表示されます (*x* は、**-first** パラメーターの引数として入力した数)。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo caterrlog -delim :
```

結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
0:cluster:no:no:6:node1:100:100:030407052547:030407052547:1:00981001
0:fc_card:no:no:1:node1:101:101:030407052547:030407052547:1:00073001
1:node:no:no:1:node1:102:102:030407052547:030407052547:1:00074001
0:cluster:no:no:6:node1:103:100:030407052547:030407052547:1:00981001
1:fc_card:no:no:1:node1:104:104:030407052632:030407052632:1:00073003
0:node:no:no:6:node1:105:105:030407082202:030407082717:2:00980500
2:remote:no:no:6:n/a:106:106:030407090117:030407090117:1:00985002
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407052546:030407052546:1:00990383
0:cluster:no:no:5:node1:0:0:030407080630:030407080630:1:00990117
0:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990148
128:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990173
1:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081619:030407081619:1:00990148
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081836:030407081836:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081843:030407081843:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081854:030407081854:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082015:030407082015:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082145:030407082145:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082148:030407082148:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082158:030407082158:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082213:030407082213:1:00990169
0:host:no:no:5:node1:0:0:030407082441:030407082441:1:00990106
1:host:no:no:5:node1:0:0:030407082457:030407082457:1:00990106
2:host:no:no:5:node1:0:0:030407082523:030407082523:1:00990106
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407082704:030407082704:1:00990184
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082716:030407082716:1:00990501
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082722:030407082722:1:00990501
1:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083141:030407083141:1:00990204
2:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083143:030407083143:1:00990204
3:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083145:030407083145:1:00990204
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083318:030407083318:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083355:030407083355:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407085753:030407085753:1:00990185
1:remote:no:no:5:node1:0:0:030407085932:030407085932:1:00990225
2:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407085959:030407085959:1:00990169
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090004:030407090004:1:00990169
4:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090013:030407090013:1:00990169
```

```
2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090106:030407090106:1:00990225
255:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090323:030407090323:1:00990240
254:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090327:030407090327:1:00990240
253:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090333:030407090333:1:00990240
2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090442:030407090442:1:00990226
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090820:030407090820:1:00990182
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090825:030407090825:1:00990182
```

caterrlogbyseqnum

caterrlogbyseqnum コマンドは、ユーザーの指定に従い、すべてのエラーをシーケンス番号、または根本原因番号と共に表示します。

構文

```
▶▶ svcinfo — — caterrlogbyseqnum — — [ -num — sequence_number ] — — [ -root — root_cause_number ] — — [ -nohdr ] — — [ -delim — delimiter ] — — ▶▶
```

パラメーター

-num *sequence_number*

表示するシーケンス番号を指定します。

-root *root_cause_number*

根本原因番号を指定します。この根本原因のマークが付いたすべてのエラーが表示されます。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合)

は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、**-num** 引数によって渡されたシーケンス番号で指定されたとおり、単一のエラー・ログ項目を戻します。

-root 引数を使用すると、ログ内で、指定された根本原因番号が付いたすべての項目が検索されます。そして、この根本原因のマークが付いたすべての項目のリストが戻されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfc caterrlogbyseqnum -num 100 -delim :
```

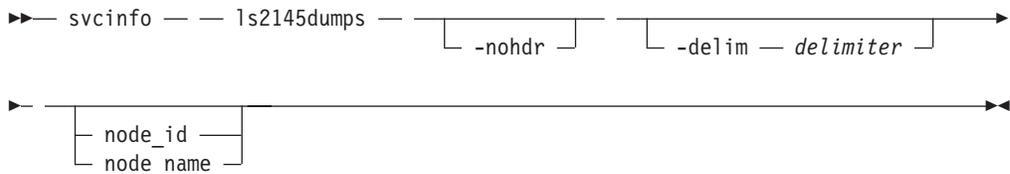
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:  
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:  
error_code  
0:cluster:no:6:node1:100:100:030407052547:030407052547:1:00981001
```

ls2145dumps

ls2145dumps コマンドは、/dump ディレクトリーから、ノードの assert ダンプおよび関連する出力ファイルのリストを取得します。

構文



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、ノードの `assert` ダンプおよび関連する出力ファイルのリストを戻します。これらのダンプは、ノードのアサーションの結果、作成されます。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、`/dumps` ディレクトリー内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfol s2145dumps -delim :
```

結果出力

```
id:filename  
0:000108.trc.old  
1:dump.000108.030328.144007  
2.000108.trc
```

lscluster

lscluster コマンドは、クラスタのレポートを簡略リストまたは詳細ビューとして戻します。リストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2つの形式のレポートを作成できます。

1. すべてのクラスタに関する簡略的な情報が含まれるリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のクラスタに対応します。)
2. ユーザー指定の単一クラスタに関する詳細情報。

構文

```
▶▶ svcinfo — lscluster — [ -filtervalue — attrib=value ] —▶  
  
▶ [ -nohdr ] [ -bytes ] [ -delim — delimiter ] —▶  
  
▶ [ object_id — name ] [ -filtervalue? ] —▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、 **-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

-filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) **-filtervalue** で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) **-filtervalue** で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfo lscluster** コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- cluster_name
- cluster_unique_id
- id
- name

説明

このコマンドは、クラスタの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

location	local, remote
statistics status	on, off
SNMP setting	none, all, hardware_only

location、**partnership**、および **bandwidth** フィールドは、2 つのクラスタの SAN ファブリックがリンクされているメトロ・ミラー構成に関連します。

mkpartnership コマンドがローカル・クラスタからリモート・クラスタに対して発行された場合、リモート・クラスタに関する情報は、**lscluster** コマンドでレポートされます。たとえば、協力関係をローカル・クラスタから部分的にでも確立した場合などです。

svcinfolcluster コマンドを実行すると、クラスターのビューを簡略的に表示できます。

```
svcinfolcluster -delim : 10030a007e5
```

ここで、*10030a007e5* は、クラスターの名前です。このコマンドの出力には、ファブリック上の各クラスターについて次の内容が含まれます。

- クラスター名
- クラスター IP アドレス
- クラスター保守モードの IP アドレス

リモート・クラスターの場合、これらのフィールドは、次のものを示します。

location: remote

partnership : partially_configured (mkpartnership コマンドは、ローカル・クラスターからリモート・クラスターに対してのみ発行されました)

fully_configured (mkpartnership コマンドは、双方向に発行されました)

bandwidth: MB/sec (バックグラウンド・コピーのクラスター間リンクで使用可能な帯域幅)

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolcluster -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:location:partnership:bandwidth:cluster_IP_address:  
id:name:location:partnership:bandwidth:cluster_IP_address:  
cluster_service_ip_address:id_alias  
0000020062813ABA:clusterA:local:::9.20.247.210:1.1.1.1:0000020062813ABA  
0000020062006746:clusterB:remote:fully_configured:50:9.20.247.211:  
1.1.1.1:0000020062006746
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolcluster -delim : 10030a007e5
```

詳細な結果出力

```
id:1521071282978998  
name:cluster1  
location:local  
partnership:  
bandwidth:  
cluster_IP_address:9.20.165.16  
cluster_service_IP_address:9.20.165.17total_mdisk_capacity:59.8GB  
space_in_mdisk_grps:0  
space_allocated to vdisks:0  
total_free_space:59.8GB  
statistics_status:on  
statistics_frequency:300  
required_memory:1280  
subnet_mask:255.255.255.0
```

```
default_gateway:9.20.165.1
cluster_locale:en_US
SNMP_setting:snmp_all
SNMP_community:
SNMP_server_IP_address:9.20.165.18
time_zone:522 UTCemail_setting:all
email_id:another@uk.ibm.comcode_level:1.20abcG
FC_port_speed:1Gb
id_alias:1521071282978998
```

clusterA が **clusterB** に対して **mkpartnership** を発行し、クラスター間帯域幅が **50 MB/s** に設定された、メトロ・ミラー構成の簡略的呼び出し例

```
svcinfo lscluster -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:location:partnership:bandwidth:
 cluster IP address:cluster service IP address
0000020062813ABA:clusterA:local:::9.20.247.210:1.1.1.1
0000020062006746:clusterB:remote:
 fully_configured:50:9.20.247.211:1.1.1.1
```

lsclustercandidate

lsclustercandidate コマンドは、2 つのクラスターの協力関係をセットアップするのに使用可能なクラスターをリストします。これは、クラスター間のメトロ・ミラー関係を作成するときの前提条件です。

構文

```
▶▶ svcinfo — lsclustercandidate — [ -nohdr ] —————▶
|
| [ -delim — delimiter ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、2つのクラスター間でメトロ・ミラー協力関係を形成するために、パートナー・クラスターの候補として使用できるクラスターのリストを戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsclustercandidate
```

結果出力

id	configured	cluster_name
0000010034E0F430	no	1dcluster26

lsconfigdumps

lsconfigdumps コマンドは、ノードにある構成ダンプのリストを表示します。ダンプは、**svctask dumpconfig** コマンドを発行した結果として作成されます。

構文

```
▶▶ svcinfo — lsconfigdumps — [ -nohdr ] —————▶
▶ [ -delim — delimiter ] [ node_id — node_name ] —▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが1つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、構成ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask dumpconfig** コマンドを発行した結果、作成されたものです。構成ダンプには、クラスタの構成が記述されています。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、/dumps/configs ディレクトリー内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsconfigdumps
```

結果出力

```
id          config_filename
0           config_lynn02_030403_101205
```

lscontroller

lscontroller コマンドは、クラスタが認識できるコントローラーの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. コントローラーに関する簡略的な情報が含まれるリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、1 つのコントローラーに対応します。)
2. ユーザー指定の単一コントローラーに関する詳細情報。

構文

```
▶▶ svcinfo — lscontroller — [ -filtervalue — attrib=value ] ▶▶
▶ [ -nohdr ] [ -delim — delimiter ] [ object_id name ] ▶▶
▶ [ -filtervalue? ] ▶▶
```

パラメーター

-filtervalue attribute=value

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

コントローラーの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfo lscontroller** コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- `controller_id`
- `id`

説明

このコマンドは、クラスターが認識できるコントローラーの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

degraded	no, yes
----------	---------

SAN ボリューム・コントローラー名からストレージ・コントローラー名を判別する
: **svcinfo lscontroller** コマンドを実行して、ストレージ・コントローラーをリストします。判別したいコントローラーのコントローラー名または ID を確認します。当該コントローラーについて、**svcinfo lscontroller <controllername/id>** コマンドを実行します。ここで、`<controllername/id>` は、コントローラーの名前または ID です。コントローラーの WWNN を確認します。それを書き留めておいてください。WWNN は、実際のストレージ・コントローラーを確認するときで使用できません。ネイティブのコントローラー・ユーザー・インターフェースを起動するか、または提供されているコマンド行ツールを使用すると、この WWNN が使用されている実際のコントローラーを確認できます。

MDisk と RAID アレイまたは LUN の関係を判別する: 各 MDisk は、単一の RAID アレイ、または与えられた RAID アレイ上の単一の区画に対応します。各 RAID コントローラーは、このディスクの LUN 番号を定義します。MDisk と RAID アレイまたは区画とのあいだの関係を判別するのに、LUN 番号とコントローラー名または ID が必要になります。

svcinfo lsmdisk <mdiskname> コマンドを実行して、与えられた MDisk <mdiskname> の詳細表示を表示します。ここで、<mdiskname> は、MDisk の名前です。

注: コントローラー名またはコントローラー ID、およびコントローラーの LUN 番号を確認します。

svcinfo lscontroller <controllername> コマンドを実行して、判別したコントローラーの詳細表示を表示します。ここで、<controllername> は、コントローラーの名前です。

注: ベンダー ID、製品 ID、および WWNN を確認します。これを使用して、MDisk に提示される内容を確認します。

与えられたコントローラーのネイティブ・ユーザー・インターフェースを使用して、提示対象の LUN をリストし、LUN 番号を確認します。この操作により、MDisk に対応する RAID アレイまたは区画を正確に知ることができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfo lscontroller -delim :
```

簡略結果出力

```
id:controller_name:ctrl_s/n:vendor_id:product_id_low:product_id_high
7:controller7:3EK0J5Y8:SEAGATE :ST373405:FC
8:controller8:3EK0J6CR:SEAGATE :ST373405:FC
9:controller9:3EK0J4YN:SEAGATE :ST373405:FC
10:controller10:3EK0GKGH:SEAGATE :ST373405:FC
11:controller11:3EK0J85C:SEAGATE :ST373405:FC
12:controller12:3EK0JBR2:SEAGATE :ST373405:FC
13:controller13:3EKYNJF8:SEAGATE :ST373405:FC
14:controller14:3EK0HVMT:SEAGATE :ST373405:FC
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfo lscontroller -delim = 7
```

詳細な結果出力

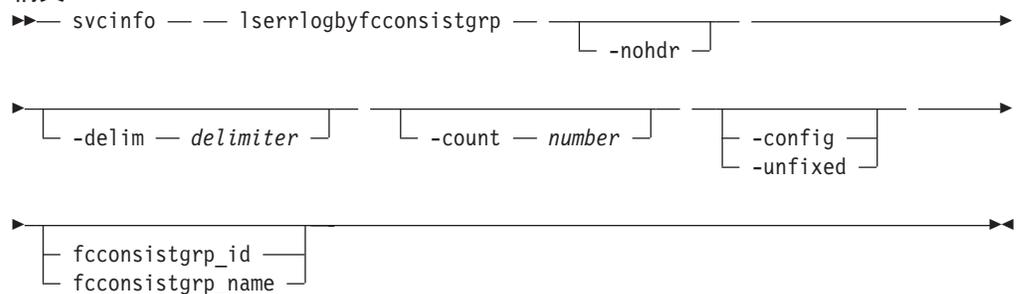
```
id=7
controller_name=controller7
WWNN=20000004CF2412AC
mdisk_link_count=1
max_mdisk_link_count=1
degraded=no
vendor_id=SEAGATE
```

```
product_id_low=ST373405
product_id_high=FC
product_revision=0003
ctrl_s/n=3EK0J5Y8
WWPN=22000004CF2412AC
path_count=1
max_path_count=1
WWPN=21000004CF2412AC
path_count=0
max_path_count=0
```

lserrlogbyfcconsistgrp

lserrlogbyfcconsistgrp コマンドは、FlashCopy 整合性グループに関連したログ内のエラーとイベントを表示します。

構文



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

-count number

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。 `-count` 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 **-config** 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。 **-unfixed** 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

fcconsistgrp_id | fcconsistgrp_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、実行された場合、FlashCopy 整合性グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfol serrlogbyfcconsistgrp -delim :
```

結果出力

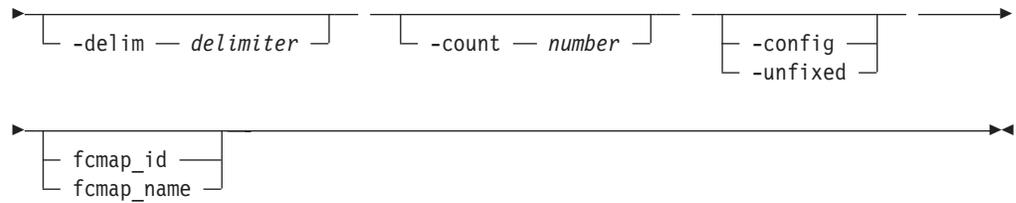
```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:  
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code  
3:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083145:030407083145:1:00990204  
2:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083143:030407083143:1:00990204  
1:fc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407083141:030407083141:1:00990204
```

lserrlogbyfcmap

lserrlogbyfcmap コマンドは、FlashCopy マッピングに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文

```
▶▶— svcinfol — — lserrlogbyfcmap — — [ -nohdr ] —————▶
```



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

-count number

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプション)。 `-count` は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 `-config` が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 `-unfixed` が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

fcmmap_id | fcmmap_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、FlashCopy マッピングに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エ

ラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfol serrlogbyfcmap -delim :
```

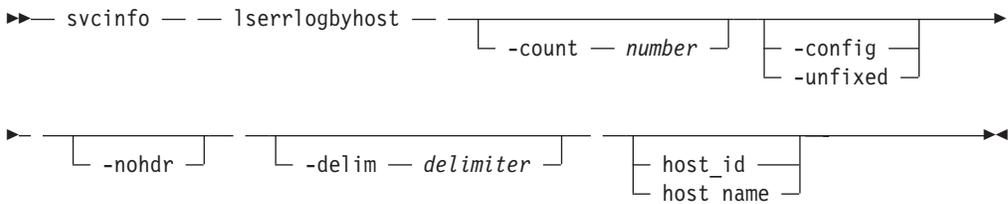
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407085753:030407085753:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083355:030407083355:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407083318:030407083318:1:00990185
0:flash:no:no:5:node1:0:0:030407082704:030407082704:1:00990184
```

lserrlogbyhost

lserrlogbyhost コマンドは、ホストに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。-config 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。-unfixed 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

host_id | host_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、ホストに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の *x* 個の項目をリストすることも可能です。

注: `unknown` (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbyhost -delim :
```

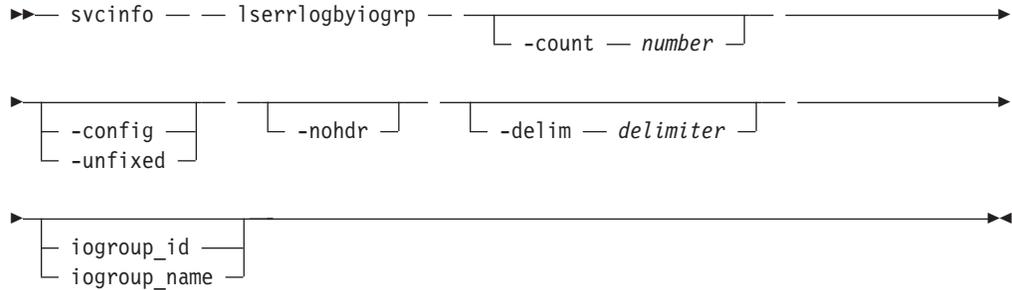
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
2:host:no:no:5:node1:0:0:030407082523:030407082523:1:00990106
1:host:no:no:5:node1:0:0:030407082457:030407082457:1:00990106
0:host:no:no:5:node1:0:0:030407082441:030407082441:1:00990106
```

lserrlogbyiogrp

lserrlogbyiogrp コマンドは、I/O グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。-config 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。-unfixed 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

iogroup_id | **iogroup_name**

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、I/O グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さら

にフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の *x* 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbyiogrp -delim :
```

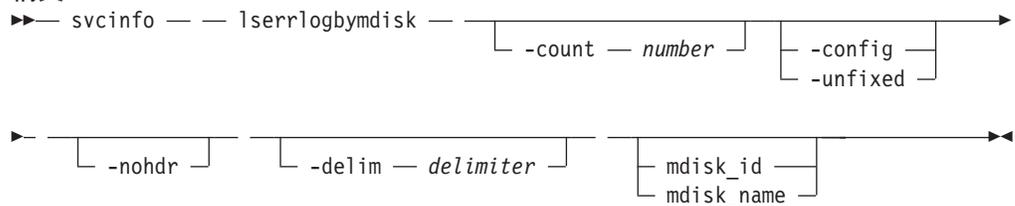
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
1:io_grp:no:no:1:node1:109:109:030407094417:030407094417:1:00000001
```

lserrlogbydisk

lserrlogbydisk コマンドは、特定の MDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。-config 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。-unfixed 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

mdisk_id | mdisk_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します。

説明

このコマンドは、特定の MDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。特定のオブジェクト ID またはオブジェクト名を指定することにより、リストをさらにフィルターにかけることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: `unknown` (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbydisk -delim :
```

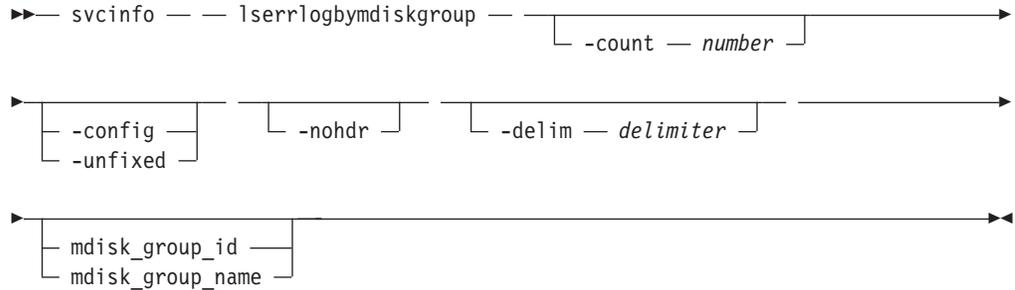
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:
sequence_number:root_sequence_number:first_timestamp:
last_timestamp:number_of_errors:error_code
11:mdisk:no:no:3:node1:108:108:030407092947:030407092947:1:00000016
11:mdisk:no:no:2:node1:107:107:030407092947:030407092947:1:00000016
```

lserrlogbydiskgroup

lserrlogbydiskgroup コマンドは、MDisk グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。-config 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーをリストするように指定します (オプション)。-unfixed 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

mdisk_group_id | **mdisk_group_name**

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、MDisk グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さ

らにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbydiskgrp -delim :
```

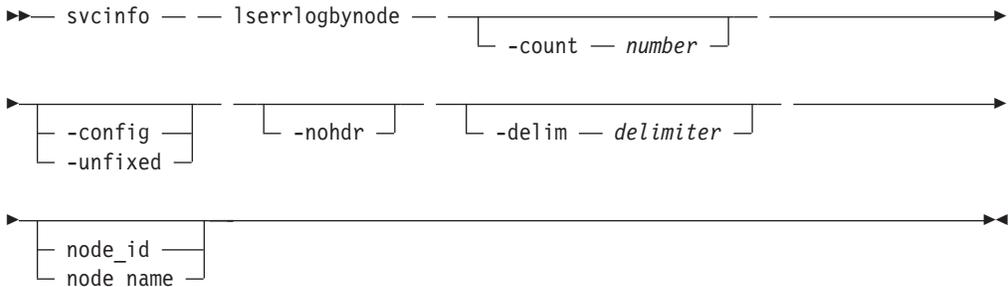
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
1:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081619:030407081619:1:00990148
128:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990173
0:mdisk_grp:no:no:5:node1:0:0:030407081610:030407081610:1:00990148
```

lserrlogbynode

lserrlogbynode コマンドは、ノードに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。-config 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 **-unfixed** 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、ノードに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の *x* 個の項目をリストすることも可能です。

注: **unknown** (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- **CMMVC5786E** クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbynode -delim :
```

結果出力

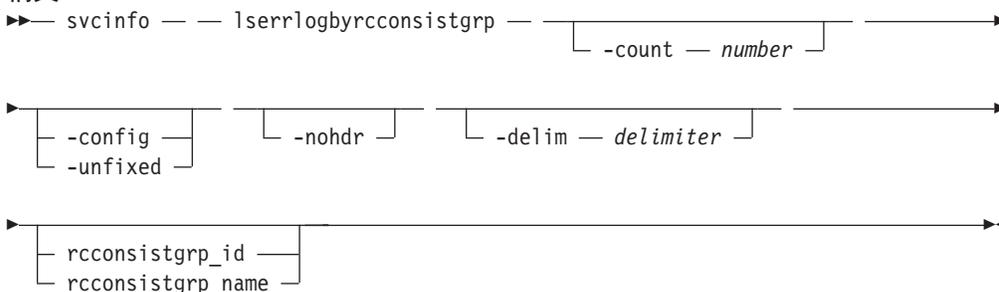
```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:  
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code  
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082722:030407082722:1:00990501  
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407082716:030407082716:1:00990501
```

```
1:node:no:no:5:node1:0:0:030407052546:030407052546:1:00990383
0:node:no:no:6:node1:105:105:030407082202:030407082717:2:00980500
1:node:no:no:1:node1:102:102:030407052547:030407052547:1:00074001
```

lserrlogbyrconsistgrp

lserrlogbyrconsistgrp コマンドを使用して、メトロ・ミラー整合性グループごとのエラー・ログを表示することができます。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプション)。 **-count** は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。 **-config** が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 **-unfixed** が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのす

すべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

rcconsistgrp_id | rcconsistgrp_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、メトロ・ミラー整合性グループに関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の *x* 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbyrcconsistgrp -delim :
```

結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
253:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090333:030407090333:1:00990240
254:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090327:030407090327:1:00990240
255:rc_const_grp:no:no:5:node1:0:0:030407090323:030407090323:1:00990240
```

lserrlogbyrcrelationship

lserrlogbyrcrelationship コマンドは、メトロ・ミラー関係に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文

```
▶▶ svcinfo -- lserrlogbyrcrelationship -- [ -count number ]
[ -config ] [ -nohdr ] [ -delim delimiter ]
[ -unfixed ]
[ rrelationship_id ]
[ rrelationship_name ]
```

パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーのみをリストするように指定します (オプション)。-count 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントのみをリストするように指定します (オプション)。-config が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。-unfixed が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

rcrelationship_id | rcrelationship_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、メトロ・ミラー関係に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: unknown (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lserrlogbyrcrelationship -delim :
```

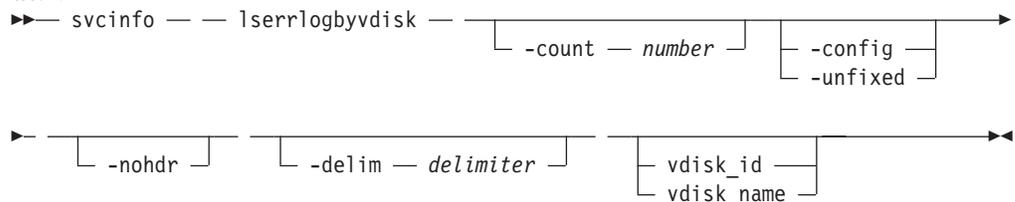
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090442:030407090442:1:00990226
2:remote:no:no:5:node1:0:0:030407090106:030407090106:1:00990225
1:remote:no:no:5:node1:0:0:030407085932:030407085932:1:00990225
2:remote:no:no:6:n/a:106:106:030407090117:030407090117:1:00985002
```

lserrlogbyvdisk

lserrlogbyvdisk コマンドは、VDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。

構文



パラメーター

-count *number*

ログ内の最後の特定数のエントリーをリストするように指定します (オプション)。 **-count** 引数は、リストするエラーの最大数を指定します。

-config

構成イベントをリストするように指定します (オプション)。 **-config** 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、構成イベントのみをリストします。

-unfixed

未修正エラーのみをリストするように指定します (オプション)。 **-unfixed** 引数が指定されると、コマンドは、上記のように動作しますが、未修正エラーのみをリストします。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

vdisk_id | vdisk_name

ログのフィルターに使用するオブジェクト ID を指定します (オプション)。

説明

このコマンドは、VDisk に関連したログ内のエラーとイベントのリストを表示します。リストは、特定のオブジェクト ID または名前を指定することで、さらにフィルターに掛けることができます。これにより、指定したオブジェクトについてログに記録されたエラーおよびイベントのみが戻されます。また、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID の構成イベントもしくは未修正エラーのみが表示されるように、リストをフィルターに掛けることもできます。同様に、特定のオブジェクト・タイプまたはオブジェクト ID に関する最後の x 個の項目をリストすることも可能です。

注: `unknown` (不明) というオブジェクト・タイプもエラー・ログに表示されますが、このオブジェクト・タイプをフィルターに掛けるコマンドはありません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolerrlogbyvdisk -delim :
```

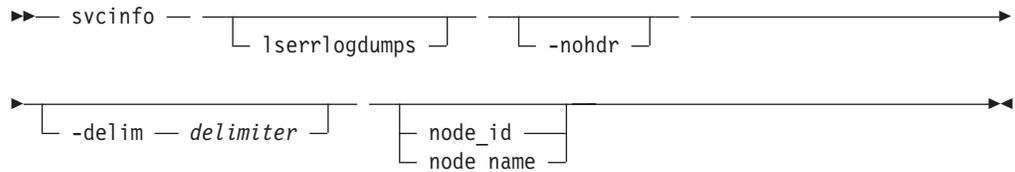
結果出力

```
id:type:fixed:SNMP_trap_raised:error_type:node_name:sequence_number:
root_sequence_number:first_timestamp:last_timestamp:number_of_errors:error_code
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090825:030407090825:1:00990182
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090820:030407090820:1:00990182
4:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090013:030407090013:1:00990169
3:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407090004:030407090004:1:00990169
2:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407085959:030407085959:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082213:030407082213:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082158:030407082158:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082148:030407082148:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082145:030407082145:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407082015:030407082015:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081854:030407081854:1:00990169
1:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081843:030407081843:1:00990169
0:vdisk:no:no:5:node1:0:0:030407081836:030407081836:1:00990169
```

Iserrlogdumps

Iserrlogdumps コマンドは、/dumps/elogs ディレクトリーに保持されているエラー・ログ・ダンプのリストを表示します。これらのダンプは、**svctask dumperrlog** コマンドを発行した結果、作成されたものです。

構文



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、エラー・ログ・ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask dumperrlog** コマンドを発行した結果、作成されたものです。エラー・ログ・ダンプには、そのコマンドが実行された時点のエラー・ログの内容が示してあります。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、/dumps/elogs ディレクトリー内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- **svcservicemodeinfo Iserrlogdumps** コマンドに関連したエラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcinfolerrlogdumps
```

結果出力

```
id          filename
0          errlog_lynn02_030327_154511
1          aaa.txt_lynn02_030327_154527
2          aaa.txt_lynn02_030327_154559
3          errlog_lynn02_030403_110628
```

lsfcconsistgrp

lsfcconsistgrp コマンドは、クラスターが認識できる FlashCopy 整合性グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。この情報は、FlashCopy 整合性グループのトラッキングに役立ちます。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスター上のすべての FlashCopy 整合性グループについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の FlashCopy 整合性グループに対応します。)
2. 単一の FlashCopy 整合性グループに関する詳細情報。

構文

```
svcinfolerrlogdumps lsfcconsistgrp [-filtervalue attrib=value]
[-nohdr] [-delim delimiter] [object_id name]
[-filtervalue?]
```

パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、

データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 `svcinfc lsfcconsistgrp` コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- name
- FC_group_id
- status
- id

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる FlashCopy 整合性グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status idle_or_copied, preparing, prepared, copying, stopped, suspended

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfc lsfcconsistgrp -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:status
1:ffccg0:idle_or_copied
2:ffccg1:idle_or_copied
3:ffccg2:idle_or_copied
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfc lsfcconsistgrp -delim : 1
```

詳細な結果出力

id:1
name:ffccg0
status:idle_or_copied

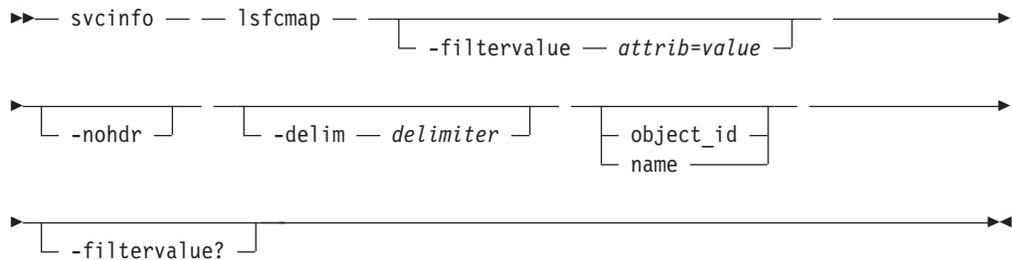
lsfcmap

lsfcmap コマンドは、クラスターから認識できるすべての FlashCopy マッピングに関する簡略な情報が入っているリスト、または単一の FlashCopy マッピングに関する詳細な情報が入っているリストを生成します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスターから認識できるすべての FlashCopy マッピングについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の FlashCopy マッピングに対応します。)
2. 単一の FlashCopy マッピングに関する詳細情報。

構文



パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合)

は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 `svcinfolsfcmmap` コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- FC_mapping_name
- FC_id
- source_vdisk_id
- source_vdisk_name
- target_vdisk_id
- target_vdisk_name
- group_name
- group_id
- status copy_rate
- name
- id

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる FlashCopy マッピングの簡略リストまたは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status idle_or_copied, preparing, prepared, copying, stopped, suspended

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolsfcmmap -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:source_vdisk_id:source_vdisk_name:target_vdisk_id:  
target_vdisk_name:group_id:group_name:status:progress:copy_rate  
0:ffcmmap1:0:vdisk0:1:vdisktwo:::idle_or_copied::75
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolsfcmmap -delim : 0
```

詳細な結果出力

```
id:0
name:ffcmap1
source_vdisk_id:0
source_vdisk_name:vdisk0
target_vdisk_id:1
target_vdisk_name:vvdisktwo
group_id:
group_name:
status:idle_or_copied
progress:
copy_rate:75
```

lsfcmapcandidate

lsfcmapcandidate コマンドは、FlashCopy のソースまたは宛先として指定できるすべての VDisk をリストします。たとえば、まだマッピングに含まれていないものをリストします。

構文

```
▶▶ svcinfo — — lsfcmapcandidate — — [ -nohdr ] —————▶▶
[ -delim — delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、FlashCopy マッピングにない VDisk のリストを戻します。戻されるのは、VDisk ID のみです。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsfcmapcandidate
```

結果出力

```
id
2
3
4
```

lsfcmapprogress

lsfcmapprogress コマンドは、FlashCopy マッピングのバックグラウンド・コピーの進行状況を戻します。これは、完了したパーセンテージの値として表示されます。

構文

```

▶▶ svcinfo -- lsfcmapprogress -- [ -nohdr ]
                                     |
                                     |
▶ [ -delim -- delimiter ] [ fcmap_id ]
                             |
                             |
                             | fcmap_name

```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

fcmap_id | **fcmap_name**

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、FlashCopy マッピングのバックグラウンド・コピーの進行状況を % (パーセンテージ) で戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

呼び出し例

```
svcinfo lsfcmapprogress 0
```

結果出力

```
id          progress
0           0
```

lsfeaturedumps

lsfeaturedumps コマンドは、/dumps/feature 内のダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask dumpinternallog** コマンドを発行した結果として作成されます。

構文

```
▶▶ — lsfeaturedumps — [ -nohdr ] [ -delim — delimiter ] ▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、フィーチャー設定ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask dumpinternallog** コマンドを発行した結果として作成されます。フィーチャー設定ダンプ・ファイルには、そのコマンドが実行された時点のフィーチャ

ー設定ログの内容が記述されています。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、`/dumps/feature` ディレクトリー内のファイルを表示します。

svcinfol sfeaturedumps コマンドを発行すると、`/dumps/feature` 宛先ディレクトリー内のダンプのリストが戻されます。フィーチャー・ログは、クラスターにより維持されています。フィーチャー・ログには、ライセンス・パラメーターが入力されたとき、または現行のライセンス設定値が不履行になったときに生成されるイベントが記録されています。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- **svcservicemodeinfo lsfeaturedumps** コマンドに関連したエラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcinfol sfeaturedumps
```

結果出力

```
id                feature_filename
0                 feature.txt
```

lsfreeextents

lsfreeextents コマンドは、指定された MDisk 上で使用可能なフリー・エクステンツの数をリストします。

構文

```
▶▶— svcinfol — — lsfreeextents —————┐—————▶
                                   └── -nohdr ─┘
```



```
┌── -delim — delimiter ─┐ ┌── mdisk_id ─┐ ┌──▶
└── mdisk_name ─┘
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 パイ

トの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

mdisk_id | mdisk_name

フリー・エクステント数を知りたい MDisk の ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定された MDisk 上のフリー・エクステント数を戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsfreeextents 2
```

結果出力

```
id 2  
number_of_extents 4372
```

Ishbaportcandidate

Ishbaportcandidate コマンドは、すべての未構成の、ログイン済みホスト・バス・アダプター (HBA) ポートをリストします。この情報は、オープン HBA ポートを検出するために使用します。

構文

```
▶▶ svcinfo — — Ishbaportcandidate — — [ -nohdr ] —————▶  
▶ [ -delim — delimiter ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合)

は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを

使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、未構成の、ログイン済みホスト・バス・アダプター (HBA) ポートのリストを戻します。

注: `svcinfo lshbaportcandidate` コマンドは、SAN ポリウム・コントローラー・ノードにログインされているホスト HBA ポートのリストを表示します。しかし、表示された情報に、もはやログインされていないか SAN ファブリックの一部でもないホスト HBA ポートが含まれている場合もあります。たとえば、あるホスト HBA ポートのプラグがスイッチから抜かれても、`svcinfo lshbaportcandidate` では、すべての SAN ポリウム・コントローラー・ノードにログインされている WWPN が表示されます。そのような状態が発生した場合、誤った項目は、除去されたホスト HBA ポートを以前に含んでいたスイッチ・ポートに別のデバイスのプラグが差し込まれた時点で除去されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lshbaportcandidate
```

結果出力

```
id  
210100E08B2520D4
```

lshost

lshost コマンドは、クラスタから認識できるすべてのホストに関する簡略な情報、および単一のホストに関する詳細な情報のリストを生成します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスタから認識できるすべてのホストについて、簡略的な情報が含まれているリスト。リスト内のそれぞれの項目は、単一のホストに対応します。
2. 単一のホストに関する詳細情報。

パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 `svcinfo lshost` コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- `host_name`
- `host_id`
- `port_count`
- `name`
- `id`

説明

このコマンドは、クラスターが認識できるホストの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

`status offline, online, degraded, degraded (offline)`

注: `svcinfo lshost` コマンドは、SAN ポリューム・コントローラー・ノードにログインされているホスト HBA ポートのリストを表示します。しかし、表示された情報に、もはやログインされていないか SAN ファブリックの一部でもないホスト HBA ポートが含まれている場合もあります。たとえば、あるホスト HBA ポートのプラグがスイッチから抜かれても、`scvinfo lshost` では、すべての SAN ポリューム・コントローラー・ノードにログインされている WWPN が表示されます。そのような状態が発生した場合、誤った項目は、除去された

ホスト HBA ポートを以前に含んでいたスイッチ・ポートに別のデバイスのプラグが差し込まれた時点で除去されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolshost -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:port_count  
0:hhost1port:1  
1:hhost3ports:3  
2:hhost:1
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolshost -delim : 1
```

詳細な結果出力

```
id:1  
name:hhost3ports  
port_count:3  
type:generic  
WWPN:0000000000000000AB  
node_logged_in_count 0  
WWPN:0000000000000000AC  
node_logged_in_count 0
```

lshostvdiskmap

lshostvdiskmap コマンドを使用して、指定したホストにマップする (指定したホストが認識できる) 仮想ディスクのリストを表示することができます。これらは、指定したホストへマップされている仮想ディスクであり、したがって、指定したホストが認識できる仮想ディスクです。

構文

```
svcinfolshostvdiskmap [-nohdr] [-delim delimiter] [host_id host_name]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

host_id | host_name

ホストを ID または名前で指定します (オプション)。SAN ボリューム・コントローラーは、指定されたホストにマップされたすべての仮想ディスクのリストと、マップの際に使用された SCSI ID を戻します。このコマンドで、ホスト ID と名前のどちらも入力しないと、表示可能な VDisk マッピングのすべてのホストのリストを表示します。

説明

このコマンドは、仮想ディスク ID と名前のリストを戻します。これらは、指定したホストにマップされている仮想ディスクです。つまり、指定したホストが認識できる仮想ディスクです。SCSI LUN ID も表示されます。この SCSI LUN ID は、ホストが仮想ディスクを識別する際に使用する ID です。

ホスト上の vpath 番号から VDisk 名を判別する: SAN ボリューム・コントローラーがエクスポートする VDisk には、それぞれ固有の vpath 番号が割り当てられます。この番号は、固有の VDisk を識別するので、ホストが認識するボリュームにどの VDisk が対応するのかを確認するときに利用できます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。

datapath query device コマンドを使用して、当該ボリュームの vpath シリアル番号を見付けます。作業対象のホストに対応する SAN ボリューム・コントローラーに定義されているホスト・オブジェクトを見付けます。

1. WWPN は、HBA の 1 つの属性です。オペレーティング・システムに保管されている装置の定義から見付けることができます。たとえば、AIX の場合は ODM、Windows では当該 HBA の「デバイスマネージャ」の詳細に表示されません。
2. これらのポートが属する SAN ボリューム・コントローラーにどのホスト・オブジェクトが定義されているかを確認します。ポートは、詳細表示の一部として保管されているので、次のコマンドを実行して、各ホストを 1 つずつリストする必要があります。

```
svcinfolshost <name/id>
```

ここで、`<name/id>` は、ホストの名前または ID です。一致する WWPN を確認します。

注: ホストの名前をあわせる必要があります。たとえば、実際のホスト名が *orange* の場合、SAN ボリューム・コントローラー に定義されたホスト・オブジェクトの名前は *orange* のようにしてください。

<host name> を SAN ボリューム・コントローラー と <vpath serial number> に定義したところで、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolshostvdiskmap <hostname>
```

ここで、<hostname> は、ホストの名前です。リストが表示されます。<vpath serial number> に一致する VDisk UID を見付け、VDisk の名前か ID を確認します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolshostvdiskmap -delim : 2
```

結果出力

```
id:name:SCSI_id:vdisk_id:vdisk_name:wwpn:vdisk_UID
2:host2:0:10:vdisk10:0000000000000000ACA:6005076801958001500000000000000A
2:host2:1:11:vdisk11:0000000000000000ACA:6005076801958001500000000000000B
2:host2:2:12:vdisk12:0000000000000000ACA:6005076801958001500000000000000C
2:host2:3:13:vdisk13:0000000000000000ACA:6005076801958001500000000000000D
2:host2:4:14:vdisk14:0000000000000000ACA:6005076801958001500000000000000E
```

lsiogrp

lsiogrp コマンドは、クラスタが認識できる I/O グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスタから認識できるすべての I/O グループについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の I/O グループに対応します。)
2. 単一の I/O グループに関する詳細情報。

構文

```
svcinfolshiogrp [-filtervalue] [-attrib=value] [-nohdr] [-delim delimiter] [-object_id name] [-filtervalue?]
```

パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は)

-filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) **-filtervalue** で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfolsiogrp** コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- HWS_name
- HWS_unique_id
- node_count
- name
- id

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる I/O グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略かつ詳細呼び出し例

```
svcinfolsiogrp -delim :
```

簡略かつ詳細な結果出力

```
id:name:node_count:vdisk_count
0:io_grp0:1:0
1:io_grp1:0:0
2:io_grp2:0:0
3:io_grp3:0:0
4:recovery_io_grp:0:0
```

詳細かつ詳細呼び出し例

```
svcinfolsiogrp -delim : 2
```

詳細かつ詳細な結果出力

```
id:2
name:io_grp2
node_count:0
vdisk_count:0
```

Isiogrpcandidate

Isiogrpcandidate コマンドを使用して、ノードを追加できる I/O グループをリストできます。

構文

```
▶▶ svcinfolsiogrpcandidate [ -nohdr ] [ -delim delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、ノードを追加できる I/O グループのリストを戻します。戻されるのは、I/O グループの ID のみです。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsiogrpcandidate -delim :
```

結果出力

```
id:  
0:  
1:  
2:  
3:  
4:
```

Isiostatsdumps

Isiostatsdumps コマンドは、/dumps/iostats ディレクトリー内のダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask startstats** コマンドを発行した結果として作成されます。

構文

```
▶▶ svcinfolsiostatsdumps [ -nohdr ]  
▶ [ -delim delimiter ] [ node_id node_name ]▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのす

すべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、I/O 統計ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask startstats** コマンドを発行した結果として作成されます。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、`/dumps/iostats` ディレクトリ内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsiostatsdumps
```

結果出力

id	iostat_filename
0	v_stats_mala75_031123_072426
1	m_stats_mala75_031123_072425

lsiotracedumps

lsiotracedumps コマンドを使用して、`/dumps/iotrace` ディレクトリ内のファイルのリストを戻すことができます。

構文

```
svcinfolsiotracedumps [-nohdr] [-delim delimiter] [node_id | node_name]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、

データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、I/O トレース・ダンプのリストを戻します。これらのダンプは、**svctask settrace** コマンドを発行した結果として作成されます。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。このコマンドは、`/dumps/iotrace` ディレクトリー内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- **svcservicemodeinfo lsio tracedumps** コマンドに関連したエラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcinfolsiotracedumps
```

結果出力

```
id          iotrace_filename
0           c1_mala75_030405_092155
1           c2_mala75_030405_092156
2           c3_mala75_030405_092158
3           c4_mala75_030405_092159
4           c5_mala75_030405_092201
```

lslicense

lslicense コマンドは、クラスタの現行のライセンス (フィーチャー設定) 設定値を戻します。これらの設定値は、コピー・サービスの状況、およびこのクラスタによる使用がライセンスで認められている仮想記憶容量として定義されています。

構文

```
▶▶ svcinfolsiolicense [ -nohdr ] [ -delim delimiter ] ▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、クラスターのライセンス・フィーチャーを戻します。コピー・サービス状況や、このクラスターによる使用がライセンス交付を受けている仮想記憶の容量が表示されます。

svcinfo lslicense コマンドを発行して、クラスターの現行のライセンス (フィーチャー設定) 設定値を戻すことができます。 **svctask chlicense** コマンドを発行すると、クラスターのライセンス設定値を変更できます。フィーチャーの設定値は、クラスターをはじめて作成したときに入力するので、設定値の更新が必要なのは、ライセンスを変更したときだけです。次の値を変更できます。

- FlashCopy: 使用可能または使用不可
- メトロ・ミラー: 使用可能または使用不可
- バーチャライゼーションの限度: ギガバイト値 (1073741824 バイト)

表示された出力には、フィーチャー機能がリストされ、それぞれの機能が使用可能か使用不可かを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lslicense
```

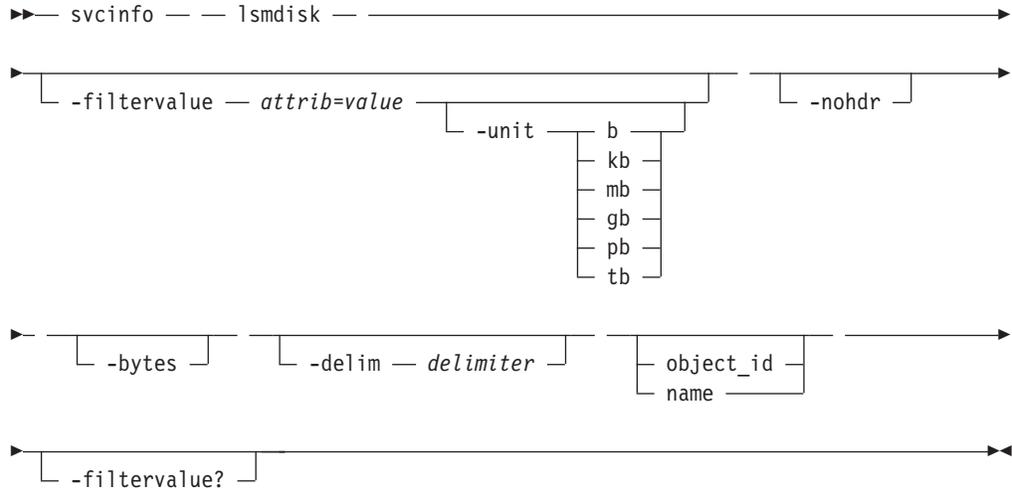
結果出力

```
feature_flash on  
feature_remote on  
feature_num_gb 32
```

lsmdisk

lsmdisk コマンドは、クラスターが認識できる MDisk の簡略リストまたは詳細ビューを戻すか、または単一の管理対象ディスクに関する情報を戻すことができます。

構文



パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は)

-filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) **-filtervalue** で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfolismdisk** コマンド用の有効なフィルターは、次のとおりです。

- name
- id
- status
- mode
- mdisk_grp_id
- mdisk_grp_name
- capacity
- controller_name

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる MDisk の簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

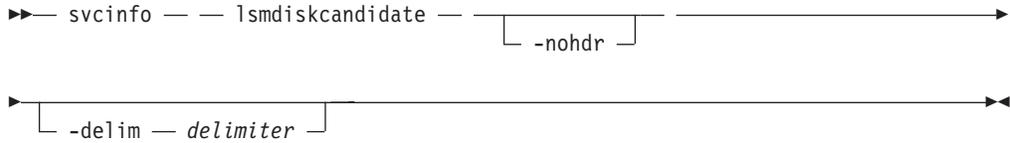
status	offline、excluded、degraded、online
モード	unmanaged、managed、image
quorum index	0、1、2 の有効なクォラム索引

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャンネル SAN に追加して、SAN ポリウム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そのクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコントローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ポリウム・コントローラーに提示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了してからバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ポリウム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、このタスクを使用すると、ファイバー・チャンネル SAN を再度スキャンして、非管理 MDisk のリストを更新するように、SAN ポリウム・コントローラーに要求できます。

注: SAN ポリウム・コントローラーで自動ディスカバリーを実行しても、非管理 MDisk には なにも書き込まれません。ユーザーが SAN ポリウム・コントローラーに指示を出して、管理対象ディスク・グループに MDisk を追加したり、MDisk を使用してイメージ・モードの仮想ディスクを作成した場合に限り、ストレージが実際に使用されます。

MDisk を発見する: **svctask detectmdisk** コマンドを実行し、ファイバー・チャンネル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるかどうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、**svcinfolismdiskcandidate** コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk

構文



パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、管理対象ではない MDisk のリストを戻します。戻されるのは、MDisk ID のみです。

バックエンド・コントローラーをファイバー・チャネル SAN に追加して、SAN ポリウム・コントローラー・クラスターと同じスイッチ・ゾーンに組み込むと、そのクラスターはバックエンド・コントローラーを自動的にディスカバーしてコントローラーを統合し、そのコントローラーが SAN ポリウム・コントローラーに提示しているストレージを判断します。バックエンド・コントローラーが提示する SCSI LU は、非管理 MDisk として表示されます。ただし、以上の操作が終了してからバックエンド・コントローラーの構成を変更すると、構成が変更されたことが SAN ポリウム・コントローラーには認識されない場合があります。ユーザーは、このタスクを使用すると、ファイバー・チャネル SAN を再度スキャンして、非管理 MDisk のリストを更新するように、SAN ポリウム・コントローラーに要求できます。

注: SAN ポリウム・コントローラーで自動ディスカバリーを実行しても、非管理 MDisk には なにも書き込まれません。ユーザーが SAN ポリウム・コントローラーに指示を出して、管理対象ディスク・グループに MDisk を追加したり、MDisk を使用してイメージ・モードの仮想ディスクを作成した場合に限り、ストレージが実際に使用されます。

MDisk を発見する: svctask detectmdisk コマンドを実行し、ファイバー・チャネル・ネットワーク上の MDisk を手動でスキャンして、使用可能な MDisk があるかどうかをチェックします。非管理 MDisk を表示するには、**svcinfo lsmdiskcandidate** コマンドを実行します。これで表示される MDisk は、MDisk グループに割り当てられていません。代わりに、**svcinfo lsmdisk** コマンドを使用すると、すべての MDisk を表示できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsmdiskcandidate
```

結果出力

```
id  
5  
6  
7  
8  
9  
10  
11  
12  
13  
14
```

lsmdiskextent

lsmdiskextent コマンドは、管理対象ディスクと仮想ディスク間のエクステント割り振りを戻します。このコマンドが戻すリストのそれぞれの項目には、VDisk ID とエクステント数が示されています。

構文

```
▶▶ svcinfo -- lsmdiskextent -- [ -nohdr ] -----▶  
  
▶ [ -delim -- delimiter ] [ mdisk_name ] -----▶  
  [ mdisk_id ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離さ

れます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

mdisk_name | mdisk_id

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

説明

このコマンドが戻すリストのそれぞれの項目には、VDisk ID とエクステント数が示されています。これらの VDisk は、指定された MDisk 上のエクステントを使用しています。それぞれの MDisk で使用されているエクステントの数も表示されます。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。これら 2 つのオブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次の手順を使用します。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk `<vdiskname/id>` について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskmember <vdiskname/id>
```

ここで、`<vdiskname/id>` は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別する: それぞれの MDisk によって提供されるエクステントの数を判別できます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk `<vdiskname/id>` について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskextent <vdiskname/id>
```

ここで、`<vdiskname/id>` は VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステントの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk `<mdiskname/id>` について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsmdiskmember <mdiskname/id>
```

ここで、`<mdiskname/id>` は MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別する: この MDisk が各 VDisk に提供するエクステントの数を判別できます。この手

順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または 仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。
- CMMVC6005E 指定されたオブジェクトが該当するグループのメンバーでないため、表示要求は失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsmdiskextent 2
```

結果出力

id	number_of_extents
1	1
2	1

lsmdiskgrp

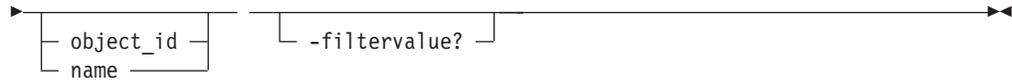
lsmdiskgrp コマンドは、クラスタが認識できる MDisk グループの簡略リストまたは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスタ内のすべての管理対象ディスク・グループについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の管理対象ディスク・グループに対応します。)
2. 単一の管理対象ディスク・グループに関する詳細情報。

構文

```
▶▶ svcinfo -- lsmdiskgrp -- [ -filtervalue -- attrib=value ] --  
▶ [ -nohdr ] [ -bytes ] [ -delim -- delimiter ] --
```



パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) **-filtervalue** で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) **-filtervalue** で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfo lsmdiskgrp** コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- name
- storage_pool_id
- mdisk_count
- vdisk_count
- extent_size
- status
- id

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる MDisk グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status online、degraded、offline

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolsmdiskgrp -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:status:mdisk_count:vdisk_count:capacity:extent_size:free_capacity
0:mdiskgrp0:online:5:0:341.8GB:16:341.8GB
1:mdiskgrp1:online:0:0:0:16:0
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolsmdiskgrp -delim : 0
```

詳細な結果出力

```
id:0
name:mdiskgrp0
status:online
mdisk_count:5
vdisk_count:0
capacity:341.8GB
extent_size:16
free_capacity:341.8GB
```

lsmdiskmember

lsmdiskmember コマンドは、指定された MDisk 上のエクステントを使用している VDisk のリストを戻します。これは、ID で指定された管理対象ディスク上のエクステントを使用している仮想ディスクとして定義されています。

構文

```
▶▶ svcinfo — — lsmdiskmember — — [ -nohdr ] —————▶▶
▶ [ -delim — delimiter ] [ mdisk_id mdisk_name ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

mdisk_id | mdisk_name

MDisk のエクステントを使用する VDisk のリストが必要な場合に、その MDisk の ID または名前を指定します。

説明

このコマンドを実行すると、指定した管理対象ディスク上にあるエクステントを使用中の仮想ディスクのリストが戻されます。これらは、ID で指定した管理対象ディスク上のエクステントを使用している仮想ディスクです。戻されるリストは、各オブジェクトのメンバーであり、個々のメンバーの状態は関係ありません。つまり、メンバーがオフライン状態であっても戻されます。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。これら 2 つのオブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次の手順を使用します。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk `<vdiskname/id>` について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsvdiskmember <vdiskname/id>
```

ここで、`<vdiskname/id>` は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別する: さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk `<vdiskname/id>` について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsvdiskextent <vdiskname/id>
```

ここで、`<vdiskname/id>` は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステントの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsmdiskmember <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの 数を判別する: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsmdiskmember 1
```

結果出力

```
id  
0
```

lsmigrate

lsmigrate コマンドは、現在進行中であるすべてのデータ・マイグレーションの進行状況を示します。

構文

```
▶▶ svcinfo -- lsmigrate -- [-nohdr] [-delim delimiter]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンド、現在進行中のすべてのマイグレーションに関する情報を表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsmigrate -delim :
```

結果出力

```
migrate_type:progress:migrate_source_vdisk_index:  
migrate_target_mdisk_grp:max_thread_count  
3:53:0:1:2
```

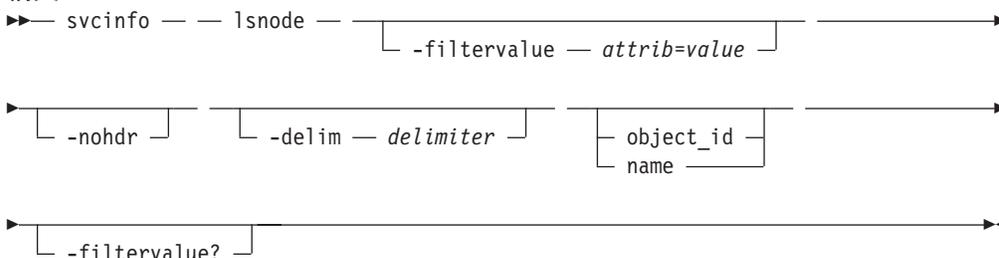
lsnode

lsnode コマンドは、クラスタが認識できるノードの簡略リスト、または詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスタ上のすべてのノードについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のノードに対応します。)
2. 単一のノードに関する詳細情報。

構文



パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は)

-filtervalue で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) **-filtervalue** で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 **svcinfolnode** コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- `node_name`
- `id`
- `status`
- `IO_group_name`
- `IO_group_id`
- `name`

説明

このコマンドは、クラスターが認識できるノードの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status	offline、pending、online、adding、deleting
config_node	no、yes
port_status	active、inactive、not installed

ノードの WWPN を判別する: 次のコマンドを実行して、クラスター内のノードをリストします。

```
svcinfo lsnode
```

注: 次のステップで必要になるので、ノードの名前または ID を確認します。

当該ノードについて、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsnode <nodename/id>
```

ここで、<nodename/id> はノードの名前または ID です。

注: 4 つのポートの ID (WWPN) を確認します。

重要: ノードが追加状態の場合は、WWPN は 0000000000000000 と表示されます。ノードが正常にクラスターのメンバーになると、状態がオンラインに変更になり、正しい WWPN が表示されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfo lsnode -delim :
```

簡略結果出力

```
id:name:UPS_serial_number:WWNN:
status:IO_group_id:IO_group_name:config_node:UPS_unique_id

1:node1:UPS_Fake_SN:50050768010007E5:online:0:
io_grp0:yes:100000000000007E5
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfo lsnode -delim = 1
```

詳細な結果出力

```
id=1
name=node1
UPS_serial_number=UPS_Fake_SN
WWNN=50050768010007E5
status=online
IO_group_id=0
IO_group_name=io_grp0
partner_node_id=
partner_node_name=
config_node=yes
UPS_unique_id=100000000000007E5
port_id=50050768011007E5
```

```
port_status=active
port_id=50050768012007E5
port_status=inactive
port_id=50050768013007E5
port_status=not_installed
port_id=50050768014007E5
port_status=not_installed
```

lsnodecandidate

lsnodecandidate コマンドは、クラスターに割り当てられていないすべてのノードをリストします。

構文

```
▶▶ svcinfo — lsnodecandidate — [ -nohdr ] —————▶▶
[ -delim — delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、クラスターに割り当てられていないノードのリストを戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsnodecandidate -delim :
```

結果出力

```
id:panelname:UPS serial number:UPS unique id  
500507680100D131:rich:UPS_Fake_SN:100000000000D131
```

lsnodevpd

lsnodevpd コマンドは、指定されたノードの Vital Product Data (VPD) を戻します。

構文

```
▶▶ svcinfo -- lsnodevpd [ -nohdr ] [ -delim delimiter ]  
  
▶ [ node_id | node_name ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

表示するノードの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、指定されたノードの VPD を戻します。新規の 1 行に 1 フィールドが表示されます。フィールドはすべて文字列です。VPD は、幾つかのセクションに分かれています。セクションごとにセクションの見出しがあります。見出しの後には、そのセクションのフィールド数が表示されます。各セクションは、空の行で区切られています。次に例を示します。

```
section name:3 fields  
field1:value  
field2:value  
field3:value
```

```
new section:x fields
```

```
...
```

セクションによっては、そのタイプの複数オブジェクトに関する情報が含まれている場合もあります。セクション内の各オブジェクトは空の行で区切られています。次に例を示します。

```
section name:4 fields
```

```
object1 field1:value
```

```
object1 field2:value
```

```
object2 field1:value
```

```
object2 field2:value
```

```
new section: x fields
```

```
...
```

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsnodevpd 1
```

結果出力

```
id 1
```

```
system board: 17 fields
```

```
part_number Unknown
```

```
system_serial_number 550117N
```

```
number_of_processors 2
```

```
number_of_memory_slots 4
```

```
number_of_fans 0
```

```
number_of_FC_cards 1
```

```
number_of_scsi/ide_devices 2
```

```
BIOS_manufacturer IBM
```

```
BIOS_version -[QAE115AUS-1.01]-
```

```
BIOS_release_date 08/16/2001
```

```
system_manufacturer IBM
```

```
system_product eserver xSeries 342 -[86691RX]-
```

```
planar_manufacturer IBM
```

```
power_supply_part_number Unknown
```

```
CMOS_battery_part_number Unknown
```

```
power_cable_assembly_part_number Unknown
```

```
service_processor_firmware N/A
```

```
processor: 6 fields
```

```
processor_location Processor 1
```

```
number_of_caches 2
```

```
manufacturer GenuineIntel
```

```
version Pentium III
```

```
speed 1000
```

```

status Enabled
processor cache: 4 fields
type_of_cache Internal L1 Cache
size_of_cache (KB) 32

type_of_cache Internal L2 Cache
size_of_cache (KB) 256

processor: 6 fields
processor_location Processor 2
number_of_caches 2
manufacturer GenuineIntel
version Pentium III
speed 1000
status Enabled

processor cache: 4 fields
type_of_cache Internal L1 Cache
size_of_cache (KB) 32

type_of_cache Internal L2 Cache
size_of_cache (KB) 256
memory module: 16 fields
part_number 33L5039
device_location J1
bank_location Slot1 in bank 1
size (MB) 1024
part_number 33L5039
device_location J4
bank_location Slot2 in bank 1
size (MB) 1024

part_number N/A
device_location J2
bank_location Slot1 in bank 2
size (MB) 0

part_number N/A
device_location J3
bank_location Slot2 in bank 2
size (MB) 0

FC card: 5 fields
part_number 64P7783
port_numbers 1 2
device_serial_number VSI 0000AD3F4
manufacturer Agilent
device DX2
device: 15 fields
part_number Unknown
bus ide0
device 0
model LG CD-ROM CRN-8245B
revision 1.13
serial_number
approx_capacity 0
part_number Unknown
bus scsi
device 0
device_vendor IBM-ESXS
model ST318305LC !#
revision 6C48
serial_number 3JKQ93B903196C48
approx_capacity 8
software: 5 fields
code_level 00000000
node_name node1

```

```

ethernet_status 1
WWNN 0x50050768010007e5

id 1

front panel assembly: 3 fields
part_number Unknown
front_panel_id lynn02
front_panel_locale en_US

UPS: 10 fields
electronics_assembly_part_number FakElec
battery_part_number FakBatt
frame_assembly_part_number FakFram
input_power_cable_part_number FakCabl
UPS_serial_number UPS_Fake_SN
UPS_type Fake UPS
UPS_internal_part_number UPS_Fake_PN
UPS_unique_id 0x10000000000007e5
UPS_main_firmware 1.4
UPS_comms_firmware 0.0

```

lsrconsistgrp

lsrconsistgrp コマンドは、クラスターが認識できるメトロ・ミラー整合性グループの簡略リストまたは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. メトロ・ミラー整合性グループの属性、およびグループ内のあらゆる関係の ID と名前。
2. 単一のメトロ・ミラー整合性グループに関する詳細情報。

構文

```

▶— svcinfo — — lsrconsistgrp —————┬—————▶
                                           └-filtervalue — attrib=value ┘

┌-nohdr ┘ ┌-delim — delimiter ┘ ┌ object_id ┘
└────────┘ └──────────────────┘ └ name ───┘

▶—┬──────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────▶
  └-filtervalue? ┘

```

パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 `svcinfo lsrrconsistgrp` コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- group_id
- name
- master_cluster_id
- master_cluster_name
- aux_cluster_id
- aux_cluster_name
- primary
- state
- relationship_count
- id

説明

このコマンドは、クラスターが認識できるメトロ・ミラー整合性グループの簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

primary	n/a, master, aux
状態	inconsistent_stopped, inconsistent_copying, consistent_stopped, consistent_synchronized, idling, idling_disconnected, inconsistent_disconnected, consistent_disconnected, empty
freeze_time	YY/MM/DD/HH/MM フォーマットの時刻。

status	online、primary_offline、secondary_offline
sync	in_sync、out_of_sync

注: メトロ・ミラー関係と整合性グループの名前は、関係や整合性グループがクラスター間のものであり、クラスター協力関係が切断されていると空白になっていることがあります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolsrcconsistgrp -delim :
```

簡略結果出力

```
|
| id:name:master_cluster_id:master_cluster_name:aux_cluster_id:aux_cluster_name:primary:state:relationship_count
| 248:jdemo_BA_cons1:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:consistent_stopped:2
| 249:rccstgrp0:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA::empty:0
| 250:jdemo_BA_cons2:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:inconsistent_stopped:1
| 251:BA_cons1:0000020060406746:clusterB:0000020061413ABA:clusterA:master:consistent_stopped:4
| 252:AB_cons2:0000020061413ABA:clusterA:0000020060406746:clusterB::empty:0
| 253:AB_cons1:0000020061413ABA:clusterA:0000020060406746:clusterB:aux:consistent_stopped:3
| 254:AA_cons2:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA::empty:0
| 255:AA_cons1:0000020061413ABA:clusterA:0000020061413ABA:clusterA:master:consistent_synchronized:2
|
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolsrcconsistgrp -delim : 254
```

詳細な結果出力

```
id:254
name:rccstgrp0
master_cluster_id:0000010030A007E5
master_cluster_name:kkk
aux_cluster_id:0000010030A007E5
aux_cluster_name:kkk
primary:master
state:inconsistent_stopped
relationship_count:1
freeze_time:
status:online
sync:
RC_rel_id:2
RC_rel_name:aaa
```

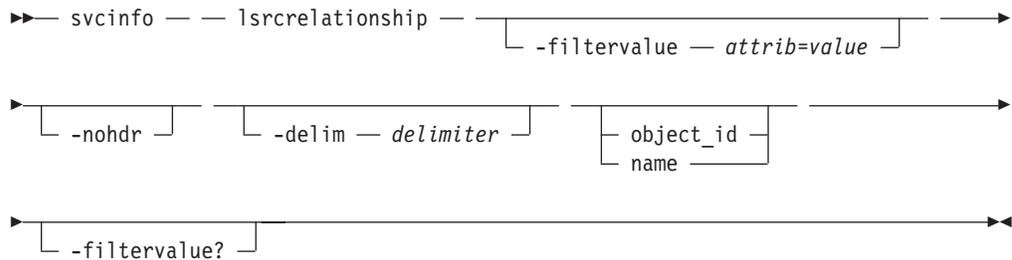
lsrcrelationship

lsrcrelationship コマンドは、クラスターが認識できるメトロ・ミラー関係の簡略リストまたは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスターから認識できるすべてのメトロ・ミラー関係に関する簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一のメトロ・ミラー関係に対応します。)
2. 単一のメトロ・ミラー関係に関する詳細情報。

構文



パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) **-filtervalue** で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。

このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。`svcinfo lsrelationship` コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- RC_rel_id
- RC_rel_name
- master_cluster_id
- master_cluster_name
- master_vdisk_id
- master_vdisk_name
- aux_cluster_id
- aux_cluster_name
- aux_vdisk_id
- aux_vdisk_name
- primary
- consistency_group_id
- consistency_group_name
- state
- progress

説明

このコマンドは、クラスターが認識できるメトロ・ミラー関係の簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

primary	n/a、master、aux
状態	inconsistent_stopped、inconsistent_copying、consistent_stopped、consistent_synchronized、idling、idling_disconnected、inconsistent_disconnected、consistent_disconnected
progress	0 から 100、n/a
freeze time	YY/MM/DD/HH/MM フォーマットの時刻。
status	online、primary_offline、secondary_offline
sync	n/a、in_sync、out_of_sync

注: メトロ・ミラー関係と整合性グループの名前は、関係や整合性グループがクラスター間のものであり、クラスター協力関係が切断されていると空白になっていることがあります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略かつ詳細呼び出し例

```
svcinfo lsrelationship -delim : -filtervalue name=j*
```

簡略かつ詳細な結果出力

```
| id:name:master_cluster_id:master_cluster_name:master_vdisk_id:master_vdisk_name:
| aux_cluster_id:aux_cluster_name:aux_vdisk_id:
| aux_vdisk_name:primary:consistency_group_id:consistency_group_name:state:bg_copy
| _priority:progress
| 45:jrel_AB1:0000020061413ABA:clusterA:45:jdisk_B8:0000020060406746:clusterB:38:j
| disk_B1:master:::consistent_stopped:50:
| 46:jrel_AB2:0000020061413ABA:clusterA:46:jdisk_A2:0000020060406746:clusterB:39:j
| disk_B2:master:::consistent_stopped:50:
| 47:jrel_AB3:0000020061413ABA:clusterA:47:jdisk_A3:0000020060406746:clusterB:40:j
| disk_B3:master:::consistent_stopped:50:
| 48:jrel_AB4:0000020061413ABA:clusterA:48:jdisk_A4:0000020060406746:clusterB:41:j
| disk_B4:master:::consistent_synchronized:50:
| 49:jrel_BA_1:0000020060406746:clusterB:42:jdisk_B5:0000020061413ABA:clusterA:49:
| jdisk_A5:master:248:jdemo_BA_cons1:consistent
| _stopped:50:
| 50:jrel_BA_2:0000020060406746:clusterB:43:jdisk_B6:0000020061413ABA:clusterA:50:
| jdisk_A6:master:248:jdemo_BA_cons1:consistent
| _stopped:50:
| 51:jrel_BA_3:0000020060406746:clusterB:44:jdisk_B7:0000020061413ABA:clusterA:51:
| jdisk_A7:master:250:jdemo_BA_cons2:inconsiste
| nt_stopped:50:0
| 52:jrel_BA_4:0000020060406746:clusterB:45:jdisk_B8:0000020061413ABA:clusterA:52:
| jdisk_A8:master:::inconsistent_stopped:50:0
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfo lsrelationship -delim : AB_2
```

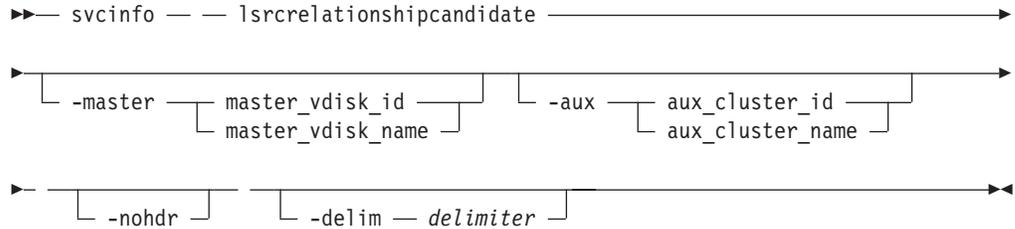
詳細な結果出力

```
id:9
name:AB_2
master_cluster_id:0000020061413ABA
master_cluster_name:clusterA
master_vdisk_id:9
master_vdisk_name:stripe9
aux_cluster_id:0000020060406746
aux_cluster_name:clusterB
aux_vdisk_id:9
aux_vdisk_name:stripe9_b
primary:master
consistency_group_id:
consistency_group_name:
state:consistent_stopped
bg_copy_priority:50
progress:
freeze_time:2003/07/05/08/26/46
status:secondary_offline
sync:in_sync
```

lsrelationshipcandidate

lsrelationshipcandidate コマンドは、メトロ・ミラー関係を形成するのに適格な VDisk をリストします。ローカルまたはリモート・クラスターの適切な VDisk をリストすることができます。

構文



パラメーター

-master *master_vdisk_id* | *master_vdisk_name*

このパラメーターで、マスター VDisk として使用したい特定の VDisk を指定できます。コマンドは、指定された VDisk のサイズに一致する候補を探します。ローカル・クラスター上の候補 VDisk を要求している場合、コマンドは `io_group` の突き合わせも行います。

-aux *aux_cluster_id* | *aux_cluster_name*

クラスター間の関係のための VDisk 候補を探しリモート・クラスターを指定します。このパラメーターを指定しないと、ローカル・クラスター上の候補が戻されます。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、メトロ・ミラー関係のマスター・ディスクもしくは補助ディスクになりえる VDisk のリストを戻します。戻されるのは、VDisk の ID と名前です。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsrrelationshipcandidate -delim :
```

結果出力

```
id:vdisk_name  
0:vdisk0  
4:vdisk4
```

lsrrelationshipprogress

lsrrelationshipprogress コマンドを使用して、メトロ・ミラー関係のバックグラウンド・コピーの進行状況を戻すことができます。関係の初期バックグラウンド・コピー・プロセスが完了すると、その関係の進行状況に対してヌルが表示されません。

構文

```
▶▶ svcinfo — — lsrrelationshipprogress —————▶  
└── -nohdr ───┘  
  
└── -delim — delimiter ─┘ └── rrelationship_id ───▶  
└── rrelationship_name ───▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

rrelationship_id | **rrelationship_name**

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、メトロ・ミラー関係のバックグラウンド・コピーの進行状況を % (パーセンテージ) で戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsrcrelationshipprogress -delim : 0
```

結果出力

```
id:progress  
0:58
```

lssoftwaredumps

lssoftwaredumps コマンドを使用して、/home/admin/upgrade ディレクトリー内のソフトウェア・パッケージのリストを戻すことができます。

構文

```
svcinfolsrcrelationshipprogress lssoftwaredumps [-nohdr] [-delim delimiter] [node_id | node_name]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

node_id | node_name

特定のタイプの有効ダンプをリストする、ノードの ID または名前を指定します。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なダンプが表示されます。

説明

このコマンドは、ソフトウェア・アップグレード・パッケージのリストを戻します。これらのパッケージは、ソフトウェアをアップグレードした結果、コピーされたものです。ノードを指定しないと、構成ノード上の有効なパッケージがリストされます。このコマンドは、/home/admin/upgrade ディレクトリー内のファイルを表示します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsssoftware.dumps
```

結果出力

```
id          software_filename
0           s1_mala75_030405_092143
1           s2_mala75_030405_092145
2           s3_mala75_030405_092146
```

lssshkeys

lssshkeys コマンドを使用して、クラスタ上の有効な SSH 鍵のリストを戻すことができます。

構文

```
svcinfolssshkeys -user {admin | service | all} [-nohdr] [-delim delimiter]
```

パラメーター

-user *admin* | *service* | *all*

サービス利用者のみが使用できる鍵、管理ユーザーのみが使用できる鍵、もしくはこれらの両方のユーザーが使用できる鍵のいずれのリストを表示したいかを指定します。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合)

は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、

データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、特定のユーザー ID が利用できる、クラスター上のすべての鍵のリストを戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfl ssshkeys -user all -delim :
```

結果出力

```
id:userid_key:identifier  
1:admin:admin
```

Istimezones

Istimezones コマンドは、クラスターで使用可能な時間帯をリストします。それぞれの時間帯には ID が割り当てられており、**svctask settimezone** コマンドでそれらの ID を使用できます。

構文

```
▶— svcinfl — — lstimezones — — [ -nohdr ] [ -delim — delimiter ] ▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、クラスター上の有効なすべての時間帯のリストを戻します。それぞれの時間帯には ID が割り当てられています。**svctask settimezone** コマンドで、この ID を使用できます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolsttimezones
```

結果出力

```
id timezone
0 Africa/Abidjan
1 Africa/Accra
2 Africa/Addis_Ababa
3 Africa/Algiers
4 Africa/Asmera
5 Africa/Bamako
6 Africa/Bangui
```

lsvdisk

lsvdisk コマンドは、クラスターが認識できる VDisk の簡略リストまたは詳細ビューを戻します。

リスト・レポート・スタイルを使用して、2 つの形式のレポートを作成できます。

1. クラスターから認識できるすべての仮想ディスクについて、簡略的な情報が含まれているリスト。(リスト内のそれぞれの項目は、単一の仮想ディスクに対応します。)
2. 単一の仮想ディスクに関する詳細情報。

構文

```
svcinfolstlsvdisk [-filtervalue attrib=value]
                  [-nohdr] [-bytes] [-delim delimiter]
                  [object_id name] [-filtervalue?]
```

パラメーター

-filtervalue *attribute=value*

1 つ以上のフィルターのリストを指定します (オプション)。フィルター属性値に一致する値をもつオブジェクトのみが戻されます。容量を指定する場合、単位も入力する必要があります。

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータ

の項目ごと(詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-bytes

全容量 (バイト) を表示します (オプション)。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

object_id | name

オブジェクトの名前または ID を指定します (オプション)。指定しないと、特定タイプの全オブジェクトの簡略ビュー、もしくは (指定した場合は) `-filtervalue` で指定したフィルター要件に一致する全オブジェクトが戻されます。このパラメーターを指定すると、特定オブジェクトの詳細ビューが戻され、(指定した場合は) `-filtervalue` で指定した値は無視されます。

-filtervalue?

有効なフィルター属性のリストが表示されます。 `svcinfolsvdisk` コマンドに有効なフィルターは、以下のとおりです。

- `vdisk_name`
- `vdisk_id`
- `vdisk_UID`
- `IO_group_id`
- `IO_group_name`
- `status`
- `mdisk_grp_name`
- `mdisk_grp_id`
- `capacity`
- `type`
- `FC_id`
- `FC_name`
- `RC_id`
- `RC_name`
- `name`
- `id`

説明

このコマンドは、クラスターが認識できる VDisk の簡略リストもしくは詳細ビューを戻します。

以下のリストには、出力ビューのデータとして表示される属性に適用可能な値が示してあります。

status	offline、online
capacity	1 GB 未満の場合は、GB (小数点第 2 位まで) または MB に丸める。
type	sequential、striped、image
formatted	no、yes
mdisk id	striped には使用しない。
mdisk name	striped には使用しない。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolsvdisk -delim :
```

簡略結果出力

```
| id:name:IO_group_id:IO_group_name:status:mdisk_grp_id:mdisk_grp_name:capacity:type:FC_id:FC_name:RC_id:RC_name:vdisk_UID
| 0:vdisk0:0:io_grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:striped:::::60050768017F06BF78000000000000000
| 1:vdisk1:0:io_grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:striped:::::60050768017F06BF78000000000000001
| 2:vdisk2:0:io_grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:striped:::::60050768017F06BF78000000000000002
| 3:vdisk3:0:io_grp0:degraded:0:mdiskgrp0:16.0MB:striped:::::60050768017F06BF78000000000000003
```

詳細な呼び出し例

```
svcinfolsvdisk -delim : 1
```

詳細な結果出力

```
svcinfolsvdisk -delim : 1
id:1
name:vdisk1
IO_group_id:0
IO_group_name:io_grp0
status:degraded
mdisk_grp_id:0
mdisk_grp_name:mdiskgrp0
capacity:16.0MB
type:striped
formatted:no
mdisk_id:
mdisk_name:
FC_id:
FC_name:
RC_id:
RC_name:
```

```
vdisk_UID:60050768017F06BF7800000000000001
throttling:0
preferred_node_id:1
fast_write_state:empty
```

lsvdiskextent

lsvdiskextent コマンドを使用して、VDisk を形成している MDisk ごとのエクステント数をリストし、それぞれの VDisk が使用しているエクステントの数を判別できます。それぞれの MDisk から提供されているエクステント数が表示されます。

構文

```
▶— svcinfo — — lsvdiskextent —————▶
                                     └─nohdr┘
└─┬──────────────────────────────────┬──────────────────────────────────▶
  └─┬─delim — delimiter┘           └─vdisk_name
                                       vdisk_id┘
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと（簡略形式のビュー）およびデータの項目ごと（詳細形式のビュー）で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合（たとえば、空のビューが表示された場合）は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます（たとえば、列の間隔が空いたりしません）。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

vdisk_name | vdisk_id

1 つ以上の仮想ディスクの ID または名前を指定します。

説明

このコマンドが戻すリストのそれぞれの項目には、MDisk ID とエクステント数が含まれています。これらの MDisk は、指定された VDisk 上のエクステントを使用しています。それぞれの VDisk で使用されているエクステントの数も表示されます。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。これら 2 つのオブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次の手順を使用します。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskmember <vdiskname/id>
```

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。このコマンドは、VDisk を形成している MDisk に対応する ID のリストを戻します。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別する: それぞれの MDisk によって提供されるエクステントの数を判別できます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskextent <vdiskname/id>
```

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。このコマンドは、MDisk ID と、それぞれの MDisk が与えられた VDisk のストレージとして提供するエクステントの数を示したテーブルを戻します。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsmdiskmember <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。このコマンドは、この MDisk を使用している VDisk に対応する ID のリストを戻します。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別する: この MDisk が各 VDisk に提供するエクステントの数を判別できます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsmdiskextent <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。このコマンドは、VDisk ID とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数を示したテーブルを戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。
- CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または 仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。

呼び出し例

```
svcinfolsvdiskextent -delim : vdisk0
```

結果出力

```
id:extent offset  
0:0
```

lsvdiskhostmap

lsvdiskhostmap コマンドを使用して、VDisk からホストへのマッピングをリストすることができます。これらのホストには、指定された仮想ディスクがマップされています。つまり、これらのホストは指定された仮想ディスクを認識しています。

構文

```
▶— svcinfolsvdiskhostmap —————┐—————▶  
                                         └-nohdr┘  
  
└-delim — delimiter┘ └vdisk_id  
                      └vdisk_name┘
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

vdisk_id | vdisk_name

仮想ディスクを ID または名前で指定します。SAN ボリューム・コントローラーは、この仮想ディスクがマップされたすべてのホストのリストと、この仮想ディスクのマッピングの際に使用された SCSI ID を戻します。

説明

このコマンドは、ホストの ID と名前のリストを戻します。これらのホストには、指定された仮想ディスクがマップされています。つまり、これらのホストは指定された仮想ディスクを認識しています。SCSI LUN ID も表示されます。SCSI LUN ID は、ホストが仮想ディスクを識別する際に使用する ID です。

VDisk のマップ先ホストを判別する: 次のコマンドを発行することにより、この VDisk のマップ先ホストをリストします。

```
svcinfolsvdiskhostmap <vdiskname/id>
```

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。リストが表示されます。ホスト名または ID を見付けて、この VDisk がどのホストにマップされているかを確認します。データがなにも戻されない場合は、VDisk はどのホストにもマップされていません。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

簡略呼び出し例

```
svcinfolsvdiskhostmap -delim : 3
```

簡略結果出力

```
id:name:SCSI_id:host_id:host_name:wwpn:vdisk_UID  
3:vdisk3:0:2:host2:0000000000100ABC:60050768018A00015000000000000003
```

lsvdiskmember

lsvdiskmember コマンドは、指定された VDisk のメンバーである MDisk のリストを戻します。

構文

```
svcinfolsvdiskmember [-nohdr] [-delim delimiter] vdisk_id vdisk_name
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。-nohdr パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、-nohdr オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。-delim パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。-delim パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、-delim : と入力すると、簡略ビューのす

すべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

vdisk_id | vdisk_name

メンバーである MDisk のリストが必要な、VDisk の名前または ID を指定します。

説明

このコマンドは、ID で指定された仮想ディスクを作成するエクステントを提供している管理対象ディスクのリストを戻します。

VDisk は、それぞれ 1 つ以上の MDisk から構成されています。これら 2 つのオブジェクトの関係は、判別が必要になることがあります。関係を判別するには、次の手順を使用します。

使用したコマンドが **svcinfolismdiskmember** コマンドの場合、簡略ビューは仮想ディスクのリストを戻します。これらは、ID で指定した管理対象ディスク上のエクステントを使用している仮想ディスクです。戻されるリストは、各オブジェクトのメンバーであり、個々のメンバーの状態は関係ありません。つまり、メンバーがオフライン状態であっても戻されます。

VDisk と MDisk の関係を判別する: 与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskmember <vdiskname/id>
```

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで、VDisk を構成する MDisk に対応する ID のリストが戻されます。

VDisk と MDisk の関係、および各 MDisk が提供するエクステントの数を判別する: さらに詳細が必要な場合は、各 MDisk を構成するエクステントの数または各 MDisk が提供するエクステントの数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた VDisk <vdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolsvdiskextent <vdiskname/id>
```

ここで、<vdiskname/id> は、VDisk の名前または ID です。これで MDisk ID の表が表示され、VDisk のストレージとしてそれぞれの MDisk が提供するエクステントの数が戻されます。

MDisk と VDisk の関係を判別する: 与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfolismdiskmember <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで、この MDisk を使用中の VDisk に対応する ID のリストが戻されます。

MDisk と VDisk の関係、および各 VDisk が使用するエクステントの数を判別する: さらに詳細が必要な場合は、この MDisk が各 MDisk に提供するエクステント

の数を判別することもできます。この手順を実行できるのは、コマンド行インターフェースだけです。与えられた MDisk <mdiskname/id> について、次のコマンドを実行します。

```
svcinfo lsmdiskextent <mdiskname/id>
```

ここで、<mdiskname/id> は、MDisk の名前または ID です。これで VDisk ID の表とそれぞれの VDisk が使用しているエクステントの数が戻されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfo lsvdiskmember 1
```

結果出力

```
id  
2
```

lsvdiskprogress

lsvdiskprogress コマンドは、新規仮想ディスクのフォーマット時に、進行状況をトラッキングします。

構文

```
▶▶ svcinfo — — lsvdiskprogress — — [ -nohdr ] —————▶▶  
  
▶ [ -delim — delimiter ] [ vdisk_id vdisk_name ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのす

すべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

vdisk_id | vdisk_name

特定のタイプのオブジェクト ID または名前を指定します。

説明

このコマンドは、新規仮想ディスクのフォーマットについて、完了パーセントを使用して進行状況を戻します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。
- CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

呼び出し例

```
svcinfo lsvdiskprogress -delim : 0
```

結果出力

```
id:progress  
0:58
```

showtimezone

showtimezone コマンドは、クラスタの現行の時間帯設定を表示するために使用します。

構文

```
▶▶ svcinfo — — showtimezone — — [ -nohdr ] —————▶  
  
▶ [ -delim — delimiter ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、

データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、1 つの時間帯と関連 ID を戻します。これが、そのクラスタの現在の時間帯設定です。 `svcinfolstimezones` コマンドを実行すると、使用可能な時間帯のリストを表示できます。時間帯を変更するには、`svctask settimezone` コマンドを実行します。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svcinfolstimezone -delim :
```

結果出力

```
id:timezone  
522:UTC
```

第 18 章 エラー・ログ・コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーのエラー・ログを操作できます。

finderr

finderr コマンドは、エラー・ログを分析し、重大度が最も高い未修正エラーの有無を調べます。

構文

```
▶▶ svctask — — finderr —————▶▶
```

説明

このコマンドはエラー・ログを走査して、未修正エラーが無いか調べます。コードで優先順位が定義されていると、もっとも優先順位の高い未修正エラーが **STDOUT** に戻されます。

ログに記録されたエラーの修正順序を判断するのに、このコマンドを利用できます。

Web ベースの指示保守手順 (DMP) でも、このコマンドを使用します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svctask finderr
```

結果出力

```
Highest priority unfixed error code is [1010]
```

dumperrlog

dumperrlog コマンドは、エラー・ログの内容をテキスト・ファイルにダンプします。

構文

```
▶▶ svctask — — dumperrlog —————▶▶  
└── -prefix — filename_prefix ─┘
```

パラメーター

-prefix filename_prefix

ファイル名は、接頭部とタイム・スタンプから作成されます。フォーマットは次のとおりです。

```
<prefix>_NNNNNN_YYMMDD_HHMMSS
```

NNNNN はノードのフロント・パネル名です。

注: `-prefix` パラメーターを指定しないと、ダンプは、システム定義により「errlog」の接頭部が付いたファイルに送られます。

説明

引数を指定しないで実行すると、このコマンドは、クラスタのエラー・ログを、システムから与えられた「errlog」の接頭部が付いた名前 (ノード ID とタイム・スタンプが含まれる) のファイルにダンプします。ファイル名の接頭部を指定した場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディレクトリー内の、指定された接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスタで保持されます。11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされます。

エラー・ログ・ダンプ・ファイルは、`/dumps/elogs` に書き込まれます。このディレクトリーの内容は、`svcinfolerrlogdumps` コマンドを使用して表示できます。

起こりうる障害

- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。
- CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。
- CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。
- `svcservicemodetask dumperrlog` コマンドに関連したエラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svctask dumperrlog -prefix testerrorlog
```

結果出力

```
No feedback
```

clearerrlog

clearerrlog コマンドは、状況イベントおよび未修正エラーを含む、エラー・ログのすべての項目を消去します。

構文

```
▶▶ svctask — — clearerrlog —————▶▶  
└── -force ─┘
```

パラメーター

-force

このフラグは、あらゆる確認要求を停止させます。 `-force` フラグを指定しないと、ログを消去したいかを確認するプロンプトが出されます。

説明

このコマンドは、エラー・ログのすべての項目を消去します。ログに未修正エラーがあっても、すべての項目が消去されます。また、このコマンドは、ログに記録されているあらゆる状況イベントも消去します。

重要: このコマンドは破壊性があるので、このコマンドは、クラスターを再構築したときか、もしくはエラー・ログ内に手作業では修正したくない多数の項目が存在し、それらの原因である主要な問題を修正したときのみ使用してください。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask clearerrlog -force
```

結果出力

```
No feedback
```

cherrstate

cherrstate コマンドは、未修正エラーに修正済みマークを付けます。また、修正済みエラーに未修正のマークを付けることもできます。

構文

```
▶▶ svctask — — cherrstate — — -sequencenumber — sequence_number — —————▶
```

```
▶————▶
```

```
└── -unfix ─┘
```

パラメーター

-sequencenumber *sequence_number*

修正する、エラー・ログのシーケンス番号 (複数も可) を指定します。

-unfix

指定したシーケンス番号 (複数も可) に未修正のマークを付けるように指定します (オプション)。-unfix 引数を使用すると、シーケンス番号には未修正のマークが付きます。これは、間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けてしまった場合にのみ使用することを意図しています。

説明

入力したシーケンス番号 (複数も可) のエラー・ログ項目に、修正済みのマークを付けます。クラスター、ファブリック、またはサブシステムに対して行った保守の手動確認として、このコマンドを使用してください。

このステップは、指示保守手順 (DMP) の一環として実行してください。

間違ったシーケンス番号に修正済みのマークを付けた場合、オプションで -unfix フラグを指定して、項目に未修正のマークを付け直すことができます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

呼び出し例

```
svctask cherrstate -sequencenumber 2019
```

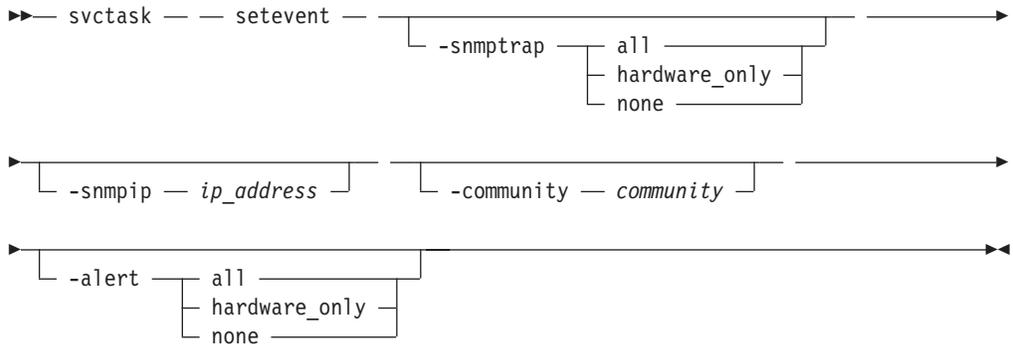
結果出力

```
No feedback
```

setevent

setevent コマンドは、エラーまたはイベントがエラー・ログに記録されるとき処理を指定するために使用します。これらの設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行うかを定義します。

構文



パラメーター

-snmptrap *all* | *hardware_only* | *none*

SNMP トラップ設定、つまり、いつトラップを発信するかを指定します (オプション)。

-snmpip *ip_address*

| SNMP マネージャー・ソフトウェアが実行されているホスト・システムの IP
| アドレスを指定します。コミュニティー・ストリングは、リスト当たり最大 6
| 項目を含む値のリスト (コロンで区切られている) です。

-community *community*

| SNMP コミュニティー・ストリングを指定します (オプション)。コミュニティー
| ・ストリングは、リスト当たり最大 6 項目を含む値のリスト (コロンで区切
| られている) です。

-alert *all* | *hardware_only* | *none*

アラート設定を指定します (オプション)。この設定では、どのような場合にアラート通知を発信するかを指定します。

注: これらの引数は相互に排他的ではありません (組み合わせて指定できます)。

説明

このコマンドは、エラー・ログに適用するさまざまな設定を変更します。これらの設定は、エラーおよびイベントがログに記録される場合に、どのような処理を行うかを定義します。 `-snmptrap` および `-alert` 引数には、以下の値を設定できます。

all ログに記録されたすべてのエラーと状態変更について、SNMP トラップを送信します。

hardware_only

すべてのエラーについて、SNMP トラップを送信します。ただし、オブジェクトの状態変更の場合は送信しません。

none エラーがログに記録されても、SNMP トラップを送信しません。新規クラスターの場合、これがデフォルトです。

このコマンドで、SNMP トラップをセットアップできます。SNMP 用に、以下の情報を入力する必要があります。

- どのような場合にトラップを発信するか。
- SNMP マネージャーの IP アドレス
- SNMP コミュニティ

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask setevent -snmptrap all -snmpip 1.2.3.4  
-community mysancommunity
```

結果出力

```
No feedback
```

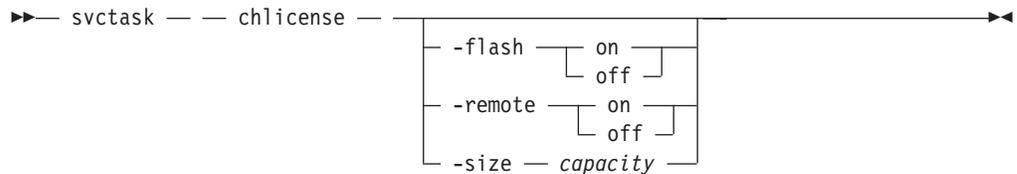

第 19 章 フィーチャー設定コマンド

以下のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでフィーチャー設定機能を操作できます。

chlicense

chlicense コマンドは、クラスターのライセンス設定値を変更します。

構文



パラメーター

-flash *on* | *off*

このクラスターについて、フラッシュ・コピーがライセンス交付を受けているかを指定します (オプション)。 デフォルトは *off* (ライセンス交付を受けていない) です。

-remote *on* | *off*

このクラスターについて、メトロ・ミラーがライセンス交付を受けているかどうかを指定します (オプション)。 デフォルトは *off* (ライセンス交付を受けていない) です。

-size *capacity*

このクラスターについて、ライセンス交付を受けたバーチャライゼーションの量を指定します (オプション)。 デフォルトは 0GB です。

注: これらの 3 つの引数は相互に排他的です。

説明

このコマンドは、クラスターのライセンス設定値を変更します。行われたすべての変更は、イベントとしてフィーチャー設定ログに記録されます。

クラスターの現行フィーチャー設定値が「フィーチャー・ログの表示」パネルに表示されます。これらの設定値は、FlashCopy またはメトロ・ミラーの使用のライセンス交付を受けているかどうかを示しています。また、バーチャライゼーションのライセンス交付を受けているストレージの量も表示されます。通常は、Web ベースのクラスター作成プロセスの一部としてフィーチャー・オプションを設定しなければならないために、フィーチャー・ログに項目が含まれます。

注: 空のフィーチャー・ログのダンプを行うと、ヘッダー、256 行のフォーマット済みゼロ、および数行チェックサム情報を含むファイルが生成されます。

デフォルトを受け入れてコピー・サービスを使用不可にしておいても、コピー・サービスを作成したり使用することを停止しません。ただし、ライセンス交付を受けていないフィーチャーを使用しているというエラーが、フィーチャー設定ログに記録されます。コマンド行ツールの戻りコードも、ライセンス交付を受けていないフィーチャーを使用していることを示します。

このコマンドで、仮想化容量の総量も変更できます。これは、クラスターによって構成できる仮想ディスク容量をギガバイト (GB) で表したものです。

容量の使用率が 90% に達した場合、仮想ディスクの作成または拡張の実行に対して、コマンド行ツールからメッセージが出されます。この場合、仮想ディスクの作成および拡張を停止することはありません。容量の使用率が 100% に達した (越えた) 場合、フィーチャー設定ログにエラーが記録されます。この場合も、仮想ディスクの作成および拡張を停止することはありません。

フィーチャー設定ログに何らかのエラーが記録されると、その結果、通常のクラスター・エラー・ログに一般フィーチャー設定エラーが記録されます。これらは、ユーザーが使用条件に違反するコマンドを発行した場合に起こります。コマンドに対する戻りコードも、ライセンス設定値に違反しているか、またはライセンス設定値を超過していることを通知します。つまり、現行のライセンス設定値を 90% 以上超過、または違反しているコマンドに対して、戻りコード 1 が返されます。フィーチャー設定イベントは、フィーチャー設定ログにのみ記録されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えています。

呼び出し例

```
svctask chlicense -flash on
```

結果出力

```
No feedback
```

dumpinternallog

dumpinternallog コマンドは、フィーチャー設定エラーおよびイベント・ログの内容を、現行の構成ノード上のファイルにダンプします。

構文

```
▶— svctask — — dumpinternallog —————▶
```

説明

このコマンドは、内部フィーチャー設定エラーおよびイベント・ログの内容を、現行の構成ノード上のファイルにダンプします。

このファイルは常に `feature.txt` というファイル名で、構成ノードの `/dumps/feature` ディレクトリーに作成されます (もしくは既存のファイルが上書きされます)。

項目を作成する前は、フィーチャー設定ログにはゼロが含まれています。このログを `svctask dumpinternallog` でダンプすると、ファイルは空になります。

IBM サービス技術員が、このファイルの提出をお願いする場合があります。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

呼び出し例

```
svctask dumpinternallog
```

結果出力

```
No feedback
```


第 20 章 セキュア・シェル鍵コマンド

以下のコマンドを使用すれば、SAN ボリューム・コントローラーでセキュア・シェル (SSH) を操作することができます。

addsshkey

addsshkey コマンドは、新規の SSH 鍵をクラスターにインストールします。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーする必要があります。

構文

```
svctask -- addsshkey -- -label -- identifier --  
-- -file -- filename_arg -- -user -- admin | service --
```

パラメーター

-label *identifier*

この鍵に関連付ける新規 ID を指定します。最大長は 30 文字です。

-file *filename_arg*

SSH 鍵が入っているファイルの名前を指定します。

-user *admin | service*

SSH 鍵を適用するユーザー ID を指定します。

説明

最初に secure copy (scp) を使用して、/tmp ディレクトリー内のクラスターに鍵のファイルをコピーする必要があります。

svctask addsshkey コマンドは、/tmp ディレクトリーから目的の場所に鍵のファイルを移動して、特定のユーザー用にそのファイルをアクティブにします。鍵がアクティブになったら、鍵が生成されたホストで指定されたユーザー ID を使用して、SSH を介してクラスターに対するコマンドを呼び出すことができます。別の方法として、指定したユーザー ID を使用して、指定のホストから対話式 SSH セッションを実行できます。

この ID は、以降、**svctask lsshkeys** コマンドを使用してすべての鍵をリストしたとき、もしくは **svctask rmsshkey** コマンドを使用して鍵を削除する場合に、鍵の識別するのに利用できます。

重要: クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネルを閉じてください。

svctask lsshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリストを表示できます。**svctask addsshkey** コマンドを使用して、新規の SSH 鍵をクラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーする必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付けられており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラス

ターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アクセスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、次のように入力します。

```
svctask addsshkey -user service -file /tmp/id_rsa.pub -label testkey
```

ここで、`/tmp/id_rsa.pub` は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前、`testkey` は、この鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。**svctask rmallsshkeys** コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が削除されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC6008E この鍵はすでに存在します。

呼び出し例

```
svctask addsshkey -user service -file /tmp/id_rsa.pub -label testkey
```

結果出力

No feedback

rmallsshkeys

rmallsshkeys コマンドは、SSH 鍵を除去するために使用します。このコマンドは、指定された `-user` 引数に適用可能なすべての SSH 鍵を除去します。

構文

```
▶▶ svctask — — rmallsshkeys — — -user —————▶▶
                                     |
                                     | admin
                                     | service
                                     | all
```

パラメーター

-user *admin | service | all*

`-user` 引数を使用して、SSH 鍵が適用されるユーザー ID を指定します。all を指定すると、クラスター内のすべての SSH 鍵が除去されます。

説明

このコマンドは、指定された `-user` 引数に適用可能なすべての SSH 鍵を除去します。

重要: クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネルを閉じてください。

svcinfo lsshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリストを表示できます。**svctask addsshkey** コマンドを使用して、新規の SSH 鍵をクラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーする必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付け

られており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラスターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アクセスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、次のように入力します。

```
svctask addsshkey -user service -file /tmp/id_rsa.pub -label testkey
```

ここで、`/tmp/id_rsa.pub` は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前で、`testkey` は、その鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。**svctask rmallsshkeys** コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が削除されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmallsshkeys -user service
```

結果出力

No feedback

rmsshkey

rmsshkey コマンドは、`-key` 引数で指定した SSH 鍵を除去するために使用します。

構文

```
▶— svctask — — rmsshkey — — -user — [ admin | service ] —————▶
▶— -key — key_identifier —————▶▶
```

パラメーター

-user *admin* | *service*

`-user` 引数は、SSH 鍵を削除するユーザー ID を指定します。

-key *key_identifier*

削除する鍵のラベルです。

説明

このコマンドを実行すると、`-key` 引数で指定された SSH 鍵が除去されます。

重要: クラスターを追加したら、「SSH 鍵の保守 (Maintaining SSH Keys)」パネルを閉じてください。

svcinfo lsshkeys コマンドを使用して、クラスター上の使用可能な SSH 鍵のリストを表示できます。**svctask addsshkey** コマンドを使用して、新規の SSH 鍵をクラスターにインストールできます。最初に鍵のファイルをクラスターにコピーす

る必要があります。それぞれの鍵はユーザーが定義する ID ストリングと関連付けられており、このストリングには最大 30 文字までを使用できます。1 つのクラスターには、最大 100 個の鍵を保管することができます。鍵を追加して、管理者アクセスまたはサービス・アクセスのいずれかを提供することができます。たとえば、次のように入力します。

```
svctask addsshkey -user service -file /tmp/id_rsa.pub -label testkey
```

ここで、*/tmp/id_rsa.pub* は、SSH 鍵が保管されるファイルの名前で、*testkey* は、その鍵に関連付けるラベルです。

svctask rmsshkey コマンドを使用して、SSH 鍵をクラスターから除去できます。**svctask rmallsshkeys** コマンドを実行すると、クラスターのすべての SSH 鍵が削除されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスターが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

呼び出し例

```
svctask rmsshkey -key testkey -user service
```

結果出力

```
No feedback
```

第 21 章 保守モード・コマンド

保守モード・コマンドは、ノードが保守モードにあるときにタスクを実行します。これらのタスクには、ノード・ソフトウェアを指定すること、ダンプ・ディレクトリーを消去すること、およびエラー・ログの内容をファイルヘダンプすることが含まれます。

これらのコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。作動中の構成ノードでこのコマンドを実行しようとする、次のメッセージが表示されます。

CMMVC5997E このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。

保守モードのノードで、他の **svctask** および **svcservicetask** コマンドのいずれかを実行しようとする、次のメッセージが表示されます。

CMMVC5998E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

applysoftware

applysoftware コマンドを使用して、保守モードのノードにインストールするソフトウェアを指定できます。

構文

```
▶▶ svcservicemodetask — — applysoftware — — -file — filename_arg — —▶▶
└─┬────────────────────────────────────────────────────────────────────────────────┬─┘
  │ -ignore ─────────────────────────────────────────────────────────────────────────┘
```

パラメーター

-file filename_arg

新規ソフトウェア・パッケージのファイル名を指定します。

-ignore

このオプション・パラメーターを使用すると、前提条件のシーケンス検査をバイパスしてパッケージがロードされます。この場合、ノード上のハード化されたデータは削除され、このノードはもはやクラスターのメンバーであるとは考えません。ノード・クォーラムが残りのノードから形成できない場合、このプロシージャには、キャッシュ・データの紛失およびクラスター整合性の喪失というリスクがあります。

説明

| このコマンドは、ソフトウェアのインストールを開始します。このコマンドは、ノ
| ードの新規ソフトウェア・レベルへのアップグレード処理を開始します。保守モー
| ドにあるノードだけがアップグレードされます。

| コマンドに渡すファイル名によって指定するソフトウェア・パッケージは、最初に
| /home/admin/upgrade ディレクトリー内の現行の保守ノードにコピーしておく必要が
| あります。この手順の詳細については、『PuTTY scp』を参照してください。

内部的には、新規パッケージは /home/admin/upgrade ディレクトリーから移されてチェックサムを受けます。パッケージがチェックサムで不合格となると、そのパッケージは削除され、インストールは失敗します。パッケージがチェックサムで合格すると、そのパッケージが取り出されて、ソフトウェアのインストールが開始されます。

重要: 保守モードで **applysoftware** コマンドを使用すると、ソフトウェアがクラスター全体でなく、個々のノードに適用されます。クラスターを使用する前に、そのクラスター内のすべてのノードが同じソフトウェア・レベルにあることを確認することが重要です。複雑な問題やサポートされないコード・レベルを回避するために、ソフトウェア・アップグレードは、保守モードで実行しないでください。ただし、IBM サポート・センターによって許可された場合は除きます。 **applysoftware** コマンドを使用するときは、コード・レベル・メジャー番号を確認してください。新しいコード・レベル・メジャー番号が、すでに稼働しているコード・レベル・メジャー番号と同じである場合、アップグレードしたノードはクラスターに再結合されます。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodetask applysoftware -file newsoftware
```

結果出力

```
No feedback
```

cleardumps

cleardumps コマンドを使用して、保守モードにあるノード上のさまざまなダンプ・ディレクトリーの内容をすべて消去することができます。

構文

```
▶— svcservicemodetask — — cleardumps — —————▶  
▶- prefix — directory_or_file_filter —————▶▶
```

パラメーター

-prefix *directory_or_file_filter*

消去するディレクトリーおよび/またはファイルを指定します。ファイル・フィルターなしでディレクトリーを指定すると、そのディレクトリー内のすべての関連するダンプまたはログ・ファイルが消去されます。使用可能なディレクトリー引数は、次のとおりです。

- /dumps (すべてのサブディレクトリー内の全ファイル、以下にリストしたものが消去されます)
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- /dumps/feature
- /dumps/iostats

- /dumps/iotrace
- /home/admin/upgrade

ディレクトリーに加えて、ファイル・フィルターも指定できます。たとえば /dumps/eologs/*.txt にすると、/dumps/eologs ディレクトリー内の .txt で終わるすべてのファイルが消去されます。

説明

このコマンドは、ノード上の `directory/file_filter` 引数に一致するファイルをすべて削除します。ノードは、保守モードでなくてはなりません。

このコマンドで、ディレクトリー引数として /dumps を指定することによって、すべてダンプ・ディレクトリーの内容を消去できます。

また、上記にリストしたディレクトリー引数のいずれか 1 つを指定することで、単一ディレクトリー内のすべてのファイルを消去できます。

ディレクトリーとファイル名を指定することで、特定のディレクトリー内の特定のファイルを消去することもできます。ファイル名の一部にワイルドカード (*) を使用できますが、ワイルドカードを使用する場合は、ファイル名を引用符で囲まなければならない場合があります。

svcservicemodeinfo ls2145dumps コマンドを使用して、特定のノード上のこれらのディレクトリーの内容をリストすることができます。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodetask cleardumps -prefix /dumps/configs
```

結果出力

```
No feedback
```

dumperrlog

dumperrlog コマンドを使用して、エラー・ログの内容を保守モードのノードからテキスト・ファイルにダンプすることができます。

構文

```
▶— svcservicemodetask — — dumperrlog — — -prefix — filename_prefix —▶▶
```

パラメーター

-prefix filename_prefix

-prefix を指定しないと、ダンプは、システム定義された名前のファイルに送られます。ファイル名は接頭部とタイム・スタンプから作成され、形式は <prefix>_NN_YYMMDD_HHMMSS で、NN は現行の構成ノード ID です。

説明

このコマンドは、クラスター・エラー・ログを、システムから与えられた名前（ノード ID とタイム・スタンプが含まれる）のファイルにダンプします。ファイル名の接頭部が使用された場合、同じ処理が行われますが、詳細情報は、ダンプ・ディレクトリー内の、ユーザー定義の接頭部で始まる名前のファイルに保管されます。

最大で 10 個のエラー・ログ・ダンプ・ファイルがクラスターで保持されます。11 番目のダンプが作成されると、もっとも古い既存のダンプ・ファイルが上書きされます。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodetask dumperrlog -prefix testerrorlog
```

結果出力

```
No feedback
```

exit

exit コマンドを使用して、保守モードを終了し、ノードを再始動することができます。

構文

```
▶— svcservicemodetask — — exit —————▶▶
```

説明

このコマンドを発行すると、ノードが再始動します。ノードは標準の動作モードで起動し、クラスターへの再結合を試みます。

このコマンドの実行中のある時点で、ユーザーがノードへのアクセスに使用していた SSH および Web サーバーの接続が、ノードが再始動したことにより終了します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodetask exit
```

結果出力

```
[SSH / webserver connections terminate so an error message to the effect of 'connection lost' may be displayed, or 'CLIENT RECEIVED SERVER DOWN NOTIFICATION']
```

第 22 章 保守モード情報コマンド

保守モード・コマンドは、ノードが保守モードにあるときに、情報収集タスクを実行します。

これらのコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。作動中の構成ノードでこのコマンドを実行しようとする、次のメッセージが表示されます。

CMMVC5997E このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。

保守モードのノードで、他の `svcinfo` コマンドのいずれかを実行しようとする、以下のメッセージが表示されます。

CMMVC5998E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

ls2145dumps

ls2145dumps コマンドを使用して、特定のノード上に存在する指定されたタイプのファイルのリストを戻すことができます。

構文

```
▶▶— svcservicemodeinfo — — ls2145dumps — — [ -nohdr ] — —▶▶
▶▶— [ -delim — delimiter ] — —▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo ls2145dumps
```

結果出力

```
id          filename
0           s1_lynn75_030405_092143
1           s2_lynn75_030405_092145
2           s3_lynn75_030405_092146
```

lsclustervpd

lsclustervpd コマンドを使用して、ノードが属していたクラスターの Vital Product Data (VPD) を戻すことができます。

構文

```
▶▶ svcservicemodeinfo -- lsclustervpd [ -nohdr ] [ -delim delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、ノードが属していたクラスターの VPD を表示します。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps/configs` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsconfigdumps
```

結果出力

```
id                config_filename
0                 config_lynn02_030403_101205
```

Iserrlogdumps

Iserrlogdumps コマンドは、現行のノード上に存在するファイルのリストを戻すために使用します。

構文

```
▶▶ svcservicemodeinfo -- lserrlogdumps [ -nohdr ]
[ -delim delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを

使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps/elogs` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lserrlogdumps
```

結果出力

id	filename
0	errlog_lynn02_030327_154511
1	aaa.txt_lynn02_030327_154527
2	aaa.txt_lynn02_030327_154559
3	errlog_lynn02_030403_110628

lsfeaturedumps

lsfeaturedumps コマンドを使用して、現行ノード上に存在する特定タイプのファイルのリストを戻すことができます。

構文

```
▶— svcservicemodeinfo — — lsfeaturedumps — — [ -nohdr ] —————▶  
▶ [ -delim — delimiter ] —————▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのす

すべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps/feature` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsfeaturedumps
```

結果出力

```
id                feature_filename
0                 feature.txt
```

Isiostatsdumps

Isiostatsdumps コマンドを使用して、現行ノード上に存在する指定したタイプのファイルのリストを戻すことができます。

構文

```
▶— svcservicemodeinfo — — isiostatsdumps — —————▶
                                     └─ -nohdr ─┘
▶ ┌─ -delim — delimiter ─┘ ─────────────────────────────────▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps/iostats` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsiostatsdumps
```

結果出力

```
0          s1_mala75_030405_092149
1          s2_mala75_030405_092150
2          s3_mala75_030405_092152
```

lsiotracedumps

lsiotracedumps コマンドを使用して、現行ノード上に存在する指定したタイプのファイルのリストを戻すことができます。

構文

```
▶▶ svcservicemodeinfo — — lsiotracedumps — — [ -nohdr ] —————▶▶
▶ [ -delim — delimiter ] —————▶▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 `-nohdr` パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、`-nohdr` オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim *delimiter*

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 `-delim` パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 `-delim` パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、`-delim :` と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/dumps/iotrace` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsiotracedumps
```

結果出力

```
id          iotrace_filename
0           c1_mala75_030405_092155
1           c2_mala75_030405_092156
2           c3_mala75_030405_092158
3           c4_mala75_030405_092159
4           c5_mala75_030405_092201
```

lsnodes

lsnodes コマンドを使用して、保守モードのクラスターに属するノードの注釈付きリストを表示することができます。

構文

```
▶▶ svcservicemodeinfo -- lsnodes -- [ -nohdr ]
[ -delim delimiter ]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、クラスター内のノードの注釈付きリストを戻します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsnodes -delim :
```

結果出力

```
id:WWNN:front_panel_id:node_name:cluster:fabric  
1:50050768010007E5:lynn02:node1:yes:yes
```

lsnodevpd

lsnodevpd コマンドを使用して、特定のノードの Vital Product Data (VPD) を戻すことができます。

構文

```
▶— svcservicemodeinfo — — lsnodevpd — — [ -nohdr ] —————▶  
▶ [ -delim — delimiter ] —————▶
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと (簡略形式のビュー) およびデータの項目ごと (詳細形式のビュー) で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合 (たとえば、空のビューが表示された場合) は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます (たとえば、列の間隔が空いたりしません)。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、指定されたノードの VPD を戻します。新規の 1 行に 1 フィールドが表示されます。フィールドはすべて文字列です。

VPD は、幾つかのセクションに分かれています。セクションごとにセクションの見出しがあります。見出しの後には、そのセクションのフィールド数が表示されます。各セクションは、空の行で区切られています。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lsnodevpd id 1
```

結果出力

```
system board: 17 fields
part_number Unknown
system_serial_number 550117N
number_of_processors 2
number_of_memory_slots 4
number_of_fans 0
number_of_FC_cards 1
number_of_scsi/ide_devices 2
BIOS_manufacturer IBM
BIOS_version -[QAE115AUS-1.01]-
BIOS_release_date 08/16/2001
system_manufacturer IBM
system_product eserver xSeries 342 -[86691RX]-
planar_manufacturer IBM
power_supply_part_number Unknown
CMOS_battery_part_number Unknown
power_cable_assembly_part_number Unknown
service_processor_firmware N/A
```

```
processor: 6 fields
processor_location Processor 1
number_of_caches 2
manufacturer GenuineIntel
version Pentium III
speed 1000
status Enabled
```

```
processor cache: 4 fields
type_of_cache Internal L1 Cache
size_of_cache (KB) 32
```

```
type_of_cache Internal L2 Cache
size_of_cache (KB) 256
```

```
processor: 6 fields
processor_location Processor 2
number_of_caches 2
manufacturer GenuineIntel
version Pentium III
speed 1000
status Enabled
```

```
processor cache: 4 fields
type_of_cache Internal L1 Cache
size_of_cache (KB) 32
```

```
type_of_cache Internal L2 Cache
size_of_cache (KB) 256
```

```
memory module: 16 fields
part_number 33L5039
device_location J1
bank_location Slot1 in bank 1
size (MB) 1024
```

```
part_number 33L5039
device_location J4
```

```
bank_location Slot2 in bank 1
size (MB) 1024

part_number N/A
device_location J2
bank_location Slot1 in bank 2
size (MB) 0

part_number N/A
device_location J3
bank_location Slot2 in bank 2
size (MB) 0

FC card: 5 fields
part_number 64P7783
port_numbers 1 2
device_serial_number VSI 0000AD3F4
manufacturer Agilent
device DX2

device: 15 fields
part_number Unknown
bus ide0
device 0
model LG CD-ROM CRN-8245B
revision 1.13
serial_number
approx_capacity 0

part_number Unknown
bus scsi
device 0
device_vendor IBM-ESXS
model ST318305LC !#
revision 6C48
serial_number 3JKQ93B903196C48
approx_capacity 8

software: 5 fields
code_level 00000000
node_name node1
ethernet_status 1
WWNN 0x50050768010007e5
id 1

front panel assembly: 3 fields
part_number Unknown
front_panel_id lynn02
front_panel_locale en_US

UPS: 10 fields
electronics_assembly_part_number FakElec
battery_part_number FakBatt
frame_assembly_part_number FakFram
input_power_cable_part_number FakCab1
UPS_serial_number UPS_Fake_SN
UPS_type Fake UPS
UPS_internal_part_number UPS_Fake_PN
UPS_unique_id 0x10000000000007e5
UPS_main_firmware 1.4
UPS_comms_firmware 0.0
```

lssoftwaredumps

lssoftwaredumps コマンドは、特定のノード上に存在する指定されたタイプのファイルのリストを戻すために使用します。

構文

```
svcservicemodeinfo -- lssoftwaredumps -- [-nohdr]
                                     [-delim delimiter]
```

パラメーター

-nohdr

デフォルトでは、見出しは、データの列ごと（簡略形式のビュー）およびデータの項目ごと（詳細形式のビュー）で表示されます。 **-nohdr** パラメーターを使用すると、これらの見出しの表示が抑制されます。

注: 表示するデータがない場合（たとえば、空のビューが表示された場合）は、**-nohdr** オプションを使用したか、しないかに関係なく見出しは表示されません。

-delim delimiter

デフォルトでは、簡略形式のビューで、データのすべての列はスペースで分離されます。各列の幅は、データの各項目の最大可能幅に設定されています。詳細ビューでは、データの各項目ごとに行が分かれており、見出しが表示される場合、データと見出しの間には、スペースが 1 つ入ります。 **-delim** パラメーターを使用すると、この動作が指定変更されます。 **-delim** パラメーターでは、1 バイトの文字を入力できます。たとえば、**-delim :** と入力すると、簡略ビューのすべてのデータ項目はコロンで分離されます（たとえば、列の間隔が空いたりしません）。詳細ビューでは、データと見出しはコロンで分けられます。

説明

このコマンドは、`/home/admin/upgrade` ディレクトリー内のダンプのリストを表示します。

起こりうる障害

- エラー・コードはありません。

呼び出し例

```
svcservicemodeinfo lssoftwaredumps
```

結果出力

```
id          software_filename
0           s1_mala75_030405_092143
1           s2_mala75_030405_092145
2           s3_mala75_030405_092146
```

第 23 章 コントローラー・コマンド

次のコマンドを使用すると、SAN ボリューム・コントローラーでコントローラーを操作できます。

chcontroller

chcontroller コマンドを使用して、コントローラーの名前を変更できます。

構文

```
svctask -- chcontroller -- -name -- new_name --  
  
└─ controller_id ─┬─  
   └─ controller_name ─┘
```

パラメーター

-name *new_name*

コントローラーに割り当てる新しい名前を指定します。

controller_id | controller_name

名前を変更するコントローラーを指定します。コントローラーの名前もしくは ID を使用してください。

説明

このコマンドを使用すると、**controller_id** または **controller_name** で指定されたコントローラーの名前を、**-name** で指定された名前に変更します。

新しいディスク・コントローラーを SAN にいつでも追加できます。スイッチ・ゾーニングのセクションにあるスイッチ・ゾーニングのガイドラインに従ってください。さらに、コントローラーが SAN ボリューム・コントローラー用に正しくセットアップされているかを確認してください。

新しいコントローラー上に 1 つ以上のアレイを作成してください。冗長度と信頼性を最大化するため、RAID-5、RAID-1、または RAID-0+1 (RAID-10 とも呼びます) を使用することを推奨します。一般的に、5+P アレイを推奨します。アレイの区分化を提供するコントローラーの場合は、アレイ内の使用可能な全容量に対して 1 つの区画を作成することを推奨します。後で必要になるので、各区画に割り当てる LUN 番号を覚えておいてください。さらに、SAN ボリューム・コントローラー・ポートに区画やアレイをマップするときには、マッピングのガイドラインに従ってください (使用するディスク・コントローラーが LUN のマッピングを必要とする場合)。

実行中の構成に新規ディスク・コントローラーを追加する: svctask detectmdisk
コマンドを実行して、新しいストレージ (MDisk) をクラスターが検出したことを確認します。コントローラー自体には、デフォルト名が自動的に割り当てられています。どのコントローラーが MDisk を提示しているのかがわからない場合は、

svcinfo lscontroller コマンドを実行して、コントローラーをリストします。新しいコントローラーが表示されるはずで (最も大きな数字のデフォルト名)。コント

ローラーの名前を確認してから、ディスク・コントローラー・システム名の確認に関するセクションに記載の手順に従ってください。

このコントローラーには、識別するときに簡単に使用できる名前を付けてください。次のコマンドを入力します。

```
svctask chcontroller -name <newname> <oldname>
```

次のコマンドを実行して、非管理の MDisk をリストします。

```
svcinfolsmdisk -filtervalue mode=unmanaged:controller_name=<new_name>
```

この MDisk は、作成した RAID アレイまたは区画に対応します。フィールドのコントローラーの LUN 番号を覚えておきます。この番号は、アレイまたは区画のそれぞれに割り当てた LUN 番号に対応します。

新しい管理対象ディスク・グループを作成して、新しいコントローラーに属する RAID アレイだけをこの MDisk グループに追加することを推奨します。また、異なるタイプの RAID を混合することは避けてください。そこで、異なるタイプの RAID ごと (RAID-5、RAID-1 など) に新しい MDisk グループを作成してください。この MDisk グループに適切な名前を付けます。たとえば、使用するコントローラーの名前が FAST650-fred で、MDisk グループに RAID-5 アレイがある場合は、F600-fred-R5 のような名前にします。次のコマンドを入力します。

```
svctask mkmdiskgrp -ext 16 -name <mdisk_grp_name>  
-mdisk <colon separated list of RAID-x mdisks returned  
in step 4.
```

注: これで、エクステント・サイズが 16 MB の新規 MDisk グループが作成されます。

起こりうる障害

- CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。
- CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

呼び出し例

```
svctask chcontroller -name newtwo 2
```

結果出力

```
No feedback
```

第 24 章 CLI メッセージ

コマンド行ツールは、完了時に戻り値を戻します。コマンドが正常にエラーなしで完了すると、戻りコードは 0 です。コマンドが失敗すると、戻りコードが 1 となり、警告のエラー・コードが `stderr` 上に出力されます。コマンドが成功した場合でも、クラスターがライセンス交付済みのパーチャライゼーションの限界近くで作動している場合は、戻りコードはやはり 1 となり、警告のエラー・コードが `stderr` 上に出力されます。

作成コマンドを発行すると、新規オブジェクトに割り当てられていたメッセージ ID が、`STDOUT` に送られる成功メッセージの一部として戻されます。 `-quiet` コマンドを使用すると、メッセージ ID のみが `STDOUT` に送られます。

CMMVC5700E パラメーター・リストが無効です。

説明

指定したパラメーター・リストが無効です。

アクション

正しいパラメーター・リストを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5701E オブジェクト ID が指定されていません。

説明

オブジェクト ID を指定しませんでした。

アクション

オブジェクト ID を指定し、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5702E [%1] が最小レベルに達していません。

説明

[%1] が最小レベルに達していません。

アクション

正しいレベルを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5703E [%1] が最大レベルを超えています。

説明

[%1] が最大レベルを超えています。

アクション

正しいレベルを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5704E [%1] は、許可されたステップ・レベルで割り切れません。

説明

[%1] は、許可されたステップ・レベルで割り切れません。

アクション

適用されません。

CMMVC5705E 必要パラメーターが欠落しています。

説明

必要パラメーターが欠落しています。

アクション

必要パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5706E [%1] パラメーターに無効な引数が入力されました。

説明

[%1] は、指定したパラメーターに有効な引数ではありません。

アクション

正しい引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5707E 必要パラメーターが欠落しています。

説明

欠落している必要パラメーターがあります。

アクション

必要パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5708E %1 パラメーターに関連する引数が欠落しています。

説明

[%1] パラメーターに関連する引数が欠落しています。

アクション

関連する引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5709E [%1] はサポートされたパラメーターではありません。**説明**

[%1] はサポートされたパラメーターではありません。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5710E ID パラメーター [%1] に対する自己記述型構造ではありません。**説明**

ID パラメーター [%1] に対する自己記述型構造がありません。

アクション

適用されません。

CMMVC5711E [%1] は無効なデータです。**説明**

[%1] は無効なデータです。

アクション

適用されません。

CMMVC5712E 必要なデータが欠落しています。**説明**

欠落している必要データがあります。

アクション

欠落データを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5713E 一部のパラメーターが相互に排他的です。**説明**

一部のパラメーターが相互に排他的です。

アクション

適用されません。

CMMVC5714E パラメーター・リストに項目がありません。**説明**

パラメーター・リストに項目がありません。

アクション

パラメーター・リストに項目を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5715E パラメーター・リストが存在しません。**説明**

パラメーター・リストが存在しません。

アクション

適用されません。

CMMVC5716E 数値フィールド（[%1]）に非数値のデータが入力されました。数値を入力してください。**説明**

数値フィールドに非数値のデータが指定されました。

アクション

数値フィールドに数値を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5717E 指定された単位に対する一致が見つかりません。**説明**

指定された単位に対する一致が見つかりません。

アクション

正しい単位を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5718E 予期しない戻りコードを受け取りました。**説明**

予期しない戻りコードを受け取りました。

アクション

適用されません。

CMMVC5719E %2 の値には、パラメーター %1 を指定する必要があります。

説明

%2 の値には、パラメーター %1 を指定する必要があります。

アクション

必要パラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5720E [%1] は、-o パラメーターに有効な引数ではありません。

説明

[%1] は、-o パラメーターに有効な引数ではありません。

アクション

正しい引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5721E [%1] は有効なタイム・スタンプ・フォーマットではありません。有効なフォーマットは、MMDDHHmmYY です。

説明

[%1] は有効なタイム・スタンプ・フォーマットではありません。有効なフォーマットは、MMDDHHmmYY です。

アクション

正しいタイム・スタンプ・フォーマットを順守して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5722E [%1] は有効な「月」ではありません。

説明

[%1] は有効な「月」ではありません。

アクション

正しい月 (MM) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5723E [%1] は有効な「日」ではありません。

説明

[%1] は有効な「日」ではありません。

アクション

正しい日 (DD) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5724E [%1] は有効な「時」ではありません。

説明

[%1] は有効な「時」ではありません。

アクション

正しい時 (HH) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5725E [%1] は有効な「分」ではありません。

説明

[%1] は有効な「分」ではありません。

アクション

正しい分 (mm) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5726E [%1] は有効な「秒」ではありません。

説明

[%1] は有効な「秒」ではありません。

アクション

正しい秒 (ss) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5727E [%1] は有効なフィルターではありません。

説明

[%1] は有効なフィルターではありません。

アクション

-filtervalue パラメーターで使用された値が、認識されたフィルター値ではありません。有効なフィルターのリストについては、ヘルプを参照してください。

CMMVC5728E [%1] のフォーマットは、「分:時:日:月:曜日」でなければなりません。

説明

[%1] のフォーマットは、「分:時:日:月:曜日」でなければなりません。

アクション

正しいフォーマットを順守して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5729E リストにある 1 つ以上のコンポーネントが無効です。

説明

無効なコンポーネントを 1 つ以上指定しました。

アクション

正しいコンポーネントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5730E %1 は、%2 が %3 の値を持っている場合にのみ有効です。

説明

%1 は、%2 が %3 の値を持っている場合にのみ有効です。

アクション

適用されません。

CMMVC5731E %1 は、%2 が入力されている場合にのみ入力することができます。

説明

%1 は、%2 が入力されている場合にのみ入力することができます。

アクション

適用されません。

CMMVC5732E 共用メモリー・インターフェースを使用できません。

説明

共用メモリー・インターフェース (SMI) を使用できません。

アクション

適用されません。

CMMVC5733E 少なくともパラメーターを 1 つ入力してください。

説明

少なくともパラメーターを 1 つ指定する必要があります。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5734E 無効な値の組み合わせが入力されました。

説明

無効な値の組み合わせを指定しました。

アクション

正しい値の組み合わせを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5735E 入力された名前は無効です。先頭が数字でない、英数字ストリングを入力してください。

説明

無効な名前を指定しました。

アクション

先頭が数字でない、英数字ストリングを指定してください。

CMMVC5736E -c は有効な単位ではありません。

説明

有効な単位でないパラメーターを指定しました。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5737E パラメーター %1 が複数回入力されました。このパラメーターは 1 度だけ入力してください。

説明

同じパラメーターを複数回入力しました。

アクション

重複するパラメーターを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5738E 名前に含まれている文字数が多過ぎます。A - Z、a - z、0 - 9、-、または _ のいずれかの文字で構成される、1 - 15 文字の英数字สตริงを入力してください。先頭の文字を数字にすることはできません。

説明

指定した引数に含まれている文字数が多過ぎます。

アクション

正しい引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5739E 引数 %1 に含まれている文字数が十分ではありません。

説明

指定した引数に含まれている文字数が不十分です。

アクション

正しい引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5740E フィルター・フラグ %1 は無効です。

説明

フィルター・フラグ %1 は無効です。

アクション

正しいフラグを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5741E フィルター値 %1 は無効です。

説明

フィルター値 %1 は無効です。

アクション

正しい値を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5742E 指定されたパラメーターが有効範囲外です。

説明

有効範囲外のパラメーターを指定しました。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5743E 指定されたパラメーターがステップの値に準拠していません。

説明

ステップの値に準拠しないパラメーターを指定しました。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5744E コマンドに指定されたオブジェクトの数が多過ぎます。

説明

コマンドに指定されたオブジェクトの数が多過ぎます。

アクション

正しいオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5745E コマンドに指定されたオブジェクトの数が不足しています。

説明

コマンドに指定されたオブジェクトの数が不足しています。

アクション

正しいオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5746E 要求された操作は、このオブジェクトに対しては無効です。

説明

要求された操作は、このオブジェクトに対しては無効です。

アクション

有効な操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5747E 要求された操作は無効です。

説明

要求された操作は無効です。

アクション

正しい操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5748E 要求された操作は無効です。**説明**

要求された操作は無効です。

アクション

正しい操作を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5749E ダンプ・ファイル名はすでに存在します。**説明**

指定したダンプ・ファイル名はすでに存在します。

アクション

別のダンプ・ファイル名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5750E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。**説明**

ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

アクション

適用されません。

CMMVC5751E ダンプ・ファイルをディスクに書き込むことができませんでした。**説明**

ダンプ・ファイルをディスクに書き込むことができませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5752E オブジェクトに子オブジェクトが含まれていたため、操作は失敗しました。子オブジェクトを削除して、要求を再実行依頼してください。**説明**

指定されたオブジェクトに子オブジェクトが含まれていたため、操作は失敗しました。

アクション

子オブジェクトを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5753E 指定されたオブジェクトは存在しません。

説明

指定されたオブジェクトは存在しません。

アクション

正しいオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5754E 指定されたオブジェクトは存在しないか、名前が命名規則に違反しています。

説明

指定されたオブジェクトは存在しないか、オブジェクトの名前が命名要件に違反しています。

アクション

正しいオブジェクト名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5755E 指定されたオブジェクトのサイズが一致しません。

説明

指定されたオブジェクトのサイズが一致しません。

アクション

適用されません。

CMMVC5756E オブジェクトはすでにマップされているため、操作は失敗しました。

説明

指定されたオブジェクトはすでにマップされているため、操作は失敗しました。

アクション

別のオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5757E 自己記述型構造のデフォルトが見付かりませんでした。

説明

自己記述型構造のデフォルトが見付かりませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5758E オブジェクト・ファイル名はすでに存在します。

説明

オブジェクト・ファイル名はすでに存在します。

アクション

別のオブジェクト・ファイル名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5759E メモリーを割り振れませんでした。

説明

メモリーを割り振ることができません。

アクション

適用されません。

CMMVC5760E クラスタにノードを追加できませんでした。

説明

クラスタにノードを追加できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5761E クラスタからノードを削除できませんでした。

説明

クラスタからノードを削除できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5762E タイムアウト期間が満了したため、操作は失敗しました。

説明

タイムアウト期間が満了したため、操作は失敗しました。

アクション

コマンドを再度実行してください。

CMMVC5763E ノードをオンラインにできませんでした。**説明**

ノードをオンラインにできませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5764E 指定されたモード変更は無効です。**説明**

指定されたモード変更は無効です。

アクション

別のモードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5765E 選択されたオブジェクトは最早候補オブジェクトではありません。要求中に変更が発生しました。**説明**

指定されたオブジェクトは候補オブジェクトではありません。要求中に変更が発生しました。

アクション

別のオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5767E 指定された 1 つ以上のパラメーターが無効です。**説明**

指定された 1 つ以上のパラメーターが無効です。

アクション

正しいパラメーターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5769E この操作では、すべてのノードがオンライン状態であることが必要です。1 つ以上のノードがオンライン状態になっていません。**説明**

この操作では、すべてのノードがオンライン状態であることが必要です。1 つ以上のノードがオンライン状態になっていません。

アクション

それぞれのノードがオンライン状態であることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5770E SSH 鍵のファイルが無効です。

説明

SSH 鍵のファイルが無効です。

アクション

別のファイルを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5771E 操作は失敗しました。おそらく、オブジェクトに子オブジェクトが含まれていることが原因です。操作を完了するには、force フラグを指定してください。

説明

操作は失敗しました。おそらく、オブジェクトに子オブジェクトが含まれていることが原因です。

アクション

-force フラグを指定して操作を完了し、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5772E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、操作は失敗しました。

説明

ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、操作は失敗しました。

アクション

ソフトウェアのアップグレードが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5773E 選択されたオブジェクトは誤ったモードにあるため、操作は失敗しました。

説明

選択されたオブジェクトは誤ったモードにあるため、操作は失敗しました。

アクション

正しいモードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5774E ユーザー ID は無効です。**説明**

ユーザー ID は無効です。

アクション

別のユーザー ID を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5775E ディレクトリー属性は無効です。**説明**

ディレクトリー属性は無効です。

アクション

別のディレクトリーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5776E ディレクトリー・リストを検索できませんでした。**説明**

ディレクトリー・リストを検索できませんでした。

アクション

別のディレクトリー・リストを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5777E ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。**説明**

ノードをこの I/O グループに追加できませんでした。この I/O グループの他のノードが同じ電源ドメインにあります。

アクション

別の I/O グループから別のノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5778E クラスタがすでに存在するため、作成できませんでした。**説明**

クラスタがすでに存在するため、作成できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5780E このアクションは、リモート・クラスター名を使用して完了できませんでした。代わりに、リモート・クラスター固有 ID を使用してください。

説明

リモート・クラスターの固有 ID は、このコマンドに必要です。

アクション

リモート・クラスターの固有 ID を指定して、このコマンドを再度発行してください。

CMMVC5781E 指定されたクラスター ID は無効です。

説明

クラスター ID は無効です。

アクション

別のクラスター ID を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5782E オブジェクトがオフラインです。

説明

オブジェクトがオフラインです。

アクション

オンラインのオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5784E クラスター名が固有ではありません。クラスター ID を使用してクラスターを指定してください。

説明

クラスター名が固有ではありません。

アクション

クラスター ID を使用してクラスターを指定し、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5785E ファイル名に正しくない文字が含まれています。

説明

ファイル名に正しくない文字が含まれています。

アクション

有効なファイル名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5786E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

説明

クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5787E クラスタがすでに存在するため、クラスタを作成できませんでした。

説明

クラスタがすでに存在するため、クラスタを作成できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5788E サービス IP アドレスが無効です。

説明

サービス IP アドレスが無効です。

アクション

正しいサービス IP アドレスを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5789E IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスタを変更できませんでした。

説明

IP アドレス、サブネット・マスク、サービス・アドレス、SNMP アドレス、またはゲートウェイ・アドレスが無効なため、クラスタを変更できませんでした。

アクション

すべて正しい属性を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5790E ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できませんでした。

説明

ノードの最大数に達したため、クラスターにノードを追加できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5791E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5792E I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。

説明

I/O グループがリカバリーに使用されているため、アクションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5793E I/O グループにはすでに一对のノードが含まれているため、ノードをクラスターに追加できませんでした。

説明

I/O グループにはすでに一对のノードが含まれているため、ノードをクラスターに追加できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5794E ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

説明

ノードがクラスターのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

アクション

クラスターに含まれるノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5795E ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除できませんでした。

説明

ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、ノードを削除できませんでした。

アクション

ソフトウェアのアップグレードが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5796E ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。

説明

ノードが所属する I/O グループが不安定な状態のため、アクションは失敗しました。

アクション

直前の構成コマンドがまだ完了していません。直前のコマンドが完了するのを待ってから、このコマンドを再試行してください。

CMMVC5797E このノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した仮想ディスク (VDisks) があるため、このノードを削除できませんでした。

説明

指定されたノードは I/O グループの最後のノードであり、この I/O グループと関連した VDisk があるため、このノードを削除できませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5798E ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。**説明**

ノードがオフラインのため、アクションが失敗しました。

アクション

オンラインのノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5799E I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャットダウンは失敗しました。**説明**

I/O グループに 1 つのオンライン・ノードしかないため、シャットダウン操作は失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5800E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。**説明**

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5801E クラスター内のすべてのノードがオンライン状態でなければならないため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再実行依頼してください。**説明**

クラスター内のすべてのノードがオンライン状態でなければならないため、クラスター・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。

アクション

オフラインのノードを削除するか、ノードをオンラインにしてからコマンドを再度実行してください。

CMMVC5802E クラスタ内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを進めることができませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスタをアップグレードするには、**force** オプションが必要です。

説明

クラスタ内に 1 つのノードしかない I/O グループがあるため、クラスタ・ソフトウェアのアップグレードを先行できませんでした。ソフトウェアのアップグレードでは、I/O グループ内の各ノードをシャットダウンして、再始動する必要があります。I/O グループに 1 つのノードしかない場合、ソフトウェアのアップグレードを開始する前にその I/O 操作が停止されないと、I/O 操作が失われる可能性があります。クラスタをアップグレードするには、**force** オプションが必要です。

アクション

-**force** オプションを使用してクラスタをアップグレードするか、別のノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5803E シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

説明

シーケンス番号が見つからなかったため、エラー・ログの項目がマークされませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5804E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5805E FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

説明

FlashCopy 統計がまだ準備されていないため、進行情報が戻されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5806E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5807E 管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。

説明

管理対象ディスク (MDisk) を指定されたモードに変更できなかったため、アクションが失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5808E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

管理対象ディスク (MDisk) が存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別の MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5809E I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでした。

説明

I/O 操作のトレースはすでに進行中のため、開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5810E MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

説明

MDisk がオフラインのため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

アクション

MDisk の状況をオンラインに変更するか、別の MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5811E クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

説明

クォーラム・ディスクが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

アクション

別のクォーラム・ディスクを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5812E MDisk が誤ったモードであるため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。管理対象のモードを持つ MDisk を選択してください。

説明

MDisk が管理対象モードでないため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

アクション

- MDisk のモードを変更して、コマンドを再発行してください。
- 管理対象モードの MDisk を選択して、コマンドを再発行してください。

CMMVC5813E MDisk のセクター・サイズが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号は設定されませんでした。

説明

指定したパラメーター・リストが無効です。

アクション

MDisk に対して別のセクター・サイズを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5814E 固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

説明

固有 ID (UID) タイプが無効なため、管理対象ディスク (MDisk) のクォーラム索引番号が設定されませんでした。

アクション

別の固有 ID (UID) を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5815E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) グループは作成されませんでした。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5816E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5817E 名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名前変更されませんでした。

説明

名前が無効だったため、管理対象ディスク (MDisk) グループは名前変更されませんでした。

アクション

別の MDisk グループ名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5818E グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されませんでした。

説明

グループに少なくとも 1 つの MDisk があるため、管理対象ディスク (MDisk) グループは削除されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5819E この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追加されませんでした。

説明

この管理対象ディスク (MDisk) は別の MDisk グループの一部であるため、この MDisk グループに追加されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5820E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5821E リストに十分な MDisks が含まれていないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

説明

リストに十分な MDisks が含まれていないため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

アクション

リストに MDisk を追加して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5822E リストに含まれている MDisks の数が多過ぎるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

説明

リストに含まれている MDisks の数が多過ぎるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに追加されませんでした。

アクション

リストから余分の MDisk を削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5823E この MDisk は別の MDisk グループの一部であるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。

説明

この MDisk は別の MDisk グループの一部であるため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5824E この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、その MDisk グループから削除されませんでした。

説明

この管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループに属していないため、その MDisk グループから削除されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5825E 仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。強制削除が必要です。

説明

仮想ディスク (VDisk) は指定された 1 つ以上の MDisk から割り振られているため、管理対象ディスク (MDisk) は MDisk グループから削除されませんでした。

アクション

-force オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5826E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5827E 入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。

説明

入力された複数のパラメーター間の不整合の結果、コマンドが失敗しました。

アクション

パラメーターを 1 つ指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5828E I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明

I/O グループにはノードが含まれていないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5829E 指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明

指定された管理対象ディスク (MDisk) の数が複数であるため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション

別の MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5830E コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明

コマンドに管理対象ディスク (MDisk) が指定されなかったため、イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション

MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5831E 入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

説明

入出力操作の優先ノードがこの I/O グループの一部でないため、仮想ディスク (VDisk) は作成されませんでした。

アクション

別のノードを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5832E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5833E I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。

説明

I/O グループにノードが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) のプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5834E このグループはリカバリー I/O グループのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。 I/O グループを変更するには、force オプションを使用してください。

説明

このグループはリカバリー I/O グループのため、仮想ディスク (VDisk) の I/O グループは変更されませんでした。 I/O グループを変更するには、force オプションを使用してください。

アクション

-force オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5835E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は展開されませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5836E 仮想ディスク (VDisk) はロックされているため、縮小されませんでした。

説明

コマンドがまだバックグラウンドで実行されている可能性があります。

アクション

コマンドが完了するのを待ちます。 svcinfo lsmigrate コマンドを使用して、バックグラウンドで実行されているすべてのマイグレーションを表示してください。

CMMVC5837E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

アクション

FlashCopy マッピングの一部でない別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5838E 仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

アクション

メトロ・ミラー・マッピングの一部でない別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5839E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) は縮小されませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5840E 仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされているか、または FlashCopy かメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、削除されませんでした。

説明

仮想ディスク (VDisk) はホストにマップされているか、または FlashCopy かメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、削除されませんでした。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5841E 仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除されませんでした。

説明

仮想ディスク (VDisk) は存在しないため、削除されませんでした。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5842E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5843E VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持っていないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

VDisk がゼロ・バイトを超える容量を持っていないため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

容量がゼロ・バイトより大きい VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5844E SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

SCSI 論理装置番号 (LUN) ID が無効なため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

正しい SCSI 論理装置番号 (LUN) ID を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5845E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5846E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5847E この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

説明

この仮想ディスクに関連した管理対象ディスク (MDisk) がすでに MDisk グループにあるため、この仮想ディスク (VDisk) はマイグレーションされませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5848E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) が存在しないか削除されているため、アクションは失敗しました。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5849E 一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。

説明

一部またはすべてのエクステントがすでにマイグレーション中のため、マイグレーションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5850E ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

説明

ソース・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5851E ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

説明

ターゲット・エクステントに問題があるため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5852E 現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。

説明

現在進行中のマイグレーションの数が多過ぎるため、マイグレーションは失敗しました。

アクション

マイグレーション・プロセスが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5853E 削除対象の仮想ディスクからホストへのマッピングを選択します。

説明

仮想ディスクからホストへのマッピングが選択されていないか、または複数のマッピングが選択されています。

アクション

削除したい (1 つの) 仮想ディスクからホストへのマッピングを選択してください。

CMMVC5854E このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクステント情報は戻されませんでした。

説明

このエクステントは使用されていないか存在しないため、エクステント情報は戻されませんでした。

アクション

正しいエクステントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5855E 管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。

説明

管理対象ディスク (MDisk) がどの仮想ディスク (VDisk) にも使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。

アクション

正しい MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5856E 仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グループに属していないため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) が指定された管理対象ディスク (MDisk) グループに属していないため、アクションは失敗しました。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5857E 管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

説明

管理対象ディスク (MDisk) が存在しないか、管理対象ディスク (MDisk) グループのメンバーでないため、アクションは失敗しました。

アクション

別の MDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5858E 仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) が誤ったモードにあるか、管理対象ディスク (MDisk) が誤ったモードにあるか、または両方が誤ったモードにあるため、アクションは失敗しました。

アクション

VDisk と MDisk が正しいモードにあることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5859E イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステントをマイグレーション中にエラーが発生したため、マイグレーションは完了しませんでした。

説明

イメージ・モード仮想ディスク (VDisk) 上の最後のエクステントをマイグレーション中にエラーが発生したため、マイグレーションは完了しませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5860E 管理対象ディスク (MDisk) グループに十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。

説明

このエラーは、MDisk のストライプ・セットが指定され、その MDisk の 1 つ以上で VDisk を作成するのに十分なフリー・エクステントがない場合にも戻されません。

アクション

この場合、VDisk を作成するための空き容量が 十分あることを MDisk グループ が報告します。各 MDisk 上の空き容量を、`svcinfo lsfreeextents <mdiskname/ID>` を実行して確認できます。ほかの方法として、ストライプ・セットを指定せず、システムにフリー・エクステントを自動的に選択させることもできます。

CMMVC5861E 管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。

説明

管理対象ディスク (MDisk) 上に十分なエクステントがないため、アクションは失敗しました。

アクション

別のエクステントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5862E 仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) がフォーマット中のため、アクションは失敗しました。

アクション

VDisk が正常にフォーマットされるまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5863E ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステントがないため、マイグレーションは失敗しました。

説明

ターゲットの管理対象ディスク (MDisk) 上に十分な空きエクステントがないため、マイグレーションは失敗しました。

アクション

別の空きエクステントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5864E ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。

説明

ソース・エクステントが使用されていないため、エクステント情報は戻されませんでした。

アクション

別のソース・エクステントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5865E エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または 仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。

説明

エクステントが指定された管理対象ディスク (MDisk) または 仮想ディスク (VDisk) の範囲外のため、エクステント情報が戻されませんでした。

アクション

MDisk または VDisk の範囲内にある別のエクステントを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5866E エクステントに内部データが含まれているため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

説明

エクステントに内部データが含まれているため、エクステントはマイグレーションされませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5867E このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効なため、アクションは失敗しました。

説明

このワールド・ワイド・ポート名がすでに割り当て済みであるか、または無効なため、アクションは失敗しました。

アクション

別のワールド・ワイド・ポート名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5868E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5869E ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・オブジェクトは名前変更されませんでした。

説明

ホスト ID または名前が無効なため、ホスト・オブジェクトは名前変更されませんでした。

アクション

別のホスト ID または名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5870E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ホスト・オブジェクトは削除されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ホスト・オブジェクトは削除されませんでした。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5871E 1 つ以上の構成済みワールド・ワイド・ポート名がマッピングにあるため、アクションは失敗しました。

説明

1 つ以上の構成済みワールド・ワイド・ポート名がマッピングにあるため、アクションは失敗しました。

アクション

マッピングに含まれていないワールド・ワイド・ポート名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5872E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、ポート (WWPN) はホスト・オブジェクトに追加されませんでした。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5873E 一致するワールド・ワイド・ポート名がないため、アクションは失敗しました。

説明

一致するワールド・ワイド・ポート名がないため、アクションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5874E ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

説明

ホストが存在しないため、アクションは失敗しました。

アクション

別のホストを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5875E 仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

説明

仮想ディスク (VDisk) が存在しないため、アクションは失敗しました。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5876E マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

マッピングの最大数に達したため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5877E SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

SCSI LUN の最大数が割り振られているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5878E この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

この VDisk はすでにこのホストにマップされているため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5879E この SCSI LUN はすでに別のマッピングに割り当てられているため、仮想ディスクからホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

この SCSI LUN はすでに別のマッピングに割り当てられているため、仮想ディスクからホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

別の SCSI LUN を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5880E VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

説明

VDisk の容量がゼロ・バイトのため、仮想ディスク (VDisk) からホストへのマッピングは作成されませんでした。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5881E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5882E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) がすでに存在するため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースまたはターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5883E リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

リカバリー I/O グループはソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) と関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のリカバリー I/O グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5884E ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はメトロ・ミラー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

ソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はメトロ・ミラー・マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースまたはターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5885E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングのメンバーにはなれないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースまたはターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5886E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はリカバリー I/O グループと関連付けられているため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースまたはターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5887E このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

このソースまたはターゲットの仮想ディスク (VDisk) はルーター・モードになることはできないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースまたはターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5888E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5889E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

アクション

別のエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5890E 整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明

整合性グループ 0 の開始は有効な操作でないため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5891E 名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されませんでした。

説明

名前が無効なため、FlashCopy 整合性グループは作成されませんでした。

アクション

別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5892E FlashCopy 整合性グループはすでに存在するため、作成されませんでした。

説明

FlashCopy 整合性グループはすでに存在するため、作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5893E コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティーが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5894E 整合性グループ 0 または無効な整合性グループの名前を削除しようとしているため、FlashCopy 整合性グループは削除されませんでした。

説明

整合性グループ 0 または無効な整合性グループの名前を削除しようとしているため、FlashCopy 整合性グループは削除されませんでした。

アクション

正しい整合性グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5895E FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含まれているため、削除されませんでした。この整合性グループを削除するには、強制削除が必要です。

説明

FlashCopy 整合性グループにはマッピングが含まれているため、削除されませんでした。

アクション

-force オプションを指定して整合性グループを削除してください。

CMMVC5896E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

アクション

整合性グループを停止して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5897E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

アクション

整合性グループを停止して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5898E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

アクション

整合性グループを停止して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5899E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。マッピングを削除するには、強制削除が必要です。

説明

マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。

アクション

-force オプションを指定してマッピングを削除してください。

CMMVC5900E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングは削除されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを停止する必要があります。

アクション

整合性グループを停止して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5901E マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでに準備中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5902E マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでに準備済み状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5903E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5904E マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでに延期状態のため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5905E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

マッピングまたは整合性グループを準備して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5906E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5907E マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでにコピー中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5908E マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。まず、マッピングまたは整合性グループを準備する必要があります。

説明

マッピングまたは整合性グループが停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

マッピングまたは整合性グループを準備して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5909E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5910E マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがアイドル状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5911E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5912E マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがすでに停止状態のため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5913E マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5914E マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが準備済み状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5915E マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループがコピー中状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5916E マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

説明

マッピングまたは整合性グループが延期状態のため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5917E ビットマップを作成するメモリーがないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

ビットマップを作成するメモリーがないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5918E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

説明

I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは準備されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5919E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

説明

I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングまたは整合性グループは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5920E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5921E 整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

説明

整合性グループがアイドルでないため、FlashCopy マッピングのプロパティは変更されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5922E 宛先仮想ディスク (VDisk) が小さすぎるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

宛先仮想ディスク (VDisk) が小さすぎるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別の VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5923E I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

I/O グループがオフラインのため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5924E ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

説明

ソースとターゲットの仮想ディスク (VDisk) のサイズが異なるため、FlashCopy マッピングは作成されませんでした。

アクション

別のソースとターゲットの VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5925E リモート・クラスター協力関係はすでに存在するため、作成されませんでした。

説明

リモート・クラスター協力関係はすでに存在するため、作成されませんでした。

アクション

別のリモート・クラスター協力関係を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5926E リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数が多過ぎるため、作成されませんでした。

説明

リモート・クラスター協力関係は、協力関係の数が多過ぎるため、作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5927E クラスタ ID が無効なため、アクションは失敗しました。**説明**

クラスタ ID が無効なため、アクションは失敗しました。

アクション

正しいクラスタ ID を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5928E クラスタ名は別のクラスタと重複しているため、アクションは失敗しました。**説明**

クラスタ名は別のクラスタと重複しているため、アクションは失敗しました。

アクション

別のクラスタ名を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5929E メトロ・ミラー協力関係はすでに削除されているため、削除されませんでした。**説明**

メトロ・ミラー協力関係はすでに削除されているため、削除されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5930E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。**説明**

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5931E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。**説明**

マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がロックされているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

マスターまたは補助の VDisk をアンロックして、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5932E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) が FlashCopy マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5933E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グループに入っているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がリカバリー I/O グループに入っているため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5934E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がルーター・モードにあるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がルーター・モードにあるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5935E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5936E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5937E コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

説明

コマンドに指定されたエンティティが存在しないため、アクションが失敗しました。

アクション

正しいエンティティを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5938E 整合性グループに関係が含まれているため、メトロ・ミラー整合性グループは削除されませんでした。整合性グループを削除するには、**force** オプションが必要です。

説明

整合性グループに関係が含まれているため、メトロ・ミラー整合性グループは削除されませんでした。

アクション

-force オプションを指定して整合性グループを削除してください。

CMMVC5939E クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

説明

クラスタが安定状態でないため、アクションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5940E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターが不明です。

説明

補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターが不明です。

アクション

適用されません。

CMMVC5941E マスター仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターにある整合性グループの数が多過ぎます。

説明

マスター仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターにある整合性グループの数が多過ぎます。

アクション

適用されません。

CMMVC5942E 補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターにある整合性グループの数が多過ぎます。

説明

補助仮想ディスク (VDisk) が含まれているクラスターにある整合性グループの数が多過ぎます。

アクション

適用されません。

CMMVC5943E 指定された関係は無効です。

説明

指定された関係は無効です。

アクション

正しい関係を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5944E 指定された整合性グループは無効です。

説明

指定された整合性グループは無効です。

アクション

正しい整合性グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5945E 指定されたマスター・クラスターは無効です。

説明

指定されたマスター・クラスターは無効です。

アクション

正しいマスター・クラスターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5946E 指定された補助クラスターは無効です。

説明

指定された補助クラスターは無効です。

アクション

正しい補助クラスターを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5947E 指定されたマスター仮想ディスク (VDisk) は無効です。

説明

指定されたマスター仮想ディスク (VDisk) は無効です。

アクション

正しいマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5948E 指定された補助仮想ディスク (VDisk) は無効です。

説明

指定された補助仮想ディスク (VDisk) は無効です。

アクション

補助 VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5949E 指定された関係は不明です。

説明

指定された関係は不明です。

アクション

別の関係を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5950E 指定された整合性グループは不明です。**説明**

指定された整合性グループは不明です。

アクション

別の整合性グループを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5951E 関係が独立型でないため、この操作は実行できません。**説明**

関係が独立型でないため、この操作は実行できません。

アクション

適用されません。

CMMVC5952E この関係と整合性グループは、異なるマスター・クラスターを持っています。**説明**

この関係と整合性グループは、異なるマスター・クラスターを持っています。

アクション

適用されません。

CMMVC5953E この関係とグループは、異なる補助クラスターを持っています。**説明**

この関係とグループは、異なる補助クラスターを持っています。

アクション

適用されません。

CMMVC5954E マスターと補助仮想ディスク (VDisk) は、異なるサイズを持っています。**説明**

マスターと補助仮想ディスク (VDisk) は、異なるサイズを持っています。

アクション

適用されません。

CMMVC5955E 最大関係数に到達しました。**説明**

最大関係数に到達しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5956E 最大整合性グループ数に到達しました。**説明**

最大整合性グループ数に到達しました。

アクション

適用されません。

CMMVC5957E マスター仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在しません。**説明**

マスター仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。

アクション

別のマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5958E 補助仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。**説明**

補助仮想ディスク (VDisk) は、すでに関係に存在します。

アクション

別の補助 VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5959E マスター・クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。**説明**

マスター・クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。

アクション

別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5960E 補助クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。**説明**

補助クラスターにこの名前を持つ関係がすでに存在します。

アクション

別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5961E マスター・クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。**説明**

マスター・クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。

アクション

別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5962E 補助クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。**説明**

補助クラスターにこの名前を持つ整合性グループがすでに存在します。

アクション

別の名前を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5963E 方向が定義されていません。**説明**

方向が定義されていません。

アクション

適用されません。

CMMVC5964E コピーの優先順位が無効です。**説明**

コピーの優先順位が無効です。

アクション

適用されません。

CMMVC5965E 仮想ディスク (VDisk) は、ローカル・クラスター上の異なる I/O グループにあります。

説明

仮想ディスク (VDisk) は、ローカル・クラスター上の異なる I/O グループにあります。

アクション

適用されません。

CMMVC5966E マスター仮想ディスク (VDisk) が不明です。

説明

マスター仮想ディスク (VDisk) が不明です。

アクション

別のマスター VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5967E 補助仮想ディスク (VDisk) が不明です。

説明

補助仮想ディスク (VDisk) が不明です。

アクション

別の補助 VDisk を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5968E 関係の状態と整合性グループの状態が一致しないため、関係を追加できません。

説明

関係の状態と整合性グループの状態が一致しないため、関係を追加できません。

アクション

適用されません。

CMMVC5969E I/O グループがオフラインのため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

I/O グループがオフラインのため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5970E メモリー不足のため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

メモリー不足のため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5971E 整合性グループに関係が含まれていないため、操作は実行されませんでした。

説明

整合性グループに関係が含まれていないため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5972E 整合性グループに関係が含まれているため、操作は実行されませんでした。

説明

整合性グループに関係が含まれているため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5973E 整合性グループが同期化されていないため、操作は実行されませんでした。

説明

整合性グループが同期化されていないため、操作は実行されませんでした。

アクション

整合性グループを開始するときに、force オプションを指定してください。

CMMVC5974E 整合性グループがオフラインのため、操作は実行されませんでした。

説明

整合性グループがオフラインのため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5975E クラスタ協力関係が接続されていないため、操作は実行されませんでした。

説明

クラスタ協力関係が接続されていないため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5976E 整合性グループが凍結状態のため、操作は実行されませんでした。

説明

整合性グループが凍結状態のため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5977E 整合性グループの状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。

説明

整合性グループの状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5978E 関係が同期化されていないため、操作は実行されませんでした。

説明

関係が同期化されていないため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5980E マスター・クラスターと補助クラスターが接続されていないため、操作は実行されませんでした。

説明

マスター・クラスターと補助クラスターが接続されていないため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5981E 関係が凍結状態のため、操作は実行されませんでした。

説明

関係が凍結状態のため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5982E 現行関係の状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。

説明

現行関係の状態を考慮するとこの操作は無効なため、実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5983E ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

説明

ダンプ・ファイルは作成されませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

アクション

適用されません。

CMMVC5984E ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

説明

ダンプ・ファイルはディスクに書き込まれませんでした。おそらくファイル・システムが満杯です。

アクション

適用されません。

CMMVC5985E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: /dumps、 /dumps/iostats、 /dumps/iotrace、 /dumps/feature、 /dumps/configs、 /dumps/elogs、 または /home/admin/upgrade

説明

指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました。

- /dumps
- /dumps/iostats
- /dumps/iotrace
- /dumps/feature
- /dumps/configs
- /dumps/elogs
- /home/admin/upgrade

アクション

前記のいずれかのディレクトリーを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5986E 仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を戻さなかったため、入出力操作のトレースは開始されませんでした。

説明

仮想ディスク (VDisk) または管理対象ディスク (MDisk) が統計を戻さなかったため、入出力操作のトレースは開始されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5987E アドレスが無効です。

説明

アドレスが無効です。

アクション

別のアドレスを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC5988E root ユーザー ID でログインしている場合は、このコマンドを発行してはいけません。admin ユーザー ID を使用してください。

説明

root ユーザー ID でログインしている場合は、このコマンドを発行してはいけません。admin ユーザー ID を使用してください。

アクション

root ユーザー ID をログオフして、admin で再度ログインしてください。

CMMVC5989E 関係がオフラインのため、操作は実行されませんでした。

説明

関係がオフラインのため、操作は実行されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5990E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。

説明

グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5991E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。

説明

グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5992E グループ内にメトロ・ミラー関係がないため、メトロ・ミラー整合性グループは停止されませんでした。

説明

グループ内にメトロ・ミラー関係がないため、メトロ・ミラー整合性グループは停止されませんでした。

アクション

適用されません。

CMMVC5993E 特定のアップグレード・パッケージが存在しません。

説明

特定のアップグレード・パッケージが存在しません。

アクション

適用されません。

CMMVC5994E アップグレード・パッケージのシグニチャーの検査でエラーがありました。

説明

以下の理由で、システムはアップグレード・パッケージのシグニチャーを検査できませんでした。

- システム上にファイルをコピーするための十分なスペースがない。
- パッケージが不完全か、またはエラーが含まれている。

アクション

システム上のスペースが不足していることを示すエラーでコピーが失敗した場合、システム上の追加スペースを解放してください。または、シグニチャーのクラスター時刻と日付スタンプが正しいことを確認してください。(たとえば、時刻と日付が将来のものであってはいけません。)

CMMVC5995E アップグレード・パッケージのアンパックでエラーがありました。

説明

システムがアップグレード・パッケージをアンパックしているときに、エラーが発生しました。このエラーの原因は、おそらくシステム・スペースの不足です。

アクション

ノードをリブートし、アップグレード・パッケージを再度アンパックしてください。

CMMVC5996E 現行バージョンの上に特定のアップグレード・パッケージをインストールできません。

説明

このアップグレード・パッケージは、現行バージョンまたはご使用のシステムと互換がありません。

アクション

使用可能なアップグレード・パッケージをチェックし、現行バージョンおよびご使用のシステム用の正しいアップグレード・パッケージを見つけてください。アップグレード・パッケージがご使用のシステム用の正しいものである場合、パッケージのバージョン要件をチェックしてください。現行バージョンを最新バージョンにアップグレードする前に、中間バージョンにアップグレードしなければならない場合もあります。(たとえば、現行バージョンが 1 で、バージョン 3 へアップグレードしようとしている場合、バージョン 3 アップグレードを適用する前に、バージョン 2 へアップグレードする必要がある場合もあります。)

CMMVC5997E MDisk の容量が MDisk グループのエクステント・サイズよりも小さいため、アクションが失敗しました。

説明

MDisk の容量が MDisk グループのエクステント・サイズよりも小さいため、アクションが失敗しました。

アクション

- MDisk グループのエクステント・サイズと等しいか、またはそれ以上の容量をもつ MDisk を選択します。
- より小さいエクステント・サイズを選択します。ただし、この場合、少なくとも MDisk グループ内で最小の MDisk と同じサイズでなくてはなりません。(MDisk グループを作成する場合のみ、より小さいエクステント・サイズを選択できません。MDisk を作成後に、エクステント・サイズを変更することはできません。)

CMMVC5998E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

説明

このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

アクション

適用されません。

CMMVC5998W 仮想記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量を超えています。ただし、要求されたアクションは完了しました。

説明

ライセンスで使用が許されている量より多くの仮想化ストレージ容量を作成しようとしていました。

アクション

現在使用中の仮想化ストレージの容量を削減するか、または追加記憶容量のライセンスを入手してください。

CMMVC5999W この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

説明

この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

アクション

適用されません。

CMMVC5999E 未定義エラー・メッセージ。

説明

未定義エラー・メッセージ。

アクション

適用されません。

CMMVC6000W この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

説明

この機能のフィーチャー設定が使用可能になっていません。

アクション

適用されません。

CMMVC6001E グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは開始されませんでした。

説明

グループ内に FlashCopy マッピングがないため、FlashCopy 整合性グループは開始されませんでした。

アクション

該当するグループ内に FlashCopy マッピングを作成してください。

CMMVC6002E このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。

説明

このコマンドは、保守モードのノードでのみ実行できます。

アクション

適用されません。

CMMVC6003E このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

説明

このコマンドは、保守モードのノード上では実行できません。

アクション

適用されません。

CMMVC6004E 区切り値 %1 は無効です。

説明

区切り値 %1 は無効です。

アクション

違う区切り文字を指定してください。

CMMVC6005E 指定されたオブジェクトが該当するグループのメンバーでないため、表示要求は失敗しました。

説明

誤って初期化されたオブジェクトに対して、ビューを要求しました。

アクション

ビュー要求を再実行依頼する前に、オブジェクトが正しく初期化されたことを確認してください。

CMMVC6006E リソースが使用中だったため、管理対象ディスク (MDisk) は削除されませんでした。

説明

マイグレーション操作のマイグレーション元および宛先として使用されている MDisk グループから MDisk を削除しようとしてしました。

アクション

コマンドを再発行する前に、MDisk グループがマイグレーション操作に使用されていないことを確認してください。

CMMVC6007E 入力された 2 つのパスワードが一致しません。

説明

パスワード変更の検証のために入力された 2 つのパスワードが同一ではありませんでした。

アクション

パスワードを再入力してください。

CMMVC6008E この鍵はすでに存在します。

説明

重複 SSH 鍵をロードしようとしてしました。

アクション

適用されません。

CMMVC6009E 戻されたデータのコピー先であるメモリーのブロックを malloc できませんでした。

説明

コマンド行が、照会結果のコピー先であるメモリーのブロックを割り振ることができませんでした。

アクション

メモリーを一部解放し、コマンドを再発行してください。

CMMVC6010E フリー・エクステントが不十分なため、コマンドを完了できませんでした。

説明

要求を満たすのに十分なフリー・エクステントがありません。

アクション

適用されません。

CMMVC6011E 少なくとも 1 つのリモート・クラスター協力関係が検出されました。このアップグレード・パッケージは、すべてのリモート・クラスター協力関係が削除されるまで、現行コード・レベルには適用できません。

説明

リモート・クラスターに対するメトロ・ミラー関係が存在するときに、ソフトウェアを適用しようとした。

アクション

リモート・クラスターに対するメトロ・ミラー関係を削除して、コマンドを再発行してください。

CMMVC6012W 仮想化された記憶容量が、使用ライセンスの交付を受けている量に達しています。

説明

要求したアクションは完了しました。ただし、購入したライセンスの許容限界に近づいています。

アクション

これ以降のアクションを実施するには、ライセンス限界を増やす必要があります。

CMMVC6013E 補助クラスター上で整合性グループのミスマッチがあるため、コマンドは失敗しました。

説明

メトロ・ミラー整合性グループのあいだに属性の違いがあるため、アクションは失敗しました。

アクション

コマンドを再実行依頼する前に、2 つのメトロ・ミラー整合性グループの属性を一致させてください。

CMMVC6014E 要求されたオブジェクトは使用不可か存在しないため、コマンドは失敗しました。

説明

要求されたオブジェクトは使用不可か存在しないため、コマンドは失敗しました。

アクション

すべてのパラメーターが正しく入力されていることを確認してください。正しく入力されている場合は、オブジェクトを使用できない原因を突き止めてからコマンドを再度実行してください。

CMMVC6015E このオブジェクトの削除要求はすでに進行中です。

説明

このオブジェクトの削除要求はすでに進行中です。

アクション

適用されません。

CMMVC6016E MDisk グループにディスクがなくなる (またはすでにない) ため、アクションは失敗しました。

説明

I/O グループにディスクがなくなる (またはすでにない) ため、アクションは失敗しました。

アクション

すべてのパラメーターが正しく入力されていることを確認してください。

CMMVC6017E %1 に無効文字が含まれています。すべての文字が ASCII であることを確認してください。

説明

CLI で使用できるのは、ASCII 入力だけです。

アクション

CLI の入力がすべて ASCII であることを確認してから、コマンドを再実行依頼してください。

CMMVC6018E ソフトウェア・アップグレードのプリインストール処理に失敗しました。

説明

前処理中にエラーがあったため、ソフトウェア・アップグレードが失敗しました。パッケージが無効か、または破壊されています。

アクション

有効な IBM のアップグレード・パッケージであることを確認します。ネットワーク転送中に破壊された可能性があるため、元の位置からパッケージをもう一度ダウンロードしてください。

CMMVC6019E アップグレードの進行中にノードが保留されたため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

説明

アップグレードの進行中にノードが保留されたため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

アクション

アップグレード処理を再開する前に、すべてのノードがオンラインで使用可能な状態になっていることを確認してください。

CMMVC6020E システムがソフトウェア・パッケージをすべてのノードに配布できなかったため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

説明

システムがソフトウェア・パッケージをすべてのノードに配布できなかったため、ソフトウェア・アップグレードは失敗しました。

アクション

すべてのノードが正しくゾーニングされ、オンラインになっていて、クラスター内の他のノードを認識できることを確認してください。エラー・ログも検査してください。

CMMVC6021E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。

説明

システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

アクション

しばらく待ってから、要求を再実行依頼してください。

CMMVC6022E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。

説明

システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

アクション

しばらく待ってから、要求を再実行依頼してください。

CMMVC6023E システムは現在使用中で、別の要求を実行しています。後で再試行してください。

説明

システムが別の要求を処理しているため、要求アクションは失敗しました。

アクション

しばらく待ってから、要求を再実行依頼してください。

CMMVC6024E 入力した補助 VDisk は無効です。

説明

パラメーターとして CLI に入力された補助 VDisk は、有効な補助 VDisk ではありません。

アクション

有効な補助 VDisk を選択して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6025E RC 整合性グループのマスター・クラスターがローカル・クラスターではありません。

説明

パラメーターとして CLI に入力された補助 VDisk は、有効な補助 VDisk ではありません。

アクション

ローカル・クラスターに属する整合性グループを使用して、コマンドを再実行依頼してください。

CMMVC6026E RC 整合性グループが停止状態ではありません。

説明

メトロ・ミラー整合性グループが停止状態でないために、アクションは失敗しました。

アクション

メトロ・ミラー整合性グループが停止状態になっていることを確認してから、コマンドを再実行依頼してください。

CMMVC6027E RC 整合性グループが 1 次マスターではありません。

説明

コマンドで要求した RC 整合性グループは、メトロ・ミラー 1 次マスターではありません。

アクション

コマンド行に正しいパラメーターを入力してください。

CMMVC6028E このアップグレード・パッケージにはクラスタの状態の変更が含まれており、リモート・クラスタ協力関係が定義されているため、アップグレード・パッケージを現行ソフトウェア・レベルに適用できません。

説明

接続されたりリモート・クラスタがあるため、アクションは失敗しました。アップグレードをすると、異なるコード・レベルのリモート・クラスタがリモート・クラスタにレンダリングされるので、アップグレードを適用することはできません。

アクション

クラスタ協力関係を構成解除してから、コマンドを再実行依頼してください。リモート・クラスタを構成解除し、コードをアップグレードしてからクラスタ協力関係を再度構成してください。

CMMVC6029E 並行コード・アップグレードを実行するには、すべてのノードのコード・レベルが同一でなければなりません。

説明

複数のノードで異なるコード・レベルが使用されているため、並行アップグレードは失敗しました。ソフトウェア・アップグレードを実行するには、すべてのノードを同じコード・レベルにしてください。

アクション

保守モードを使用してすべてのノードを同じレベルにしてから、並行アップグレードを再実行依頼してください。

CMMVC6030E FlashCopy マッピングが整合性グループのパーツであるために、操作は実行されませんでした。整合性グループ・レベルでアクションを実行してください。

説明

FlashCopy マッピングを停止しようとしてしました。FlashCopy マッピングは、整合性グループのパーツであるために、この操作は失敗しました。

アクション

FlashCopy 整合性グループに対して、停止コマンドを実行してください。この操作により、グループ内で進行中のすべての FlashCopy が停止します。

CMMVC6031E FlashCopy 整合性グループが空なので、操作は実行されませんでした。

説明

空の FlashCopy 整合性グループを事前開始しようとしてしました。

アクション

適用されません。

CMMVC6032E 入力したパラメーターのうち 1 つ以上がこの操作には無効なので、操作は実行されませんでした。

説明

コマンドに無効なパラメーターが入力されました。

アクション

VDisk が属する I/O グループを変更する場合は、その VDisk がすでにグループのパーツになっていないことを確認してください。

CMMVC6033E このアクションは、内部エラーのため失敗しました。

説明

内部エラーが原因で、このアクションは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6034E アクションは、オブジェクトの最大数に到達したため失敗しました。

説明

アクションは、オブジェクトの最大数に到達したため失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6035E アクションはオブジェクトが既に存在しているために失敗しました。

説明

すでに存在するオブジェクトを作成する操作が要求されました。

アクション

新しいオブジェクトに適用しようとしている名前が存在しないことを確認するか名前を変更してから、コマンドを再発行してください。

CMMVC6036E 無効なアクションが要求されました。

説明

このアクションは発行されたコマンドの有効なアクションではないため、失敗しました。

アクション

このコマンドの有効なアクションを発行してください。

CMMVC6037E オブジェクトが空でないため、このアクションは失敗しました。

説明

オブジェクトが指定されたため、このアクションは失敗しました。

アクション

コマンドを再度発行し、オブジェクトは指定しないでください。

CMMVC6038E オブジェクトが空であるため、このアクションは失敗しました。

説明

オブジェクトが指定されなかったため、このアクションは失敗しました。

アクション

オブジェクトを指定し、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6039E オブジェクトがグループのメンバーでないため、このアクションは失敗しました。

説明

このオブジェクトがグループのメンバーでないため、このアクションは失敗しました。

アクション

グループの一部であるオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6040E オブジェクトが親でないため、このアクションは失敗しました。

説明

このオブジェクトが親オブジェクトでないため、このアクションは失敗しました。

アクション

親であるオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6041E クラスタがフルであるため、このアクションは失敗しました。

説明

このクラスタがフルであるため、このアクションは失敗しました。

アクション

データをクラスタから除去して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6042E オブジェクトがクラスタ・メンバーでないため、このアクションは失敗しました。

説明

このオブジェクトがクラスタのメンバーでないため、このアクションは失敗しました。

アクション

クラスタのメンバーであるオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6043E オブジェクトがグループのメンバーであるため、このアクションは失敗しました。

説明

このオブジェクトがグループのメンバーであるため、このアクションは失敗しました。

アクション

グループのメンバーでないオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6044E オブジェクトが親であるため、このアクションは失敗しました。

説明

このオブジェクトが親オブジェクトであるため、このアクションは失敗しました。

アクション

親オブジェクトでないオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6045E **force** フラグが入力されなかったため、このアクションは失敗しました。

説明

-force オプションが入力されなかったため、このアクションは失敗しました。

アクション

コマンドに -force オプションを指定してください。

CMMVC6046E アクションは候補の選択が多過ぎるために失敗しました。

説明

このアクションは、候補の選択が多過ぎるために失敗しました。

アクション

もっと少ない候補をコマンドに指定してください。

CMMVC6047E アクションは候補の選択が少な過ぎるために失敗しました。

説明

要求されたアクションは、候補オブジェクトの数が少なすぎます。

アクション

特定のコマンドに必要な正しい候補数を判別し、コマンドを再発行してください。

CMMVC6048E アクションはオブジェクトが使用中のために失敗しました。

説明

このアクションは、オブジェクトが使用中のために失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6049E アクションはオブジェクトの準備ができていないために失敗しました。

説明

このアクションは、オブジェクトの準備ができていないために失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6050E アクションはコマンドがビジーのために失敗しました。

説明

このアクションは、コマンドがビジーのために失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6051E サポートされないアクションが選択されました。

説明

このアクションは、コマンドの有効なアクションではないため失敗しました。

アクション

このコマンドの有効なアクションを指定してください。

CMMVC6052E アクションはオブジェクトが Flash copy マッピングのメンバーのために失敗しました。

説明

このオブジェクトが FlashCopy マッピングのメンバーであるため、削除できません。

アクション

FlashCopy マッピングのメンバーでないオブジェクトを指定するか、または FlashCopy マッピングからオブジェクトを除去してください。

CMMVC6053E 無効な WWPN が入力されました。

説明

無効な World Wide Port Name (WWPN) が指定されました。

アクション

有効な WWPN を指定してください。

CMMVC6054E オンラインでないノードがあるため、このアクションは失敗しました。

説明

このアクションでは、すべてのノードがオンラインである必要があります。1 つ以上のノードがオンライン状態になっていません。

アクション

各ノードがオンラインであることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6055E アクションはアップグレードが進行中のために失敗しました。

説明

ソフトウェアのアップグレードが進行中のため、このアクションは失敗しました。

アクション

ソフトウェアのアップグレードが完了するまで待ってから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6056E アクションはオブジェクトが小さ過ぎるために失敗しました。

説明

このアクションは、オブジェクトが小さ過ぎるために失敗しました。

アクション

別のオブジェクトを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6057E アクションはオブジェクトが FlashCopy マッピングのターゲットであるために失敗しました。

説明

このオブジェクトが FlashCopy マッピングのターゲットであるため、削除できません。

アクション

FlashCopy マッピングのターゲットでないオブジェクトを指定するか、または FlashCopy マッピングからオブジェクトを除去してください。

CMMVC6058E アクションはオブジェクトがリカバリー HWS 内にあるために失敗しました。

説明

リカバリー I/O グループに入っているノードを操作しようとしてしました。

アクション

ノードを別の I/O グループの 1 つに入れ、コマンドを再発行してください。

CMMVC6059E アクションはオブジェクトが無効なモードになっているために失敗しました。

説明

オブジェクトが誤ったモードであるため、このアクションは失敗しました。

アクション

オブジェクトが正しいモードであることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6060E アクションはオブジェクトが削除処理中であるために失敗しました。

説明

このアクションは、オブジェクトが削除中であるために失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6061E アクションはオブジェクトがサイズ変更中のために失敗しました。

説明

このアクションは、オブジェクトがサイズ変更中のために失敗しました。

アクション

オブジェクトが正しいモードであることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6062E アクションはオブジェクトが HWS 間を移動中であるために失敗しました。

説明

現在 I/O グループ間を移動中であるオブジェクトに対して、アクションを実行しようとした。

アクション

移動操作が完了した時点でコマンドを再発行してください。

CMMVC6063E アクションはグループにこれ以上ディスクがないために失敗しました。

説明

ディスクを含んでいないグループに対して、アクションを実行しようとした。

アクション

グループにディスクを追加してコマンドを再発行するか、別のグループを選択して、それに対してアクションを実行してください。

CMMVC6064E アクションはオブジェクトの名前が無効であるために失敗しました。

説明

無効な名前を使用して、オブジェクトを作成しようとしたかオブジェクトの名前を変更しようとした。

アクション

名前の標準に合致した名前を使用して、コマンドを再発行してください。

CMMVC6065E アクションはオブジェクトがグループにないために失敗しました。

説明

適切なグループに属していないオブジェクトに対してアクションを実行しようとしてしました。

アクション

オブジェクトが適切なグループのメンバーであることを確認し、コマンドを再発行してください。

CMMVC6066E アクションはシステムがメモリーの低アドレスで実行しているために失敗しました。

説明

システムがメモリーの低アドレスで稼働しています。

アクション

適用されません。

CMMVC6067E アクションは SSH 鍵が見つからなかったために失敗しました。

説明

存在しない SSH 鍵を使用してアクションを実行しようとしてしました。

アクション

存在する鍵を使用してコマンドを再発行してください。

CMMVC6068E アクションは、フリー SSH 鍵がないために失敗しました。

説明

空いている SSH 鍵のないときに、SSH 鍵を使用しようとしてしました。

アクション

追加の鍵をアップロードし、コマンドを再発行してください。

CMMVC6069E アクションは SSH 鍵が既に登録されているために失敗しました。

説明

すでに登録済みの SSH 鍵を登録しようとしてしました。

アクション

適用されません。

CMMVC6070E 無効または重複するパラメーター、対象のない引数、または引数の順序の誤りが検出されました。入力がヘルプのとおりであることを確認してください。

説明

コマンドに入力したパラメーターが無効でした。

アクション

パラメーターを訂正し、コマンドを再発行してください。

CMMVC6071E 仮想ディスクは、すでにホストにマップされています。追加の仮想ディスクとホストとのマッピングを作成するには、コマンド行インターフェースを使用する必要があります。

説明

仮想ディスクは、すでにホストにマップされています。

アクション

マッピングを追加作成するには、コマンド行インターフェースを使用してください。

CMMVC6072E 非互換ソフトウェア。

説明

1 つ以上のノードにあるソフトウェア・バージョンが、新しいバージョンと非互換です。

アクション

追加しようとしているソフトウェア・バージョンの互換性要件を参照してください。互換性要件が満たされるようにクラスターを更新してから、アップグレードを実行します。

CMMVC6073E ファイルの最大数を超過しました。

説明

ファイルの最大数を超過しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6074E コマンドは、このエクステントが既に割り当てられていたために失敗しました。

説明

コマンドは、このエクステントが既に割り当てられていたために失敗しました。

アクション

別のエクステントを割り当てて、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6075E 拡張は、最後のエクステントが完全なエクステントではないために失敗しました。

説明

拡張は、最後のエクステントが完全なエクステントではないために失敗しました。

アクション

別のエクステントを割り当てて、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6076E コマンドは、VDisk をフラッシュしている際のエラーのために失敗しました。

説明

コマンドは、VDisk をフラッシュしている際のエラーのために失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6077E 警告 - 未修正エラーはソフトウェアをアップグレードする前に修正してください。エラーの種類によっては、このアップグレード処理が失敗することもあります。先に進む前にこれらのエラーの修正を強くお勧めします。特定のエラーを修正できない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

説明

未修正エラーはソフトウェアをアップグレードする前に修正してください。エラーの種類によっては、このアップグレード処理が失敗することもあります。先に進む前にこれらのエラーの修正を強くお勧めします。

アクション

エラーを修正できない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6078E アクションはオブジェクトが無効なモードになっているために失敗しました。

説明

オブジェクトに対してアクションを実行しようとしたのですが、オブジェクトは、そのアクションの実行が許されないモードにありました。

アクション

オブジェクトを適切なモードにして、コマンドを再発行してください。

CMMVC6098E 指定されたノードが構成ノードであるため、コピーは失敗しました。

説明

指定されたノードが構成ノードであるため、このコピーは失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6100E `-option` がアクションと整合しません。

説明

指定されたオプションは、このアクションではサポートされていません。

アクション

オプションを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6101E `-option` と `-option` が整合しません。

説明

指定された 2 つのオプションは、同時に使用することはできません。

アクション

オプションの 1 つを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6102E `-option` と `-option` は代替オプションです。

説明

指定された 2 つのオプションは代替オプションなので、同時に使用することはできません。

アクション

オプションの 1 つを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6103E file-name: details で問題が発生しました。

説明

ファイルを開くときに問題が発生しました。問題の原因を突き止め、問題を訂正してから、再試行してください。

アクション

問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6104E アクション名が実行されませんでした。

説明

予期しないエラーが発生しました。IBM サービス技術員に連絡してください。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6105E ソース・クラスター (name) とターゲット・クラスター (name) の名前が異なります。

説明

ソース・クラスターとターゲット・クラスターの名前が異なるため、ターゲット・クラスターにバックアップ構成をできませんでした。

アクション

次のいずれかのアクションを実行してください。(1) 別のバックアップ構成を使用する。(2) クラスターをいったん削除し、バックアップ構成ファイルに保管されているのと同じ名前を使用して再作成する。

CMMVC6106W ターゲット・クラスターはデフォルト以外の id_alias alias を持っています。

説明

ターゲット・クラスターの id_alias に、デフォルト以外のターゲットがあります。クラスターには、デフォルト値を使用してください。デフォルト以外の値は、クラスターがカスタマイズされていることを示すので、復元には不適當です。復元を行うと、id_alias は変更されます。

アクション

id_alias をデフォルト値に変更して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6107E ターゲット・クラスター内の io_grp オブジェクトは x 個です。y 個必要です。

説明

ターゲット・クラスター内の I/O グループ数が不十分なため、バックアップ構成ファイルに定義された I/O グループ数に対応できません。I/O グループの数が不十分な原因を突き止めてください。

アクション

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6108I wwnn の WWNN を持つディスク・コントローラー・システムが検出されました。

説明

要求された WWNN のディスク・コントローラー・システムが見つかりました。

アクション

適用されません。

CMMVC6109E wwnn の WWNN を持つディスク・コントローラー・システムは使用不可です。

説明

要求された WWNN のディスク・コントローラー・システムが見つかりました。要求されたディスク・コントローラー・システムがクラスターで使用できることを確認してください。

アクション

要求されたディスク・コントローラー・システムがクラスターで使用できることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6110E コード・レベルが不良です。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に詳細を連絡してください。

CMMVC6111E クラスターの code_level を level から判別できません。

説明

クラスターのコード・レベルを判別できませんでした。コード・レベルは、x.y.z 形式にしてください。ここで、x、y、および z は整数です。

アクション

問題の原因がわからない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6112W object-type object-name はデフォルト名を持っていません。

説明

クラスター内のオブジェクトにデフォルト名が使用されています。復元を実行するとデフォルト名が変更されるので、クラスターを復元したときに問題が発生する可能性があります。復元時には、オブジェクト ID も 変更されます。

アクション

クラスター内の各オブジェクトについて適切な名前を選択して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6113E コマンドが失敗し、details という戻りコードが戻されました。

説明

セキュア通信を使用して、リモート側でコマンドを実行しようとしたましたが失敗しました。

アクション

問題の原因を突き止め、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6114E アクション action のヘルプはありません。

説明

このトピックについては、ヘルプはありません。

アクション

適用されません。

CMMVC6115W フィーチャー **property** の不一致。value1 が予期されましたが、value2 が検出されました。

説明

バックアップ構成ファイル内の機能とターゲット・クラスターが一致しません。2 つは完全一致する必要があります。ただし、構成の復元は続行できます。

アクション

適用されません。

CMMVC6116I フィーチャーは **property** と一致しています。

説明

バックアップ構成ファイル内の機能とターゲット・クラスターは完全一致です。

アクション

適用されません。

CMMVC6117E **fix-or-feature** は使用不可です。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6118I **property value** [および **property value**] の **type** が検出されました。

説明

クラスター内に正しいプロパティのオブジェクトが見つかりました。

アクション

適用されません。

CMMVC6119E **property value** [および **property value**] の **type** が検出されませんでした。

説明

クラスター内に正しいプロパティのオブジェクトが見つかりません。オブジェクトなしに復元を続けることはできません。

アクション

オブジェクトが見つからない原因を突き止めてください。オブジェクトが使用可能であることを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6120E ターゲットは、構成ノードではありません。

説明

ターゲットは、構成ノードではありません。

アクション

構成ノードに対するアクションをリダイレクトして、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6121E バックアップ構成にクラスター ID または `id_alias` がありません。

説明

クラスターの `id_alias` と ID は、両方ともバックアップ構成ファイルから抽出できません。

アクション

問題の原因がわからない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6122E `property` 値を持つ `type` がテーブル内に存在しません。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6123E `type name` の `property` はありません。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6124E property 値の type はありません。**説明**

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6125E type name の unique ID はありません。**説明**

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6126E unique ID 値の type はありません。**説明**

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6127I user の SSH 鍵 identifier は既に定義されています。復元されません。**説明**

このユーザーには、同一の SSH 鍵がすでにクラスター上に定義されています。このため、バックアップ・ファイル内の鍵は復元されません。

アクション

別の SSH 鍵を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6128W details**説明**

ディレクトリー内のファイルを表示できませんでした。

アクション

表示できなかった原因を突き止め、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6129E VDisk からホストへのマップ・オブジェクトに、整合しない vdisk_UID 値があります。

説明

VDisk からホストへのマップ・オブジェクトは、VDisk LUN インスタンスについて番号が異なるものがあります。このため、バックアップ構成ファイルが壊れている可能性があります。LUN インスタンス番号は、特定の VDisk に関連付けられている VDisk からホストへのすべてのマップ・オブジェクトについて、同一である必要があります。LUN インスタンス番号は、VDisk_UID のプロパティーに一体化されています。

アクション

LUN インスタンス番号が同一でない原因を突き止め、問題を訂正してから、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6130W クラスタ間 property は復元されません。

説明

クラスタ間オブジェクトの復元はサポートされていません。

アクション

適用されません。

CMMVC6131E location クラスタ情報がありません。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6132E 特定のタイプのオブジェクトに無効な値を持つプロパティーがあります。プロパティーが正しい値になるまで、操作を進めることができません。管理者が値を変更するアクションを取り、再試行してください。

説明

間違った値のプロパティーを持つオブジェクトがあります。プロパティーは、オブジェクトの状態を反映していると考えられます。

アクション

状態を必要な値に変更して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6133E 必要な type のプロパティ property が検出されません。**説明**

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6134E -option に引数がありません。**説明**

引数が必要なオプションについて、引数が指定されていません。

アクション

引数を指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6135E -option の引数の value が無効です。**説明**

オプションに無効な引数が指定されました。

アクション

有効な引数を指定して、再試行してください。

CMMVC6136W SSH 鍵ファイル file-name がありません。**説明**

SSH 鍵を含むファイルがないので、復元できません。バックアップ操作は継続されます。

アクション

アクションは不要です。お客様は、手動で鍵を復元する必要があります。

CMMVC6137W SSH 鍵ファイル file-name がありません。鍵は復元されません。**説明**

SSH 鍵を含むファイルがないために、SSH 鍵を復元できません。復元操作は継続されます。

アクション

復元完了後に、鍵が含まれているファイルを見付け、次のいずれかのアクションを実行してください。(1) ファイルの名前を正しい名前に変更してから、コマンドを再

度実行する。(2) svctask addsshkey コマンドを使用して、鍵を手動で復元する。

CMMVC6138E -option が必要です。

説明

オプションが欠落しています。オプションは、任意のオプションとして表示されている場合がありますが、状況によりこのオプションは必須オプションです。

アクション

オプションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6139E filename 内の XML タグのネスティングに誤りがあります。

説明

構成ファイルの内容に問題があります。XML レコードが整合していないため、このファイルの XML 構文解析に問題があります。このファイルは壊れているか、または切り捨てられている可能性があります。

アクション

このコピーを有効なものと取り替えて、再試行してください。問題が解決しない場合は、IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6140E タイプ type にデフォルト名がありません。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6141E -option は引数を含みません。

説明

引数が含まれていないオプションに対して、引数が指定されました。

アクション

引数を削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6142E 既存の **object-type object-name** にデフォルトでない名前があります。

説明

ターゲット・デフォルト・クラスター内のオブジェクトに、デフォルトでない名前があります。これは、クラスターがカスタマイズされたことを示します。そのため、このクラスターは修復に適していません。

アクション

クラスター構成情報の復元方法の説明に従って、クラスターをリセットして再試行してください。

CMMVC6143E 必要な構成ファイル **file-name** が存在しません。

説明

正常な操作を実行するための重要なファイルが欠落しています。

アクション

適用されません。

CMMVC6144W デフォルト名 **name** のオブジェクトが **substitute-name** として復元されました。

説明

デフォルト名のオブジェクトが別の名前で復元されました。復元されたクラスターを使用する場合は、名前が変更されたことに注意してください。将来の問題を防止するため、クラスターの各オブジェクトについて、適切な名前を選択してください。

アクション

クラスター内の各オブジェクトについて適切な名前を選択してください。

CMMVC6145I 最初に **restore -prepare** コマンドを使用してください。

説明

中間ファイルが欠落しており、ファイルが作成されていない場合、CMMVC6103Eの前にこの通知が出されます。

アクション

適用されません。

CMMVC6146E object-type データ: line の構文解析で問題が検出されました。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6147E type name の名前が prefix で始まっています。

説明

予約済みの接頭部が名前に付いているオブジェクトが見つかりました。オブジェクトにこのタイプの名前が付くのは、復元コマンドが正常終了しなかった場合が唯一妥当な理由です。

アクション

オブジェクトの名前に予約済みの接頭部が使用されていないことを確認して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6148E ターゲット・クラスターにあるタイプ type のオブジェクトの数が、n-required でなく n-actual です。

説明

ターゲット・クラスターに特定のタイプのオブジェクトが必要な数だけありません。

アクション

問題を訂正して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6149E アクションが必要です。

説明

コマンドを実行するアクションが必要です。

アクション

アクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6150E action アクションは無効です。

説明

無効なアクションが指定されました。

アクション

有効なアクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6151E -option オプションは無効です。

説明

無効なオプションが指定されました。

アクション

有効なアクションを指定して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6152E VDisk の name インスタンス番号のインスタンスが無効です。

説明

インスタンス番号 (16 進数) が無効なため、VDisk を復元できませんでした。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6153E object が action と整合しません。

説明

指定されたオブジェクトは、このアクションではサポートされていません。

アクション

オブジェクトを削除して、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6154E 必要な object-type のプロパティ property-name の値がヌルです。

説明

予期しないエラーが発生しました。

アクション

IBM サービス技術員に連絡してください。

CMMVC6155I SVCCONFIG 処理が正常に完了しました。

説明

通知および警告メッセージだけが発行されました。

アクション

適用されません。

CMMVC6156W SVCCONFIG 処理がエラーで完了しました。

説明

処理が失敗しました。

アクション

適用されません。

CMMVC6164E 毎日夜間に実行される SVCCONFIG CRON ジョブが失敗しました。

説明

毎日夜間に実行される SVCCONFIG CRON ジョブが失敗しました。

アクション

SAN ボリューム・コントローラー・クラスターで発生しているハードウェアおよび構成上の問題を解決してください。この問題が再発する場合は、IBM ソフトウェア・サポートに連絡してください。

CMMVC6165E ターゲットは value の WWNN を持つ元の構成ノードではありません。

説明

バックアップ構成の復元先は、元の構成ノードのみが可能です。

アクション

正しい構成ノードを使用してデフォルトのクラスターを再作成し、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6166E svcconfig restore -execute の実行中に、オブジェクトのプロパティが変更されました。

説明

svcconfig restore -execute の実行中に、オブジェクトのプロパティが変更されました。復元の整合性は保証されません。

アクション

svcconfig restore -prepare からコマンドを再試行してください。

CMMVC6181E ターゲット・クラスターは、復元する構成にカウンターパートを持つオブジェクトを含み、正しい ID を持っています。**説明**

ターゲット・クラスターは、復元する構成にカウンターパートを持つオブジェクトを含み、正しい ID を持っていますが、示されたプロパティには予期しない値が含まれています。

アクション

正しい (一致した) バックアップ構成ファイル (svc.config.backup.xml) が提供されているかチェックし、そのとおりであれば、`-force` オプションを使用してこの矛盾を無視してください。そうしない場合は、正しいファイルを提供し、再試行してください。

CMMVC6182E 構成のファブリックに寄与しないオブジェクトは復元できません。それは、この構成でそのオブジェクトを作成することができないからです。**説明**

構成のファブリックに寄与しないオブジェクトは復元できません。それは、この構成でそのオブジェクトを作成することができないからです。たとえば、ホストは、少なくとも 1 つのポートを持っている場合にのみ作成できます。

アクション

N/A

CMMVC6186E IO グループが別の ID 値で復元されました。**説明**

IO グループが別の ID 値で復元されました。このような状態は、構成ノードが、元のクラスターの作成に使用されたノードと異なる場合に発生します。これにより、IO グループの SCSI 照会ページ 80 の値が影響を受けます。

アクション

N/A

CMMVC6202E IP アドレスが無効なため、クラスターを変更できませんでした。**説明**

クラスターの IP アドレスを無効なアドレスに変更しようとした。

アクション

アドレスを訂正し、コマンドを再発行してください。

CMMVC6203E 指定されたディレクトリーが次のいずれかのディレクトリーでないため、アクションは失敗しました: /dumps、 /dumps/iostats、 /dumps/iotrace、 /dumps/feature、 /dumps/config、 /dumps/elogs、 /dumps/ec または /dumps/p1

説明

ファイルが無効なディレクトリーから消去しようとしたか、無効なディレクトリーへコピーしようとした。

アクション

コマンドが有効なディレクトリーにアクセスすることを確認してください。

CMMVC6204E 結果のディスク・サイズはゼロ以下になるため、アクションは失敗しました。

説明

ディスクを縮小しようとしたが、結果としてのサイズがゼロ以下でした。

アクション

適用外

CMMVC6206E ソフトウェア・アップグレードは、指定された MCP バージョンのソフトウェアを含むファイルが見つからなかったため、失敗しました。

説明

ソフトウェア・アップグレードを正常に完了するには、2つのファイルが必要です。1つは基本オペレーティング・システムを構成するファイルを含むファイルで、もう1つは SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアを含むファイルです。このメッセージは、OS のバージョンが SAN ボリューム・コントローラー・ソフトウェアと互換性がない場合に表示されます。

アクション

2つの互換ファイルをアップロードして、コマンドを再度実行してください。

CMMVC6207E 仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

説明

メトロ・ミラー・マッピングの一部である VDisk に対してアクションが行われました。

アクション

VDisk をメトロ・ミラー・マッピングから除去した後で、コマンドを再発行してください。

CMMVC6208E 仮想ディスク (VDisk) は FlashCopy マッピングの一部であるため、アクションは失敗しました。

説明

FlashCopy マッピングの一部である VDisk に対してアクションが行われました。

アクション

VDisk を FlashCopy マッピングから除去した後で、コマンドを再発行してください。

CMMVC6211E イメージへのマイグレーションが進行中であったため、コマンドは失敗しました。

説明

イメージへのマイグレーション操作に關与する VDisk に対してコマンドを実行しようとした。

アクション

マイグレーションが完了するのを待って、コマンドを再発行してください。

CMMVC6215E 整合性グループには既に最大マッピング数が含まれているので、FlashCopy マッピングは作成または変更されませんでした。

説明

格納できる最大数の FlashCopy マッピングを持っている整合性グループに FlashCopy マッピングを作成または移動しようとした。

アクション

別の整合性グループに FlashCopy マッピングを作成または移動するか、求めるグループから既存の FlashCopy マッピングを除去した後、コマンドを再発行してください。

CMMVC6216E マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

説明

マスターまたは補助仮想ディスク (VDisk) がメトロ・ミラー・マッピングのメンバーであるため、メトロ・ミラー関係は作成されませんでした。

アクション

異なる VDisk を選択して、マッピングを作成してください。

アクセシビリティ

アクセシビリティ機能は、運動障害または視覚障害など身体に障害を持つユーザーがソフトウェア・プロダクトを快適に使用できるように サポートします。

機能

SAN ボリューム・コントローラーマスター・コンソールに備わっている主なアクセシビリティ機能は、以下のとおりです。

- スクリーン・リーダー・ソフトウェアとデジタル音声シンセサイザーを使用して、画面の表示内容を音声で聞くことができます。次のスクリーン・リーダー (読み上げソフトウェア) がテスト済みです: JAWS V4.5 および IBM ホームページ・リーダー V3.0
- マウスの代わりにキーボードを使用して、すべての機能を操作できます。

キーボードによるナビゲーション

キーやキーの組み合わせを使用して、マウス・アクションを通して実行できる操作を行ったり、多数のメニュー・アクションを開始することができます。以下のキーの組み合わせを使用すると、キーボードから SAN ボリューム・コントローラー・コンソールやヘルプ・システムをナビゲートすることができます。

- 次のリンク、ボタン、またはトピックにトラバースするには、フレーム (ページ) 内で Tab を 押します。
- ツリー・ノードを拡張または縮小するには、それぞれ、→ または ← を押します。
- 次のトピック・ノードに移動するには、V または Tab を押します。
- 前のトピック・ノードに移動するには、^ または Shift+Tab を押します。
- 一番上または一番下までスクロールするには、それぞれ Home または End を 押します。
- 後退するには、Alt+← を押します。
- 前進するには、Alt+→ を押します。
- 次のフレームに進むには、Ctrl+Tab を押します。
- 前のフレームに移動するには、Shift+Ctrl+Tab を押します。
- 現行ページまたはアクティブ・フレームを印刷するには、Ctrl+P を押します。
- 選択するには、Enter を押します。

資料へのアクセス

SAN ボリューム・コントローラーの資料は、Adobe Acrobat Reader を使用して PDF フォーマットで表示できます。PDF 形式の資料は、製品に同梱の CD で提供されています。次の Web サイトでも資料にアクセスできます。

<http://www-1.ibm.com/servers/storage/support/virtual/2145.html>

関連資料

xxix ページの『SAN ボリューム・コントローラーのライブラリーおよび関連資料』
参考として、本製品に関連するその他の資料のリストが示されています。

特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3-2-31
IBM World Trade Asia Corporation
Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一

部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

- AIX
- e (ロゴ)
- Enterprise Storage Server
- FlashCopy
- IBM
- Tivoli
- TotalStorage
- xSeries

Intel および Pentium は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

Microsoft および Windows は、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

UNIX は、The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名等はそれぞれ各社の商標です。

用語集

これは、SAN ボリューム・コントローラーの用語集です。

ア

アイドリング (idling)

1 対の仮想ディスク (VDisk) に対してコピー関係が定義されていて、その関係を対象としたコピー・アクティビティーがまだ開始されていない状態。

アプリケーション・サーバー (application server)

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に接続されて、アプリケーションを実行するホスト。

イメージ VDisk (image VDisk)

管理対象ディスク (MDisk) から仮想ディスク (VDisk) へのブロックごとの直接変換を行う仮想ディスク。

イメージ・モード

仮想ディスク (VDisk) 内のエクステントに対して、管理対象ディスク (MDisk) 内の エクステントの 1 対 1 マッピングを確立するアクセス・モード。管理対象スペース・モード (*managed space mode*)、および構成解除モード (*unconfigured mode*) も参照。

インターネット・プロトコル (IP) (Internet Protocol (IP))

インターネット・プロトコル・スイートの中で、1 つのネットワークまたは複数の相互接続ネットワークを経由してデータをルーティングし、上位のプロトコル層と物理ネットワークとの間で仲介の役割を果たすコンネクションレス・プロトコル。

エクステント (extent)

管理対象ディスクと仮想ディスクの間でデータのマッピングを管理するデータ単位。

エラー・コード (error code)

エラー条件をユーザーに示す値。

オフライン (offline)

システムまたはホストの継続的な制御下でない機能単位または装置の操作を指す。

オンライン (online)

システムまたはホストの継続的な制御下にある機能単位または装置の操作を指す。

カ

仮想ディスク (VDisk) (virtual disk (VDisk))

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に接続したホスト・システムが SCSI ディスクとして認識する装置。

関係 (relationship)

グローバル・ミラーにおける、マスター仮想ディスク (VDisk) と補助

VDisk 間の関連。これらの VDisk には、1 次または 2 次の VDisk という属性もある。補助仮想ディスク (*auxiliary virtual disk*)、マスター仮想ディスク (*master virtual disk*)、1 次仮想ディスク (*primary virtual disk*)、2 次仮想ディスク (*secondary virtual disk*) も参照。

管理対象ディスク (MDisk) (managed disk (MDisk))

新磁気ディスク制御機構 (RAID) コントローラーが提供し、クラスターが管理する SCSI 論理装置。MDisk は、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) 上のホスト・システムからは見ることができない。

管理対象ディスク・グループ (managed disk group)

指定された仮想ディスク (VDisk) のセットのデータすべてをグループ全体で格納している、管理対象ディスク (MDisk) の集合。

起動 (trigger)

コピー関係にある 1 対の 仮想ディスク (VDisk) 間で、コピーを開始または再開すること。

休止 (paused)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、キャッシュ層の下で進行中の I/O アクティビティすべてをキャッシュ・コンポーネントが静止する処理。

協力関係 (partnership)

グローバル・ミラーにおける 2 つのクラスター間の関係。クラスター協力関係では、一方のクラスターがローカル・クラスターとして定義され、他方のクラスターがリモート・クラスターとして定義される。

クォーラム・ディスク (quorum disk)

クォーラム・データを格納し、クラスターがタイを解決してクォーラムを成立させるために使用する管理対象ディスク (MDisk)。

クラスター (cluster)

SAN ボリューム・コントローラーで、単一の構成およびサービス・インターフェースを提供する 1 対のノード。

グローバル・ミラー (Global Mirror)

SAN ボリューム・コントローラーにおけるコピー・サービスの 1 つ。このサービスを使用すると、関係によって指定されたターゲット仮想ディスク (VDisk) に、特定のソース仮想ディスク (VDisk) のホスト・データをコピーできる。

構成解除モード (unconfigured mode)

I/O 操作を実行できないモード。イメージ・モード (*image mode*) および管理対象スペース・モード (*managed space mode*) も参照。

構成ノード (configuration node)

構成コマンドのフォーカル・ポイントとして機能し、クラスターの構成を記述するデータを管理するノード。

コピー済み (copied)

FlashCopy[®] 関係において、コピー関係の作成後にコピーが開始されたことを示す状態。コピー・プロセスは完了しており、ソース・ディスクに対するターゲット・ディスクの従属関係はすでに解消されている。

コピー中 (copying)

コピー関係にある 1 対の仮想ディスク (VDisk) の状態を記述する状況条件。コピー・プロセスは開始されたが、2 つの仮想ディスクはまだ同期していない。

サ

指定保守手順 (directed maintenance procedures)

クラスターに対して実行できる一連の保守手順。手順は、サービス・ガイドに記載されている。

従属書き込み操作 (dependent write operations)

ボリューム間整合性を維持するために、正しい順序で適用する必要がある一連の書き込み操作。

順次 VDisk (sequential VDisk)

単一の管理対象ディスクからのエクステントを使用する仮想ディスク。

冗長 SAN (redundant SAN)

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) 構成の 1 つ。この構成では、いずれか 1 つのコンポーネントに障害が起ころうと、SAN 内の装置間の接続は維持される (パフォーマンスは低下する可能性がある)。通常、この構成を使用するには、SAN を 2 つの独立した同等 SAN に分割する。同等 SAN (counterpart SAN) も参照。

除外 (exclude)

エラー条件が発生したために管理対象ディスク (MDisk) をクラスターから除去すること。

除外済み (excluded)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、アクセス・エラーが繰り返された後でクラスターが使用から除外されたという、管理対象ディスクの状況。

新磁気ディスク制御機構 (redundant array of independent disks)

システムに対しては単一のディスク・ドライブのイメージを提示する、複数のディスク・ドライブの集合。単一の装置に障害が起こった場合は、アレイ内の他のディスク・ドライブからデータを読み取ったり、再生成したりすることができる。

スーパーユーザー権限 (Superuser authority)

ユーザーを追加するために必要なアクセス・レベル。

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN)

コンピューター・システムとストレージ・エレメントの間、およびストレージ・エレメント相互間でのデータ転送を主な目的としたネットワーク。SAN は、物理接続を提供する通信インフラストラクチャー、接続を整理する管理層、ストレージ・エレメント、およびコンピューター・システムで構成されるので、データ転送は安全かつ堅固である。(S)

整合コピー (consistent copy)

グローバル・ミラー関係において、I/O アクティビティの進行中に電源障害が発生した場合でも、ホスト・システムの観点から 1 次 VDisk (仮想ディスク) と同じである 2 次 VDisk のコピー。

整合性 (integrity)

システムが正しいデータのみを戻すか、そうでなければ正しいデータを戻すことができないと応答する能力。

整合性グループ (consistency group)

単一のエンティティとして管理される仮想ディスク間のコピー関係のグループ。

セキュア・シェル (Secure Shell)

ネットワークを介して他のコンピューターにログインして、リモート・マシンでコマンドを実行したり、マシン間でファイルを移動するプログラム。

切断 (disconnected)

グローバル・ミラー関係において、2つのクラスターが通信できないことを指す。

タ**対称バーチャライゼーション (symmetric virtualization)**

新磁気ディスク制御機構 (RAID) 形式の物理ストレージを、エクステントと呼ばれる小さなストレージのチャンクに分割するバーチャライゼーション技法。これらのエクステントは、さまざまなポリシーを使用して共に連結され、仮想ディスク (VDisk) を作成する。非対称バーチャライゼーションも参照。

正しくない構成 (illegal configuration)

作動せず、問題の原因を示すエラー・コードを生成する構成。

中断 (suspended)

ある問題が原因で、1対の仮想ディスク (VDisk) のコピー関係を一時的に分断した状況。

データ・マイグレーション

入出力操作を中断せずに2つの物理ロケーション間でデータを移動すること。

停止 (stop)

整合性グループ内のコピー関係すべてに対するアクティビティを停止するために使用される構成コマンド。

停止済み (stopped)

ある問題が原因で、ユーザーが1対の仮想ディスク (VDisk) のコピー関係を一時的に分断した状況。

ディスク・コントローラー (disk controller)

1つ以上のディスク・ドライブ操作を調整および制御し、ドライブ操作をシステム全体の操作と同期化する装置。ディスク・コントローラーは、クラスターが管理対象ディスク (MDisk) として検出するストレージを提供する。

ディスク・ゾーン (disk zone)

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ファブリック内で定義されるゾーン。このゾーン内で、SAN ボリューム・コントローラーはディスク・コントローラーが提示する論理装置を検出し、アドレッシングできる。

デステージ (destage)

データをディスク装置に書き出すためにキャッシュが開始する書き込みコマンド。

同期 (synchronized)

グローバル・ミラーにおいて、コピー関係にある 1 対の仮想ディスク (VDisk) が両方とも同じデータを格納しているときに生じる状況条件。

独立型関係 (stand-alone relationship)

FlashCopy およびグローバル・ミラーの場合、整合性グループに属さず、整合性グループ属性がヌルになっている関係。

ナ

入出力 (I/O) (input/output (I/O))

入力処理、出力処理、またはその両方 (並行または非並行) に関係する機能単位または通信バス、およびこれらの処理に関するデータを指す。

ノード (node)

1 つの SAN ボリューム・コントローラー。それぞれのノードは、ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) に対して、バーチャライゼーション、キャッシュ、およびコピー・サービスを提供する。

ノード・レスキュー (node rescue)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、有効なソフトウェアがノードのハード・ディスクにインストールされていない場合に、同じファイバー・チャンネル・ファブリックに接続している別のノードからそのノードにソフトウェアをコピーできるようにする処理。

ハ

バーチャライゼーション (virtualization)

ストレージ業界における概念の 1 つ。バーチャライゼーションでは、複数のディスク・サブシステムを含むストレージ・プールを作成する。これらのサブシステムはさまざまなベンダー製のものを使用できる。プールは、仮想ディスクを使用するホスト・システムから認識される、複数の仮想ディスクに分割できる。

バーチャライゼーション・ストレージ (virtualized storage)

バーチャライゼーション・エンジンによるバーチャライゼーション技法が適用された物理ストレージ。

ファイバー・チャンネル

最高 4 Gbps のデータ速度で、コンピューター装置間でデータを伝送する技術。特に、コンピューター・サーバーを共用ストレージ・デバイスに接続する場合や、ストレージ・コントローラーとドライブを相互接続する場合に適用している。

フェイルオーバー (failover)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、システムの一部の冗長部分が、障害を起こしたシステムの他方の部分のワークロードを引き受けるときに実行される機能。

不整合 (inconsistent)

グローバル・ミラー関係において、1 次仮想ディスク (VDisk) に対する同期が行われている 2 次仮想ディスク (VDisk) に関することを指す。

ポート (port)

ファイバー・チャンネルを介してデータ通信 (送受信) を実行する、ホスト、SAN ボリューム・コントローラーまたはディスク・コントローラー・システム内の物理エンティティ。

ホスト ID (host ID)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、論理装置番号 (LUN) マッピングの目的でホスト・ファイバー・チャンネル・ポートのグループに割り当てられる数値 ID 。それぞれのホスト ID ごとに、仮想ディスク に対する SCSI ID の別個のマッピングがある。

ホスト(host)

ファイバー・チャンネル・インターフェースを介して SAN ボリューム・コントローラーに接続されるオープン・システム・コンピューター。

ホスト・ゾーン (host zone)

ストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) ファブリック内で定義されるゾーン。このゾーン内でホストが SAN ボリューム・コントローラーをアドレス指定できる。

ホスト・バス・アダプター (HBA) (host bus adapter (HBA))

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、PCI バスなどのホスト・バスをストレージ・エリア・ネットワークに接続するインターフェース・カード。

保留 (pend)

イベントが発生するまで待機させること。

マ**マイグレーション**

データ・マイグレーション (*data migration*) を参照。

マスター仮想ディスク (master virtual disk)

データの実動コピーを格納し、アプリケーションがアクセスする仮想ディスク (VDisk)。補助仮想ディスク (*auxiliary virtual disk*) も参照。

マッピング

FlashCopy マッピング (*FlashCopy mapping*) を参照。

無停電電源装置 (uninterruptible power supply)

コンピューターと給電部の間に接続される装置で、停電、電圧低下、および電源サージからコンピューターを保護する。無停電電源装置は、電源を監視する電源センサーと、システムの正常シャットダウンを実行できるようにするまで電源を供給するバッテリーを備えている。

ヤ**有効構成 (valid configuration)**

サポートされている構成。

ラ

リジェクト (rejected)

クラスター内のノードの作業セットからクラスター・ソフトウェアが除去したノードを示す状況条件。

劣化 (degraded)

障害の影響を受けているが、許可される構成として継続してサポートされる有効構成を指す。通常は、劣化構成に対して修復処置を行うことにより、有効構成に復元できる。

ローカル/リモート・ファブリック相互接続 (local/remote fabric interconnect)

ローカル・ファブリックとリモート・ファブリックの接続に使用されるストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) コンポーネント。

ローカル・ファブリック (local fabric)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、ローカル・クラスターのコンポーネント (ノード、ホスト、スイッチ) を接続するストレージ・エリア・ネットワーク (SAN) コンポーネント (スイッチやケーブルなど)。

論理装置 (LU) (logical unit (LU))

仮想ディスク (VDisk)や管理対象ディスク (MDisk) など、SCSI コマンドが対応するエンティティ。

論理装置番号 (LUN) (logical unit number (LUN))

ターゲット内での論理装置の SCSI ID。(S)

論理ブロック・アドレス (LBA) (logical block address (LBA))

ディスク上のブロック番号。

ワ

ワールド・ワイド・ポート名 (WWPN) (worldwide port name (WWPN))

ファイバー・チャネル・アダプター・ポートに関連付けられた固有の 64 ビット ID。WWPN は、インプリメンテーションやプロトコルには依存しない方法で割り当てられる。

数字

1 次仮想ディスク (primary virtual disk)

グローバル・ミラー関係において、ホスト・アプリケーションによって実行される書き込み操作のターゲット。

2 次仮想ディスク (secondary virtual disk)

グローバル・ミラーにおいて、ホスト・アプリケーションから 1 次仮想ディスク (VDisk) に書き込まれるデータのコピーを格納するという関係にある仮想ディスク (VDisk)。

E

ESS 「IBM® TotalStorage® エンタープライズ・ストレージ・サーバー®」を参照。

F

FC ファイバー・チャネル (fibre channel) を参照。

FlashCopy 関係 (FlashCopy relationship)

FlashCopy マッピング (*FlashCopy mapping*) を参照。

FlashCopy サービス (FlashCopy service)

SAN ボリューム・コントローラーにおいて、ソース仮想ディスク (VDisk) の内容をターゲット VDisk に複写するコピー・サービス。この処理中に、ターゲット VDisk の元の内容は失われる。時刻指定コピー (*point-in-time copy*) も参照。

FlashCopy マッピング (FlashCopy mapping)

2 つの仮想ディスク間の関係。

H

HBA ホスト・バス・アダプター (*host bus adapter*) を参照。

I

I/O 入出力 (*input/output*) を参照。

I/O グループ (I/O group)

ホスト・システムに対する共通インターフェースを表す、仮想ディスク (VDisk) とノードの関係の集まり。

I/O スロットル速度 (I/O throttling rate)

この仮想ディスク (VDisk) に対して受け入れられる I/O トランザクションの最大速度。

IBM TotalStorage Multipath Subsystem Device Driver (SDD)

IBM 製品のマルチパス構成環境をサポートするために設計された IBM 疑似デバイス・ドライバー。

IBM TotalStorage エンタープライズ・ストレージ・サーバー (ESS) (IBM TotalStorage Enterprise Storage Server (ESS))

企業全体にわたってインテリジェント・ディスク装置サブシステムを提供する、IBM 製品。

IP インターネット・プロトコル (*Internet Protocol*) を参照。

L

LBA 論理ブロック・アドレス (*logical block address*) を参照。

LU 論理装置 (*logical unit*) を参照。

LUN 論理装置番号 (*logical unit number*) を参照。

M

MDisk 管理対象ディスク (*managed disk*) を参照。

P

PuTTY

Windows[®] 32 ビットのプラットフォームについて、Telnet および SSH のフリー・インプリメンテーション。

R

RAID 新磁気ディスク制御機構 (*redundant array of independent disks*) を参照。

RAID 1

SNIA 辞書の定義: 2 つ以上の同一のデータのコピーが別個のメディアに維持されるストレージ・アレイの形式。IBM の定義: 2 つ以上の同一のデータのコピーが別個のメディアに維持されるストレージ・アレイの形式。ミラー・セットとしても知られている。HP の定義:ミラー・セット (*mirrorset*) を参照。

RAID 10

RAID のタイプの 1 つ。複数のディスク・ドライブ間でボリューム・データをストライピングし、ディスク・ドライブの最初のセットを同一セットにミラーリングすることによって、ハイパフォーマンスを最適化すると同時に、2 台までのディスク・ドライブの障害に対するフォールト・トレランスを維持する。

RAID 5

- SNIA の定義: パリティ RAID の形式の 1 つ。この形式では、ディスクが独立して作動し、データ・ストリップ・サイズはエクスポートされるブロック・サイズより小さくはなく、パリティ検査データはアレイのディスク間で分散される、パリティ RAID の形式の 1 つ。(S)
- IBM の定義: 上記参照。
- HP の定義: ディスク・アレイの 3 つ以上のメンバーにわたってデータとパリティをストライプする、特別に開発された RAID ストレージ・セット。RAIDset は、RAID レベル 3 と RAID レベル 5 の最良の特性を結合している。RAIDset は、アプリケーションが書き込み集約でない限り、小規模から中規模の入出力要求のある大部分のアプリケーションにとって最適な選択である。RAIDset は、パリティ RAID と呼ばれることがある。RAID レベル 3/5 ストレージ・セットは RAIDset と呼ばれる。

S

SAN ストレージ・エリア・ネットワーク (*storage area network*) を参照。

SAN ボリューム・コントローラー・ファイバー・チャネル・ポート・ファンイン (**SAN Volume Controller fibre-channel port fan in**)

いずれか 1 つの SAN ボリューム・コントローラーポートを認識できる多数のホスト。

SCSI *Small Computer Systems Interface* を参照。

Simple Network Management Protocol (SNMP)

インターネットのプロトコル群において、ルーターおよび接続されたネットワークをモニターするために使用されるネットワーク管理プロトコル。SNMP はアプリケーション層プロトコルである。管理されている装置上の情報は、アプリケーションの管理情報ベース (MIB) に定義され、保管される。

Small Computer System Interface (SCSI)

さまざまな周辺装置の相互通信を可能にする標準ハードウェア・インターフェース。

SNMP *Simple Network Management Protocol* を参照。

SSH セキュア・シェル (*Secure Shell*) を参照。

V

VDisk 仮想ディスク (*virtual disk*) を参照。

vital product data (VPD)

処理システムのシステム、ハードウェア、ソフトウェア、およびマイクロコードの要素を一意的に定義する情報。

W**worldwide node name (WWNN)**

全世界で固有のオブジェクトの ID。WWNN は、ファイバー・チャネルなどの標準によって使用されている。

WWNN

worldwide node name を参照。

WWPN

ワールド・ワイド・ポート名 (*worldwide port name*)を参照。

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセシビリティ

キーボード 381

ショートカット・キー 381

値の範囲 xxxv

[カ行]

概要

SSH (secure shell) 11

管理対象ディスク (MDisk)

表示 202

管理対象ディスク (MDisk) グループ

表示 209

関連情報 xxix

キーボード 381

ショートカット・キー 381

クラスター

コマンド 13

診断と保守援助機能コマンド 45

公開 SSH 鍵

保管 8

構成

PuTTY 7

secure shell (SSH) 5

SSH (セキュア・シェル) 5

構文図 xxxi

パラメーター xli

コマンド

ノード

メトロ・ミラー 113

addhostport 59

addmdisk 85

addnode 13, 45

addsshkey 253

applysoftware 48, 257

backup 39

caterrlog 153

caterrlogbyseqnum 155

chcluster 15

chcontroller 273

cherrstate 49, 245

chfcconsistgrp 97

chfcmap 97

コマンド (続き)

chhost 61

chiogrp 18

chlicense 249

chmdisk 93

chmdiskgrp 86

chnode 19

chpartnership 113

chrconsistgrp 114

chrrelationship 114

chvdisk 67

clear 40

cleardumps 19, 258

clearerrlog 50, 244

cpdumps 21

detectmdisk 22

dumpconfig 23

dumperrlog 51, 243, 259

dumpinternallog 250

exit 260

expandvdisksize 70

finderr 52, 243

help 41

includemdisk 94

ls2145dumps 156

lscluster 157

lsclustercandidate 160

lsclustervpd 262

lsconfigdumps 161, 263

lscontroller 162

lserrlogbyfconsistgrp 165

lserrlogbyfcmmap 166

lserrlogbyhost 168

lserrlogbyiogrp 170

lserrlogbymdisk 171

lserrlogbymdiskgroup 173

lserrlogbynnode 174

lserrlogbyrconsistgrp 176

lserrlogbyrrelationship 177

lserrlogbyvdisk 179

lserrlogdumps 181, 264

lsfcconsistgrp 182

lsfcmap 184

lsfcmapcandidate 186

lsfcmapprogress 187

lsfeaturedumps 188, 265

lsfreeextents 189

lshbaportcandidate 190

lshost 191

コマンド (続き)

lshostvdiskmap 193
lsiogrp 195
lsiogrpcandidate 197
lsiostatsdumps 198, 266
lsiotracedumps 199, 267
lslicense 200
lsmdisk 202
lsmdiskcandidate 206
lsmdiskextent 207
lsmdiskmember 211
lsmigrate 213
lsnodecandidate 217
lsnodes 268
lsnodevpd 218, 269
lsrconsistgrp 221
lsrcrelationship 224
lsrcrelationshipcandidate 227
lsrcrelationshipprogress 228
lssoftwareumps 229, 272
lssshkeys 230
lstimezones 231
lsvdisk 232
lsvdiskextent 235
lsvdiskhostmap 237
lsvdiskmember 238
lsvdiskprogress 240
migrateexts 133
migratetoimage 135
migratevdisk 136
mkfconsistgrp 99
mkfcmmap 100
mkhost 61
mkmdiskgrp 87
mkrconsistgrp 117
mkrcrelationship 118
mkvdisk 71
mkvdiskhostmap 76
prestartfconsistgrp 102, 107
prestartfcmmap 103
restore 42
rmallsshkeys 254
rmfconsistgrp 105
rmfcmmap 105
rmhost 63
rmhostport 64
rmmdisk 88
rmmdiskgrp 90
rmnode 24, 52
rmpartnership 121
rmrconsistgrp 121
rmrcrelationship 122

コマンド (続き)

rmsshkey 255
rmvdisk 79
rmvdiskhostmap 81
setclustertime 30
setdisktrace 139
setevent 54, 246
setlocale 55
setpwdreset 31
setquorum 95
settimezone 32
settrace 140
showtimezone 241
shrinkvdisksize 82
startfcmmap 108
startreconsistgrp 123
startrecrelationship 126
startstats 33
starttrace 142
stopcluster 34
stopfconsistgrp 110
stopfcmmap 111
stopreconsistgrp 128
stoprecrelationship 129
stopstats 37
stoptrace 143
switchreconsistgrp 131
switchrecrelationship 132
writesernum 56
コマンド行インターフェース (CLI)
SSH クライアントの準備 2
コントローラー
コマンド 162, 273

[サ行]

サービス
モード
コマンド 257
information コマンド 261
作成
SSH 鍵 6
サポート
Web サイト xxxi
準備
SSH クライアント・システム
概要 1
CLI コマンドの実行 2
ショートカット・キー 381
商標 384
情報
コマンド 153

情報 (続き)

センター xxix

資料

注文 xxxi

図、構文 xxxi

セキュア・シェル (SSH)

鍵

生成 6

保管 8

鍵の作成 6

クライアント・システム

概要 1

CLI コマンドの実行の準備 2

key コマンド 253

セキュリティー

概要 3

[タ行]

ダンプ・ファイル

リスト作成 156, 261

注文、資料の xxxi

データ・タイプ xxxv

特記事項

法規 383

トレース

コマンド 139, 243

[ナ行]

ノード

表示 214

[ハ行]

バックアップおよび復元コマンド 39

表記規則

本文の強調 xxviii

表示

クラスター 157

フィーチャーの設定 249

メトロ・ミラー

関係 224

整合性グループ 221

I/O グループ 195

フィルター

FlashCopy

整合性グループ 182

マッピング 184

フラグ xlii

変更の要約 xxvii

保管

公開 SSH 鍵 8

ホスト

コマンド 59

表示 191

本文の強調 xxviii

[マ行]

マイグレーション 133

メッセージ

CLI (コマンド行インターフェース) 275

[ヤ行]

用語 xxxiii

用語集 385

[ラ行]

リスト・ダンプ・コマンド

概要 151

[ワ行]

ワイルドカード xxxiv

C

CLI (コマンド行インターフェース)

SSH クライアント・システムの準備 2

F

FlashCopy

コマンド 97

M

MDisk (管理対象ディスク)

コマンド 93

MDisk (管理対象ディスク) グループ

コマンド 85

P

PuTTY 7

構成 7

PuTTY scp

概要 11

S

SAN ボリューム・コントローラー

 コマンド

 ls2145dumps 261

secure shell (SSH) 3

 概要 11

 構成 5

SSH (secure shell) 3

SSH 鍵

 adding 9

SSH (セキュア・シェル)

 鍵

 生成 6

 保管 8

 クライアント・システム

 概要 1

 CLI コマンドの実行の準備 2

 構成 5

 作成 6

V

VDisk (仮想ディスク)

 コマンド 67

 作成 71

 表示 232

W

Web サイト xxxi

[特殊文字]

-filtervalue 引数 145



Printed in Japan

SD88-6303-04



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12